

平成28年度

三重大学教員免許状 更新講習事業報告書

—現職教員の資質向上を目指して—



三重大学教員免許状更新講習実施委員会



MIE UNIVERSITY

平成28年度 三重大学 教員免許状 更新講習 事業報告書 目 次

■サブタイトル： 現職教員の資質向上をめざして

はじめに-----	1
-----------	---

I 事業の流れ

1 平成28年度の更新講習への取り組みとその概要-----	2
2 教員免許状更新講習実施委員会・運営部会・企画部会活動の記録-----	4

II 平成28年度の講習

1 講習の概要と当日のスケジュール-----	7
2 開設講習-----	9
3 受講者評価書-----	14
4 受講者評価書・自由記述-----	23
5 2013～2016年度における受講者の詳細-----	33
6 講師によるふりかえり-----	36
7 障害のある受講者への対応について-----	106
8 講習風景-----	108
9 三重県教員免許状更新講習連絡協議会について-----	110

III 成果と課題

1 企画部会委員の立場から-----	129
2 運営部会委員の立場から-----	132
3 講習担当講師の立場から-----	139
4 受講生の立場から-----	141
5 講習補助員の立場から-----	146
6 事務サイドから-----	150

おわりにー今後に向けて-----	151
------------------	-----

はじめに

三重大学教員免許状更新講習実施委員会委員長
副学長(教育担当) 富 樫 健 二

全学体制で行われた平成 28 年度の教員免許状更新講習も 10 月 1 日の講習をもって、すべて無事に終了することができました。関係各位に心よりお礼申し上げます。今年度は、新たに選択必修領域の開設が始まり必修講習が 1 日程、選択必修講習 1 日程、選択講習 3 日程となりました。講習の内訳は 3 名の講師で行う必修講習(定員 180 名)が 3 講習、講師 1 名で行う必修講習(定員 50～70 名)が 6 講習、選択必修講習が 27 講習、選択講習 106 講習(総定員規模は 4439 名)という規模で計画をしましたが、最終的な受講者数の状況を見てみると、必修講習は 701 名(定員充足率 81.5%)、選択必修講習は 593 名(65.5%)、選択講習は 1982 名(76.4%)という結果でした(総受講者数 3345 名)。必修講習の充足率については昨年に比べて 4%低く、また新設の選択必修講習も予想を下回る充足率で、e-learning で免許状更新講習を行う大学が増えてきていることから受講者数の予想をすることが難しくなっています。

免許状更新講習は、各講習について受講者から事後評価を受け、「I. 講習の内容・方法についての総合的な評価」、「II. 最新の知識・技能の習得の成果についての総合的な評価」、「III. 講習の運営面についての評価」の結果について文科省に報告することが義務付けられています。「I. 総合的な評価」については、「よい・だいたいよい」とする評価が必修で 94.6%、選択必修で 94.4%、選択で 97.0%であり例年とほぼ同等でしたが、「よい」のみに限ると必修では 60.3%から 41.6%へ、選択では 68.6%から 64.8%へ低下しており、総合的な満足度が低下した傾向がうかがえます。三重大学における必修講習の「よい」の評価は例年全国値よりも 10%程度高いのですが、今年度は必修講習が 2 日程から 1 日程に減ったことや担当講師の負担を下げるため 3 人体制を設けたことなどが影響していると思われます。また、選択講習における「II. 最新の知識・技能」についての評価は全国値より 3%程度下回っていることから今後講習方法・内容の改善に取り組む必要があると思われます。

平成 30 年度から第 10 グループの受講が始まり、このグループは第 9 グループまでに比べ修了確認期限の幅が広いため、従来より 2 倍程度の受講者が見込まれています。教育学部において各教員に講習回数を増やすか受講者数を増やすかと言った希望調査を実施しており、シミュレーション結果を見ながら万全な開設計画を平成 29 年度に立てていく予定でいます。

平成 28 年度は障害を有している受講生の方もいらっしゃいましたが、学校長、県教委、特別支援教育講座教員同席の事前相談により希望を伺い、教材の準備、手話通訳者の配置など合理的な配慮を行い当日も問題なく受講を終えていただきました。障害者差別解消法も施行されていることから、三重大学として今後も十分な対応を続けていきたいと思えます。

平成 31 年には受講生が一回りし、一度講習を受けた先生方が再度受講するようになります。10 年前に聞いた話をまた聞いたということにならないよう、日頃から自身の講習のブラッシュアップに努め最新の知識、技能の提供が期待されます。また、e-learning の免許状更新講習が増えてきている時代において、三重大学は対面講習を重視し、教員－受講生、受講生－受講生間のディスカッションを有益と考えています。e-learning よりも是非三重大学で受講したいといった現職教員が増えるよう皆様のご協力ご支援をお願いいたします。

I 事業の流れ

1 平成 28 年度の更新講習への取り組みとその概要

2007 年 6 月の改正教育職員免許法の成立により、2009 年 4 月 1 日より、教員免許更新制が導入された。文部科学省（2008）は、教員免許更新制について、「その時々で教員として必要な資質・能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すもの」と説明している。また、免許状更新講習を開設できる者は、①大学、②指定教員養成機関（専修学校などで文部科学大臣の指定を受けているもの）、③都道府県・指定都市等教育委員会などとなっている。本年度は従来の必修講習と選択講習に加えて、選択必修講習が開設されたことが最大の特色である。

三重県では、三重大学、皇學館大学、放送大学、三重短期大学、鈴鹿短期大学、高田短期大学等に加え、三重県教育委員会や各校種の教員の代表等が参加する連絡協議会を設け、三重県内の教員が県内で講習を受けることができる体制を協力して構築してきた。2010 年度は、障害を有する受講希望者があり、連絡協議会の場において「視覚障害や聴覚障害など、特別な支援を要する講習受講希望者については、三重大学に受け入れを委託する」旨が確認された。講習開設期間の長さ、開講する講習の数（年間 140 講習前後）、特別な支援を要する受講者の受け入れなど、三重県の教員が県内で講習を受講することができる体制を維持する上で、本学は重責を担っている。

これまでに、13 名（視覚障害者 8 名、聴覚障害者 5 名）が受講を修了した。今年度は視覚障害者 1 名、聴覚障害者 1 名が講習を受講した。受講する際に希望される配慮と本学が対応できる内容について連絡を取り合い、担当講師のご協力のもと講習を行った。何らかの疾患（糖尿病等）等、配慮を必要とする場合があることを想定し、「更新講習受講に際してのお知らせ」で体調不良ある場合の相談を呼びかけた。

本学では県内ばかりでなく県外からの受講希望者の受け入れも行っている。本年度は、愛知県、大阪府、兵庫県、京都府から 10 名以上の実受講者があり、愛知県と近畿圏からがほとんどである。県外からの実受講者数は、97 名（全体の約 10.9%）となり、昨年度よりも人数が 30 人増え、割合も高くなった。

本年度は、必修講習 9 講習（定員総計 860 名）と選択必修講習 27 講習（連絡協議会主催講習分含む）（定員総計 985 名）と選択講習 106 講習（定員総計 2594 名）とし、必修講習は 1 講習あたり定員 50～180 名（開講形式や複数の教員による分担あり）、選択必修講習は定員 20～60 名、選択講習は定員 6～100 名と柔軟性を持たせた。本年度は選択必修講習が新たに開設され、選択講習の開設数が若干減った。その結果、必修講習に 701 名（定員充足率 82.1%）、選択必修講習に 664 名（定員充足率 68.0%）選択講習は 1982 名（定員充足率は 76.6%）が受講した。

必修講習は主に本学教育学部教員が分担し、実質の受講人数が 50 名程度になるように工夫して割り振りをした（講習により受講人数や教員により担当回数が異なる）。選択必修講習は本学教育学部教員が中心となり、実質の受講人数が 30～40 名程度になるように工夫して割り振りをした。昨年度まで必修講習に位置づけられていた連絡協議会主催講習は、本年度は選択必修講習に位置づけ、本大学がとりまとめ役となり、高田短期大学、鈴鹿短期大学、皇學館大学とともに 2 講習を開設した（1 講習定員 40 名で同日開催）。引き続き平成 29 年度も開設する予定である。選択講習は、例年通り、本学教育学部の全教員と、医学部、工学部、生物資源学部、人文学部、教養教育機構などの教員にも開講を依頼した。

本学において受講者が必修講習で 1 つ、選択必修講習で 1 つ、選択講習で 3 つを受講できる体制を整え、1 講習あたり 6 時間の講習を実施した。総合大学として、極めて多様なテーマの講習を揃えることができおり、本事業に対する全学的な協力は三重大学の誇るべき特徴の一つである。

本年度の講習のうち、定員充足率が 80%を超える講習は、75 講習（52.8%）を示した。これは昨年度の（40.5%）と比べて高くなった。定員充足率が 30%以下の講習が 16 講習（11.2%）みられた。これは昨年度の（13.5%）と比べると少なくなっている。これらの理由としては、わかりやすい講習名を意識してつけるようになったことや、講習内容から適正規模の定員を設定できるようになったことが大きいと考えられる。本年度も昨年度までの必修講習の専門領域（本学教育学部の学校教育講座、教育実践総合センター、幼児教育講座、特別支援教育講座などの教員が担当）は、受講者のニーズが高かった。本年度は必修選択講習の充足率が他と比べると低かったので、教育学全般の内容をベースとして、受講者の多様なニーズに応え、多様な選択が可能となるような講習内容に改善することが必要である。平成 29 年度には、必修講習は 10 講習、選択必修講習は 22、選択講習は 105 講習、連絡協議会选择必修講習は 2 講習を予定している。

受講者評価書について、本年度の「本講習の内容・方法についての総合的な評価」は、必修講習全体で、よい 42%、だいたいよい 53.0%、合わせて 95%、選択必修講習全体で、よい 68%、だいたいよい 28.0%、合わせて 96%、選択講習全体で、よい 68%、だいたいよい 28.0%、合わせて 96%と高い値を示した。また、「最新の知識・技能の習得の成果」は必修講習全体で、よい 41%、だいたいよい 52%、合わせて 93%、選択必修講習全体で、よい 50%、だいたいよい 44%、合わせて 94%、選択講習全体で、よい 62%、だいたいよい 35%、合わせて 97%と高い値を示した。本学開催の免許状更新講習は、受講者から内容や成果について高い評価を受けていることがわかる。全体として、受講のニーズが高い必修講習よりも選択講習や選択必修講習の評価が高くなっている。これは受講してからの満足度が高いことを示している。

「本講習の運営面」においては必修講習全体で、よい 61%、だいたいよい 37%、合わせて 98%、選択必修講習全体で、よい 66%、だいたいよい 32%、合わせて 98%、選択講習全体で、よい 71%、だいたいよい 28%、合わせて 99%と高い値を示した。昨年度に比べてよいの割合が高くなっており、受講者からの意見を取り入れた運営面での改善の成果が表れていることがわかる。

※定員充足率は定員に対する受講申込者の割合で示している。

2 教員免許状更新講習実施委員会・運営部会・企画部会活動の記録

【教員免許状更新講習実施委員会】

- ・ 第1回 平成29年1月5日（木）
議題
 - ・ 平成28年度三重大学教員免許状更新講習実施報告について
 - ・ 平成29年度三重大学教員免許状更新講習開設計画（案）について

【教員免許状更新講習運営部会】

- ・ 第1回 平成28年4月8日（金）
議題
 - ・ 平成28年度教員免許状更新講習開設計画について
 - ・ 平成28年度教員免許状更新講習実施委員会運営部会開催計画について
- ・ 第2回 平成28年6月1日（水）
議題
 - ・ 当日運営スタッフ業務について
 - ・ 選択必修領域の追加について
- ・ 第3回 平成28年7月27日（水）
議題
 - ・ 平成28年度教員免許状更新講習開設状況について
(6/11, 6/12, 6/19, 6/25, 6/26, 7/3, 7/9, 7/17, 7/23)
 - ・ 平成28年度教員免許状更新講習6月開設講習履修判定について
- ・ 第4回 平成28年8月24日（水）
議題
 - ・ 平成28年度教員免許状更新講習開設状況について(7/30, 7/31, 8/9, 8/19, 8/23)
 - ・ 履修認定試験の成績開示について
 - ・ 平成28年度教員免許状更新講習7月開設講習履修判定について
- ・ 第5回 平成28年9月28日（水）
議題
 - ・ 平成28年度教員免許状更新講習開設状況について(8/26)
 - ・ 平成28年度教員免許状更新講習8月開設講習履修判定について
 - ・ 平成29年度教員免許状更新講習実施計画（案）について
 - ・ 平成29年度講師選出依頼について
 - ・ 平成27年度事後評価結果について
- ・ 第6回 平成28年10月26日（水）
議題
 - ・ 平成28年度教員免許状更新講習開設状況について(10/1)
 - ・ 平成28年度教員免許状更新講習10月開設講習履修判定について
 - ・ 平成29年度教員免許状更新講習実施計画担当講師（案）について（教育学部除く）
 - ・ 予算振替について
- ・ 第7回 平成28年12月21日（水）
議題
 - ・ 平成29年度教員免許状更新講習実施計画（案）について
- ・ 第8回 平成29年3月22日（水）
議題
 - ・ 平成28年度教員免許状更新講習実施報告について
 - ・ 平成29年度教員免許状更新講習実施計画について

【教員免許状更新講習企画部会】

- ・ 第1回 平成28年4月8日（金）
議題
 - ・ 平成28年度企画部会業務内容について
 - ・ 平成28年度企画部会開催日について
 - ・ 平成28年度企画部会役割分担について
 - ・ 平成28年度講習開催日・開催計画について
 - ・ 講習運営スタッフの割り振りについて
 - ・ 平成28年度運営方法について
 - ・ 教育学部教授会報告事項について
 - ・ 平成28年度講習補助員計画について（運営補助スタッフ募集）
 - ・ 平成27年度事業報告書等の配布について
 - ・ 振り返り票、受講者評価書について

- ・ 第2回 平成28年4月27日（水）
議題
 - ・ 講習開設準備状況について
 - ・ 事業評価について
 - ・ 特別な配慮の必要な受講者対応について
 - ・ 講習運営スタッフの割り振りについて
 - ・ 講習申し込み状況について

- ・ 第3回 平成28年5月25日（水）
議題
 - ・ 講習開設準備状況について
 - ・ 事業評価について
 - ・ 附属学校園教員の受講申請について
 - ・ 講習キャンセル・講習振り替え・受講料返還について
 - ・ 教材費について
 - ・ 講習申し込み状況について
 - ・ 主な受講対象者について
 - ・ 本部スタッフの業務内容について

- ・ 第4回 平成28年6月1日（水）
議題
 - ・ 事業評価（事業報告書の掲載内容、表紙デザイン）について
 - ・ 講習補助員計画について
 - ・ 更新講習受講に際してのお知らせ
 - ・ 教材費について

- ・ 第5回 平成28年6月22日（水）
議題
 - ・ 講習キャンセル・受講料返還について
 - ・ 教職大学院リーフレットの配布について
 - ・ 受講者へのデイリーアカウント配布について
 - ・ 講習の実施状況について
 - ・ 講習申し込み状況について

- ・ 第6回 平成28年7月27日（水）
議題
 - ・ 講習キャンセル・受講料返還について
 - ・ 教職大学院リーフレットの配布について

- ・ 第 7 回 平成 2 8 年 8 月 2 4 日（水）
議題
 - ・ 講習キャンセル・受講料返還について
 - ・ 平成 2 9 年度講習実施計画（枠組み）について
 - ・ 教材費の使用方法について
 - ・ 事業報告書・募集要項の表紙デザインについて

- ・ 第 8 回 平成 2 8 年 9 月 2 8 日（水）
議題
 - ・ 講習キャンセル・受講料返還について
 - ・ 事後評価について（事後報告書の内容）

- ・ 第 9 回 平成 2 8 年 1 0 月 2 6 日（水）
議題
 - ・ 事業評価について（事業報告書の内容）

- ・ 第 1 0 回 平成 2 8 年 1 1 月 3 0 日（水）
議題
 - ・ 平成 2 9 年度講習開設計画について
 - ・ 平成 2 9 年度募集要項（案）について
 - ・ 事業評価について

- ・ 第 1 1 回 平成 2 8 年 1 2 月 2 1 日（水）
議題
 - ・ 平成 2 9 年度必修講習担当表について
 - ・ 平成 2 9 年度免許状更新講習の認定申請等について（文科省）
 - ・ 第三四半期報告について
 - ・ ゲストスピーカーについて

- ・ 第 1 2 回 平成 2 9 年 3 月 2 2 日（水）
議題
 - ・ 平成 2 8 年度教員免許状更新講習実施報告について
 - ・ 平成 2 9 年度教員免許状更新講習開設計画について
 - ・ 教員免許状更新講習実施大学への現地視察報告について

Ⅱ 平成28年度の講習

1 講習の概要と当日のスケジュール

（１）必修領域

必修領域の内容は、文部科学省の指定する4項目を実施した。

- A 国の教育施策や世界の教育の動向
- B 教員としての子ども観、教育観等についての省察
- C 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む。）
- D 子どもの生活の変化を踏まえた課題

（２）選択必修領域

選択必修領域は、文部科学省の指定する以下の11領域を実施した。

- ①学校を巡る近年の状況の変化
- ②学習指導要領の改訂の動向等
- ③様々な問題に対する組織的対応の必要性
- ④学校における危機管理上の課題
- ⑤教育相談（いじめ及び不登校への対応を含む。）
- ⑥進路指導及びキャリア教育
- ⑦学校、家庭及び地域の連携及び協働
- ⑧道德教育
- ⑨英語教育
- ⑩国際理解及び異文化理解教育
- ⑪教育の情報化（情報通信技術を利用した指導及び情報教育（情報モラルを含む。）等）

（３）選択領域

選択領域の内容は、文部科学省の指定する以下の内容で実施した。

幼児、児童又は生徒に対する教科指導及び生徒指導上の課題

（４）当日のスケジュール

必修領域、選択必修領域、選択領域各々のスケジュールは、次のようなものであった。

①必修領域（３人体制）

受講者を３クラスに分け、上述の４項目を３名の講師で分担し実施。１日の講習の日程を示す。

時間内容

9:00～10:50 講習Ａ

11:05～12:00 講習Ｂ

12:00～13:00 昼食

13:00～13:50 講習Ｂ

14:05～15:55 講習Ｃ

16:05～16:50 履修認定試験

16:50～ 受講者評価書記入

※小休憩等は講師の指示による

※講習（項目）の順番はクラスによって異なる

②必修領域（１人体制）、選択必修領域、選択領域

多くの講義は６時間を１名の教員が担当するものであったが、一部は複数名で分担する講義もあった。１日の講習の日程を示す。（講習によっては、異なるスケジュールとなる場合もあった。）

時間内容（必修領域（３人体制）など一部を除く）

9:00～11:50 講習（途中１０分の小休憩を含む）

11:50～13:00 昼休み

13:00～15:50 講習（途中１０分の小休憩を含む）

15:50～16:00 休憩

16:00～16:40 履修認定試験（実技試験の場合は１６：４０まで講習）

16:40～ 受講者評価書記入

※小休憩等は講師の指示による

2 開設講習

（１）開設講習数

平成２８年度は必修領域（６時間）を９講習、選択必修領域（６時間）を２５講習、選択領域（６時間）を１０６講習計画した。また、三重県連絡協議会主催の選択必修領域（６時間）を２講習各定員４０人規模で計画した。

（２）担当講師

必修領域は、教育学部教員、一部学外からの非常勤講師も依頼し計９講習を計画した。
選択必修領域は、教育学部を中心に一部学外からの非常勤講師も依頼し、計２７講習を計画した。
選択領域は、教育学部を中心に、人文学部、医学部、工学部、生物資源学部、教養教育機構の教員、一部学外からの非常勤講師も依頼し、計１０６講習を計画した。

（３）開講時期

平成２８年度は、６月１０日から１０月１日までの週末および夏期休暇中心に開設した。

（４）講習会場

三重大学上浜キャンパスで開設した。

（５）講習が休講となった場合の取り扱いについて

平成２７年度に引き続き、平成２８年度も、必修領域については、万が一、悪天候、自然災害及びその他やむを得ない事情により休講の措置をとった場合は、予備日を設定し開講するものとしたが、全講習を無事開講することができた。選択領域について、１講習受講申込み者が無かったため開講しなかった。

（６）受講申込者が極めて少数の講習の取り扱いについて

平成２７年度に引き続き、受講申込みが極めて少数という講習があったが、受講者の要望に応えるものとして、開講した。

（７）開設講習一覧

次頁に開設講習の一覧を実際の履修認定者数等の情報も加えて掲載する。

平成28年度三重大学教員免許状更新講習受講状況

開校日	講習 (クラス)数	区分	講習名	学部	講師名	定員	受講 者数	履修 者数	履修認定対象職種	主な受講対象者	試験の 方法
6月11日 土	4	選必	三重県の特別支援教育の課題	教	郷右近 歩	25	23	22	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭	筆記
			子育て支援の現状と保育者の役割	教	須永 進	40	29	29	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園教諭	筆記
			学校における危機管理について	教	松浦 均	40	40	40	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭および養護教諭	筆記
			節目でキャリアをデザインする方法	学	長谷川 岳雄	40	31	31	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭	筆記
	10	選	中国語会話入門	人	荒井 茂夫	30	23	23	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭および養護教諭	筆記
			図形と数の話	教	新田 真士	30	25	25	教諭	小学校・中学校・高等学校の算数・数学科担当教諭	筆記
			小中学校における生命教育	教	後藤 太一郎	16	4	4	教諭	小学校・中学校の理科担当教諭	筆記
			乳幼児教育・特別支援教育における音楽療法的アプローチの実践	教	根津 知佳子	45	44	44	教諭	幼稚園教諭、小学校・特別支援学校の音楽科担当教諭	筆記
			図工・美術教育理論の新展開―社会に開かれた美術及び対話としての美術の視点から	教	山田 康彦	20	2	2	教諭	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の図工・美術科担当教諭	筆記
			Hyper-Vを使ってみよう	教	丁 亜希	10	4	4	教諭	中学校・高等学校の情報科担当教諭 (Windowsを扱えば他教科も可)	筆記
6月12日 日	1	必(3)	はじめてのゲーミング	教	南 学	35	9	9	教諭	小学校・中学校・高等学校の教諭	筆記
			学校保健	医	三谷 謙英・長尾 みづほ・菅 秀・山川 紀子	40	37	37	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭および養護教諭	筆記
			科学のしくみと不思議 - 講義・工作実習	工	三宅 秀人・高瀬 治彦	24	20	20	教諭・養護教諭	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の理科・生活科担当教諭、養護教諭	筆記
			農業農村の今日の課題が深くある「技術・科学そして発展の原点」は何か？	生	成岡 市	25	6	6	教諭	小学校・中学校・高等学校の理科・農業科担当教諭	筆記
	1	必(3)	教育の最新事情1	教	須賀野 仁志・大日方 真史・豊田 紀彦	180	167	167	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭	筆記
			解剖学を楽しむ ― 線数、面の広がり ―	教	川向 洋之・肥田野 久二男	10	6	6	教諭	中学校・高等学校の数学科担当教諭	筆記
			図工・美術教育のための素材演習/アクリル表現のバリエーション	教	関 俊一	11	12	12	教諭	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校の図工・美術科担当教諭	その他
			体づくり運動	教	後藤 洋子	20	19	19	教諭	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の保健体育科担当教諭	実技
			電気おもしろものづくり	教	松岡 守・加藤 進	15	12	12	教諭	小学校・中学校の教諭	筆記
			学校における食育の実践	教	瀬部 由香	40	24	24	教諭・養護教諭	小学校・特別支援学校の教諭、中学校の家庭科担当教諭、小学校・中学校・特別支援学校の養護教諭	筆記
6月19日 日	10	選	特別な支援を要する子どもの発達と保護者支援	教	郷右近 歩	25	25	25	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭および養護教諭	筆記
			携帯タブレット端末を利用した音声付きスライドショーの作成	教	須賀野 仁志	25	24	24	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭および養護教諭	その他
			三重の風土と住まい	工	菅原 洋一・清山 益郎・富岡 穂人・渡野 聡	40	40	40	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭	筆記
			「生物多様性」総ざらえ―概念・保全から外来生物問題まで―	生	淀 太我	20	19	19	教諭	小学校・中学校・高等学校の理科・水産科担当教諭	筆記
	4	選必	アクティブ・ラーニングTBL (Team-based Learning) 体験	教養	太城 康良	32	25	25	教諭・養護教諭	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭および養護教諭	その他
			学習指導要領はどう変わっていくのか	教	佐藤 年明	40	9	8	教諭・養護教諭・栄養教諭	小学校の教諭、養護教諭、栄養教諭	筆記
			不登校の理解と対応	教養	瀬戸 美奈子	30	28	28	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭	筆記
			学校・家庭・地域の望ましい関係を探る	教	大日方 真史	40	36	36	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭	筆記
			節目でキャリアをデザインする方法	学	長谷川 岳雄	40	30	30	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭	筆記
			猫達の歌「黄金比と円周率」	教	玉城 政和・森山 貴之	12	9	9	教諭	中学校・高等学校の数学科担当教諭	筆記
6月25日 土	8	選	子どもの学びにそくした理科の授業づくり	教	平賀 伸夫	16	13	13	教諭	小学校・中学校・高等学校の理科担当教諭	筆記
			歌謡・発声教育	教	弓場 徹	100	98	97	教諭	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の音楽科担当教諭、発声法及び発声機能を学びたい教諭	筆記
			映像メディア表現 (図工・美術)	教	上山 浩	12	6	6	教諭	小学校・中学校・高等学校の図工・美術科担当教諭	実技
			学校教員におけるゴルフの取り上げ方と活動の工夫	教	藤原 清志	30	25	25	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭	実技
	4	選	英語学習者の情意的要因を考える	教	荒尾 浩子	15	11	10	教諭	中学校の英語科担当教諭	筆記
			はじめてのゲーミング	教	南 学	35	7	7	教諭	小学校・中学校・高等学校の教諭	筆記
			子どものコミュニケーション能力を育てる	教	松浦 均・中西 良文	60	60	60	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭および養護教諭	筆記

6月26日	1	必(3)	教育の最新事情2	教	藤田 健夫・伊藤 敏子・重田 昌平	180	134	133	133	教諭・英語教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 高等学校 特別支援学校の教諭、英語教諭および栄養教諭	筆記
	1	必(1)	教育の最新事情3	教	森池 紀彦	50	47	47	47	教諭・英語教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭、英語教諭および栄養教諭	筆記
			香淳指導の内容及実技	教	林 朝子	30	30	30	30	教諭	幼稚園・小学校の教諭、中学校の英語科担当教諭	筆記
7月3日	7	選	船越の歌「黄金比と円周率」から 職業教育の能力を導く 美術教育のための素材演習/石瀬レリーフ制作	教	玉城 政和・森山 貴之	12	12	12	12	教諭	中学校・高等学校の数学科担当教諭	筆記
			ベートーヴェン:交響曲第5番「運命」から 職業教育の能力を導く 美術教育のための素材演習/石瀬レリーフ制作	教	森重 直文	25	25	25	25	教諭	小学校・中学校・高等学校の音楽科担当教諭	筆記
			運動意欲を高める行動科学の手法 ものづくりコンテストを取り入れた協同学習 の構築 抗体や核融合上の情報について(修履も含む)	教	奥田 真澄	7	7	7	7	教諭	中学校の美術科担当教諭	その他
			運動意欲を高める行動科学の手法 ものづくりコンテストを取り入れた協同学習 の構築 抗体や核融合上の情報について(修履も含む)	教	重松 良祐	30	28	28	28	教諭・英語教諭	小学校・中学校・高等学校の保健体育科担当の教諭および英語教諭	筆記
			運動意欲を高める行動科学の手法 ものづくりコンテストを取り入れた協同学習 の構築 抗体や核融合上の情報について(修履も含む)	教	桑住 明生	12	5	5	5	教諭	小学校教諭、中学校の技術科担当教諭	筆記
			運動意欲を高める行動科学の手法 ものづくりコンテストを取り入れた協同学習 の構築 抗体や核融合上の情報について(修履も含む)	工	水谷 隆治	15	6	6	6	教諭	中学校・高等学校の理科担当教諭	筆記
	1	必(1)	教育の最新事情4	教	荒川 哲郎	50	49	48	48	教諭・英語教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭、英語教諭および栄養教諭	筆記
			必要に応じて英語の授業を英語で行う技法(中学校教員対象)	教	早瀬 光秋	20	9	9	9	教諭・英語教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭、英語教諭および栄養教諭	筆記
	4	選必	三重県の特設支援教育の課題	教	郷右近 歩	25	26	26	26	教諭・英語教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭、英語教諭および栄養教諭	筆記
			不登校の理解と対応	教養	瀬戸 美奈子	30	29	29	29	教諭・英語教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭、英語教諭および栄養教諭	筆記
			「生きる力」と道徳指導及びキャリア教育	非	宮崎 苺子	40	35	35	35	教諭・英語教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭、英語教諭および栄養教諭	筆記
7月9日			日本語教育入門 一年生への指導を中心	教	服部 明子	20	20	19	19	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教諭	筆記
			清朝の統治構造と現代中国	教	大坪 慶之	15	5	5	5	教諭	小学校・中学校・高等学校の社会科、地理歴史科・公民科担当教諭	筆記
			デジタル・アナログを使った英文教育	教	伊藤 信成	15	11	1/11	1/11	教諭	小学校・中学校の理科担当教諭	その他
			理科の授業に役立つコンピュータシミュレーション	教	園田 寛人	6	6	6	6	教諭	小学校・中学校の理科担当教諭	筆記
	8	選	スポーツ指導に活かすスポーツ科学	教	杉田 正明	35	19	19	19	教諭	中学校・高等学校の保健体育科担当教諭	筆記
			学習者のためのデジタルストーリーテリング-学んだことをまとめ、発信するデジタル絵巻の制作-	教	須賀野 仁志	45	22	22	22	教諭・英語教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭および英語教諭	その他
			何歳すると11になるか?何回繰り返すと元にもどるか?	教養	古関 春隆	6	4	4	4	教諭	中学校・高等学校の数学科担当教諭	筆記
			教育の諸相と児童・生徒理解	非	笠川 優子	20	20	20	20	教諭	小学校・中学校・高等学校の教諭	筆記
			作文を通して考える異文化理解教育	教	原田 三千代	40	35	35	35	教諭・英語教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭、英語教諭および栄養教諭	筆記
	4	選必	必要に応じて英語の授業を英語で行う技法(高等学校教員対象)	教	早瀬 光秋	20	2	2	2	教諭・英語教諭・栄養教諭	高等学校の英語科担当教諭	筆記
			参加型アクティブラーニングのためのIGT学習利用	教	須賀野 仁志	50	36	36	36	教諭・英語教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭、英語教諭および栄養教諭	筆記
			学校の教育課題に対する組織的対応	教	藤田 榮幸	60	6	6	6	教諭・英語教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭、英語教諭および栄養教諭	筆記
			平家物語の人物造型 一清盛・重衡・宗盛・知盛一	教	松本 昭彦	30	21	21	21	教諭	中学校・高等学校の国語科担当教諭	筆記
7月17日			学習者(国語教育・日本語教育)の初期教育段階における文字表記の問題点と指導法	教	余 健	30	30	30	30	教諭	幼稚園・小学校・特別支援学校の教諭	筆記
	8	選	日本における戦国時代から江戸時代への移住をどのように教えるのか	教	藤田 達生	30	27	26	24	教諭	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の社会科担当教諭	筆記
			自然災害と日本の風土	教	萩原 彰	30	17	17	17	教諭	小学校・中学校・高等学校の理科・社会科担当教諭	筆記
			生きたリスムのしくみ	教	小畑 真嗣子	16	16	16	16	教諭	小学校・中学校・高等学校の音楽科担当教諭	実技
			ハレーボールの指導法について	教	大隈 節子	24	22	22	22	教諭	小学校・中学校の保健体育科担当教諭	実技
			小学校における英語教育の方法と実践	非	エスクデロ ロベルト カルロス	20	12	12	12	教諭	小学校の英語担当教諭	口頭
			特別な支援を要する子どもの発達と保護者支援	教	郷右近 歩	25	25	25	25	教諭・英語教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭および英語教諭	筆記

開設日	講義 (7/25)数	区分	講義名	学部	講師名	定員	希望者 申込者数	開校 者数	原修認定対象職種	主な受講対象者	試験の 方法
7月23日 土	11 選		定番教材を読みこなす	教	和田 東	30	27	27	教諭	中学校・高等学校の国語科担当教諭	筆記
			自然地理学の基礎	教	宮岡 邦任	10	10	10	教諭	小学校教諭、中学校・高等学校の社会科地理担当教諭(地理が苦手な方)	筆記
			現代社会と経済学	教	内田 秀昭	12	7	7	教諭	中学校・高等学校の社会科担当教諭	筆記
			算数と無限小数	教	藤崎 茂明	12	7	7	教諭	中学校・高等学校の数学科担当教諭	筆記
			小学校音楽科の授業づくり	教	川村 有美	20	20	20	教諭	小学校の音楽科担当教諭	筆記
			シンボルマークデザイン/コンピュータを使用したデザイン表現	教	岡田 博明	11	9	9	教諭	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校の図工・美術科担当教諭	実技
			Webプログラミング	教	奥村 晴彦	40	19	19	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校、特別支援学校の教諭(学校のホームページ担当、あるいはWebの仕組みを学びたい教諭)	その他
			家庭科における消費生活と環境に関する授業研究	教	吉本 敏子	30	12	12	教諭	小学校・中学校・高等学校の家庭科担当教諭	筆記
			乳幼児期の社会性の発達とその支援	教	吉田 真理子	35	34	2/3	教諭	幼稚園教諭	筆記
			学力支援の学習心理学	教	中西 良文	32	32	32	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・高等学校 特別支援学校の教諭	筆記
7月30日 土	5 選		リーディングとライティングのインターフェース	教	西村 秀夫	15	12	12	教諭	中学校・高等学校 特別支援学校の英語科担当教諭	筆記
			教育の最新事情5	教	須賀野 仁志・南 学・栗田 季佳	180	116	116	教諭・養護教諭・栄養教諭	中学校・高等学校 特別支援学校の英語科担当教諭	筆記
			学校を巡る近年の状況の変化・最近の教育政策の動向(教育基本法を中心に)	教	長澤 貴・新田 均	40	35	34	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭	筆記
			アクティブラーニングにおけるICT(情報通信技術)の活用	教	下村 勉・鷲尾 敬	40	38	37	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭	筆記
			これからの読解力を育てる小学校国語科の授業	教	守田 庸一	30	30	30	教諭	小学校教諭	筆記
			算数の素養	教	中西 正治	20	20	20	教諭	小学校教諭	筆記
			解析学を楽しむー級数、積分の広がりー	教	川向 洋之・肥田野 久二男	10	4	4	教諭	中学校・高等学校の数学科担当教諭	筆記
			ものづくり教育における設計学習の現状とこれからの展望	教	中西 康雅	8	2	2	教諭	中学校の技術科担当教諭、高等学校の工業科担当教諭	筆記
			スペイン語初級	非	河邊 真次	20	7	7	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭および栄養教諭	筆記
			教育の最新事情6	教	栗田 季佳	50	49	48	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭	筆記
7月31日 日	1 必(1)		社会科や総合学習における風文化理解学習	教	永田 成文	40	12	11	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭	筆記
			「生きる力」道徳教育	非	宮崎 苅子	40	40	40	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭	筆記
			教育相談ー学校のチーム支援ー	非	加藤 裕子	40	39	39	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭	筆記
			スペイン語入門	人	小林 貴徳	30	16	14	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭および養護教諭	筆記
			教員のための物理の基礎実験	教	牧原 義一	12	11	11	教諭	小学校・中学校の理科担当教諭	筆記
			子どもが夢中になる小学校体育授業	教	加納 岳拓	40	40	40	教諭	小学校教諭	筆記
			消費者信用を中心とする消費者教育に自覚を持つために	教	栗本 秀樹	15	7	7	教諭	中学校・高等学校の家庭科担当教諭(他教科担当者も可)	筆記
			3次元着装シミュレーションによる衣服設計と選択	教	増田 智恵	10	5	5	教諭	小学校教諭、中学校・高等学校の家庭科担当教諭	筆記
			英辞入門	教	宮地 穂弘	15	15	15	教諭	中学校・高等学校の英語科担当教諭	筆記
			性(sexuality)を学ぶとは何をすることかー小学校を中心にー	教	佐藤 年明	20	20	20	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭および養護教諭	筆記
8月9日 火	8 選		古武術的身体操法の開発	非	藤田 裕久	20	19	19	教諭	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の保健体育科担当教諭	実技
			財政の役割について	人	森 俊一	10	9	9	教諭	中学校・高等学校の社会科関係担当教諭	筆記
			中学校数学科教材研究	教	田中 伸明	20	16	16	教諭	中学校の数学科担当教諭	筆記
			音楽のしくみと表現	教	森川 孝太郎	24	19	19	教諭	小学校・中学校・高等学校の音楽科担当教諭	その他
			最適設計を取り入れたものづくり教材	教	松本 金矢	20	6	6	教諭	小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の生活・総合・図工・技術・理科・工業科担当教諭	筆記
			コンピュータハードウェアの基礎	教	山守 一徳	25	19	18	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭および養護教諭	実技
			運動と健康	教養	高橋 健二	20	20	19	教諭・養護教諭	小学校の教諭および養護教諭	筆記
			アクティブラーニングにつながるプレゼンテーションの技	教	須賀野 仁志	50	50	48	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭および養護教諭	筆記
			学習モチベーションの心理学	教	中西 良文	32	32	32	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭	筆記
			心臓病・糖尿病・熱中症・溺水・インフルエンザ	医	丸山 一男	100	91	90	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校 特別支援学校の教諭および養護教諭	筆記
8月19日 金	10 選		命をつなぐ食料を学校教育に生かすー食・農・医・福祉・環境の連携ー	生	泉 祐一	24	6	6	教諭	小学校・中学校の教諭	筆記

8月23日 火	1	必(1)	教育の最新事情7 異文化間の誤解と理解 社会科・公民科の授業における新聞活用(NIE)	教 人	須野 仁志 藤本 久司	70	69	68	教諭・養護教諭・栄養教諭 教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭および養護教諭	筆記
	8	選	論理トレーニング 身近な植物観察と学校におけるその実践方法 「学びの共同体」の理念に基づいた小学校体育の授業デザイン 楽しく思考力・表現力を養うスクラッチプログラミング 学校でのストレス・マネジメント 水とともに生きる 一飲み水・用水・水害を避けてー	教 教 教 教 教 教 医 生	秋元 ひろと 平山 大輔 岡野 昇 下村 勉 望月 都代・後藤 道子 岡島 賢治	20	20	20	教諭 教諭 教諭 教諭 教諭 教諭 教諭・養護教諭	小学校・中学校・高等学校の教諭 小学校・中学校・高等学校の理科担当教諭 幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教諭 小学校・中学校・高等学校の教諭 小学校・中学校・高等学校の教諭 小学校・中学校・高等学校の教諭 小学校・中学校・高等学校の教諭	筆記 筆記 筆記 筆記 筆記 筆記 筆記
8月26日 金	1	必(1)	教育の最新事情8 学校におけるキャリア教育と起業家教育	教 教	須野 仁志 山根 栄次	50	33	33	教諭・養護教諭・栄養教諭 教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭	筆記
	4	選必	学校を巡る近年の状況の変化 変わりゆく学校と組織的対応力 教育相談 一学校のチーム支援ー	教 非 非	田邊 正明 杉田 勝雄 加藤 裕子	40	9	9	教諭・養護教諭・栄養教諭 教諭・養護教諭・栄養教諭 教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭 中学校・高等学校の美術科担当教諭	筆記 筆記 筆記
8月28日 日	7	選	職業教育(美術) 幼児・児童の体力・運動能力の向上と発達 ICTのしくみ 「生きる力」論批判 メンタルヘルス問題をもつ子どもの理解と対応 流れのシミュレーションとその応用 学校をめぐる地域連携と教師役割を考える	教 教 教 教 医 工 非	山口 泰弘 八木 規夫 坂原 克幸 佐藤 年明 西出 りつ子・児玉 豊彦 辻本 公一 蓮尾 直美・鈴木 聡	15	7	7	教諭 教諭 教諭・養護教諭 教諭・養護教諭 教諭・養護教諭 教諭・養護教諭 教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭 中学校・高等学校の理科担当教諭 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭	筆記 筆記 筆記 筆記 筆記 筆記 筆記
10月1日 土	1	必(1)	教育の最新事情9 社会科や総合学習における異文化理解学習 参加型アクティブラーニングのためのICT学習利用	教 教 教	荒川 智郎 永田 成文 須野 仁志	50	41	40	教諭・養護教諭・栄養教諭 教諭・養護教諭・栄養教諭 教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭および栄養教諭	筆記 筆記 筆記
	6	選	三重県の岩石と地層 おいしく食べるとは？ 児童中心主義の思想に学ぶ 家庭科教育の理論と実践 協同に基づく授業づくり・学級づくり 世界の教育事情	教 教 教 教 教 教 教	栗原 行人 平島 円 伊藤 敏子 林 未和子 最清 文与 下村 智子	15	6	5	教諭 教諭・養護教諭 教諭 教諭 教諭 教諭	小学校・中学校・高等学校の理科担当教諭 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の家庭科・給食指導担当教諭および養護教諭 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭 小学校・中学校・高等学校の家庭科担当教諭 小学校・中学校・高等学校の教諭 小学校・中学校・高等学校の教諭 小学校・中学校・高等学校の教諭	実技 筆記 筆記 筆記 筆記 筆記 筆記
必修講習	9					860	706	701	受講申込率 82.1%		
選択必修講習	25					905	597	593	受講申込率 66.0%		
選択講習	106					2594	1998	1980	受講申込率 76.6%		
選択講習会 選択必修講習	2					80	73	71	受講申込率 91.3%		

3 受講者評価書

教育学部 平島 円

1. はじめに

教員免許状更新講習では、本年度もこれまで（平成21～27年度）と同様に講習受講後に受講者による受講者評価書（図1）への記入が行われた。本稿では、その評価項目への回答について分析した結果を報告する。また、過去6年間の評価との比較を行った結果についてもあわせて報告する。

2. 方法

更新講習終了時に全受講者に対し受講者評価書（図1）を配布し、記入を依頼した。評価者の延べ人数は3,371名だった。内訳は必修講習受講者698名、選択必修講習受講者694名、選択講習受講者1,979名だった。今年度は、必修講習が1日になり、これまで4人体制で行っていた必修講習が、1人体制または3人体制になったことより、選択必修講習は新たに開設されたが、のべ人数は大幅に減少した。また、勤務校別の内訳は保育所・幼稚園勤務者492名、小学校勤務者1,155名、中学校勤務者623名、高等学校勤務者700名、特別支援学校勤務者141名、その他（教員経験者・教員採用予定者・教育委員会など行政での勤務者・無記入者など）268名だった。さらに職種別の内訳は教諭2,233名、講師403名、実習助手14名、養護教諭・養護助教諭71名、栄養教諭32名、保育士346名、その他（寄宿舍指導員、無記名者など）301名だった（いずれも延べ人数）。

評価項目数は「Ⅰ 本講習の内容・方法について」が4項目、「Ⅱ 本講習の成果について」が4項目と従来と同じだが、「Ⅲ 本講習の運営面（受講者数、会場、連絡等）について」はより詳細な評価を得るため、今年度から4項目に変更し、計12項目だった（図1参照）。これらの項目について、「4：よい（十分満足した・十分成果を得られた）」、「3：だいたいよい（満足した・成果を得られた）」、「2：あまり十分でない（あまり満足しなかった・あまり成果を得られなかった）」、「1：不十分（満足しなかった・成果を得られなかった）」の基準から該当するものを受講者に選択回答してもらった。また、評価については評価基準を段階で示し、わかりやすくなるように評価書を工夫した。評価は「4：よい」を4点、「3：だいたいよい」を3点、「2：あまり十分でない」を2点、「1：不十分」を1点として項目ごとに平均値と標準偏差を求めた。さらに、評価項目ⅠとⅡについては平成22年度から本年度28年度までの受講者評価の平均値の経年変化についても検討した。この評価が始まった平成21年度のものは評価項目が若干異なったため、今年度は比較対象としなかった。各評価項目の評価の差については χ^2 検定により有意差検定を行った。有意水準は5%未満とした。

3. 結果

3-1. 必修講習、選択必修講習および選択講習における受講者評価の平均値と点数の分布

表1に本年度の受講者全体、必修講習受講者、選択必修講習受講者および選択講習受講者による評価項目Ⅰ-1からⅢ-4までの全12項目（図1参照）の平均値と標準偏差を示す。それぞれの受講

者による平均値は全評価項目の合計で約 3.5 点、各項目別においても 3.2 点以上で（表 1）、評価点は良かった。しかし、今年度の平均値はこれまでよりもわずかに低い傾向にあった（平成 21～27 年度免許状更新講習報告書を参照）。標準偏差の値は 0.47～0.65 程度であり（表 1）、評価にほとんどばらつきはなかった。

表 1 受講者全体，必修講習受講者，選択必修講習受講者および選択講習受講者の受講者評価における各評価項目の平均値，標準偏差および評価人数

	全体		必修		選択必修		選択	
	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数
I-1 学校現場が直面する諸状況や教員の課題意識の反映	3.446 (0.631)	3,371	3.444 (0.615)	698	3.555 (0.585)	694	3.445 (0.646)	1,979
I-2 講習のねらいや到達目標が明確さ、講習内容	3.572 (0.582)	3,371	3.416 (0.615)	699	3.566 (0.594)	694	3.628 (0.555)	1,978
I-3 現場での教育実践に参考となる講習方法	3.487 (0.640)	3,371	3.298 (0.654)	698	3.503 (0.631)	694	3.548 (0.626)	1,979
I-4 本講習の内容・方法について総合的な評価	3.551 (0.581)	3,371	3.359 (0.592)	700	3.547 (0.606)	693	3.620 (0.553)	1,978
II-1 各教育活動に係る学問分野の最新の研究動向、理論・考え方・指導法や技術等	3.530 (0.601)	3,371	3.422 (0.622)	699	3.445 (0.648)	694	3.599 (0.565)	1,978
II-2 講習内容についてより深く知識欲	3.493 (0.620)	3,374	3.317 (0.655)	700	3.458 (0.625)	694	3.567 (0.592)	1,980
II-3 教員としての知識技能の厚みや多様さ	3.547 (0.590)	3,371	3.402 (0.608)	699	3.504 (0.626)	693	3.613 (0.600)	1,979
II-4 最新の知識・技能の習得の成果	3.483 (0.602)	3,373	3.336 (0.610)	700	3.435 (0.623)	694	3.552 (0.581)	1,979
III-1 受講者数は適切であった	3.706 (0.489)	3,378	3.633 (0.514)	701	3.704 (0.508)	695	3.733 (0.470)	1,982
III-2 会場の広さや設備は適切であった	3.619 (0.584)	3,377	3.562 (0.598)	701	3.607 (0.607)	695	3.644 (0.569)	1,981
III-3 連絡等は適切であった	3.691 (0.518)	3,376	3.632 (0.541)	701	3.653 (0.552)	694	3.726 (0.494)	1,981
III-4 本講習の運営面における総合的な評価	3.665 (0.508)	3,377	3.588 (0.542)	701	3.637 (0.524)	695	3.702 (0.486)	1,981
全項目	3.566 (0.579)		3.442 (0.597)		3.551 (0.594)		3.615 (0.558)	

受講者が選択したそれぞれの評価の割合についてみると（図 2），ほとんどの受講者が「4：よい（4 点）」または「3：だいたいよい（3 点）」を選択したことがわかった。「2：あまり十分でない（2 点）」と評価した受講者は多くても 10%以下であり，5%程度が多かった。また，「1：不十分（1 点）」という回答はごくわずかだった（図 2）ことから評価の平均値は高いものだったと考えられる。

次に，必修講習，選択必修講習と選択講習の受講者の評価点のつけ方を比較すると（図 2 上から 2 段目～4 段目），12 評価項目すべてにおいて，1～4 点の評価をした人数の分布について講習別による差がみられた。「I-1 学校現場が直面する諸状況や教員の課題意識を反映して行われていた」においては選択必修講習受講者の評価点が有意に高い結果だった（ $p<0.001$ ）。評価の平均点ももっとも高く（表 1，黄色の塗りつぶし），受講者の満足度は高かったと思われる。この項目は昨年度までは必修講習受講者の評価が高かったが，今年度は必修講習よりも選択必修講習においては受講者のニーズと内容が一致した結果となった。一方，I-1 を除く 11 評価項目においては選択講習受講者が有意に高い点数を付けたとわかった（図 2）。そのため，平均点は 3 種の講習のなかでもっとも

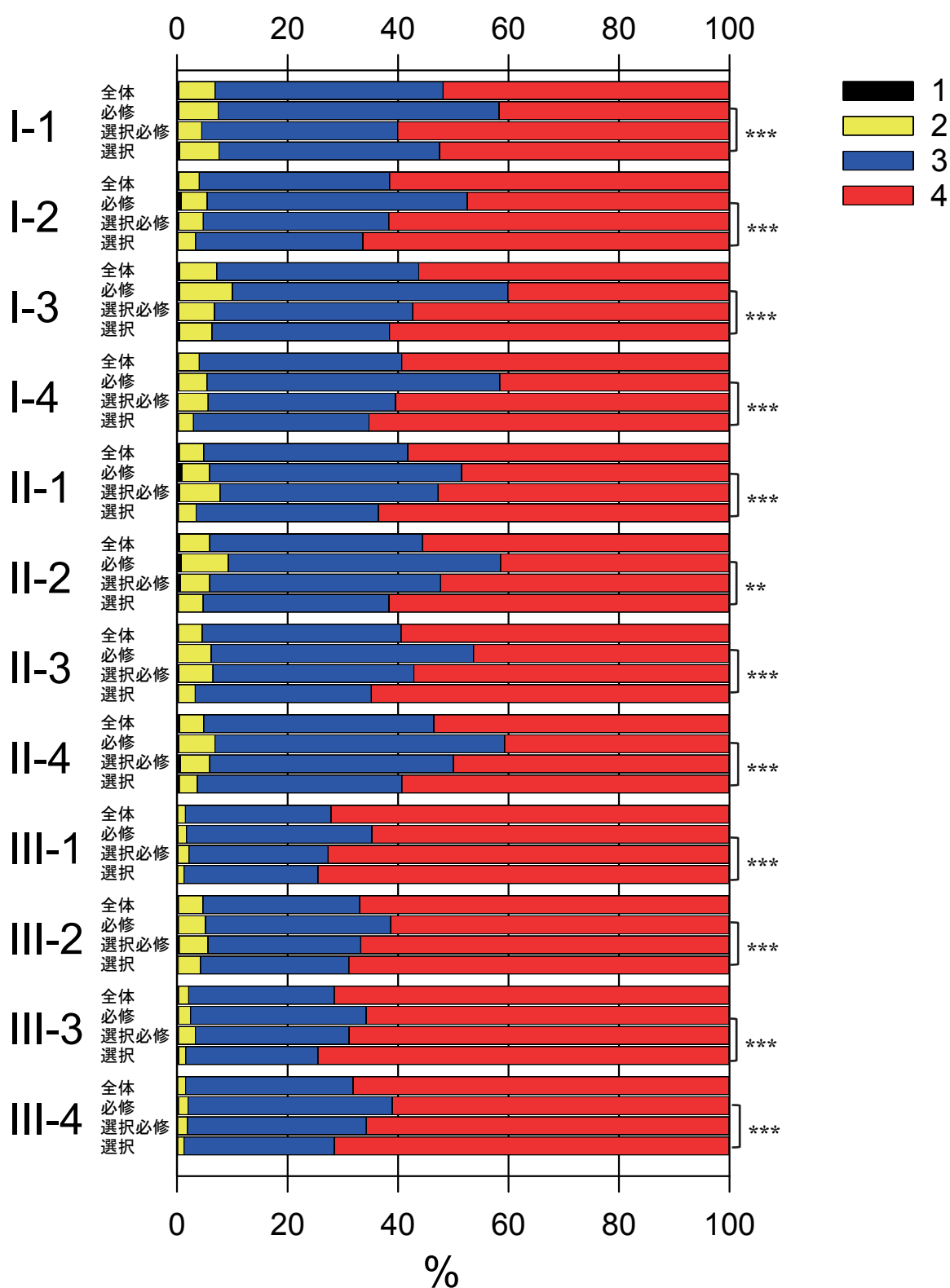


図2 受講者全体（上段），必修講習（上から二段目），選択必修講習（上から三段目）および選択講習（下段）受講者の受講者評価の各評価項目における1～4点の評価人数の割合

** : $p < 0.01$, *** : $p < 0.001$

高かった（表 1，黄色の塗りつぶし）。この傾向は過去の結果と同様であり，選択講習では専門教科ごとに細分化されており，受講者の興味のある講習やニーズに合う講習が選ばれたことが反映されていると考えられる。すなわち，受講者にとって興味のある，または専門と合致する講習が今後の教育活動に必要とされるため，平均値が高く，満足度が高かったと考えられる。

3-2. 受講者の勤務校別の受講者評価の平均値と点数の分布

保育所・幼稚園（492名），小学校（1,155名），中学校（623名），高等学校（700名），特別支援学校（141名）およびその他（268名）を勤務校とする受講者による各評価項目と全項目の平均値と標準偏差を表 2 に示す。表 2 に示す平均値からは保育所・幼稚園勤務者と特別支援学校勤務者は比較的高い点を付けた受講者が多いとわかった（表 2 中，黄色の塗りつぶし）。昨年の平成 27 年度はその他の勤務者がほとんどの項目において高い点をつけたが，今年度は異なる結果となった。一方，高等学校勤務者の平均値が低い傾向にあることは平成 26 年度以前と同様だった。昨年度の結果は高等学校勤務者の評価は高くなり，満足度が改善されたと思われたが，今年度は再び満足度の低い傾向となった。

表 2 勤務校別（保育所・幼稚園，小学校，中学校，高等学校，特別支援学校およびその他）の受講者評価における各評価項目の平均値および標準偏差

	保育所・幼稚園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		その他	
	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数
I-1	3.474 (0.554)	492	3.483 (0.603)	1155	3.448 (0.639)	623	3.354 (0.652)	698	3.522 (0.566)	141	3.454 (0.631)	262
I-2	3.585 (0.519)	492	3.537 (0.575)	1154	3.507 (0.632)	623	3.522 (0.611)	699	3.581 (0.570)	140	3.534 (0.597)	263
I-3	3.455 (0.586)	492	3.462 (0.631)	1154	3.479 (0.642)	623	3.419 (0.667)	699	3.403 (0.592)	140	3.422 (0.670)	263
I-4	3.511 (0.547)	492	3.516 (0.575)	1152	3.495 (0.604)	623	3.499 (0.589)	699	3.561 (0.572)	141	3.501 (0.629)	264
II-1	3.526 (0.551)	492	3.503 (0.615)	1155	3.431 (0.646)	623	3.488 (0.620)	697	3.446 (0.601)	141	3.517 (0.594)	263
II-2	3.422 (0.564)	492	3.471 (0.618)	1154	3.442 (0.661)	623	3.430 (0.642)	699	3.463 (0.606)	141	3.437 (0.638)	265
II-3	3.481 (0.549)	492	3.508 (0.616)	1153	3.502 (0.600)	623	3.527 (0.601)	699	3.538 (0.598)	141	3.488 (0.599)	263
II-4	3.411 (0.555)	492	3.448 (0.606)	1153	3.461 (0.624)	623	3.443 (0.597)	699	3.420 (0.559)	141	3.424 (0.681)	265
III-1	3.179 (0.475)	492	3.705 (0.491)	1155	3.686 (0.504)	623	3.654 (0.520)	700	3.728 (0.460)	141	3.655 (0.538)	267
III-2	3.659 (0.532)	492	3.595 (0.600)	1154	3.615 (0.590)	623	3.557 (0.623)	700	3.658 (0.548)	141	3.621 (0.559)	267
III-3	3.684 (0.505)	492	3.681 (0.516)	1153	3.676 (0.526)	623	3.649 (0.533)	700	3.628 (0.632)	141	3.667 (0.552)	267
III-4	3.664 (0.480)	492	3.645 (0.514)	1154	3.665 (0.500)	623	3.606 (0.532)	700	3.654 (0.541)	141	3.634 (0.569)	267
全項目	3.549 (0.533)		3.515 (0.592)		3.495 (0.617)		3.482 (0.611)		3.518 (0.569)		3.492 (0.619)	

勤務校別の各評価項目に対する 1～4 の評価を選択した人数の割合を図 3 に示す。設問 I の本講習の内容・方法については「I-1」のみ，勤務校による点数のつけ方に差がみられた ($p<0.001$)。「I

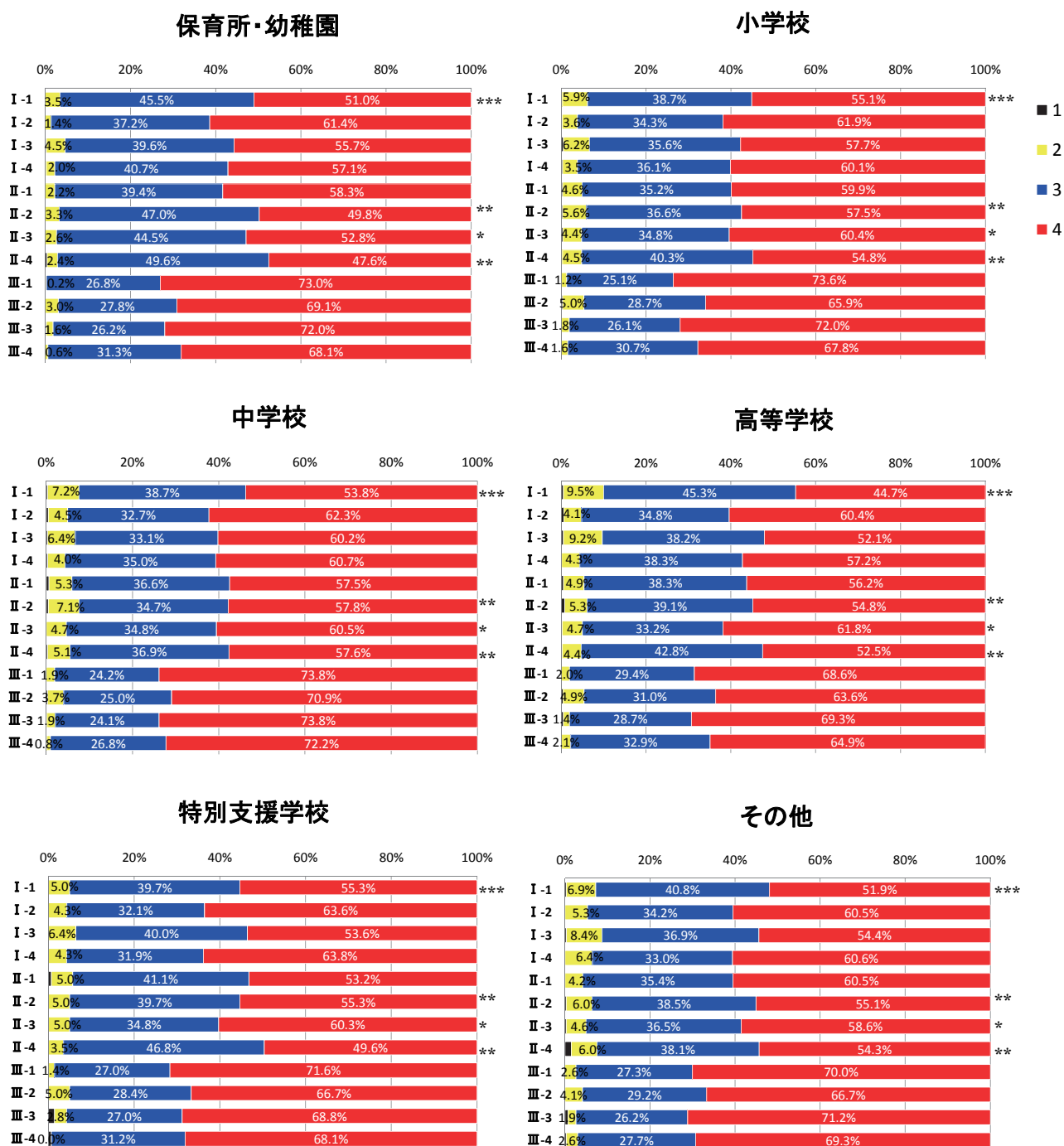


図3 勤務校別受講者（保育所・幼稚園，左上；小学校，右上；中学校，左中；高等学校，右中；特別支援学校，左下；その他，右下）の受講者評価の各評価項目における1～4点の評価人数の割合

χ^2 検定：*： $p < 0.05$ ，**： $p < 0.01$ ，***： $p < 0.001$

-1」については小学校と中学校の多くの勤務者が「4：よい」の評価をつけ、高等学校の勤務者が「4：よい」をつけた割合は低かった。学校現場が直面する諸状況というのは小中学校が対象となったのではないかと考えられる。

設問Ⅱの本講習の成果については、「Ⅱ-2 今後、本講習に関する内容についてより深く知りたいと考えた」「Ⅱ-3 教員としての知識技能の厚みや多様さを増す一助となった」「Ⅱ-4 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の習得の成果についての総合的な評価」において勤務校による差がみられた。「Ⅱ-2」と「Ⅱ-4」においては小学校と中学校の勤務者が「4：よい」評価を多くつけ（ともに $p<0.01$ ）、「Ⅱ-3」については小学校、中学校および高等学校の勤務者が「4：よい」評価を多くつけた（ $p<0.05$ ）。したがって、教員免許状更新講習では小学校から高等学校の授業で役立つ内容が多かったのではないかと推察され、特に小学校と中学校勤務者の満足度が高かったのではないかと考えられる。

一方、設問Ⅲの本講習の運営面についての評価については勤務校により差はみられなかった。事務の仕事では勤務校により差をつけるわけではないので、当然の結果ではあるが、いずれの受講者も他の設問と比較すると、良い評価をしていた。

3-3. 受講者評価の経年変化

平成22～28年度の評価についての平均点、標準偏差および評価人数を表3に、評価点のつけ方についての経年変化を図4に示す。各年度の延べ人数は平成22年度が5,772名、23年度が6,026名、24年度が5,948名、25年度が5,467名、26年度が5,490名、27年度が5,057名、28年度が3,371名だった。なお、設問Ⅲについては今年度より項目が変更になったため、比較対象としなかった。いずれの評価項目においても平均値は年を経るごとに高くなり、平成27年度に平均点は最高となったのち（表3中の黄色塗りつぶし）、今年度の平成28年度は低くなった（表3）。平均値の上昇率は平成25年以降では鈍化していたが、今年度は延べ人数が少ないことや新たに選択必修講習もはじまったことが影響したためか、平均値が低下したことは残念だった。今後の評価の上昇に期待したい。

表3 平成22年度から平成28年度の受講者評価におけるⅠとⅡの評価問項目の平均値および標準偏差

	H22		H23		H24		H25		H26		H27		H28	
	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)		平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数
I-1	3.394 (0.656)	5744	3.391 (0.674)	6015	3.449 (0.637)	5945	3.518 (0.609)	5460	3.520 (0.613)	5482	3.538 (0.602)	5,050	3.446 (0.631)	3,371
I-2	3.503 (0.614)	5745	3.518 (0.614)	6021	3.543 (0.593)	5946	3.577 (0.595)	5466	3.585 (0.605)	5486	3.610 (0.572)	5,049	3.572 (0.582)	3,371
I-3	3.400 (0.676)	5743	3.411 (0.688)	6019	3.454 (0.675)	5944	3.502 (0.652)	5467	3.514 (0.654)	5483	3.525 (0.640)	5,050	3.487 (0.640)	3,371
I-4	3.444 (0.680)	5762	3.461 (0.676)	6026	3.510 (0.635)	5948	3.546 (0.638)	5468	3.570 (0.601)	5461	3.603 (0.566)	5,021	3.551 (0.581)	3,371
Ⅱ-1	3.451 (0.631)	5734	3.471 (0.628)	6009	3.505 (0.623)	5940	3.510 (0.632)	5460	3.544 (0.618)	5475	3.563 (0.601)	5,046	3.530 (0.601)	3,371
Ⅱ-2	3.364 (0.656)	5743	3.372 (0.672)	6014	3.431 (0.647)	5943	3.462 (0.647)	5467	3.499 (0.633)	5486	3.503 (0.629)	5,049	3.493 (0.620)	3,374
Ⅱ-3	3.449 (0.623)	5731	3.449 (0.635)	6015	3.505 (0.604)	5935	3.520 (0.611)	5458	3.551 (0.607)	5478	3.565 (0.594)	5,038	3.547 (0.590)	3,371
Ⅱ-4	3.366 (0.662)	5762	3.387 (0.646)	6026	3.441 (0.614)	5948	3.466 (0.617)	5468	3.496 (0.611)	5484	3.512 (0.592)	5,046	3.483 (0.602)	3,373

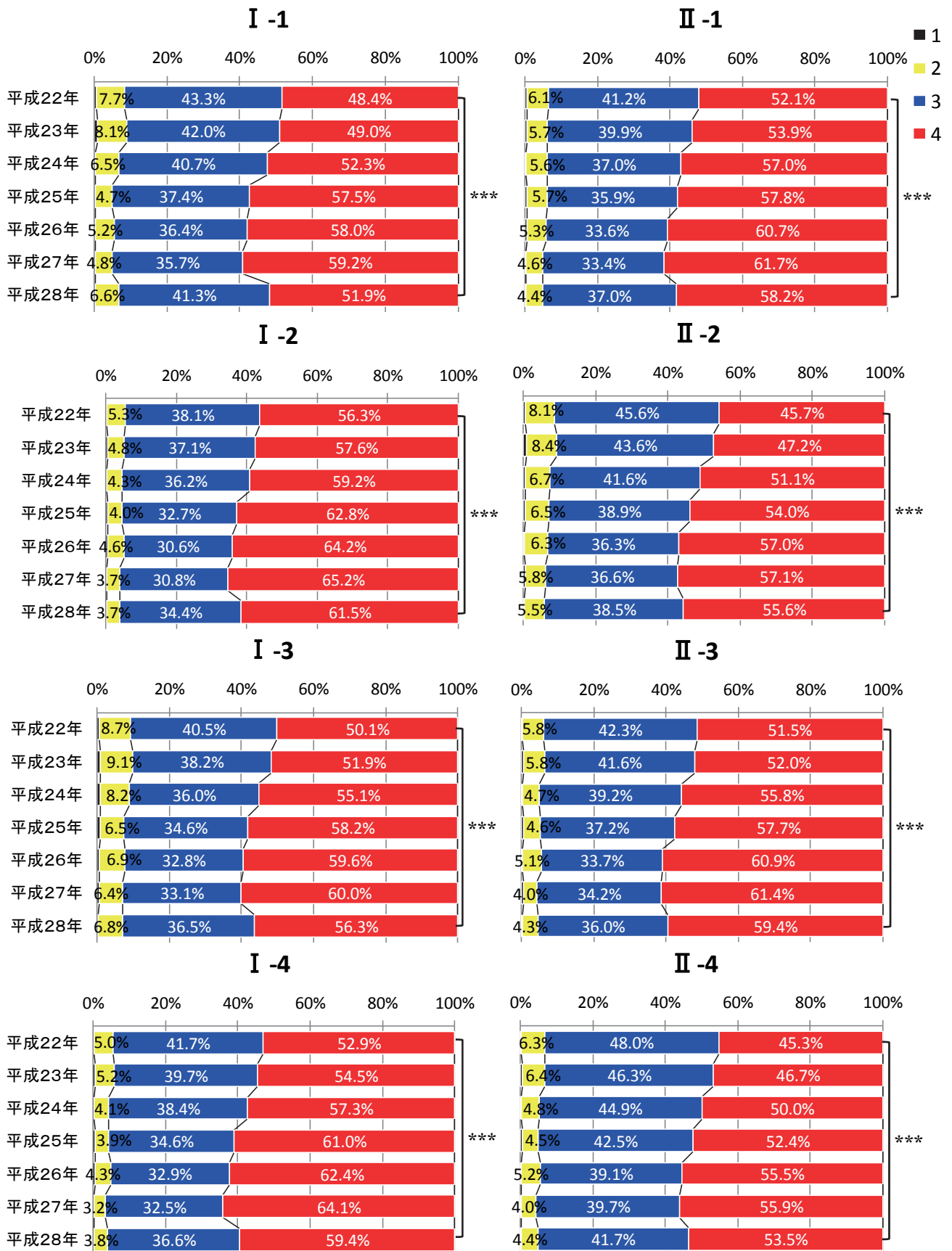


図4 平成22～27年度の受講者評価における評価項目ⅠとⅢの1～4点の評価人数の割合

*** : $p < 0.001$

各評価項目の得点割合の経年変化をみても（図4）、すべての評価項目において平成27年度までは年を経るごとに「4：よい」と評価した受講者の割合が高くなり、「3：だいたいよい」、「2：あまり十分でない」と評価した受講者の割合が低くなったが、平成28年度では「4：よい」と評価した受講者の割合が低くなった（いずれも $p<0.001$ ）。平成26年度と平成27年度がもっともよい評価を得られているとわかった。平成27年度の評価が最高であり、平成28年度の本講習についての満足度が特異的なものか今後の評価の変化を見る必要がある。

4. まとめ

受講者評価を分析して以下のことが明らかになった。

- ① 講習内容・方法、講習で得られる成果、講習の運営に関して、全体的に受講者からよい評価が得られているとわかった。
- ② 必修講習、選択必修講習と選択講習別の受講者評価では12評価項目中「I-1 学校現場が直面する諸状況や教員の課題意識を反映して行われていた」の1項目では選択必修講習で、それ以外の11項目では選択講習で評価は高かった。選択講習では受講者の興味のある講習やニーズに合う講習が選ばれている傾向があるとわかった。
- ③ 勤務校別に比較すると、保育所・幼稚園勤務者と特別支援学校勤務者の平均点が高かったが、小学校と中学校に勤務する受講者がよい評価をした傾向にあり、小学校と中学校勤務者の満足度は高かったと推測される。
- ④ 平成28年度の受講者評価は平成26年度および平成27年度と比べて講習内容、成果において悪くなったとわかった。平成27年度の評価が最高値であるかどうかは今後の評価をみる必要があると考えられる。

4 受講者評価書・自由記述

教育学部 宮地 信弘

免許状更新講習では、受講者全員に各講習の終了時に受講した講習と講習全般（主に運営面）について、自由記述欄を含む受講評価書に記入をお願いしている。寄せられた意見・要望・提案・批判等は、次年度以降の講習をより充実したものにしていくための検討材料として活用している。ここでは受講評価書の自由記述欄の記入内容をもとに平成 28 年度の更新講習を振り返る。

今年度から選択必修が新たに導入され、また、必修講習では 3 人講師体制（3 人の講師が時間を決めて教室を移動し、3 講習を同時並行で開講する体制）が取り入れられた。そのような新しい状況に対して受講者の受け止め方を探るために、今年度の自由記述欄の振り返りは必修・選択必修・選択の 3 種類の講習に分けてその傾向を見ていくことにした。運営面での自由記述については、3 種類の講習で特に大きな違いは見られなかったので一括して扱い、幾つかの項目毎にまとめた。

なお、自由記述のデータは必修講習と選択必修講習ではともに約 700 件、選択講習では約 2,000 件に及んでおり、以下に紹介するコメントはごく一部のものである。できるだけ最大公約数的なものを掲載するよう努めた。また、個人が特定されるコメントは外したが、講習が特定されるコメントに関しては一部掲載せざるを得ない場合があった。ご了解を得たい。

Ⅰ. 必修講習：「講習内容・方法」についてのコメント

（１）好意的・肯定的なコメント

〔全般的コメント〕

- ・最新の教育状況がわかってよかった。自分の授業を見直す機会となり、よかった。先生方の講義はどなたも論理的でわかりやすかった。
- ・グループワークを行うことで、様々な職種の方々から話を聞けたので、勉強になった。教育観、子ども観を見直すきっかけとなった。海外の情報（教育）を知ることができた。
- ・専門分野（幼児教育）以外のことも学ぶ機会となり、とてもよかった。研修会は、保育に関することがほとんどだが、幼、小、中、高と多方面に渡った講習の内容や“最新事情”もわかりやすく教えていただき、専門分野だけでなくいろいろな情報を得ることも大切ではないかと感じた。
- ・アクティブ・ラーニング、映像等いろいろな教材をとり入れて頂いてとても勉強になった一日でした。ありがとうございました。
- ・2016 年 4 月より障がい者差別解消法が施行され、合理的配慮、インクルーシブ教育といったことがキーワードとしてよく出てくるようになり、今回の講義を受講してとても勉強になりました。

〔3 人講師体制について〕

- ・会場を移動する必要がなかったため、落ち着いて受講することができた。
- ・3 人の方々に分けられていたこと、講義の工夫がなされており、6 時間を長く感じなかった。教室内の他の先生方の意見を聴き合う場、発表の場が与えられており、感謝です。
- ・3 つの講座を一度にという忙しい講義であったが、興味・関心のあるテーマだっただけに内容もわかりやすくスライドも見やすかった。また資料もよくわかった。
- ・3 人の講師の先生から幅広い視点でお話していただき、教師としての視野が少し広がったように思います。
- ・保・幼に関しては、今まであまり勉強する機会が少なかったもので、新しい発見ができたような良い機会となりました。3 人の講師の先生が入れ替わっての講習でしたが、それぞれ視点を切り替えることができとてもよかったです。

- ・個々の先生方の講習内容や方法は非常に勉強になりました。自分自身が生徒の気持ちになり「教育」を振りかえる機会になったと感じました。3人の先生がされたテーマはすべて興味深いものばかりでした。

(2) 要望・提案などを含むコメント

[全般的要望・提案等]

- ・正直言って、少し実践とは遠いかと感じました。ただ、先生方は熱心にしてくださり、良かったです。授業内や資料、他の先生方との交流の中に、様々なヒントがありました。
- ・言葉が難しくよくわからなかった。もう少しわかりやすい言葉で伝えただけならもっと理解できたかなと思います。
- ・ねらいが非常にわかりにくかったです。机上での研究も大切と思いますが、教育心理といった学問は、生身の人間を相手にするものです。もっと現場に出て、障害者を取りまく現状をしっかりと見てほしいと思いました。とても多くの様々な要素がからみ合っているなかで毎日どうしていくのかという難問にあたっている教師を理解してほしいです。
- ・発達段階における、事例の紹介があったものの、それらがうまく行かなかった場合や、その時の解決方法など、知りたい内容がなかった。スタンダードの理解につながったが、それ以外の部分で新しい知識や、研究等の紹介があると良い。
- ・グループ活動をするなら、もう少し話し合い、まとめ発表等の時間をとってほしかったです。前半に活動を持ってきた方がよいと思います。

[3人講師体制について]

- ・各先生の講義をゆっくりと受講できたらと思いました。それぞれが少しずつ中途半端でやや消化不良でした。これらを補える参考書等をご案内いただけるとよかったです。
- ・必修が一回で受けられるのはありがたいが、3つの講義を一日で行うと一つ一つの内容が薄く、上すべりしている感があった。特に最後のテストは考察をする時間もなく消化不良であった。
- ・とてもじっくり聞きたい内容でした。いろんなことを知る機会となったと思いますが、時間がとても短く残念でした。試験自体も時間が足りず、書ききれない感じでした。
- ・テストで資料の持ち込みが可かどうか、その都度伝えていただくとありがたいです。3講座の内容を1日で行った為、テストの分量は多かったと思います。
- ・最後にまとめて3つの試験をするのではなく、1つ終了するごとにしてもらえると有難いです。

(3) まとめ

「新しい情報に触れた・知らない分野のことを学んだ・自分を見つめることができた・自分の教育観や子供観を振り返るいい機会になった・とても良い講習だった」等の意見が多く、全般的には好評であるが、選択必修や選択講習に比べると要望や不満のコメントが割合的には多いように思われる。特に現場との違いを指摘する声が多かった（中には厳しい意見もある）。それは日々現場で生徒児童に接し、日常的に様々な問題に直面している経験に裏打ちされた感想であろう。校種を超えて他の受講者との交流や意見交換ができたことがとても有益であったというコメントも多いが、これも現場での共通の課題や悩みを知り、解決策を模索している姿勢からくるものであろう。

3人講師体制については、違った視点から学べてよかったという意見が多い反面、3つ同時は大変・各講師の話をもっと聞きたかった・内容が上滑りであった・3つの試験はしんどい・試験時間が足りないといった声も目立った。今後の課題として検討していきたい。

II. 選択必修講習：「講習内容・方法」についてのコメント

(1) 好意的・肯定的なコメント

[全般的コメント]

- ・時間が経つのがはやく充実した一日でした。説明がわかりやすくグループワークもとてもためになりました。自分自身の授業にも生かしていきたいとも思いました。(参考にさせていただきたい)ありがとうございました。
- ・実際の事例をもとに課題解決への意見交流があり、たいへん参考になりました。[紹介された]小学校での取り組みは、自校でも実践したい点が多くありました。
- ・グループで話し合う場面が多く、参加型で緊張や不安はあったが、他職種の方や他園の情報が得られて、いい情報交換の場にもなり、よかった。
- ・一日聞いているばかりの講義ではなく、活動が多かったので楽しく参加できました。疲れました。試験も暗記や知識を問うものではなく、持ち込みによって書いてよかったです。
- ・受講者が主体的そして共同的に学ぶことのできるアクティブ・ラーニング型の講習であったのが何よりよかったです。
- ・講習のねらいと到達目標を講習前に知らせてもらうことで、より講習についての理解がしやすく、参加しやすかった。

[教育の最新事情・三重県教育事情]

- ・テーマの通り「教育の最新事情」を知ることができた。日々教育は変わってきているので、このように新しいことを教えて頂けるのはありがたい。
- ・実践的な内容をいくつか知ることができた。KJ法でのやり取りの中で各校の抱えている課題や思いを聞くことができとても参考になった。
- ・最新の話や三重県のくわしい状況を知れたのはよかった。
- ・三重県の子どもの最新のデータが分かってよかった。特にインターネットに出会う年齢が幼～小2までということが驚きだった。

[特別支援教育・保育]

- ・三重県における特別支援教育の課題についてわかりやすい講習内容でした。映像資料等はとても参考になりました。本日はありがとうございました。
- ・先生の講義を受けさせて頂き、自閉症の子がピョンピョンはねたりする行動の意味や、ビデオを見させてもらい、こんな思いをしていたんだ。という事がはじめてわかり、明日からの保育に役立てられます。ありがとうございました。
- ・他の保育機関の方々と一緒に意見交換などができてよかった。改めて子育て支援について考えたり反省したりすることもでき、地域の子供たち、保護者のために、まず自分ができることを考え行動に移していきたい。

[学校・家庭及び地域の連携]

- ・今は、園内だけでなく、地域に出での活動も増えています。その中で、その意義を改めて感じた講習でした。地域交流などは、低年齢から継続して行うことでより効果があるのかなと思います。

[学校における危機管理]

- ・危機管理については、日頃、職場で直面している内容であった為、具体的に想定しながら考えることができ、今後の対応等にも参考になり、自分の行動面での配慮等を学ぶことが出来ました。

- ・グループ活動があり、危機対応について様々な先生の意見が聞けてよかったです。パワーポイントの資料が分かりやすくまとめられており内容が理解しやすかったです。

[進路指導及びキャリア教育]

- ・職場でキャリア教育の分掌を担当しているので、今後、どのような授業を展開すればよいか参考になった。また、講師先生のお話のされ方が理路整然と明瞭で、受講者の様子をくみとりながら進められており、「授業者」としての参考にもなった。
- ・一般企業の職についておられた方の話はとても興味深かった。ありがとうございました。

[学習指導要領]

- ・指導要領の変遷がよくわかってよかった。指導の内容を項目だけでしか見てなかったが、その裏の意味も考える機会が得られた。
- ・学習指導要領は上からおりてくるだけのものとしか考えてなかったが、しっかり学校で自由にできる所を活かして自分らしさをだすことがわかった。ありがとうございました。

[教育相談・不登校]

- ・ありがとうございました。不登校の子に対するアセスメントや対応（援助）の仕方などすごく具体的にかつ有効な方法、技法を教えていただきなるほど!!と思う部分が多かったです。又、ワークも多く、あらためて自分を客観的に見つめ直す事もできました。
- ・今日の講習内容はとても勉強になりました。カウンセリングの技法や実際の声かけなど現場に本当に必要なことを多く教えて頂き、是非明日から実践したいと思います。有難うございました。
- ・事例検討やロールプレイなどは、現場で働く教員には現実味があつた。

[異文化理解教育]

- ・普段分からなかった異文化理解への興味、関心、理解が深まり、個人的には非常に実り多い講習となりました。今後、自分の専科の授業等に生かしていける部分や、新たな課題のヒントになる部分も多かったと思います。ありがとうございました。
- ・異文化理解学習の考え方や内容を学習するだけではなく、実際に授業にどのように取り上げていくか、具体的な事例をあげて学べたのが非常に勉強になった。

[英語教育]

- ・All English で、最初はとても緊張しましたが、慣れてきました。子どもたちも初めにとまどうのですが、ずっと貫けば慣れるものだ今日実感しました。紹介していただいたサイトや手段は、今後とても役に立つと思います。ありがとうございました。
- ・いちばんの収穫は、「ちゃんと英語の勉強をしようよ。自分!」と思えたことです。英語で授業をするということが、目の前に迫っているこのごろ、とてもよい内容のお話・実習でした。

[教育の情報化・ICT 教育]

- ・ICT の活用例をたくさん学ぶことができて良かった。実用的な内容は、現場で使い易くて良い。
- ・アクティブ・ラーニングに関する研修や実践は何回か行ってきたが ICT 機器等を活用した講習でも今回はいろいろな技法を学ぶことができてよかったと思います。今回学んだことを自分の授業実践にも役立てていきたいです。

[道徳教育]

- ・道徳が、他の教科にどのように関連するのかを整理してとらえることができた。

- ・先生の息子さんたちのお話や体験された話をおりまぜて話して頂き、とても楽しい講義でした。道徳教育をどう行っていくか？を悩んでいる教師が多い中で、まずは人間としてどうあるべきか？自分の立ち位置をしっかりとち、全体、個をみれば大丈夫！とのことで、すっきりしたのではないかと思った。

[教育基本法]

- ・教育基本法改正から、これまでの教育がどのように変わってきたのかを学ぶことができた。ありがとうございました。

(2) 要望・提案等を含むコメント

- ・発表する一人ひとりの時間を最初に設定しておけば時間もスムーズに進行できたのではないかな？（お一人一分みたいに）
- ・県内における地域連携の成功事例についての紹介がほしかった。
- ・定員をもう少し減らした方が内容の濃い発表ができたのかなと感じました。
- ・ワークショップでのグループ内の意見交換、情報交換の時間をもう少しとるべきではないだろうか。
- ・知っていることも多く、もう少し踏み込んだ内容での講座でも良かったのではないかと思います。また、教員のメンタルヘルスについての説明がなかったことも残念でした。
- ・グループワークの内容は学校の研修に近いものでした。テスト問題が少し多いように感じました。
- ・グループでの討議が本当に必要なのか疑問です。全部グループにしたら良いとは限らないと思う。
- ・内容的に最近増えているクレイマー等への対応についても触れてほしかった。
- ・不登校の理解について研修が深まった、具体的な援助の方法についても話が聞きたいと思った。
- ・外国の方々、国籍の異なる方々の行動が違う。文化の違いで表現されるが「なぜ、その根は」詳細・具体例を教示いただきたかった。
- ・写真の編集やムービー作成は日常業務で行っているもので、もう少し深い技術か活用方法が知れるとよりよかったです。
- ・道徳の評価について教えてほしかったです。

(3) まとめ

選択必修講習は今年度から導入された講習であったため、個別の講習にわたって、いくらか詳しく受講者の声を紹介した。選択必修に関する自由記述には以下の2つの特徴が見られるようである。

- 1) 現場ですぐに役に立つ内容であり、とても有益であったというコメントが多かったこと
- 2) 要望や提案・批判等のコメントが必修講習に比べると割合的には少なかったこと

必修講習が全般的なテーマを掲げているのに対し、選択必修講習では教育全般に関わりながらも個別的なテーマが設定されており、その分だけ焦点がはっきりしていて、全体的な把握に加えて、個別の課題を深く掘り下げる講習内容になっていたためかと思われる。そのせいか、自分なりに工夫して授業に活かしたい・是非役立てたいという積極的な姿勢が多くのコメントから伺え、満足した受講者が多かった。その意味では選択必修の導入は受講者の要求に即しており、適切だったと言えるだろう。そのことが要望や批判的コメントが少なかったことにつながったと思われる。なお、少ないながらも、寄せられた要望の中には、さらに深い内容を求めるものが多くを占めた。検討して今後のより一層の改善に努めたい。

III. 選択講習：「講習内容・方法」についてのコメント

(1) 好意的・肯定的なコメント

- ・ 講義の内容はそっくり、そのまま現場の生徒に話せる内容ばかりではなかったが、久しぶりにいろいろ考え、充実した時間であった。また、学んだ内容は現場の授業において教科の本質また豆知識として使えそうで、とても良かった。ありがとうございました。
- ・ 仕事内容とは直結するものは少なかったが、自分の知識となり、活用できる部分はしたいと思います。
- ・ 具体的かつ、新しく取り入れてみたいと思う内容でした。ていねいに教えてくださったので、1日があっという間に終わりました。ありがとうございました。
- ・ 高校現場で生徒から質問されるような内容はほとんどなかったが、万一に備えて身につけておきたい知識が多かった。大学で学んだ内容をかなり忘れていたため、助かった。
- ・ 用意していただいたテキストがとても良かった。ありがとうございます。知らなかった内容が知れた。話がおもしろかった。
- ・ 専門的な分野であるにも関わらず、自分の知らないことがとても多く、それをたくさん知ることができたので、とてもためになる講習でした。
- ・ 事前アンケートに書いた内容について、先生に個人的にお答えいただき、今後の指導に大変役立ち、是非実践したいと思いました。ありがとうございました。
- ・ ふだんあまり考えない概念や文化が考えられて、視野が広まったように思う。
- ・ 今後、もう少し知りたい人のために参考にすべき書籍やダウンロードできる資料などを、紹介していただいたので、この講習だけで途切れず、継続してこれから使えそうです。ありがとうございました。
- ・ 4人の先生それぞれの専門分野のお話をうかがえたのはとてもよかったのですが、80分では足りないように感じ、また、私自身もすぐに理解できないままに次々進んでいくときもあったため、時間不足であったのかもしれないと思いました。全般的に内容はわかりやすかったです。
- ・ 大学時代に学んだ内容を思い出し、高校数学の先や原理的なことを思い出す良い機会となった。
- ・ 基礎的なことから詳しい部分まで学べ、今後の仕事につなげたいと思いました。
- ・ 午前、午後2つの講習ともに、教員としての視点視野の広がりを感じさせてくれるものであり、とても満足できるものでした。
- ・ 今回得た知識を現場に還元していきたいと思います。
- ・ 参画型の授業だったので楽しく学ぶことができました。

(2) 要望・提案等を含むコメント

- ・ 現在の実践にいかせる内容。クールダウンに使えるもの。どちらかをもう少し入れてほしかった。
- ・ 理論は大事だと思うが、やはり実験的な内容を多く知りたい。なので活動を更に多く取り入れてもらえると嬉しい。
- ・ 小学校と中、高を分けて募集した方が教えてくださる先生にとっても、受講する教員にとっても良いのではないかと思います。
- ・ 授業の組み立て、目標が小と中高で大きく違うので、中高は教科で分けた方がやりやすいと思いますが、小は、小学校というチームになった方が考えやすいのではないかと感じました。

- ・定員も少ないので教官も含めて議論する形式も取り入れるとおもしろいと思う。また認定試験の形をとらずに、上記の発言回数や内容で評価していただけるとよい。
- ・配布されたスライドの資料の字が小さすぎて読めない、また読みにくかった。枚数は増えるが、せめて一枚に4～6スライドとして欲しい。
- ・準備物で、教科書持参を伝えていただいたら授業計画をもっと立てやすかったし、設問の例も考えやすかったです。
- ・シラバスに具体的にグループ討議等知らせてほしい。
- ・やや専門性が強すぎたように思う。
- ・日常で使うことのない言葉や内容だったのですごく難しく感じました。専門分野の学校の先生ばかりではないのでもう少しわかりやすく親しみやすい内容がよかったです。
- ・なるべく多種類・広範囲の講習を設定して欲しい。
- ・更新講習において特に実技や実習、専門教科の学びは大切な機会なので増やして頂きたいです。
- ・乳幼児に関する講座がもっとあると嬉しいです。
- ・選択理科の生物分野の講習科目が少なすぎます。
- ・実技系の種目を増やしてほしいと思います。
- ・外国語教育のため演習方法をもっと提供してほしい。
- ・高校国語教科が少ないです。
- ・書道教員の受け皿となる講義がない。
- ・日本語指導の講習をうけられるところが少なく、三重大で開講されていてよかった。外国籍の子どもが増えているので、今後も、講座があれば良いと思った。

(3) まとめ

選択講習に関するコメントでは、最初に紹介した幾つかコメントに代表されるような内容のものが圧倒的に多く、以下の二つの特徴が読み取れる。

1) 現場ですぐに役立つものではないが、専門的知識を深めることができた喜び

2) 講習で学んだことをできるだけ現場での実践に活用していこうという姿勢

1) は、自分の専門分野に関して、新しい知識や考え方を学んだ喜びを伝えるものである。ここには、日々教壇に立って授業をしていく中で、教師個人の専門的知識を深めることに対する前向きな姿勢がうかがえる。2) は、たえず現場での活用を意識している姿勢、新しく学んだ知識を自分の糧にするだけでなく、現場に還元しようという姿勢である。本来、選択講習は教員の資質向上や自己研鑽、専門知識の更新を主眼としており、選択講習が教員自身の学びの要求に十分に応えているだけでなく、現場への知識の還元を促す大きな刺激となっていると言っていだろう。

要望を含むコメントが必修や選択必修に比べると割合的には最も少なかったことも選択講習のコメントの特徴の一つと言えるかもしれない。もちろん全くないわけではない。専門的な内容を歓迎するコメントが多い中で、専門性が強すぎて理解が追いつかなかったというコメントや現場ですぐに活かせるような内容を取り入れてほしかったといったものが要望としては多い。また、自分の専門分野に合う講習がなかった、もっと校種別に多種類の講習を開講してほしいという要望もある。これまで以上に多様な分野の講習を準備して、現場で生徒児童に向き合っている教師の多様な要望に応えていく努力を今後とも続けたい。

IV. 講習全般（主に運営面）についてのコメント

（１）好意的・肯定的なコメント

- ・自分の興味ある内容を深められるだけの選択肢があって良かった。
- ・教育課題に関係する内容（タイムリー）で良い。
- ・夏休みという期間にとっても充実した研修ができました。ありがとうございました。
- ・良い環境で学べました。
- ・アシスタントの学生さんが気持ちよく授業を支援して下さいました。授業内での話しもとても良かったです。一日ありがとうございました。ご苦労さまでした。
- ・筆談用のホワイトボード（今回とても役に立ちました！）手話通訳の支援、優先席の配慮、補助学生さん、あらゆる配慮に感謝でいっぱいです。全て、事務局のみなさんの強力なサポートがあったからこそ、充実した講習を受けることができました。
- ・ネット上のシステムがとても使いやすく便利でした。
- ・講習システム全般分かりやすくていいと思います。
- ・講習の日が近づくとメールで連絡をいただけるのでとてもありがたいです。
- ・メールでの連絡がとてもいいので、持ち物等忘れることなく準備ができた。
- ・申し込みの際には、ていねいに教えていただけて助かりました。ありがとうございました。
- ・わからないことはメールで質問させていただき、すぐにお返事いただいたことが有り難いです。また、サイトが24時間利用可であり、多忙な教職員にとっては嬉しいです。
- ・案内の方など、ていねいに対応して下さいありがとうございました。
- ・丁寧な対応をしていただき、良かったと思います。
- ・時間通り運営が進みよかったです。講習も時間どおり進み、良かったです。
- ・日曜日は大変ですが、土、日開催がとてもありがたいです。今後も続けて下さい。
- ・場所の案内もよくわかり直前でメールも送られるなど配慮していただき、良かったです。
- ・大学構内に会場はこちらというような案内があり、助かった。受付のスタッフさんなどありがとうございました。
- ・入り口のところで案内に立っていただき、ありがとうございました。

（２）要望・提案などを含むコメント

[申し込み方法]

- ・パソコンでなければエントリー不可なのが、パソコンがない者にとっては不親切に感じました。他にもエントリー方法があれば良いのですが…。
- ・申し込みが難しく、経験者に教えてもらって何とかできました。
- ・更新講習受講申込システムが非常にわかりにくい。また、申し込みが多くすぐに満席になって、受講できなかった。
- ・HPの案内が多すぎるし、多ページにわたっているため、見落としがないか心配。また、必要な情報を得るのに、探すのに時間がかかります。
- ・三重大大学ではありませんが、インターネットでの早い者勝ちとなっている申し込み方法を改善していただきたいと思います。
- ・免許講習の受付を平日16時までではなく17時または土曜日にしてほしいです。

[募集の時期・申し込み時期]

- ・募集の締め切りが早い（先々の予定が変更する場合がある為）せめて一ヶ月前までにしてほしい。
- ・申し込み期間がもう少し長いとありがたいです。
- ・10月の講習も4月に申し込みを受け付けてもらえるとありがたい。どうしてもこの講習を受けなかったのですべての手続きを2回ずつすることになった。

[講習時期]

- ・夏休み前の講習をもっと増やしても良い。
- ・夏季休業中の講習で、8月下旬は、高校だと平日に申し込めない。
- ・夏に集中しないで、5月ぐらいから11月ぐらいまでの長い期間にするのは難しいでしょうか？
- ・後期にもっと講習を設けてほしいです。←切実。前期は学年はじめて余裕がなかったりするので是非お願いしたい。
- ・教員免許状更新講習の受講科目数がたくさんあってうれしいことであるが、特に選択科目を選ぶ際、日にちがたくさん重なっていたため、受講したいができなかった科目もある。もっと日をバラけさせてほしかった。
- ・小・中・高校は夏休みに行事が少ないかもしれませんが、保育園では行事があり、希望の講習と重なり残念ながら今年だけでの単位取得が難しいです。できれば、大学の休みの時（冬休みなど）で講習を組んで頂けると嬉しいです。

[講習定員]

- ・希望する講習がとれなかったので人数わく等ふやしていただけるとありがたいです。
- ・人気のある講習はすぐに人数枠がなくなるので定員数を増やしてほしい。

[キャンセルについて]

- ・受講キャンセルのしくみがわからず（わかりにくい）、受講したい講義が受けられず、非常に嫌な思いをした。
- ・受講料を納付した後であっても、受講キャンセルをできる（返金もあり）条件の幅をひろげてほしい。例えば、法事や子どもの発表会地域行事、クラブの大会等、納付した後に予定がわかってくることも多々ある。勝手な都合でキャンセルするわけではないのでしっかり考えてほしい。
- ・キャンセルした場合の返金制がないのは調べた中では、こちらだけだった。他大学は返金してくれる期間が長かったり、返金額が大きい。改善してもらいたいです。
- ・受講手続き後のキャンセルができるようにすべき。どうしても外せない用事が入る場合もある。

[連絡・案内]

- ・メールでの連絡が少し遅かったと思う。学校から更新講習の申し込みをしたので、学校への連絡は、休み前にしてほしい。
- ・アンケートでコース希望取った後の決定コースのお知らせがいただけたらもっと準備がしっかりできてよかったなと思いました。
- ・連絡のメールを受講日直前ではなくもう少し早く送信してほしい。
- ・初めて受講される方もいらっしまったので、一般的な説明、トイレ、食事等々の連絡はした方がよいのではないかなと思った。
- ・今日は大雨でどうなるのか？と少し思ったのですが7時半の決定は少し遅いかなと思いました。

[学内案内]

- ・大学からの返信メールに大学のキャンパスマップをはりつけてもらえると良いとおもう。
- ・学内に校舎や学部が外部の人にもわかるような全体の地図を増やしてもらえるとありがたいです。
- ・三重大出身ではないので毎回場所がとてもわかりにくいのでもう少し案内の看板をつけていただくなどしてもらえるとありがたいです。

[駐車場]

- ・土日であるので学内の駐車場を開放してもらえるとありがたい。
- ・遠方なので、公共交通機関がありません。駐車券などの発券等考慮して頂きたいです。
- ・電車で来るように指示してあるので送迎バスを手配して欲しい。歩いて向かうのは大変でした。

[教室環境・設備]

- ・放送設備（マイクの音量）が聞こえづらかった。
- ・冷房が効きすぎて少し寒かった。
- ・エコに力を入れているのはわかるのですが、講習の途中でエアコンが切れ、中断するのが残念です。長時間の時は設定を変えられないのでしょうか。
- ・隣の方との距離がどの講習も近すぎて落ちつかない。
- ・土・日は子どもを預けられるようにしてほしい。（保育？託児？）
- ・靴を脱いで入室する教室は事前に教えて頂けると靴袋など持参できるのでありがたいです。
- ・最後にテストがあるので、正面に時計が必要だと思います。
- ・トイレの便座除菌クリーナーを備えつけてほしいです。

(3) まとめ

要望等を含むコメントを多く紹介しているため、満足しなかった受講者が多かったかのような印象を与えるかも知れないが、記入されたコメントの大半は好意的な感想やお礼の言葉で占められている。要望の中には共通のものが多く、それらに真摯に耳を傾けることが今後の改善につながっていくだろう。

申し込み方法については、「Web で全て手続きできて、遠方に住んでいても簡単に講習予約ができてよかった」という意見がある一方で、「インターネットは得意ではなかったので、紙面でも申し込みが出来ればと思いました」という声もあり、いわゆる PC 弱者への何らかの配慮やサポートは必要だろう。ホームページの表記の仕方も工夫の余地がありそうである。また、ウェブでの申し込み開始時間や申し込み時期、講習時期や定員増についても多くの要望が寄せられ、開講日を決定する際には、現場の教員が時間的に制約されていることを考慮する必要があるだろう。また、キャンセルせざるを得ない状況が生じることもあり、キャンセルする際の条件緩和を求める声も複数聞かれた。

車の使用許可を求める声は依然として多く、遠隔地居住者には駐車券を準備したらどうか、シャトルバスの運行も考えてはという具体的な提案もある。学内案内については人員を配置するなどして考慮しているが、それでも初めて三重大大学に来る者にとっては戸惑うこともあり、予め学内マップを送付したり、案内板の数を増やすなど改善は不可能ではないだろう。教室環境に関しては、冷房の効きすぎや 90 分で冷房運転が切れることに対する対策を求める意見が多い。託児所の設置を求める声もある。

申し込みから教室環境まで、運営に関しては様々な要望がある。講習委員会が中心となって、毎年改善に努めてはいるが、制度上の問題など本学だけでは対応が難しいものもある。他の機関とも連携協力しながら、できるところから地道に改善していく努力を今後も続けていきたい。

5 2013 年度から 2016 年度における受講者の詳細

教育学部 永田 成文

(1) のべ受講者について

ここでは、2013 年度、2014 年度、2015 年度及び 2016 年度におけるのべ受講者について述べる。

年度ごとの必修講習、選択必修講習及び選択講習ののべ受講者数を表 1 に示す。受講者数は減少傾向にあったが、2016 年度には前年に比べて約 500 名弱の増加がみられた。

次に、受講年度ごとの各受講対象区分におけるのべ受講者数を表 2 に示す。2016 年度も小学校に勤務している者の数が 1139 名（34%）と最も多い。区分間の受講者比率は、各年度を通じて大きな変化はみられない。

年齢別ののべ受講者数を表 3 に示す。各年齢間の受講者数の比率は、2016 年度は 30 代が 31%、40 代が 32%、50 代が 37% を示し、4 年間で傾向は同じである。

連絡先都道府県別ののべ受講者数を表 4 に示す。三重県の受講者が 3133 名と最も多い。昨年度に比べると 370 名の増加であった。近隣の県では愛知県からの受講が多く、関西方面では大阪府、滋賀県、兵庫県、京都府、奈良県からの受講者がみられる。関東からの受講者もみられる。2016 年度は静岡県からの受講者があった。遠方の特定の県からのコンスタントな受講の傾向はみられない。

(2) 実受講者について

続いて、2013 年度、2014 年度、2015 年度及び 2016 年度における実受講者について述べる。受講年度ごとの実受講者数を表 5 に示す。2013 年度から 2016 年度にかけては増加と減少を繰り返している。2016 年度も減少し、近年で一番少なくなった。

受講年度ごとの各受講対象者区分における実受講者数を表 6 に示す。2013 年度から 2016 年度を比較すると、幼稚園・小学校・中学校・高等学校とも減少傾向にある。特に小学校が毎年減っている。高等学校のみ前年度と比較して増加した。特別支援学校は 2014 年度から減少傾向にある。各区分の受講者数の比率はほぼ一定といえる。

受講年度ごとの受講年齢別実受講者数を表 7 に示す。2013 年度から 2016 年度まで、比率はほぼ一定している。2016 年度は前年に比べて、50 代の比率が高くなった。

連絡先都道府県別の実受講者数を表 8 に示す。2013 年度から 2016 年度を比較すると、三重県は 2014 年度以降減少傾向にある。近隣の県では愛知県が最も多く、次いで大阪府が多い。

表 9 は、どのような組み合わせで必修講習・選択講習を受講していたのかという「受講スタイル」が各年度においてどのように異なるかを示したものである。昨年度までのパターンを概観してみると、各年度とも、免許更新に必要な全ての講習（必修 2 講習＋選択 3 講習）を受講しているパターンが最も多い。選択のみ、または必修のみの受講者の増加がみられた。

2016 年度は選択必修講習が開講され、免許更新に必要な全ての講習（必修 1 講習＋選択必修 1 講習＋選択 3 講習）を受講しているパターンが最も多い。必修のみ、選択必修のみ、選択のみは少なく、いろいろなパターンでの受講が増えている。

これは、更新講習が三重大学で完結しないという受講者の多様な選択パターンが定着しつつあった昨年度までの傾向を継承しているといえる。

表1 受講年度ごとの受講のべ数

受講年度	必修	選択必修	選択	合計
2013年度	788	—	2,320	3,108
2014年度	802	—	2,257	3,059
2015年度	734	—	2,122	2,856
2016年度	701	664	1,982	3,347

註：2013年度以降は、連絡協議会主催で開催した必修講習を含んでいる。

表2 受講年度ごとの各受講対象者区分における受講のべ数

受講年度		幼稚園に 勤務して いる者	小学校に 勤務して いる者	中学校に 勤務して いる者	高等学校に 勤務して いる者	特別支援 学校に勤務 している者	中等教育 学校に勤務 している者	教員勤務 経験者	教員として 任命又は 雇用される (見込みのある)者	教員採用 内定者	保育士 (認定こども園及び 認可保育所等に 勤務している者)	その他
2013年度	必修	32	286	149	162	42	2	25	29	5		56
	選択	96	910	461	442	124	1	63	72	18		133
	計	128	1,196	610	604	166	3	88	101	23		189
	割合	4%	38%	20%	19%	5%	0%	3%	3%	1%		6%
2014年度	必修	41	285	141	147	45	1	16	29	79		18
	選択	96	863	467	403	142	5	34	63	134		50
	計	137	1148	608	550	187	6	50	92	213		68
	割合	4%	38%	20%	18%	6%	0%	2%	3%	7%		2%
2015年度	必修	41	243	122	138	41	4	26	20	56		43
	選択	122	722	371	433	133	10	57	50	154		70
	計	163	965	493	571	174	14	83	70	210		113
	割合	6%	34%	17%	20%	6%	0%	3%	2%	7%		4%
2016年度	必修	29	237	123	146	27	0	12		45	69	13
	選択必修	25	226	118	137	28	0	12		38	68	12
	選択	72	676	359	407	85	0	30		120	185	48
	計	126	1139	600	690	140	0	54		203	322	73
	割合	4%	34%	18%	21%	4%	0%	2%		6%	10%	2%

註：システム改修に伴い2016年度より集計の区分を一部変更。

①「教員として任命又は雇用される（見込みのある）者」と「教員採用内定者」を合わせた区分に変更。②保育士の区分を追加。（それより以前はそれぞれ該当する区分に含む。）

表3 各受講年度ごとにおける受講年齢別受講のべ数

		30代	40代	50代	その他
2013年度	選択	651	725	944	0
	必修	241	249	298	0
	計	892	974	1,242	0
	割合	29%	31%	40%	0%
2014年度	選択	659	790	808	0
	必修	249	278	275	0
	計	908	1068	1083	0
	割合	30%	35%	35%	0%
2015年度	選択	654	719	749	0
	必修	241	245	248	0
	計	895	964	997	0
	割合	31%	34%	35%	0%
2016年度	選択	608	619	755	0
	選択必修	204	219	240	1
	必修	212	233	255	1
	計	1024	1071	1250	2
	割合	31%	32%	37%	0%

表4 連絡先都道府県別の受講者のべ数

		三重県	愛知県	奈良県	京都府	大阪府	滋賀県	兵庫県	岐阜県	福岡県	山口県	神奈川県
2013年度	必修	757	10	2	2	10	3	2	0	0	1	
	選択	2,216	19	12	4	22	14	12	8	3	3	
	計	2,973	29	14	6	32	17	14	8	3	4	
2014年度	必修	765	17	2	1	4	4	2	2			0
	選択	2158	39	10	4	13	13	11	3			2
	計	2923	56	12	5	17	17	13	5			2
2015年度	必修	711	11	0	1	0	5	4	1			
	選択	2052	23	10	6	10	9	5	0			
	計	2763	34	10	7	10	14	9	1			
2016年度	必修	663	17	3	3	5	4	1	3			0
	選択必修	625	17	3	2	5	4	4	1			0
	選択	1845	48	9	13	17	19	13	1			2
	計	3133	82	15	18	27	27	18	5			2

		東京都	福井県	和歌山県	静岡県	埼玉県	その他
2013年度	必修						1
	選択						4
	計						5
2014年度	必修	1	1				3
	選択	1	1				2
	計	2	2				5
2015年度	必修			1			0
	選択			3			3
	計			4			3
2016年度	必修	1			2	1	0
	選択必修	1			1	1	0
	選択	4			1	3	5
	計	6			4	5	5

註：各年度において1名しかいなかった都道府県は「その他」にまとめた。

表5 受講年度ごとの実受講者数

年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
実受講者数	973	1,008	920	890

註：2年度、3年度にわたって受講している受講者についてもそれぞれの年度でカウントされている。

表6 受講年度ごとの各受講対象者区分における実受講者数

受講年度	幼稚園に 勤務して いる者	小学校に 勤務して いる者	中学校に 勤務して いる者	高等学校に 勤務して いる者	特別支援 学校に勤務 している者	中等教育 学校に勤務 している者	教員勤務 経験者	教員として 任命又は 雇用される (見込みのある)者	教員採用 内定者	保育士 (認定こども園及び 認可保育所等に 勤務している者)	その他
2013年度	38	342	198	209	53	3	27	35	7		61
割合	4%	35%	20%	21%	5%	0%	3%	4%	1%		6%
2014年度	45	328	206	206	60	2	17	35	90		19
割合	4%	33%	20%	20%	6%	0%	2%	3%	9%		2%
2015年度	48	280	167	191	57	5	31	24	71		46
割合	5%	30%	18%	21%	6%	1%	3%	3%	8%		5%
2016年度	33	276	164	201	42	0	15		56	81	22
割合	4%	31%	18%	23%	5%	0%	2%		6%	9%	2%

註：システム改修に伴い2016年度より集計の区分を一部変更。

①「教員として任命又は雇用される（見込みのある）者」と「教員採用内定者」を合わせた区分に変更。②保育士の区分を追加。（それより以前はそれぞれ該当する区分に含む。）

表7 各受講年度における受講年齢別実受講者数

	30代	40代	50代	その他
2013年度	294	307	372	0
割合	30%	32%	38%	0%
2014年度	312	361	335	0
割合	31%	36%	33%	0%
2015年度	302	308	310	0
割合	33%	33%	34%	0%
2016年度	275	292	322	1
割合	31%	33%	36%	0%

表8 道庁先都道府県別の実受講者数

	三重県	愛知県	奈良県	京都府	大阪府	滋賀県	兵庫県	岐阜県	埼玉県	東京都	福井県
2013年度	895	13	8	6	20	11	8	4	2	0	1
2014年度	928	28	6	4	13	11	6	2	0	2	2
2015年度	852	24	8	5	8	9	8	1	0	0	0
2016年度	793	29	6	10	17	8	13	1	1	2	0

	静岡県	神奈川県	その他
2013年度	1	0	4
2014年度	1	1	4
2015年度	0	1	4
2016年度	3	2	5

註：各年度実受講者1名しかいなかった都道府県は「その他」にまとめた。なお、該当する都道府県は2013年度は愛媛県、山口県、石川県、福島県。2014年度は沖縄県、広島県、山口県、千葉県。2015年度は宮城県、長野県、和歌山県、岡山県。2016年度は長崎県、千葉県、石川県、富山県、和歌山県である。

表9 各年度における受講スタイルごとの実受講者数（下段は各年度の受講者数を100%とした際の割合）

	必修のみ	必修・選択×1	必修・選択×2	必修・選択×3	選択×1	選択×2	選択×3
2012年度	67 6.25%	32 2.99%	28 2.61%	687 64.09%	88 8.21%	55 5.13%	115 10.73%
2013年度	91 9.35%	39 4.01%	66 6.78%	596 61.25%	72 7.40%	43 4.42%	66 6.78%
2014年度	141 13.99%	43 4.27%	37 3.67%	584 57.94%	88 8.73%	46 4.56%	69 6.85%
2015年度	115 12.50%	29 3.15%	39 4.24%	551 59.89%	75 8.15%	47 5.11%	64 6.96%

註：選択講習を3講習以上受講していたものも、「選択×3」とした。また、必修講習を2講習以上受講していたものは、選択講習受講数にあわせて集計した。

	必修のみ	選択必修のみ	必修・選択必修	必修・ 選択必修・ 選択×3	選択×1	選択×2	選択×3 (左記以外の組合せ)	その他 (左記以外の組合せ)
2016年度	41 4.61%	13 1.46%	61 6.85%	504 56.63%	81 9.10%	36 4.04%	45 5.06%	109 12.25%

6 講師によるふりかえり

講 習 に 関 す る 感 想	1) 内 容 (試験等を含む)
	・6月9日(木)にドイツから帰国したばかりで、やや時差ぼけでしたが、6月3日(金)に、ドイツ・フライブルクで訪問した幼稚園や小学校の様子を画像で紹介できよかったです。1週間前の学校の様子ですので、まさに、教育の最新事情です。 ・アフリカ・ギニアや中国から三重大学で学んでいる留学生から現地の教育事情や学校の様子を話をいただきました。中国からの留学生は数年前から話をしてくれていますが、ギニアからの教員留学生シッセさんの話は今回初めてでした。受講参加者にとって、アフリカの教育事情を聞くのは始めてで貴重な話となったようです。英語での話でしたが、ギニアの学校建設等インフラ整備で日本の政府や機関が多額のお金を援助しているという話が印象に残りました。 ・教育制作の動向や現場での教育課題について、ミニブレゼン用の3スカードを使って、立ち歩いたり、周りの人と交流してもらいましたが、これは受講者にとって様々な必修講習者と話ができるので好評でした。 ・外国の学校の様子を画像で紹介し、外国の学校から学ぶことだけでなく、日本の学校や教育について見直すことができました。 ・受講者からの感想として「須曾野先生の講習は実体験に基づきとてもおもしろく、海外の教育事情がわかりました。」「興味深くおもしろかったです。3スカードも実践的で役立ちそうです。」「須曾野先生の講習はとても楽しく、また私たちの知りたい所を話していただきありがたかったです。」という感想が多く、私としてもやりがいがあった。 ・時間の関係で、アクティブラーニングについて十分な時間が取れなかった講習があり(最初の1つめ)、受講者評価書にも、「期待していたアクティブラーニングの話があまり聞けなかったので残念」というコメントがあった。今後の課題として考えていきたい。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・教養教育機構校舎3号館の教室は、教育学部より広い教室なので、グループ活動を進める上で、やりやすいです。 ・今年も、昨年と同様、数日前に、持ち物や留意事項を連絡するメールを一斉送信しました。それが講師と受講者の距離を縮めることでも大事であると思いました。 3) その他 ・必修講習が1日となり、3人体制での講習担当初回でしたので、慣れるまで大変でした。

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1			
担当講師	須曾野 仁志	記入年月日	2016年 6月 24日
講習の区分	〇必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016年 6月 12日
主な受講対象者と人数	受講対象者:全校種(幼・小・中・高校・特別支援等)教員167人	講習会場	三重大学教養教育校舎3号館(教室等)
講 習 名	世界の最新事情1 世界の学校から学ぶ我が国の教育と課題		
講習の目標	世界の学校から学ぶ ・我が国の学校教育のよさ・課題を考える ・授業・学習活動のとり組みを見直す ・ICT(情報コミュニケーション技術)を上手に使うヒントを知る 発信活動・言語活動の充実 ・アクティブラーニングの現状や課題を知る		
授業概要 (大まかな流れ)	担当する1時間45分の流れ 前半 ドイツの幼稚園、小学校での授業から学ぶ → アメリカの小学校、中学校、高校での授業から学ぶ → 情報化時代の学び(第三の波から)、学習理論の変遷、多重知性論 後半 教育実践を進める上での我が国の教育の現状と課題、教育政策 → アジア(中国・韓国・インドネシア)の学校から学ぶ → アフリカ(ギニア)の学校から学ぶ → 授業実践を改善するヒントとまとめ		
活用した資料・データ等	以上の講習を1日3回行った後、45分の履修認定試験 ・須曾野が、ドイツ、米国、ドイツ、インドネシア、韓国の学校で撮影した授業や学校施設を撮影した写真、中国留学生からの中国教育事情、ギニア教員留学生よりアフリカの教育事情 ・ミニブレゼンテーション用「3スカード」 ・県内特別支援学校高等部生徒が制作したデジタルストーリーテリング作品、作品		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	菊池 紀彦	記入年月日	2016年6月14日
講習の区分	必修講習	講習開設日	2016年6月12日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：167名	講習会場 (教室等)	教養教育3号館 1121、1131、1221
講習名	教育の最新事情1 障害の重い子どもたちの理解と支援		
講習の目標	肢体不自由児（重度・重複障害児や医療的ケアを濃厚に必要とする超重度障害児）について概説する。その上で、彼らに対する心理学的評価と発達支援について講義するとともに、事例検討（グループワーク）を通して、教育支援方略についての理解を深める。		
授業概要 （大まかな流れ）	重度・重複障害児の概説をした上で、事例検討のための動画を視聴した。その後、受講者5～6名を1つのグループとし、教育支援のあり方についてのグループワークを実施した。		
活用した資料・データ等	スライドショー（パワーポイント） スライドショーから一部資料を抜粋して受講生に配布 事例検討のための動画		
講習に関する感想	1）内容（試験等を含む） 今回は、1日に3回講習を実施した。1時間45分の講習であったため、1回目の講習については、時間配分がうまくいかなかった。そのため、2回目、3回目の講習では、視聴する動画を短いものに変更し時間調整を行った。 講習では、グループワークを取り入れるようにした。異校種の先生方の意見交換、討論ができたことは良かったと思う。 2）運営（活用機材、会場、補助員等） 受講生の受付、機材のセッティング等、講習を行うにあたり事務職員の皆様には大変お世話になりました。 3）その他 特にありません。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	森脇健夫	記入年月日	2016年7月4日
講習の区分	必修講習・選択必修講習	講習開設日	2016年6月26日
主な受講対象者と人数	選択講習 受講対象者： 人数：133	講習会場 (教室等)	教養教育3号館
講習名	教育の最新事情2		
講習の目標	次期学習指導要領のポイントを押さえる 三重県の学力の課題 新しく求められる授業		
授業概要 （大まかな流れ）	まず、次期の学習指導要領について、その作成の過程で聞こえてくるアクティブラーニングやカリキュラムマネジメントについて説明した。次に平成27年度の三重県学力調査から言える三重県の学力の課題を明らかにした。この2つのことを踏まえて新しく求められる授業像について、ユニバーサルデザインと活用型学習ということを説明し、実際に指導案を書いてもらった。		
活用した資料・データ等	次期学習指導要領についての文科省の論点整理など。 全国学力学習状況調査 H27年版 三重県		
講習に関する感想	1）内容（試験等を含む） 3回リポートでこれだけの内容についてカバーするのはたいへんだった。とくに試験問題が指導略案を書く作業だったので時間が足りなかったようだ。 2）運営（活用機材、会場、補助員等） 昼休みの一時間はありがたいが、2つ目の講義が前半と後半で分かれてしまいうので、かなりタイトになってしまった。 3）その他 教務のパソコンを借りたが、パスワードが分からなかったので、手間取ってしまった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	伊藤敏子	記入年月日	2016 年 6 月 28 日
講習の区分	必修講習	講習開設日	2016 年 6 月 26 日
主な受講対象者と人数	全教諭 受講対象者：人数：133 名	講習会場 (教室等)	三重大学教養教育校舎 3 号館 1121 教室・1131 教室、1221 教室
講習名	教育の最新事情 2 ―諸外国の事情との比較から―		
講習の目標	1. 学力の向上 ・学力に関して何に留意が必要であるか、統計等から分析する。 ・その対応としてどのような事例があるかを知る。 2. 心の教育の推進 ・自己肯定感に関して何に留意が必要であるか、統計等から分析する。 ・その対応としてどのような事例があるかを知り、自らが何を行えるか考える。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00-10:50 第1グループ：学力の向上・心の教育の推進 11:05-13:50 第2グループ：学力の向上・心の教育の推進 14:05-15:55 第3グループ：学力の向上・心の教育の推進 16:05-16:50 試験 16:50- 受講者評価		
活用した資料・データ等	・PISA ・TIMSS ・全国学力・学習状況調査 ・日本語教育が必要な外国人児童・生徒の受け入れ状況に関する調査 ・TALIS		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・校種の相違、職務の相違、年齢の相違を超えて興味をもってもらえる (理解して試験に臨んでもらえる) 内容を選定することはやはり難しいと感じます。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・すべて丁寧にサポートしていただきました。ありがとうございます。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	富田昌平	記入年月日	2016 年 6 月 28 日
講習の区分	〇必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 26 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：保幼小中高特支 人数：133 人	講習会場 (教室等)	教養教育校舎 3 号館 1121, 1131, 1221
講習名	教育の最新事情 2 ～子どもの発達と教育・保育についての理解～		
講習の目標	1. 子ども・子育てを取り巻く現状について理解する。 2. 保育・幼児教育の実態及び幼児期の発達の特徴について理解する。 3. 子どもの発達を促す教育・保育実践について、実例から学ぶ。 4. 子ども・発達理解をもとに保幼小中の接続・連携についての考えを深める。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00-10:50 1 回目 (子ども・子育ての危機の時代、保育・幼児教育とは何か、新たな保育・幼児教育を目指して、「面白さ」と「学び」を追求する実践、子どもを見る目・発達を見る目、保幼小の接続・連携に向けて) 11:05-12:00 2 回目前半 (※1 回目と同じ) 12:00-13:00 昼休憩 13:00-13:50 2 回目後半 (※1 回目と同じ) 14:05-15:55 3 回目 (※1 回目と同じ) 16:05-16:50 テスト 16:50- 受講者評価書記入		
活用した資料・データ等	・パワーポイント資料 ・子どものビデオ映像		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 「教育の最新事情」という広範囲で漠然とした内容を、3 人分担当といえ 100 分少しという短時間でやることには、やはり無理があると感じた。特に保幼小中高と比べて内容的に大きな違いがあること、保幼の受講者に対して現状では十分な受け皿を用意できていないことを考えると、保幼の先生だけを対象に選択必修もしくは選択の講習を多く開いた方がよいように感じた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 補助員がフットワークの軽い慣れた学生さんで助かりました。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	須賀野 仁志	記入年月日	2016 年 8 月 10 日
講習の区分	〇必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 30 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全校種（幼・小・中・高） 高校・特別支援等）教員 116 人	講習会場（教室等）	三重大学教育学部専門校舎 1 号館
講習名	教育の最新事情 5 世界の学校から学ぶ我が国の教育と課題		
講習の目標	世界の学校から学ぶ ・我が国の学校教育のよさ・課題を考える ・授業・学習活動のとり組みを見直す ・ICT（情報コミュニケーション技術）を上手に使うヒントを知る 発信活動・言語活動の充実 ・アクティブラーニングの現状や課題を知る		
授業概要（大まかな流れ）	担当する1時間45分の流れ 前半 ドイツの幼稚園、小学校での授業から学ぶ → アメリカの小学校、中学校、高校での授業から学ぶ → 情報化時代の学び（第三の波から）、学習理論の変遷、多重知性論 後半 教育実践を進める上での我が国の教育の現状と課題、教育政策 → アジア（中国・韓国・インドネシア）の学校から学ぶ → アフリカ（ギニア）の学校から学ぶ → 授業実践を改善するヒントとまとめ		
活用した資料・データ等	以上の講習を1日3回行った後、45分の履修認定試験 ・須賀野が、ドイツ、米国、インドネシア、韓国の学校で撮影した授業や学校施設を撮影した写真、中国留学生からの中国教育事情、ギニア教員留学生よりアフリカの教育事情 ・ミニプレゼンテーション用「3Sカード」 ・県内特別支援学校高等部生徒が制作したデジタルストーリーテリング作品、作品		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・6月12日（日）に担当した必修講習と同様の内容の講習でしたが、前回の反省を生かし、世界の学校から学ぶ我が国の教育と課題について話をすることができました。 ・6月ドイツ訪問で撮影した幼稚園や学校の様子を紹介しましたが、受講者からの反応は大きく、まさに教育の最新事情について話題提供できてよかったです。 ・アフリカ・ギニアや中国から三重大学で学んでいる留学生から現地の教育事情や学校の様子を話していただきました。中国からの留学生は数年前から話をしてくれていますが、ギニアからの教員留学生ジッセさんの話は今年初めてでした。6月12日にも同様に参加してくれましたが、受講参加者にとって、アフリカの教育事情を聞くのは始めてで貴重な話となったようです。英語での話でしたが、ギニアの学校建設等インフラ整備で日本の政府や機関が多額のお金を援助しているという話が印象に残りました。 ・教育制作の動向や現場での教育課題について、ミニプレゼン用の3Sカードを使って、立ち歩いたり、周りの人と交流してもらいましたが、これは受講者にとって様々な必修講習者と話ができるので好評でした。 ・外国の学校の様子を画像で紹介し、外国の学校から学ぶことだけでなく、日本の学校や教育について見直すことができました。 ・受講者からの感想として「ご自身が学び続けていてほしいと思います。私も見習いたいです。」「須賀先生の講義をまた受けたいと思います。」「という感想があり、私としてもやりがいがあった。 2）運営（活用機材、会場、補助員等） ・教育学部専門校舎1号館の教室は、教養教育校舎3号館より狭いので、グループ活動を進める上で、ややりにくいです。 ・今年も、昨年と同様、数日前に、持ち物や留意事項を連絡するメールを一斉送信しました。それが講師と受講者の距離を縮めることでも大事であると思います。 3）その他 ・必修講習が1日となり、3人体制での講習担当2回めでした。反省は次年度に生かしたいです。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	南 学	記入年月日	2016 年 9 月 2 日
講習の区分	〇必修講習・選択講習 必修講習	講習開設日	2016 年 7 月 30 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：116 人	講習会場（教室等）	教育学部1号館 201、301、402
講習名	教育の最新事情 5 一学校を巡る現状把握のためのデータリテラシー		
講習の目標	現在学校を取り巻く環境は大きく急速に変化してきている。そうした中で状況を適切に把握するためには、個人の経験だけでは間に合わず、さまざまなデータから読み取る必要がある。本講では、現状を把握するための多様な観点からの実際のデータを提示し、そこから現状をどのように読み取ればよいのかについて受講者とともに考えていく。		
授業概要（大まかな流れ）	1) 児童・生徒の学習・学力 2) 教育改革についての教師の意識 3) 教師と保護者の意識のずれ		
活用した資料・データ等	・パワーポイント資料		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・それぞれのトピックに関して、実施の概要を説明した後、小グループに分かれて意見交換や議論をおこなった。 2) 運営（活用機材、会場、補助者等） ・資料が多く、事前の準備はたいへんであったが、当日は適切にサポートしてもらい、助かった。 3) その他 ・今回の内容をぜひ現場で活用してもらえたらうれしいです。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	菊池 紀彦	記入年月日	2016年7月7日
講習の区分	〇必修講習 選択講習	講習開設日	2016年7月3日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：47名	講習会場 (教室等)	教育学部1号館201教室
講習名	教育の最新事情3 特別支援教育に関する我が国の動向と子ども理解		
講習の目標	平成28年4月に施行される「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」に基づいて、特別支援教育との関連や、合理的配慮のあり方について概説する。併せて、障害の重い子どもたちについて概説するとともに、彼らの発達の特徴と心理学的背景について、事例検討を通して教育支援のあり方について理解を深める。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 障害者差別解消法について、インクルーシブ教育との関連や、合理的配慮のあり方について概説した。 2. 重症心身障害児の概説を行い、事例検討のための動画を視聴した。その後、受講者5～6名を1つのグループとし、教育支援のあり方についてのグループワークを実施した。		
活用した資料・データ等	スライドショー（パワーポイント） スライドショーから一部資料を抜粋して受講生に配布 事例検討のための動画		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 受講者の大半は、特別支援教育に関心をもつ方々だったと思います。休憩時間等に合理的配慮の具体的あり方等について、個別に聞きに来て下さる先生方がおりました。また、グループワークを行いました。校種の異なる先生方同士で情報交換をすることができたのは刺激になったとの声が聞かれました。今回、必修講習を2回（1人講師体制、3人講師体制）担当しましたが、講習の内容を深めることができるという点において、1人講師体制の方が良いように感じました。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 受講生の受付、機材のセッティング等、講習を行うにあたり事務職員の皆様には大変お世話になりました。 3) その他 特にありません。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	荒川哲郎	記入年月日	2016年7月15日
講習の区分	〇必修講習・選択必修講習	講習開設日	2016年7月9日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教員、幼稚園職員等 人数：48人	講習会場 (教室等)	三重大教育学部
講習名	教育の最新事情4		
講習の目標	障がいのある人たちの権利について学ぶ。特に合理的配慮について具体的に学校での実践例も考える。		
授業概要 (大まかな流れ)	障がいのある人たちの権利の条約、法律の改正、差別の解消法の内容について概括し、ある事業所での合理的配慮の具体例等を学ぶ。特に知的障がいのある人たちの合理的配慮について例を挙げて考える。		
活用した資料・データ等	障がいのある人たちの差別の解消に関する法律、各省市が提出している合理的配慮の具体例などの資料等		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 少し講義の内容が多すぎたので、講義の時間が足りなかった。 ゆっくりと、丁寧に説明を今後はしたい。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 映像、スライドの提供をしたためにわかりやすいとの評価をされた。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	須曾野 仁志	記入年月日	2016 年 8 月 30 日
講習の区分	〇必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全校種（幼・小・中・高校・特別支援等）教員 69 人	講習会場（教室等）	三重大学教養教育校舎 3 号館 1 F
講習名	教育の最新事情 7 年一教員として学び続け、教育実践を改善する		
講習の目標	1. 教育実践の改善のヒントをつかむ 世界の学校から学ぶ 我が国の学校教育のよさ・課題を考える ICT（情報コミュニケーション技術）を上手に使える、学習・授業が変わる心理学などの知見から 2. 教職生活のふり返し、教員として学び続けることがわかる 教員としてアクティブラーニング 発信活動・言語活動の充実世界の学校から学ぶ		
授業概要（大まかな流れ）	・世界の学校と教育課題 ドイツ、アメリカ、中国、韓国、インドネシア、ギニアの学校授業 情報化時代の学び（第三の波から） 我が国の教育の良さ、教育課題、教育政策 教育実践を改善するヒント ICT の学習利用 ・心理学、教育学、情報科学などの最新の知見 学習理論の変遷、多重知性論、発達最近領域、活動理論から ・教職のふり返し、教員としての学び 反省的实践者としての教員 3 s カードを使つてのふりかえり 学び続ける教員とアクティブラーニング デジタルストーリーテリングでのふり返し		
活用した資料・データ等	・須曾野が、ドイツ、米国、韓国、ドイツ、インドネシア、韓国の学校で撮影した授業や学校施設を撮影した写真、中国留学生からの中国教育事情、ギニア教員留学生よりアフリカの教育事情 ・ミニブレゼンテーション用「3 S カード」 ・県内特別支援学校高等部生徒が制作したデジタルストーリーテリング作品、作品		

講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・これまで1日3人体制での講習を2回担当しましたが、今回の講習は1人で1日の必修講習を担当しました。1人で担当する方が、時間的にゆとりとしており、担当しやすいように感じました。 ・世界の学校の様子を6ヶ国取り上げましたが、教員留学で三重大学に学んでいるシッセさんにアフリカ・ギニアの学校教育のことを話してもらったり、中国人留学生（大学肄生）に中国の学校事情について話題提供してもらいましたが、現地のことをよく知る人からの話は大変興味深く、受講者からの反応もよいものがありました。 ・外国の学校の様子を画像で紹介し、外国の学校から学ぶことだけでなく、日本の学校や教育について見直すことができました。 ・ミニブレゼン用の3 s カードを午前午後それぞれ1回ずつ使いましたが、立ち歩いたり、周りの人と交流してもらいましたが、これは受講者にとって様々な必修講習参加者と話ができるので好評でした。 ・受講者からの感想として「とてもわかりやすく興味のある内容でした。久しぶりの学生気分でも楽しかったです。」「受講参加者同士が意見交換できる時間も設けていただき、ゆりはりのある授業で楽しかったです。」「ご自身が学び続けていてすばらしいと思います。私も見習いたいです。」「先生のものごしのやわらかさが非常に聞き取りやすく、心が満たされる講習でした。」「という感想があり、私としてもやりがいの大きい講習となりました。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） ・教育学部専門校舎 1 号館の教室は広いので、グループ活動がやりやすかったです。 ・今年も、昨年と同様、数日前に、持ち物や留意事項を連絡するメールを一斉送信しました。それが講師と受講者の距離を縮めることでも大事であると思いました。 3) その他 ・必修講習が1日となり、1人体制での講習担当初めてでしたが、とてもやりがいがありました。反省は次回に生かしたいです。
----------	---

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	須曾野 仁志	記入年月日	2016 年 8 月 30 日
講習の区分	〇必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 26 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全校種（幼・小・中・高校・特別支援等）教員 33 名	講習会場（教室等）	三重大学教養教育校舎 3 号館 1 F
講習名	教育の最新事情 8――教員として学び続け、教育実践を改善する		
講習の目標	1. 教育実践の改善のヒントをつかむ 世界の学校から学ぶ 我が国の学校教育のよさ・課題を考える ICT（情報コミュニケーション技術）を上手に使える、学習・授業が変わる心理学などの知見から 2. 教職生活のふり返し、教員として学び続けることがわかる 教員としてアクティブラーニング 発信活動・言語活動の充実世界の学校から学ぶ		
授業概要（大まかな流れ）	・世界の学校と教育課題 ドイツ、アメリカ、中国、韓国、インドネシア、ギニアの学校授業情報化時代の学び（第三の波から） 我が国の教育の良さ、教育課題、教育政策 教育実践を改善するヒント ICTの学習利用 ・心理学、教育学、情報科学などの最新の知見 学習理論の変遷、多重的性論、発達最近領域、活動理論から ・教職のふり返し、教員としての学び 反省的実践者としての教員 3 s カードを使つてのふりかえり 学び続ける教員とアクティブラーニング デジタルストーリーテリングでのふり返し		
活用した資料・データ等	・須曾野が、ドイツ、米国、ドイツ、インドネシア、韓国の学校で撮影した授業や学校施設を撮影した写真、中国留学生からの中国教育事情、ギニア教員留学生よりアフリカの教育事情 ・ミニブレゼンテーション用「3 S カード」 ・県内特別支援学校高等部生徒が制作したデジタルストーリーテリング作品、作品		

講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・8月23日に続いて、今回も講習は1人で1日の必修講習を担当しました。本日は受講者が33名と少なく、アットホームな感じで講習できてよかったです。 ・世界の学校の様子を6ヶ国取り上げましたが、今回も教員留学で三重大学に学んでいるシッセンさんにアフリカ・ギニアの学校教育のことを話してもらったり、中国人留学生（大学院生）に中国の学校事情について話題提供してもらいましたが、現地のことをよく知る人からの話は大変興味深く、受講者からの反応もよいものがありました。 ・外国の学校の様子を画像で紹介し、外国の学校から学ぶことだけでなく、日本の学校や教育について見直すことができました。 ・ミニブレゼン用の3 s カードを午前午後それぞれ1回ずつ使いましたが、立ち歩いたり、周りの人と交流してもらいましたが、これは受講者にとって様々な必修講習参加者と話ができるので好評でした。 ・受講者からの感想として「新しい情報や今後の授業に生かせる講習で大変参考になりました。」「書画カメラ、P C、Powerpoint、Ipad の使い方はさすがの一言です。とても参考になりました。」「時代に合わせて、また、子どもたちの状況に合わせて学び続ける教師でありたい、と改めて感じました。」という感想があり、私としてもやりがいの大きい講習となりました。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） ・教育学部専門校舎 1 号館の教室は広いので、グループ活動がやりやすかったです。 ・今年も、昨年と同様、数日前に、持ち物や留意事項を連絡するメールを一斉送信しました。それが講師と受講者の距離を縮めることでも大事であると思いました。 3) その他 ・必修講習が1日となり、前回の1人体制での講習担当での反省をいろいろ生かすことができました。
----------	--

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	荒川哲郎	記入年月日	2016 年 10 月 5 日
講習の区分	○必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 10 月 1 日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 人数：40 人	講習会場 (教室等)	教育学部 301 教室
講習名	教育の最新事情 9		
講習の目標	国内法の制定等で定められた障がいのある人たちの権利について、特に合理的配慮の権利について理念、内容、施行方法について、習得する。また学校社会における共同性、助け合いをしていくことの意味について基本的考えを認識して、実施していくことの意義を理解することを目標とした。		
授業概要 (大まかな流れ)	障がいのある人たちの権利に関する条約、法律について説明し、その意義について説明した。 合理的配慮の具体例を挙げて、学校で教師、子どもの共同性、信頼性をたかめていく事例を取り上げて、実施の意義をグループで考えた。		
活用した資料・データ等	障がいのある人たちの権利に関する資料を作成したものを開設の資料とした。 また、NHK が制作したビデオを観て、合理的配慮の意味を理解することを促した。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 参加者は熱心にノートを取り、話し合いも各自が意見を出し合い、有意義な時間を作れた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 参加者も 40 人で会場の余裕もあり、快適に受講していた。映像、資料を活用して、わかりやすい解説ができた。 3) その他 いろいろな学校、高校から幼稚園の先生が参加をされて、話し合いの学習では多様な意見を聞くことができた。教育委員会の先生にも参加してもらい、行政からの視点で意見をもらえた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	郷右近 歩	記入年月日	2016 年 6 月 14 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 11 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：22 名	講習会場 (教室等)	特別支援教育実習室
講習名	三重県の特別支援教育の課題		
講習の目標	2007 年から、全国で特別支援教育が始まり、学校をめぐる近年の状況はめまぐるしく変化している。三重県においても、特別支援学校の新設や再編など、改革が進められているものの、今なお課題も多い。幼稚園・小学校・中学校・高等学校でも、特別支援教育に関わる様々な課題が存在する。県内の状況を紹介しつつ、今後の方向性を探る。		
授業概要 (大まかな流れ)	イントロダクション 三重県の特別支援教育の課題（病弱教育の観点から） グループワーク 三重県特別支援教育推進基本計画の説明 発達障害を有する子どもへの支援について		
活用した資料・データ等	三重県特別支援教育推進基本計画 映像資料（医療的ケアが必要な子どもたち） 映像資料（自閉症）		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 初めての選択必修講習ということで、開設の経緯やその位置付けについて詳細な説明を行った。ところが、選択必修講習という枠組みについて受講者はあまり意識しておらず、説明を余分（早く本題に入ってほしい、具体的な子どもへの対応についてもっと時間を割いてほしい）と感じた方もいたように見受けられた。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） ふだんから使用している教室の機材を利用できたので、ストレスなく講義を行うことができた。補助員の学生さんにもきちんとサポートして頂き、とても感謝している。 3) その他 選択必修講習が開設された経緯（校種ごとに異なるニーズへの対応）に鑑み、特別支援学校の先生方が多く受講するかと思われたが、実際には、保・幼・小の先生方が受講者の殆どを占めた。三重県においては、特別支援教育に関して、保育園・幼稚園・小学校の先生方の関心が高いことが明らかとなった。今回、事前に用意した内容は特別支援学校の先生方を受講者として想定したものだったが、受講者の二一ズとしては、特別支援教育や発達障害についてよく知らないので、初歩的な内容を分かりやすく教えてほしい、というものが多かった。内容とニーズとの間にミスマッチが起きていたように感じられる。その場合、選択必修講習という形ではなく、むしろ選択講習で初歩的な内容の講習を増やした方がニーズには応えられるように思われる。開催側が意図したことと現場の教員のニーズとの間には隔たりがあったように今回の傾向からは見受けられた。委員会においては、選択必修講習のあり方について、より良い方向に進むための検討をお願い致します。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	須永 進	記入年月日	2016 年 6 月 13 日
講習の区分	必修講習・O選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 11 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼稚園教諭 人数：40（参加者 29 名）	講習会場 (教室等)	教育学部 2 号館保育実習室 I
講習名	選択必修 子育て支援の現状と保育者の役割		
講習の目標	現在社会的要請の高い子育て支援をテーマに、その現状と保育者の役割について学ぶことを目標としている。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 講習のねらい、目標、スケジュール、履修認定試験等の説明 2. 子育て支援の概要 3. 子育て支援の実践報告（グループ学習） 4. グループによる話し合い、まとめ、発表 5. 子育て支援における保育者の役割（グループ学習） 6. 履修認定試験 7. 受講者評価票配布、回収、終了		
活用した資料・データ等	エンゼルプラン、「子ども・子育てに関する国の施策」厚生労働省（平成 23 年度版 子ども・子育て白書）、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領時解説		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 内容的には、わかりやすかったと思います。実際に保育にかかわっている先生方ですから、現状や問題点についても理解が図られたと思います。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 運営上も問題はありませんでしたが、会場と本部が離れていたので、連絡に時間がかかったかもしれません。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	長谷川 岳雄	記入年月日	2016 年 6 月 23 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 11 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：31 名	講習会場 (教室等)	教育学部一号館 403
講習名	節目でキャリアをデザインする方法		
講習の目標	1. キャリア教育が求められている背景と、社会から求められている能力・スキルを理解する 2. キャリア開発理論の潮流を知る (学生のキャリアデザインに役立つ3つの理論を知る) 3. 節目でキャリアをデザインする方法を理解する 4. ビジョンを現実にする意志力を磨く方法を理解する		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00-10:20 社会から求められている能力・スキル 10:30-11:50 キャリア開発理論の潮流 13:00-14:20 節目でキャリアをデザインする方法 14:30-15:50 ビジョンを現実にする意志力を磨くコツ 16:00-16:40 テスト(講義中記入したメモ用紙のみ持ち込み可)		
活用した資料・データ等	・金井壽宏『働く人のキャリアデザイン』PHP新書, 2002 ・J・克蘭ボルト『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社, 2005 ・スティーブン・コビー『究極 7つの習慣』キングベア出版, 2013 ・E・シャイン『キャリア・ダイナミクス』白桃書房, 1991 ・W・ブリッジス『トランジション』創元社, 1994 ・D・レビンソン『ライフサイクルの心理学上・下』講談社学術文庫, 1992 ・藤辺三枝子編著『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版, 2007 ・池谷裕二『僕は何かと叫び歌う』新潮文庫, 2010 ・フィリップ・ジンバルド『迷いの暗れる時間術』ポプラ社, 2009 ・マーティン・セリグマン『オプティミストはなぜ成功するか『新装版』』バンローリング, 2013 ・キャロル・ドウェック『やればできる!の研究』草思社, 2008 ・ケリー・マクゴニガル『スタンフォードの自分を変える教室』大和書房, 2012 ・ウォルター・ミシェル『マシュマロ・テスト』早川書房, 2015 (映像) ・植松努(会社経営者) TED×Sapporo『思いは招く!』 ・ニール・バスリチャ TED『Awesome(最高)の3つの要素』		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) 受講者の方々の置かれている状況に大きな違いがあるなかで、特別支援学級から小・中・高の教員の方に 対して、どこをメインターゲットにどのテーマを話したらよいかについてとても悩みました。 この点は、正直に私は大学生や社会人しか「キャリアデザイン」を伝えることがない旨を話し、この講 義は聞かれる先生方の洞察力と想像力に依存する、と伝えました。つまり、この講義を聞いて、「自分だっ ら、生徒にこう話す」「うちの高校の生徒に置き換えたら、こういうことだ」と先生方の現実と置き換える力 に左右されます、と正直に伝えました。 なので、聞いている先生方も自分の状況・立場に置き換えて、聞いてくれたのではないかと推察して います。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) 運営面(会場、補助員等)に問題はありません。ただ、講義中意見共有することも多いので、「島形式」で 実施できる教室の方が良かったかとも思いました。 3) その他 一日中人の話を聞くのは相当しんどいと思いますので、1コマに一度はグループで話す時間を入れました。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	松浦均	記入年月日	2016 年 6 月 24 日
講習の区分	必修講習・O選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 11 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭 人数：40	講習会場 (教室等)	301
講習名	学校における危機管理について		
講習の目標	学校安全と危機介入について、前者においては、主に学校安全の最先端事例を紹介し、さらに安全教育の内容について理解してもらうことを、後者については学校心理 理学の枠組みにおける援助サービスの内容を理解してもらうことを目標とした。		
授業概要 (大まかな流れ)	学校安全に関しては、リスクマネジメントとして、大阪教育大学附属池田小学校の 取り組みを紹介しながら、安全科の授業実施に関する提案を行った。危機介入につ いては、学校心理学領域における考え方、学校心理士の活動内容を紹介しながら、 学校としての取り組み方について説明した。		
活用した資料・データ等	大阪教育大学附属池田小学校の学校案内に関する資料、防犯訓練の記録 DVD、学校 安全および「安全科」授業カリキュラム等		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) 学校安全については、大阪教育大学附属池田小学校の事例を紹介した際、とくに防 犯訓練 DVD の内容は、他校ではこれほどの取り組みはまずないことから、相当なイ ンパクトがあった。危機介入については、学校心理学や学校心理士の存在自体があ まり認知されておらず、学校心理士でもある私としては、その辺りの周知徹底が必 要と痛感した。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) とくに問題なし 3) その他 とくに問題なし		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	佐藤 年明	記入年月日	2016 年 7 月 4 日
講習の区分	必修講習・ <u>選択必修講習</u> 選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 25 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・高・特支・教委 人数：8 名	講習会場	302 (教室等)
講習名	学習指導要領はどう変わっていくのか		
講習の目標	進行しつつある学習指導要領改訂について、小学校を中心に批判的に検討する。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 教育課程について考える際の私の拠り所 2. 学習指導要領の変遷 (概要) 3. 一事例から見る学習指導要領改訂～私の授業づくり体験から～ 4. 教育課程行政の根源的問題としての「法的拘束力」 5. 午前前半の講義内容に対する質疑応答・意見交換 6. 現行＝第 8 期 (小・中)・第 9 期 (高) 学習指導要領の実施状況 (交流) 7. 「ゆとり教育」とは何で、いったいどうなったのか？ 8. 「ゆとり教育」路線の継承？ 9. 改正 (改悪) 教育基本法との関係 10. 全教科・領域の「道徳化」？ 11. 次期学習指導要領に向けて～把握し得た限りのいくつかの動向～ 12. まとめ		
活用した資料・データ等	現行学習指導要領の理論的基盤である中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について (答申)」 (2008. 1. 17) (http://www.next.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/taushin/1216828.htm) 他。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 学習指導要領について改めて検討する必要があるという意識を持っていただけ たようである。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 昨年までの必修講習と異なり、少人数でじっくりと学習することができ、議論の 時間も取ることができてよかった。多人数講習は今後もやりたくない。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	瀬戸 美奈子	記入年月日	2016 年 6 月 28 日
講習の区分	必修講習・O選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 25 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中・高教諭 人数：28 人	講習会場	教育学部 1 号館 403 (教室等)
講習名	不登校の理解と対応		
講習の目標	カウセリングの基礎スキルの習得 事例のアセスメントと援助を考えるプロセスの理解		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00～11:50 午前中：カウセリングに基礎スキルの実習 13:00～15:50 事例検討 (不登校) をグループで行い、発表 16:00～16:40 試験 (持ち込み可)		
活用した資料・データ等	講習レジュメ DVD「フーテンの寅さん」 瀬戸が実際に関わった事例を改変した事例資料		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・演習をペアワーク、DVD 視聴、ペーパーシュミレーション、グループワーク、マシムロチャレンジと様々な形式で実施した。受講生は飽きずに取り組んだ。 ・事前アンケートで不登校のアセスメントと実際の対応をのぞむ意見が多かったため、演習内容の振り返りを中心とし、持ち込み可にした。受講生は熱心に記述してくれ、演習で行なったことの振り返りによって知識と実践が関連づけられたと思う。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 補助員が臨床への理解があり、演習をスムーズに行うことができた。 3) その他		

担当講師	長谷川 岳雄	記入年月日	2016 年 7 月 8 日
講習の区分	必修講習・ 選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 25 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：31 名	講習会場 (教室等)	教育学部多目的ホール
講習名	節目でキャリアをデザインする方法		
講習の目標	1. キャリア教育が求められている背景と、社会から求められている能力・スキルを理解する 2. キャリア開発理論の潮流を知る (学生のキャリアデザインに役立つ3つの理論を知る) 3. 節目でキャリアをデザインする方法を理解する 4. ビジョンを現実にする意志力を磨く方法を理解する		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00-10:20 社会から求められている能力・スキル 10:30-11:50 キャリア開発理論の潮流 13:00-14:20 節目でキャリアをデザインする方法 14:30-15:50 ビジョンを現実にする意志力を磨くコツ 16:00-16:40 テスト (講義中記入したメモ用紙のみ持ち込み可)		
活用した資料・データ等	・金井壽宏『働く人のキャリアデザイン』PHP新書, 2002 ・J・ウランボルト『その幸運は偶然ではないんです！』ダイヤモンド社, 2005 ・ステューブ・ン・コピー『完訳 7つの習慣』キングベアー出版, 2013 ・E・シャイン『キャリア・ダイナミクス』白桃書房, 1991 ・W・ブリッジス『トランジション』創元社, 1994 ・D・レビンソン『ライフサイケルの心理学上・下』講談社学術文庫, 1992 ・渡辺三枝子編著『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版, 2007 ・池谷裕二『国は何かと云い訳する』新潮文庫, 2010 ・フィリップ・ジンバルド『迷いの晴れる時間術』ポプラ社, 2009 ・マーティン・セリグマン『オプティミズムはなぜ成功するか[新装版]』パンローリング, 2013 ・ケリル・ドゥエック『やればできる！の研究』草思社, 2008 ・ウォルター・ミシェル『マッシュマロ・テスト』早川書房, 2015 (映像) ・植松努 (会社経営者) TEDxSapporo『思いは招く』 ・ニール・パスリチャ TED『Awesome (最高)』の3つの要素』		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 受講者の方々の置かれている状況に大きな違いがあるなかで、特別支援学級から小・中・高の教員の方に対して、どこをメインターゲットにどのテーマを話したらよいのかについてとても悩みました。 この点は、正直に私は大学生や社会人しか「キャリアデザイン」を伝えたい旨を話し、この講義は聞かれる先生方の認知力と想像力に依存する、と伝えました。つまり、この講義を聞いて、「自分だったら、生徒にこう話す」「うちの高校の生徒に置き換えたら、こういうことだ」と先生方の現実に置き換える力に左右されます、と正直に伝えました。 一方で、聞いている先生方も自分の状況・立場に置き換えて、聞いてくれたのではないかと推察しています。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 運営面 (会場、補助員等) に問題はありません。 ただ、講義中意見共有することも多いので、「鳥形式」にしました。 しかし、時間的には前を見て講義を聞く時間も長く、「島」の机をハの字型に配置した方が受講する先生方は優しかったかもしれません。 3) その他 一日中人の話を聞くのは相当しんどいと思いますので、映像資料、1 コマに一度のグループワーク等を入れ、できるだけ飽きないように配慮しました。		

担当講師	原田三千代	記入年月日	2016 年 7 月 25 日
講習の区分	必修講習・ 選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 17 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：特定しない 人数：35	講習会場 (教室等)	教養教育公舎1号館1F 101
講習名	作文を通して考える異文化理解教育		
講習の目標	グローバル化が進む中で、日常的に母語話者、非母語話者の様々な接触場面が生じ、異文化を背景にした摩擦といった現象が起きている。今回の講座では、問題提起学習や作文を通じたグループ活動によって対話的相互作用を深め、異文化理解や多文化共生を目指す教育を考える機会を持つことをめざす。		
授業概要 (大まかな流れ)	前半は「文化とは何か」から異文化間教育の定義や必要性に触れ、問題提起学習を通じた活動から異文化を背景とした問題を考察する。次に、問題の一つとして言葉に関する問題を取り上げ、「やさしい日本語」を紹介する。後半は、留学生の作文に対するフィードバックの問題を考え、実際に昔話の創作を受講者が行った。それを協働でフィードバックすることによって、他者との対話を体験し、多様な価値観や考え方を受け入れる態度や技能の育成についての考えを深めた。		
活用した資料・データ等	異文化間教育、多文化共生に関する書籍を活用した。 留学生に活動に参加してもらうため、あらかじめ昔話を書いてもらい、受講者とともにグループ活動を行った。 地域の日本語教室、外国につながる児童・生徒のためのテキストを参照した。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 個人・グループ活動を多く行ったが、受講者の方々は、大変よく活動に参加してくださった。盛りだくさんではあったが、理論と実践のバランスを考えることは必要である。受講が終わってすぐ(10分後)にすぐテストを始めたが、もう少し、余裕をもってテストに取り組めるような配慮が必要だった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 作成したPPのバージョンが合わず、一部写真や情報が映らないことがあったが、係の方がその都度、対応してくださった。また、会場の設営に関しても協力していただいた。当初土曜日を設営の予定に当てていたが、金曜日中に設営を終わらせるということだった。そういった設営の予定を知らせていただけたとよかつたが、結果的に設営をしていただけたのでありがたかった。当講座はグループ活動や資料印刷など多かつたが、補助員の学生がよく動いてくれ、助かった。 可動式の白板に、成果物を貼ったが、あと二つあると余裕をもって貼れたと思う。 3) その他 特になし。		

担当講師	須曾野 仁志	記入年月日	2016 年 7 月 25 日
講習の区分	必修講習・O選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 17 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全校種（幼・小・中・高校・特別支援等）教員 36 人（教室等）	講習会場	総合情報処理センター第 4 端末室
講習名	参加型アクティブラーニングのための ICT 学習利用		
講習の目標	・アクティブラーニングとは何か、その進め方や留意点を理解する。 ・アクティブラーニングでの ICT 学習利用の方法を知る。		
授業概要（大まかな流れ）	・学部授業「教育の方法と技術」の内容の紹介、以前との違い ・教育工学は、教育工（夫）等。 ・30 年近く前の公立中学校での実践「芭蕉データベース」 ・本日の演習 1. 「1 枚の写真を大勢の人に見せるには」 2. 「Moodle を使ったコミュニケーション」 3. 「紙の 3 s カードを使って」 博物館のこと 4. 「ペイント」を使った「デジタル五七五」 5. 「Web 3 s カードを使って」 6. 「ムービーメーカーを使ったスライドショー試作」 7. 「Web を使ったアンケート」 ・アクティブラーニングでのポイントと ICT の利用。		
活用した資料・データ等	・本講習用に制作したパワーポイントスライド、 ・デジタルストーリーテリング制作用マニュアル 須曾野研究室編		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含） ・本年から導入された選択必修講習であるが、必修と選択講習の間に位置するものである。必修講習では、講義での ICT 学習利用の紹介となるが、選択必修では具体的に参加者にコンピュータを使っている演習を取り入れられたのがよかった。 ・7 種類の演習を取り入れたが、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、および特別支援学校の教員にとつて、実際の現場で役立つものを体験してもらえたことができた。興味があるものは選択講習で 1 日じっくり取り組んでいきたいと考える。 ・講習参加者のアンケートに「パソコンでのいろんな技術が学べてよかった。すぐに実行してみたいと思ふ。」講習内容がとても洗練されていてわかりやすかった。演習の時間もちょうどよく受講できていたという間に時間が過ぎた。」ICT 利用は苦手だな、と何となく感じていたのですが、今日の講習で学んだことなら、楽しみながら授業に生かせそうです。「授業にすぐ使えるようなアイデアから「教育工夫学」まですぐに現場で生かせそうです。」という感想があった。今回の講習では、演習が盛りだくさんであったが、まずまずの評価や感想が得られた。 ・最後の方の演習のフォトムービー制作では、9 月リオパハリンピック陸上競技に出場する教え子のムービーを制作する受講者の方がいた。この作品は非常に感動で気であり、ほかの講習でもぜひ紹介したい。 2) 運営（活用機材、会場、補助者等） ・初めての選択必修講習の担当であったが、会場準備など、スタッフの皆さんののおかげで、受講者の方々に満足いく講習になりました。 ・補助者が 2 人であったが、マイクの準備や全体のサポートをよく頑張ってくれました。 3) その他 ・定員の 50 人まで参加者が集まらなかったのが残念であった。		

担当講師	早瀬 光秋	記入年月日	2016 年 7 月 21 日
講習の区分	選択必修科目	講習開設日	2016 年 7 月 17 日
主な受講対象者と人数	高等学校英語教員 2 人	講習会場（教室等）	三重大学 教育学部 1 号館 8F 遠隔授業室
講習名	必要に応じて英語の授業を英語で行う技法（高等学校教員対象）		
講習の目標	1. 英語の授業を英語で行うこと(TETE)の必要性とその効果について理解すること。 2. TETE を行うための具体的な手法及び英語運用能力の伸長の仕方について理解し、自分の英語能力伸長法について振り返り対策を考えること。 3. 言語切り替え (code-switching) を含む第二言語習得理論を理解すること。 4. 増えているが英語で授業を行わない理由を分析し理解すること。 5. グループに分かれ授業の全体的課題についての意見交換の後、具体的な英語での授業について指導案を使って検討すること。 6. 自己の英語力伸長の訓練を実際に行い今後も持続する決意を持つこと。		
授業概要（大まかな流れ）	1 コマ目(9:00-10:20)：現状分析、理論的背景 2 コマ目(10:30-11:50)：TETE の実演、具体例 3 コマ目(13:00-14:20)：2 つの具体例と自己の英語力伸長訓練 4 コマ目(14:30-15:50)：授業課題及び英語使用についての意見交換 試験(16:00-16:40)：ノート・資料・辞書持ち込み可 評価表書き込み：16:40-16:50		
活用した資料・データ等	* 文科省、平成 17 年度「英語教育改善実施状況調査」、平成 18 年度・19 年度小学校英語活動実施状況調査及び英語教育改善実施状況調査（中学校・高等学校）、「平成 22 年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査（B 票）の結果について」、平成 25 年度「中学校における英語教育の現状と今後の方向性」、平成 25 年度「高等学校における英語教育の現状と今後の方向性」、卯城祐司編著（2014）「英語で教える英文法：場面を導入：活動で理解」研究社、NHK（2015）首都圏二語習得(2015.6) 検索)http://www3.nhk.or.jp/shutoken-news/2015/0526/5025171.html、MEXT（2016a）平成 27 年度英語教育実施状況調査（中学校）の結果概要、MEXT（2016b）平成 27 年度英語教育実施状況調査（高等学校）の結果概要、* 第二言語習得に関する最新の研究成果、* 英語力伸長のための各種ハンドアウト。		
感想	1) 内容（試験等を含） TETE の現状、理論的背景、是非、実行方法、課題について受講生からの積極的な活動参加や質問・コメントを含めながら講義を行った。今回は 2 人と受講者が少なく、結果として受講者から多くの質問や感想が聞かれたのは良かった。また、受講者の英語レベルが高く、文法を英語でどのように説明するか、という問題提起もあった。学習指導要領には「基本的に英語の授業は英語で」とあるので、文科省は「文法は日本語でも良い」との見解（電話確認）であるが、今後の課題との認識を新たにしたい。また、言語習得に関する理論的背景を伝えることができたが、今後はもう少し丁寧に詳しく述べることも必要なのではと感じた。 2) 運営（活用機材、会場、補助者等） 全体として各種連絡も含め大変順調な運営であり、資料等を印刷していただき感謝です。大学院生のアシスタントも進んで補助してくれた。 3) その他 特にありません。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	織田 泰幸	記入年月日	2016 年 9 月 5 日
講習の区分	選択必修講習	講習開設日	2016 年 7 月 17 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼小中高教諭 人数：6	講習会場 (教室等)	教養教育校舎 3 号館 1121 教室
講習名	学校の教育課題に対する組織的対応		
講習の目標	学校の教育課題に対する組織的対応のために大切な取り組みについて、教育経営学の考え方を踏まえながら、自分の経験を省察することができること。		
授業概要 (大まかな流れ)	前半：教育経営学の視点、学校の組織マネジメント (80 分) 経営の向義性、ビジョン・ミッション・目標、学校評価、重点課題、 後半：(80 分) 学力問題、地域との連携・協働 わが国の学校の強み、学校の共同体的特質、地域社会との連携		
活用した資料・データ等	①織田泰幸「学校の力を高める」曾余田浩史・岡東謙隆編著『新ティーチングプロフェッション』明治図書、2006 年、136～150 頁。 ②織田泰幸「教職員の意欲を引き出す合意形成」浜田博文編著『新たな職をいかす校長の学校経営』教育開発研究所、2010 年、48～51 頁。		
講習に関する感想	1) 内容 (経験等を含む) ・ 筆頭の教育学部授業で扱っている内容を今回のテーマに即して現職の教員向けに再構成した。 ・ 授業では、講義を主体として、一部でグループ学習や演習問題を取り入れた。講師側の一方的な講義に終始するよりは、受講生同士での意見の交流ができる機会をつくるのが重要であると感じた。 ・ おそらく今回の講習で最も面白いと思ってもらえたのは、心理学的な理論であった(例：ピグマリオン効果)。教育経営学の内容をストレーに提供するのはなく、他の学習分野の知見や発想を応用していくことの必要性を痛感した。今後の自分自身の継続的な研究と修養が問われると思う。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・ パワーポイントで資料を作成し、授業の途中では具体的なイメージを喚起させるために、写真や画像を多用し、一部で映像も取り入れた。 3) その他 ・ これまでの講習の反省点を活かして内容を精選した。また日頃の授業の内容や教育委員会での研修で扱った内容が、今回の講習に活用できたので、これからも日頃の研究と修養を怠らないことが大切だと感じている。 ・ 昨年度までの講習では、内容を徐々にアップグレードしてきたが、今回の講習では資料を 1/3 程度差し替えた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	早瀬 光秋	記入年月日	2016 年 7 月 15 日
講習の区分	選択必修科目	講習開設日	2016 年 7 月 9 日
主な受講対象者と人数	中学校英語教員 9 人	講習会場 (教室等)	三重大教育学部 1 号館 3F 通隔授業室
講習名	必要に応じて英語の授業を英語で行う技法 (中学校教員対象)		
講習の目標	1. 英語の授業を英語で行うこと (TETE) の必要性とその効果について理解すること。 2. TETE を行うための具体的な手法及び英語運用能力の伸長の仕方について理解し、自分の英語能力伸長法について振り返り対策を考えること。 3. 言語切り替え (code-switching) を含む第二言語習得理論を理解すること。 4. 増えている英語の授業を行わない理由を分析し理解すること。 5. グループに分かれ授業の全体的課題についての意見交換の後、具体的な英語での授業について指導案を使って検討すること。 6. 自己の英語力伸長の訓練を実際に行い今後も持続する決意を持つこと。		
授業概要 (大まかな流れ)	1 コマ目 (9:00-10:20) : 現状分析、理論的背景 2 コマ目 (10:30-11:50) : TETE の実演、具体例 3 コマ目 (13:00-14:20) : さらなる具体例と自己の英語力伸長訓練 4 コマ目 (14:30-15:50) : 授業課題についての意見交換及び TETE の教案 (一部) 検討・発表 試験 (16:00-16:40) : ノート・資料・辞書持ち込み可 評価表書き込み : 16:40-16:50		
活用した資料・データ等	* 文科省、平成 17 年度「英語教育改善実施状況調査」、平成 18 年度・19 年度小学校英語活動実施状況調査及び英語教育改善実施状況調査 (中学校・高等学校)、「平成 22 年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査 (B 票)」の結果について、平成 25 年度「中学校における英語教育の現状と今後の方向性」、平成 25 年度「高等学校における英語教育の現状と今後の方向性」、卯城祐司編著、(2014)「英語で教える英文法：場面で導入：活動で理解」研究社、NHK、(2015) 首都圏ニュース (2015.6.1 検索) http://www3.nhk.or.jp/shutoken-news/2015/0526/5025171.html 、MEXT (2016a)「平成 27 年度英語教育実施状況調査 (中学校) の結果概要」、MEXT (2016b)「平成 27 年度英語教育実施状況調査 (高等学校) の結果概要」、* 第二言語習得に関する最新の研究成果。 * 英語力伸長のための各種ハンドアウト。		
感想	1) 内容 (経験等を含む) TETE の現状、理論的背景、是非、実行方法、課題について受講生からの積極的な活動参加や質問・コメントを含めながら講義を行った。また、実際の TETE についても一部であるが、意見交換・発表も行いうことができて一通り予定の内容を終えることができた。言語習得に関する理論的背景を伝えることができたこと、「英語で英語を教える」ことに関して、具体的な技法をワークショップも活用し 10 能示できたこと、自己の英語力伸長訓練を行うことができたこと、グループに分かれて受講生の教案を基に意見交換できたことが良かった。今回は中学校教員対象の講習であったが、英語を聞き話す能力の高い受講者が自立した。 2) 運営 (活用機材、会場、補助者等) 全体として各種連絡も含め大変順調な運営であり、資料等を印刷していただき感謝です。大学院生のアシスタントも進んで補助をしてくれた。 3) その他 ● 特にありません。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	郷右近 歩	記入年月日	2016 年 7 月 13 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：26 名	講習会場 (教室等)	特別支援教育実習室
講習名	三重県の特別支援教育の課題		
講習の目標	2007 年から、全国で特別支援教育が始まり、学校をめぐる近年の状況はめまぐるしく変化している。三重県においても、特別支援学校の新設や再編など、改革が進められているものの、今なお課題も多い。幼稚園・小学校・中学校・高等学校でも、特別支援教育に関わる様々な課題が存在する。県内の状況を紹介しつつ、今後の方向性を探る。		
授業概要 (大まかな流れ)	イントロダクション 三重県の特別支援教育の課題（病弱教育の観点から） グループワーク 三重県特別支援教育推進基本計画の説明 発達障害を有する子どもへの支援について		
活用した資料・データ等	三重県特別支援教育推進基本計画 映像資料（医療的ケアが必要な子どもたち） 映像資料（自閉症）		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 6月の第1回目の選択必修講習よりは、講習のテーマや位置付けについて理解のある受講者が多かったので、講習の主題に沿った議論を展開することができた。ただし、今回も特別支援学校の教員よりは保・幼・小などの教員が占める割合が高かった。そのため、初歩的な内容にも触れざるを得なかったが、より専門的な内容を求める受講者と、イロハのイからの内容を求める受講者とのバランスをとることが難しかった。（改めて、特別支援教育とは何かを考える機会となった）という特別支援教育をよく知る側の意見もあれば、「特別支援の中にくさんの言葉があり、最初は驚いていたが、他の先生方や講師の先生の話を聞き、奥が深くもつと知りたかった」という初めて触れる側の意見もあった。両者を同時に満足させることは難しいが、評価書の結果からはある程度達成できたように見受けられる。） 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 普段から使用している教室の機材を利用したのでストレスなく講義を行うことができた。補助員の学生さんにもきちんとサポートして頂き、とても感謝している。 3) その他 アンケートの感想の一部を抜粋した。「普段、現場にいると忘れてしまいがちなことや、考えられない視点からの特別支援教育の講義であったので、とても勉強になった」「制度が整備されてきた中で、現場の大変さについても理解を示していたいており、的を射ていると感じられた」「免許を更新するということは、あと10年先まで教員を続けようという意欲につながる講習である、今回のように前向きになれるのかなと思います」本講習に一定の意義を感じて頂けたように思われた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	瀬戸 美奈子	記入年月日	2016 年 7 月 12 日
講習の区分	必修講習・O選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中・高教諭 人数：29 人	講習会場 (教室等)	教育学部1号館201
講習名	不登校の理解と対応		
講習の目標	カウンセリングの基礎スキルの習得 事例のアセスメントと援助を考えるプロセスの理解		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00~11:50 午前中：カウンセリングに基礎スキルの実習 13:00~15:50 事例検討（不登校）をグループで行い、発表 16:00~16:40 試験（持ち込み可）		
活用した資料・データ等	講習レジュメ DVD「フーテンの寅さん」 瀬戸が実際に関わった事例を改変した事例資料		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・演習をペアワーク、DVD 視聴、ペーパーシュミレーション、グループワーク、マシマロチャレンジと様々な形式で実施した。受講生は飽きずに取り組んだ。 ・事前アンケートで不登校のアセスメントと実際の対応をのぞむ意見が多かったため、演習内容を精選し、解説を丁寧に行った。 ・試験は演習内容の振り返りを中心とし、持ち込み可にした。受講生は熱心に記述してくれ、演習で行なったことの振り返りによって知識と実践が関連づけられたと思う。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 補助員が臨床への理解があり、演習をスムーズに行うことができた。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	宮 崎 子	記入年月日	2016年 7月 14日
講習の区分	選択必修科目	講習開設日	2016年 7月 9日
主な受講対象者と人数	全教諭及び養護教諭・35人	講習会場 (教室等)	三重大学教育学部校舎1号館 1階 多目的ホール (大)
講習名	「生きる力」と進路指導及びキャリア教育		
講習の目標	1.進路指導及びキャリア教育の理念や意義を理解する。 2.進路指導及びキャリア教育の時代背景と現代的問題を理解する。 3.進路指導及びキャリア教育の成果と評価について理解する。 4.進路指導及びキャリア教育に関する課題を全校種で交換し合い、今後に活かす。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：9:00—10:20 実態調査からみる若者をとりまく課題 10:30—11:50 「生きる力」「キャリア教育」の理念、意義、時代背景 午後：13:00—14:30 子どもから大人への発達課題と自立 14:40—15:50 児童・生徒の「確かな学力と豊かな人間性」に関わる提案 試験：16:00—16:40 記述式試験 (資料・ノート持ち込み可) 評価：16:40—17:00 受講者評価書記入		
活用したデータ	・「生きる力」と進路指導及びキャリア教育に関するおもな施策と実態調査結果 ・若者自立・挑戦プランに関する施策の概要、総務省の産業・職業分類表 ・ハーマンモデルのシート、熟中する仕事マップと代表的職業分野 ・生きがい発見シート、宮崎作成の能力開発構造図、能力傾域モデル ・KJ方によるワーキングシヨップ (パズセッションで知覚的論)		
感想	1) 内容 (試験等を含め) ・今年から選択必修に指定された科目「進路指導及びキャリア教育」としてリニューアルした。児童生徒が「生きる力」を兼ね備えた能力を開発していくために、「教育現場で、どのような実践したらよいのか知りたい」という先生方の熱い意欲を感じた。それは受講生の事前アンケートやコメント用紙、事後ふりかえりの文言から察することができた。 ・全校種に通ずるように普遍的な説明から始め、小学校から高校までの発達段階に応じた課題解決策への提言を行った。地域の状況や勤務校の実情に合わせた進路指導及びキャリア教育の取り組みについて具体的に説明した。 受講後には、「キャリア教育はこれまでの取り組みや活動を否定するものではない」「キャリア教育を実践する自信がついた」等、ほとんどの人が前向きな変化を自覚されたことを確認した。特に低学年幼稚園の先生方の意識改革が顕著であった。「進路指導及びキャリア教育は2歳や幼稚園時期から必要」と。 ・とくに午後のKJ法によるワーキングシヨップでは活発な意見交換がなされ、大好評であった。受講生から、他の校種から多角的な意見を聞くことで系統的な考えが分かった。自分の担当分野への活かし方等、多くのヒントが得られたという声が多数寄せられた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助者等) ・去年同様に受講人数は多かったが、補助員をお願いしたので混乱もなく、スムーズに始めることができて助かったが、冷房のスイッチが切れる度に授業を中断して操作をすることが時間がかつたといえないと感じた。そのための補助員であれば、教室に常駐していて欲しい。 3) その他 ・どなたも前向きに、真剣に、意欲的であったことが強く印象に残っている。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	山根 栄次	記入年月日	2016年 9月 9日
講習の区分	必修講習・O選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016年 8月 26日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：13	講習会場 (教室等)	教養教育1号館PBL演習室2
講習名	学校におけるキャリア教育と起業家教育		
講習の目標	1. 学校における進路指導及びキャリア教育の意味、学校においてキャリア教育が要請されるようになった社会的・経済的背景と若者の職業意識の変化、学校におけるキャリア教育の具体的な方法について知る。 2. 起業家教育について、そのプログラムと方法を知る。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00～10:20 事前課題について各自が発表する。 10:30～12:00 キャリア教育の意義・方法・課題について講義 午後 13:00～14:30 起業家教育の意義・具体的プログラム・実践例の講義 14:40～15:50 ビジネスプランの作成 16:00～16:40 ビジネスプランの発表と講評		
活用した資料・データ等	・講師自作のパワーポイント「学校におけるキャリア教育と起業家教育」 ・中学生用起業家教育教材「集まれ 起業家の卵」		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 事前課題(キャリア教育に関する本を1冊読んで紹介する)を取り入れたのはよかった。 ビジネスプランを各自に作成させ、発表させたのはよかった。 幼稚園教員の免許更新に来た保育園勤務の人には、この講習内容はあまり関連がなかったように思う。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 全て、適切であったと思う。 3) その他 事前課題に気付かずに来た受講者が2名いた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	杉田 勝雄	記入年月日	2016 年 9 月 1 日
講習の区分	必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 26 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：28 人	講習会場 (教室等)	教育学部 3 号館 2F 1221 番教室
講習名	【選択必修】変わりゆく学校と組織的対応力		
講習の目標	学校の変化・学校の特性・現代の子ども保護者の変様・教員の変様・学校教育の変 化の必要性・組織改革・学校評価・学力の変化等について理解し日々の教育に役立 てる。		
授業概要 (大まかな 流れ)	午前 9:00～11:50 学校を巡る近年の状況変化 ○教育改革による学校の状況変化 ○児童生徒・保護者を取り巻く社会・生活環 境変化 ○教員を巡る状況変化と求められる資質・能力 午後 12:50～15:50 様々な問題に対する組織的対応 ○学校組織がもつ特性 ○組織内の人間関係の開発 ○組織としての学校を創 る。		
活用した資 料・データ等	・教員免許状更新講習テキスト(教職リニューアル) ミネルヴァ書房 ・中日新聞記事 朝日新聞記事 ・プロジェクター活用		
講習に関す る感想	1) 内容(試験等を含む) ・昨年度は必修講習であったが、今年度は選択必修講習であり始めての内容の 講習であり、時間配分に少し手間取った。少しゆとりのできた時間に特に伝 えたいところを再度おさえられた。 ・学校現場で直面している課題を重点的に取り上げ講習ができ、授業評価の内 容から好評であった。 ・学校組織・学力等について他のものと関連させて話して受講者にわかりやす くイメージ化する工夫をしたことも好評であった。 ・幼稚園教諭から高校教諭、養護教諭と多岐にわたっていたので講習内容が時 には特定の校種・職種に偏ってしまうことがあった。幼稚園の教育内容にも う少し触れたかった。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) ・機材の準備・空調・補助員等 準備万端で気持ちよく講習ができた。 ・事前に資料等の印刷・準備ありがとうございました。 3) その他 ・講習を受けておられた先生方は、6 時間+40 分試験と長時間にも関わらずと ても熱心に参加してくれた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	加藤裕子	記入年月日	2016 年 9 月 1 日
講習の区分	必修講習・ 選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 26 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：40 人	講習会場 (教室等)	教養教育校舎 3 号 2F 1231 番教室
講習名	教育相談～学校のチーム支援～		
講習の目標	・事例検討や異なる校種や業種で働く参加者相互の交流により、自身の実践(経験)を振り返り、 今後の方向を見出す。 ・教育相談の機能を日々の業務に活かし、人と人とのつながりの中で教育活動に取り組みようとする 態度を身につける。 ・未然防止・早期発見・早期対応の予防的な視点を持つ。		
授業概要 (大まかな 流れ)	午前 9:00～10:10 これまでの経験を振り返る。 10:10～11:50 事例検討 不登校になった A 君 午後 12:50～13:30 教育相談に活かす理論と技法 13:30～15:20 事例検討 B 君 いじめを予防する 15:20～15:50 教師のメンタルヘルス 16:00～16:40 テスト(ノート・資料持ち込み可)		
活用した資 料・データ等	・講習全体を通じた資料となるパワーポイント資料 ・経験を振り返り、聴き合うワークのためのプリント ・不登校になった A 君の事例 プリント資料 ・いじめを予防した B 君の事例 プリント資料 ・話を聴き合うワークのためのプリント		
講習に関す る感想	1) 内容(試験等を含む) ・実際の事例を保護者の了解を得て用いたことで、臨場感のあるグループ討議ができました。また、 さまざまな校種の方の話が聞けたことは、視野が広まったとの感想を持った受講者がいました。 ・グループ討議を経験したことで、チーム支援の良さを実感した受講者の声がありました。さまざ まな学習形態を用いたことは、おおむね好意的に受け止められました。 ・保護者を支援することや子どもと並行的に支援することの良さを感じた受講者もいました。 ・経験豊かな受講者にとっては、内容にインパクトがないと感じた受講者もいたようです。参加者 全員に満足してもらえようような教材の準備が課題だと思いました。 ・講習内容と試験の一致を考えて出題しました。そんな中で、問題数が多いとの声がありました。 試験の課題についてはさらに検討が必要だと思いました。また、講師の問題ではありますが、採 点基準の明確化というところで課題が残りました。資料・ノートの持ち込みが可ということで、 全体として得点が高くなりました。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) ・会場の広さも適切でした。 ・補助員の方が、教室環境などについて丁寧に配慮してくれたので、私は講師として講習に集中す ることができました。ただ、空調については「後半は寒すぎた」との声がありました。講師も空 調などの教室環境への配慮を積極的に行わなくてはならないと思いました。 3) その他 ・講習参加者は、事例について自分の問題として考えていたように思います。真剣な話し合いの様 子に、参加者の熱意を感じました。 ・講習の内容自体は大切なことなので、経験の少ない教師には是非聞いてほしいとの声がありまし た。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	永田 成文	記入年月日	2016 年 8 月 10 日
講習の区分	必修講習・選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：初・中・高特別支援の教員 人数：11人	講習会場 (教室等)	教養教育1号館101教室
講習名	社会科や総合学習における異文化理解学習		
講習の目標	社会科教育における様々な国・地域における異文化体験を活用した異文化理解学習の特色や異文化理解学習の授業構成をつかみ、それぞれの校種における異文化理解学習を構想できる。		
授業概要 (大まかな流れ)	○異文化理解学習の教育活動における位置づけをとらえる。 ○写真を活用した異文化理解学習を考える。 ○異文化体験を活用した異文化理解学習を考える。 ○生活様式に着目した異文化理解学習を考える。 ○行動様式に着目した異文化理解学習を考える。 ○衣食住を中心とした異文化理解学習を構想する。		
活用した資料・データ等	○異文化の背景を考える写真 ○異文化の具体例 (中国の箸・お茶・粽) ○優れた授業実践の分析 ○開発単元の授業実践で使用したワークシート		
講習に関する感想	1) 内容 (経験等を含む) 選択必修を意識して、社会科や総合学習を事例にするにしても大枠で異文化理解学習のとらえ方を説明する必要があると感じました。普段、単元計画を意識していない先生方もおられますが、講習を基にして授業を計画してもらいたいです。 事前課題をグループで発表してもらい、結構先生方自身が異文化体験があることがわかりました。先生方の経験を講習で生かしていきたいと思います。 早く終わる人と遅く終わる人がいるので、今回は試験時間を一定にしました。しかし、時間が足りない受講生がいたので希望を聞いて5分だけ延長しました。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 機材はきちんと設定して頂き助かりました。今回は授業実践でも報告してもらったので補助員はいてくれて助かりました。 大元のスイッチを押さないとプロジェクターが移りませんでした。教育学部と写し方が異なるので戸感いました。 3) その他 受講生の雰囲気は大変よかったですと思います。 アンケートで現場の教育課題に役に立ったかのところは、それは異文化理解を普段から意識していないのであれば役に立たないだろうなと思います。 次回も選択必修をする場合は広く受講生がエントリーしてくることを考えて、内容や説明の仕方を工夫したいと思います。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	宮崎 研子	記入年月日	2016 年 8 月 19 日
講習の区分	選択必修科目	講習開設日	2016 年 8 月 9 日
主な受講対象者と人数	全教諭及び養護教諭 40 人	講習会場 (教室等)	三重大学総合研究棟 1 階 メディアホール
講習名	「生きる力」と道徳教育		
講習の目標	1. なぜ、道徳教育が必要か、その理念や意義を理解する。 2. 道徳教育の時代背景と現代的課題を理解する。 3. 道徳教育の成果と評価の方法について理解する。 4. 道徳教育に関する課題を全校種で話し合い、担当学年の提言として活かす。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：9:00—10:20 実態調査からみる若者に関する道徳教育の課題 10:30—11:50 「生きる力」道徳教育の理念、意義、時代背景 午後：13:00—14:30 ワークショップ：教育現場で抱えている「道徳教育の課題」 14:40—15:50 教科化された「道徳教育」に関する提案 試験：16:00—16:40 記述式試験 (資料・ノート持ち込み可) 評価：16:40—17:00 受講者評価書記入		
活用したデータ	・「生きる力」と道徳教育に関するおもな施策と実態調査の結果 ・「人としての自覚、ライフスキル」に関する発達課題の一覧表 ・宮崎作成の能力開発構造図、能力領域モデルの一覧表 ・KJ 方によるワークショップ (バズセッションで班別討論) の結果		
感想	1) 内容 (経験等を含む) ・2015 年度に学習指導要領一部改正され、小中学校に「特別の教科 道徳」を表された件について新しい動きを紹介した。具体的には、「道徳の時間」を「特別の教科 道徳」として位置づけて週一時間、相対評価ではなく記述式)「個人内評価」「入試の可否判定には使わない」「発達障害等の児童生徒には配慮すべき点を学校や教員間で共有」、小18 年度、中19 年度より施行) ・児童生徒が「生きる力」を兼ね備えた道徳教育を指導していくために、教育現場で、どのように実践したらよいか知りたい」という先生方の熱い意欲を感じた。それは受講生の事前アンケートやコメント用紙、事後ふりかえりの文言から察することができた。 ・全校種に通ずるように普遍的な説明から始め、小学校から高校までの発達段階に応じた課題解決策への提言を行った。地域の状況や勤務校の実情に合わせた道徳教育の取り組みについて具体的に説明した。 ・午後の KJ 法の応用によるワークショップは活発な意見交換がされて大好評であった。受講生から、他の校種から多角的な意見を聞くことで系統的な考えが分か り、自分の担当分野への活かし方にヒントが得られたという声が寄せられた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・受講人数が 40 人に絞られたので、やりやすかった。 ・補助員の常駐で混乱もなく、スムーズに始めて終わることができて助かった。 ・受講者はどなたも前向きに真剣に、意欲的であったことが強く印象に残っている。		

担当講師	加藤裕子	記入年月日	2016年 8月19日
講習の区分	必修講習・ 選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016年 8月 9日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：39人	講習会場 (教室等)	教養教育校舎1号2F PBL 演習室 1
講習名	教育相談～学校のチーム支援～		
講習の目標	- 事例検討や異なる校種や業種で働く参加者相互の交流により、自身の実践（経験）を振り返り、今後の方向を見出す。 - 教育相談の機能を日々の業務に活かし、人と人とのつながりの中で教育活動に取り組もうとする態度を身につける。 - 未然防止・早期発見・早期対応の予防的な視点を持つ。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00～10:10 これまでの経験を振り返る。 10:10～11:50 事例検討 不登校になったA君 午後 12:50～13:30 教育相談に活かす理論と技法 13:30～15:20 事例検討 B君 いじめを予防する 15:20～15:50 教師のメンタルヘルス 16:00～16:40 テスト（ノート・資料持ち込み可）		
活用した資料・データ等	- 講習全体を通じた資料となるパワーポイント資料 - 経験を振り返り、聴き合うワークのためのプリント - 不登校になったA君の事例 プリント資料 - いじめを予防したB君の事例 プリント資料 - 話を聴き合うワークのためのプリント		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） - 実際の事例を保護者の了解を得て用いたことで、臨場感のあるグループ討論ができました。 - さまざまな学習形態を用いたことは、おおむね好意的に受け止められたようです。 - 講習内容と試験の一致を考えて出題しましたが、講習参加者にとっては回答の範囲が広くなりすぎて書きにくいとの声もありました。試験の課題についてはさらに検討が必要だと思いました。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） - 会場の広さも適切でした。 - 補助員の方が、教室環境などについて丁寧に配慮してくれましたので、私は講師として講習に集中することができました。また、ペアで話し合う場面では、参加者が寄附だったので、ワークに参加して助けてくれました。 - 講習前日に資料の追加をお願いしたところ、印刷などについて担当者の方が快く引き受けてくれました。資料の準備でも助けていただいたので、大変助かりました。 3) その他 - 講習参加者は、事例について自分の問題として考えていたように思います。真剣な話し合いの様子に、参加者の熱意を感じました。 - 後の評価票では、私の何気ない癖のようなものについて指摘してもらいました。私自身は気づいていないことでしたので、その指摘に感謝いたしました。今後気を付けていきたいと思っています。		

担当講師	永田 成文	記入年月日	2016年10月 5日
講習の区分	必修講習・ 選択必修講習	講習開設日	2016年10月 1日
主な受講対象者と人数	受講対象者：勉大中高特別支援部の教員 人数：4人	講習会場 (教室等)	教育学部PBL31教室
講習名	社会科学や総合学習における異文化理解学習		
講習の目標	社会科学教育における様々な国・地域における異文化体験を活用した異文化理解学習の特色や異文化理解学習の授業構成をつかみ、それぞれの校種における異文化理解学習を構想できる。		
授業概要 (大まかな流れ)	- 異文化理解学習の教育活動における位置づけをとらえる。 - 写真を活用した異文化理解学習を考える。 - 世界文化遺産を活用した異文化理解学習を考える。 - 生活様式に着目した異文化理解学習を考える。 - 行動様式に着目した異文化理解学習を考える。 - 衣食住を中心とした異文化理解学習を構想する。		
活用した資料・データ等	- 異文化の背景を考える写真 - 異文化の具体例（中国の箸・お茶・粽） - 優れた授業実践の分析 - 開発単元の授業実践で使用したワークシート		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 選択必修を意識して、社会科学ばかりでなく総合学習を意識して異文化理解学習のとらえ方と進め方を紹介する必要があると感じました。少人数だったので、対話形式を取り入れました。講習を基に異文化理解を深める授業を実践してもらいたいです。異文化体験を発表してもらえると、その背景を考えるべきところがたくさんありました。今後とも講師の経験と受講生の経験をリンクさせて講習を進めていきたいと思っています。 やはり、授業の構想となると大がかりですが、講習で学んだことを1つでも教育に生かして欲しいです。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 機材はきちんと設定して頂き助かりました。しかし、用意して頂いたパソコンが古かったので画像データが映りませんでした。すこしずつ新しい機材を導入して頂けたらと思います。 今回は補助員がいなかったのですが、少人数なので対応できました。 3) その他 受講生の雰囲気は大変よかったですと思います。遠くから来られている先生方が3名いました。遠くからこられた分、たくさん学んで頂きたいと思いました。 アンケートでは基本的に異文化理解の重要性を評価して頂き、ありがたいと思いました。人数に応じて講習の進め方も変えたいと思います。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	須曽野 仁志	記入年月日	2016 年 10 月 5 日
講習の区分	必修講習 選択講習 ・〇選択必修講習	講習開設日	2016 年 10 月 1 日
主な受講対象者と人数	受講対象者: 全校種 (幼・小・中・高校・特別支援等) 教員 7 人	講習会場 (教室等)	総合情報処理センター第 4 端末室
講習名	参加型アクティブラーニングのための ICT 学習利用		
講習の目標	・アクティブラーニングとは何か、その進め方や留意点を理解する。 ・アクティブラーニングでの ICT 学習利用の方法を知る。		
授業概要 (大まかな流れ)	・学部授業「教育の方法と技術」の内容の紹介、以前との違い ・教育工学は、教育工 (学) 等。 ・30 年近く前の公立中学校での実践「芭蕉データベース」 ・本日の演習 1. 「1 枚の写真を大勢の人に見せるには」 2. 「Moodle を使ったコミュニケーション」 3. 「紙の 3 s カードを使って」 博物館のこと 4. 「ペイント」を使った「デジタル五七五」 5. 「Web 3 s カードを使って」 6. 「ムービーメーカーを使ったスライドショー製作」 7. 「Web を使ったアンケート」 ・アクティブラーニングでのポイントと ICT の利用。 ・本講習用に制作したパワーポイントスライド、 ・デジタルストーリーテリング制作用マニュアル 須曽野研究室編		
活用した資料・データ等			
講習に関する感想	1) 内容 (経験等を含) ・25 名定員の選択必修講習であったが、応募人数が 12 名で、最終的に受講していただいた方が 7 名で、参加人数が少ないのは少し残念であった。 ・6 種類の演習を取り入れたが、参加者が中学校と高等学校に勤務する教員であったので、7 月 17 日の同じ講習と比べ、やや内容を変更した。中学校および高校教員にとっても、実際の現場で役立つものを体験してもらうことができた。 ・講習参加者のアンケートに「演習内容も豊富で新しい学びの視点を得ることが出来た。講習の進行も適切な流れで演習に基づき学習だったので濃密な時間を過ごすことが出来てありがたい機会であった。」「限られた時間の中で様々なことを提示していただきました。新しい発見がいくつかできました。3 s カード、ムービーなど、生徒たちにアクティブに活動してもらええる教材をうまく探したいと思います。」「私自身ももっと学びたいと思える講習でした。」というコメントがありました。しかし、ICT を使っていない参加者がおられて、よいコメントを得ることも出来なかったもので、この点は今後の課題としていきたい。 2) 運営 (活用機材、会場、補助者等) ・初めての選択必修講習の担当であったが、会場準備など、スタッフの皆さんのおかげで、受講者の方々に満足いく講習になりました。 ・補助者が 2 人であったが、マイクの準備や全体のサポートをよく頑張ってくれました。 3) その他 ・10 月の講習参加者が少ないのは残念であった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	山川 紀子	記入年月日	2016 年 6 月 23 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 11 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼稚園・高校教師・聴覚教師・保育士 人数：37 人	講習会場 (教室等)	教育学部1号館201教室
講習名	学校保健（発達障害とその対応）		
講習の目標	発達障害や発達障害的な特性を持つ児が有意義で健康的な学校・園生活を送れるよう、発達障害の概要について学び、その中で特に注意欠如・多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）、限局性学習症（SLD/LD）について、その特徴や関わり方・指導の方法について理解する。		
授業概要 (大まかな流れ)	発達障害の定義、発達障害をみつけるための健診システムについて概説した後、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、知的発達症（精神遅滞）、限局性学習症（学習障害）について、個々の特徴と対応の仕方について解説した。また、二次障害や保護者支援についても解説した。		
活用した資料・データ等	以下の資料から抜粋、または参考資料として利用した。 ・ADHD LD HP/PD 軽度 MR 児保健指導マニュアル（診断と治療社） ・注意欠如・多動性障害－ADHD－の診断・治療ガイドライン（株式会社じほう） ・医師のための発達障害児・者診断治療ガイド 最新の知見と支援の実際（診断と治療社） ・「通常の学級」に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」調査結果（特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議；今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）平成15年3月28日 答申 http://www.next.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/018/toushin/030301i.htm ・「通常の学級」に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」調査結果について（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 平成24年12月5日 http://www.next.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/_icsFiles/afiledfile/2012/12/10/1328729_01.pdf ・ADHD.co.jp (https://www.adhd.co.jp/default.aspx) ・AD/HDナビ (http://www.adhd-navi.net/) ・あいち発達障害者支援センターHP (http://www.pref.aichi.jp/tsc/asca/) ・2011実践セミナー：基礎から学ぶ発達障害① 自閉症スペクトラムの子どもを中心に（発達協会） ・自閉症スペクトラム児の早期診断とその意義：ライフステージの観点から（神尾陽子第9回 発達障害早期総合支援研修 http://www.ncnp.go.jp/ninh/jidou/training/trainingh25_1_1.pdf) ・成人期の発達障害の臨床的問題（神尾陽子 第6回 発達障害精神医療研修 http://www.ncnp.go.jp/ninh/jidou/training/trainingh25_2_1.pdf ） 2013		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 多くの方に真剣に聞いていただいていたと思う。 例年同様、幼稚園から高校までの先生が混じっているため、話の内容を工夫するのに苦労した。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 特に問題は感じなかった。事前に HDMI 対応の端子や音声接続の準備をしていただいていたのでスムーズに準備できた。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	三宅秀人、高瀬治彦	記入年月日	2016 年 月 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 11 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教師 人数：20 人	講習会場 (教室等)	工学部 23 番教室
講習名	科学のしくみと不思議 -講義・工作実習-		
講習の目標	身のまわりの科学をわかりやすく解説し、工作や実習を行いながら理系科目への興味を引き出します。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00-12:00 計算機のしくみ 午後 13:00-16:00 発光ダイオードのしくみ、特徴と応用分野の解説、回折格子を用いた工作実習 16:00-17:00 テスト（ノート・資料持ち込み可）		
活用した資料・データ等	・ 計算機のしくみを解説したパワーポイント資料 ・ 実習用のマイコンの使用説明書 ・ LED を例に科学技術の魅了のパワーポイント資料 ・ サンドイッチ箱と回折格子を用いた分光器の工作		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・ 午前は、担当者が変わり初めての担当でした。そのため、対象設定に多少失敗してしまい、一部の受講者からは難しかったとの評価がありました。ただし、試験の解答を見る限り、要点は伝えたことができたと思います。 ・ 午前の実習は、TA(大学院生)にも手伝ってもらったこともあり、予定していた内容を無理なく終えることができました。ただし、機器の数が多少なかった点は、アンケートでも指摘されました。 ・ 午後は、LED、液晶テレビなどを話題に講義を行いました。幼稚園から高校までの先生と幅があったこともあり、応用を中心に説明を行いました。LED のしくみに関する詳しい説明の要望が高校の先生からありました。 ・ 回折格子を用いた2つの工作実習は非常に好評であり、ご参加いただいた先生との教育現場でも御活用いただくと良いと思います。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） ・ 機材は、準備していただいたもので、滞り無く実施することができました。 ・ 実習の都合もあり、机を動かすことができる教室での講習でしたが、多少狭い感じがしました。 3) その他 ・ 受講者の皆さんの高いモチベーションが好印象でした。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	成 岡 市	記入年月日	2016 年 6 月 1 4 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 1 1 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：高等学校・中学校の理科・農業 人数：6 人	講習会場 (教室等)	生物資源学部 2 1 6 教室
講習名	【選択】農業農村の今日的課題が強く求める「技術・科学そして発想の原点」は何か？		
講習の目標	※ねらい：(1) 農業農村の今日的課題を整理する、(2) 技術・科学・発想の原点を探る ※到達目標：自然環境を維持しながら人間活動を発展させていくために必要な知識・技術・能力をあらためて振り返る		
授業概要 (大まかな流れ)	9：00 ～ 11：50 (0) 受講者の自己紹介(各受講者に関する全受講者の理解と情報共有) (1) オープニング(オリエンテーション：本講習の意図、流れ) (2) 農業農村の今日的課題を発掘する(一例として考える) (3) 動画→感想文(シャトルカード)と意見交換(問題意識の共有化) 13：00 ～ 15：50 (4) 午前の部のふり返し(シャトルカード) (5) たとえば「測量の手始め」(問題意識の整理) (6) 技術・科学・発想について考える(講習課題に込められた問題解決法の探索) (7) トピックス 1 / 動画、ハチ公と上野英三郎(歴史的意義に対する理解) (8) トピックス 2 / 高等教育機関「大学」に求められていること(教育現場の認識程度の理解) (9) 本日のふり返し(シャトルカード) 16：00 ～ 16：40 履修認定試験 16：40 受講者評価		
活用した資料・データ等	※PPT資料(紙プリントの配布あり)：講師紹介、講習の説明、今日の課題の発掘、たとえば「測量」の授業内容、技術・科学・発想の関係とそのレンジ、忠犬ハチ公とその飼主上野英三郎、人材育成の高等教育機関に文科省が求めていること、その他 ※動画：Youtubeの抜粋(アフリカにおける日本人測量隊の活躍とそれに関する理解)、上野英三郎の紹介(歴史的認識と意義に関する理解)		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) ※6人という少人数の参加者に対して、対面による展開ができた。その都度、受講者の反応を確かめることができた。意見交換も時間的制約はあったが、できる限りの範囲で理解し合えることができた。さまざまな立場の方々が講習に参加され、頭脳訓練よりも、「個々のふり返し」が出来ていれば、本講習の意図が達成したものとも理解したい。 ※試験問題 以下の2問について、別紙の解答用紙に記述し、提出してください。 問1 農業農村の今日的課題を発掘するための方法・手段・プロセスにはどのようなものがありますか。本日の更新講習の内容をひな形にしてもよい。(50点満点) 問2 「科学・技術・発想」の関係にはどのようなものがありますか。科学に関する認識、技術に関する認識、そして発想に関する理解の各々について分けて解答してください。(50点満点) →全員の満点の評価だった。講習内容を十分理解していただいたものと理解した。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) 活用機材：液晶プロジェクター、ノートパソコン、スクリーン、音声スピーカーなど 会場：生物資源学部2 1 6教室が準備され、運営委員会による十二分の準備があった。委員会スタッフの心遣いに感動しました。 補助員：受講者数が減少だったため、配置しなかった。 3) その他 受講者の評価内容を知りたくも有り、知りたく無いも有り。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	荒井茂夫	記入年月日	2016 年 6 月 20 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 11 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全人数：23	講習会場 (教室等)	三重大学教育学部 305 教室
講習名	中国語会話入門		
講習の目標	中国語の基礎会話を学び、外国語学習の動機づけについての指導方法、また異文化理解の大切さを教授する方法を修得する		
授業概要 (大まかな流れ)	中国語の特徴、言語と文化の講義。中国語基礎の学習、会話の練習に重点を置く。現代中国に対する理解を深める。		
活用した資料・データ等	『2015 年版パイロットテキスト中国語Ⅰ文法』		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) 参加者は熱心に聴講したが、時間の制約があつて、十分に進めることができなかった。著書のテキストを提供した。それによって学習の仕方を教示した。学習の継続に熱心な参加者が多かった。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) 会場は問題なく、補助員はテキストの配布や、プリントの配布、コピー作成など有効に補助活動をした。プロジェクター等の機材も効果的であった。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	新田貴士	記入年月日	2016年 9月 2日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016年 6月 11日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小、中、高 人数：25	講習会場 (教室等)	教育学部1号館4F 401教室
講習名	図形と数の話		
講習の目標	小学校、中学校、高校の幾何学を復習しながら、新しい実践的な内容を補う。		
授業概要 (大まかな流れ)	まず、数字と幾何学の関係を述べる。次にユークリッド幾何学での、コンパス、定木の役割を復習して、作図問題をあつかった。更に現代幾何学からの、ユークリッド幾何学の再構成として、結合幾何学を扱った。		
活用した資料・データ等	板書に依る。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 大変熱心な受講生で、試験結果も素晴らしいものであった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) お世話になりました、スムーズに運びました。 3) その他 おかげさまで、全てスムーズに運びました。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	後藤 太郎	記入年月日	2016年 6月 11日
講習の区分	必修講習 ・ 選択講習	講習開設日	2016年 6月 11日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 小中学校教員 人数： 4	講習会場 (教室等)	生物学学生実験室
講習名	小中学校における生命教育		
講習の目標	生命観育成の中で、学習期に体のしくみや動物の誕生について正しくすることが重要である。いくつかの教材を紹介しながら、生命観育成のための教育的価値のあるものは何かを受講者に考えてもらう。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 児童の発達段階と生きもののへの関わり 2. 「動物の誕生」の学習 3. メダカ胚の観察技術 4. ドジョウの血流観察、透明金魚の体内観察 5. ザリガニの生殖、ザリガニの立体模型作成 6. ニワトリ胚の観察 7. ヒトの誕生の学習 8. まとめ 9. 試験		
活用した資料・データ等	自作の資料 各種生物教材 ブラスチックモデル教材 教材ビデオ		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 大学の授業や教員研修でも評判の高いものを選んで実施した。特に、メダカ胚の観察技術は小学校で、ニワトリ胚の観察は中学校現場での実践もあり役立つものであることを確認している。これらは生命を実感する優れた教材であることを示した。また、ヒトの雌雄生殖器官の模型をビデオ教材とともに使用することで、ヒトの生殖に関して科学的に捉える視点を強調した。 2) 運営 (活用機材、会場、補助者等) 普段使っている実験室なので、まったく不自由はなかった。TAとして大学院生1名が協力してくれたため、スムーズに実施できた。 3) その他 受講者の事前アンケートにあった要望に対してすべて満たすようにした。本年度の受講者も極めて熱心であり、全員が関心をもって意欲的に取り組んでいた。4名の参加者であったために予定より早く進行したので、立体模型作成なども追加した。試験の答案も全員がよく考えており、今回の体験を教育現場で活用してもらえらると思っている。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	根津 知佳子	記入年月日	2016 年 6 月 20 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 11 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼・小・特別支援 人数：44名	講習会場 (教室等)	音楽棟・イベントホール
講習名	乳幼児教育・特別支援教育における音楽療法的アプローチの実践		
講習の目標	音楽に内在する治療的機能（生理的・心理的・社会的）を理解する。 音楽教育と音楽療法の相違を理解する。 音楽療法的な手法を用い、具体的な活動を提案することができる。		
授業概要 （大まかな流れ）	1 コマ：音楽に内在する機能 2 コマ：音楽療法の歴史と乳幼児・特別支援教育との関連 3 コマ：音楽療法的アプローチの実践 グループ活動 4 コマ：音楽療法的アプローチの実践 個別活動 5 コマ：筆記試験		
活用した資料・データ等	【映像】 シューマツハ（ドイツ）、ノードフロビンズ（米国）、根津（日本）のセッション等のビデオ 【楽譜・資料】 特別支援学校教科書☆☆（文部科学省）、静かな森の大きな木（春秋社）など14ページの冊子にまとめ、配付した。		
講習に関する感想	1）内容（試験等を含む） 例年通り、音楽療法に関する知識を持つ受講生が少なかつたことから、「音楽療法的アプローチ」について、教育との比較を通して理解できるように工夫した。 受講生が対象とする発達段階（乳幼児から小学校）を考慮し、小学校低学年に焦点を当てた活動を紹介し、応用できるようにした。保育現場で働く受講生でも応用できるように、具体的でわかりやすい活動を紹介し、現場ですぐに使える楽曲や活動例に対するニーズに応えるために主要な楽譜、資料等は、冊子にまとめた。 2）運営（活用機材、会場、補助員等） 開演にイベントホールを使用することになったにもかかわらず、鍵の受け渡しなどが円滑に進みました。ありがとうございました。 3）その他 今年度も、多数の受講生を対象に講習を行うことができたことを嬉しく思います。現場のニーズに応えられるよう、最新の研究動向を把握することにつとめました。逆に、現場の様子などについての情報交換もでき、有意義な講習となりました。委員の先生方には、大変お世話になり、感謝しております。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	山田康彦	記入年月日	2016 年 6 月 14 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 O選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 11 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼保・小・中・高・特別支援 人数：2名	講習会場 (教室等)	教育学部1号館 多目的ホール
講習名	図工美術教育理論の新展開―社会に開かれた美術及び対話としての美術の視点から		
講習の目標	1970年代以降のパブリックアート・アートプロジェクト・コミュニティアート等の社会にひらかれた美術の動向、芸術と教育との関係をめぐる諸理論、及び模倣・表現・制作・対話という美術・芸術原理の思想を理解し、グループワークも取り入れ、新しい図工美術教育理論と実践の方法を知る。		
授業概要 （大まかな流れ）	①講義：アートを社会に開き、社会をアートに開く ②講義：美術・芸術の原理から美術教育を考える ③討論：芸術の原理から美術教育実践を振り返る ④講義：美術・芸術教育の考え方を見直す ⑤討論：魅力的な図工・美術の題材や方法 ⑥試験		
活用した資料・データ等	・ パワーポイント資料 ・ 子どもの美術作品の写真や実物		
講習に関する感想	1）内容（試験等を含む） 今回は受講生が2名と極端に少なかつた。更新講習が始まって以来10名以上は受講してきたが、今回はこのような事態になった。 受講者評価は、例年かなり高い評価になっていた。 今回も、総合的な評価の項目は2名とも4であり、「本講習の内容・方法」「本講習の成果」については、2名とも8項目中4が6項目、3が2項目になっており、自由記述をみても内容的には満足を得る内容になっていることが見て取れる。 今回の人数の少なさについて、1名の受講生は「(実技にばかり流れて)受講生側の意識の低さが問題」と指摘しているが、やはり来年以降の講習のテーマや内容の再考が必要と考える 2）運営（活用機材、会場、補助員等） 受講生から、運営面として受講生の少なさが指摘されていた。 受講者数が少なかつたこともあるが、補助員なしでも運営上支障はなかつた。 3）その他 受講生の数に合わせて、会場も変更する必要があると感じた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	南 学	記入年月日	2016 年 6 月 28 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 (選択講習)	講習開設日	2016 年 6 月 11 日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 人数：9人 小中高教諭	講習会場 (教室等)	304号教室、PBL31教室
講習名	はじめてのゲーミング		
講習の目標	本講では、児童（生徒）主導型の授業形式であるゲーミングについて、はじめて触れる教員を対象に紹介していきます。ゲーミングはあらかじめ設計した世界のなかで児童（生徒）が主体的に行動することで、その世界に横たわるルールやしくみを感じ取りながら学んでいく方法です。受け身の授業よりも意欲が高まり、深く理解させやすい利点があります。なるべく実際にゲーミングをしながら、その可能性をすることを目標とします。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. ゲーミングとは 2. ゲーミングの利点 3. ゲーミング実践 4. ゲーミングの適用可能性		
活用した資料・データ等	・パワーポイント資料 ・トランプなどゲーム教材 ・ゲームのルールや目的に関する資料 ・ゲームの振り返り用紙		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・分科会において昨年と多少ゲームの入れ替えをおこなった。 2) 運営（活用機材、会場、補助者等） ・資料が多く、事前の準備はたいへんであったが、当日は適切にサポートしてもらい、助かった。 ・机が重く、移動がたいへんであった。 3) その他 ・今回の内容をぜひ現場で活用してもらえるところからうれしいです。 ・昨年までとちがい、著しく受講希望者が減りました。参加されている受講者の反応はさほど変わらないため、評判などの問題ではないようにも思います。なにか考えられる原因がありましたら教えていただきたいと思っています。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	三谷 義英	記入年月日	2016 年 6 月 14 日
講習の区分	必修講習・O選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 11 日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 人数：37名	講習会場 (教室等)	教育学部2階201号
講習名	学校保健		
講習の目標	学校保健領域における、突然死、アレルギー、感染、精神的問題の把握		
授業概要 (大まかな流れ)	園児、児童、生徒が、安全で健康的な学校生活を送ることができるよう、学校生活の場で遭遇する医学的課題について学ぶことを本講習の目的とする。具体的には、以下の4つの内容について4人の専門領域の講師がオムニバス形式の講義を行う。 1. 心臓病と突然死 2. 食事アレルギー 3. 学校での感染症と対応 4. 軽度発達障害		
活用した資料・データ等	これまでの論文発表データ、公的機関のホームページ情報、症例データ		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 比較的热心に参加し、試験結果も概ね良好。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） PC活用、資料配布、試験も問題なし。 マイクが故障。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	長尾 みづほ	記入年月日	2016年 9月 1日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016年 6月 11日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 人数：37人	講習会場 (教室等)	教育学部1号館 2F 201教室
講習名	学校保健（アレルギー疾患）		
講習の目標	アレルギー疾患、特に食物アレルギーは、近年有病率の増加していることや、アナフィラキシーを起こす重症児が就学年齢以降も少なからず存在することが指摘されている。今年3月に文部科学省からも食物アレルギーの対応について研修資料やイベントレナーナーなどの資料が配布されており、教育現場でも対応が要求されている。一般的に必要とされる食物アレルギーの知識について、病因と病態、可能な対応方法、保護者や医療機関との連携づくりなどについて述べ、研修資料が各学校でも活用されやすいように文部科学省が平成27年に作成した資料を用いて要点を説明した。		
授業概要 (大まかな流れ)	10:30-11:50 講習 文部科学省が配布した食物アレルギーの病態、特異な食物アレルギー、疫学などの説明 診断方法や、誘発症状について 症状出現時の初期対応、アナフィラキシー時の対応、特にエビペンについて 児童生徒が食物アレルギーを学習するためのツールの紹介 プロジェクトを用いてスライドと資料を使用した。 エビペンの説明については使用方法は知っていても、どういった状態のときに何に注意して使用するかを踏まえておこなった。 学校での対応については、学校や保護者からよく受ける質問事項について例をあげながら講義の中で説明した。 子どもへの学習資料などの案内も行った。		
活用した資料・データ等			
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・基本的な知識を有する人としてでない人がいることを配慮した。 ・実際にどう対応するのか、具体例を挙げて説明した。 ・東京都のマニュアルが作成されているため紹介し、迅速に対応できるよう説明した。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） ・これまでエアコンの操作に手こずっていたが、今年は補助の方や事前の説明が周知されており、困ることは無かった。 3) その他 ・事前に関心事項についてアンケート内容を行うことができたので、準備がしやすかった。 ・どのような問題が正答率が低いかわからなかったため、何が難しかったか正答率を教えて欲しい		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	菅 秀	記入年月日	2016年 6月 14日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 O選択講習	講習開設日	2016年 6月 11日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 人数：37人	講習会場 (教室等)	三重大学教育学部校舎1号館2F 201教室
講習名	学校保健（学校での感染症予防と対応）		
講習の目標	小児でよくみられる感染症の経路、感染予防、感染拡大予防に関する知識を習得する。		
授業概要 (大まかな流れ)	13時00分から14時20分まで、パワーポイントスライドを用いて、講義を行った。		
活用した資料・データ等	パワーポイントスライドおよび印刷資料。		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 皆さん、熱心に聴講されていました。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 特に問題なし。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	淀 太我	記入年月日	2016 年 6 月 24 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 (選択講習)	講習開設日	2016 年 6 月 19 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中・高 教諭 人数：19 人	講習会場 (教室等)	教養教育1号館 105 号室
講習名	「生物多様性」総ざらえー概念・保全から外来生物問題までー		
講習の目標	抽象的で難解な「生物多様性」について理解を深める。また理解の多い保全についても正しい認識を持つことにより、当該項目に関する教育能力を向上させる。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:10～10:30 生物多様性の概念 10:40～11:50 生物多様性の現状 13:00～14:30 外来生物 14:40～15:50 生物多様性の保全 16:00～16:40 テスト (ノートのみ持ち込み可。資料持ち込み不可)		
活用した資料・データ等	パワーポイント資料		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・当日の天候が悪く、計画にあった大学構内での野外実習ができなかった事が残念であった。 ・野外実習が無くなった分を前後の講義内容を膨らませることで対応したが、技術的な未熟さも有り、最後の項目の時間が不足して早足になってしまった。 ・小学校から高校までの、教科としては理科や水産を担当する教諭を対象としたが、受講者は保育士から県内有数の進学校の生物教諭まで幅広く、受講者の事前の知識やテーマに対するモチベーションに大きな差があった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・教室のドアが前一つのみしか出入りできないような机配置になっていたが、後ろのドアも使えた方が良かった。 ・エアコンが 90 分で自動で切れるのは不便。また、休みに受講者の一人にエアコンカードを渡して管理させるといったのも無理がある。 ・受付終了後の補助員の席を予め確保しておいた方が良い。例えばエアコンカードの機器の近くにして、講習時間中のエアコンカード差し直しを補助員がやりやすくなる等。 3) その他 特になし		

担当講師	川向 洋之 肥田野 久二男	記入年月日	2016 年 6 月 24 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 (選択講習)	講習開設日	2016 年 6 月 19 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中・高 (数学担当) 教諭 人数：6 人	講習会場 (教室等)	教養教育校舎2号館 181 教室
講習名	解析学をたのしむ ― 級数、積分のひろがり ―		
講習の目標	級数、積分といったテーマを通じて解析学の基礎に触れ、自らの解析学の知識を振り返り・再構成するとともに数学の新しい発見を目指す。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00 ～12:00 無限級数のなし。(有限和では起こり得ない現象を紹介した) テスト 13:00 ～16:40 リーマン積分の定義の説明、リーマン積分不可能な関数の例 大きさが分からない集合、望ましい「測量器」とルベーグ式の積分の定義。テスト		
活用した資料・データ等	講習用プリント、プロジェクター、コンピュータ		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 専門性へのみ陥らないように配慮しながら、2名の講師によって、解析学の問題・現象を様々な角度から考察し、なおかつ、丁寧に説明するよう留意した。更に、中学・高等学校の通常の数学の授業ではなされないであろうアプローチの方法も紹介するなど新しい発見がなされるよう工夫した。また、豊富に例を取り上げる・コンピュータを適宜活用するなど工夫したため、退屈にならない講習にできた。試験問題も講習内容に即した適当な問題を作成することができた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 出欠の管理などで補助者が手際よく動いてくれたため、すべて円滑に運営できた。 3) その他 2名の講師が、各々3時間ずつ、異なる話題を提供するというスタイルは、受講者からいろいろな課題に触れ興味も広がる等の点で評価が高かった。また、受講者が学生時代に学んだ内容であるが、新しく異なる視点から数学に触れ楽しむことができて有意義であったとか、数学の面白さを再発見した、もっと数学を知りたくなった、等の良い評価も得られた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	関 俊一	記入年月日	2016 年 6 月 21 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 19 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭 人数：12 名	講習会場 (教室等)	美術棟 3F 絵画教室
講習名	図工・美術教育のための素材演習/アクリル表現のバリエーション		
講習の目標	1. 児童や生徒が興味を抱き新鮮な感覚で楽しく取り組む事のできる教材や表現課題を考えて行く。 2. 受講者の表現のバリエーションを増やす事を目的とし、アクリル絵の具とメディウムを使用した実習を通し、アクリル樹脂の特徴と効果を理解する。 3. 今後、実際の授業でどのように画面作りや造形に反映させられるかを考える。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00～ガイダンス 9:30～図画工作・事例紹介 10:00 図画の技法 10:20～絵の具について 10:30～アクリル絵の具・メディウム実習 午後 13:00 ジオラマ制作 16:00～16:40 講評・ディスカッション		
活用した資料・データ等	ターナー色彩 (株) 絵の具について(プリント) アクリルガッシュパンフレット ゴールデン色見本 過去の参考作品		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・絵の具の分類についての解説を行い、基本的な部分を説明した。 ・アクリル絵の具やメディウムの特徴を理解し、サンプルの制作を通し表現の可能性など新たな発見を得ていたようである。 ・ジオラマ制作では、造形と塗装によるリアリティーを追求し、アクリル絵の具の立体的作品への応用を実習を通し実際の授業にどのように反映させられるかヒントを掴んでいただけたようである。 ・他の受講生の作品を見る事でさらに発想や表現の工夫など、充実した内容になった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・はじめに受講者に自己紹介をさせた事、大きな机を囲む座席にした事で自然に意見交換をしながら制作できるように図らった。 ・画材、素材の準備を細部まで検討し気遣う事で受講者が快適に制作できたと思う。 ・4 年生のアシスタントは昨年に引き継ぎの採用であったため受講生への気配りと解説が適切だった。 3) その他 ・受講者から、表現のバリエーションの多様性と課題への応用について参考になったとの感想をいただいた。受講生同士の意見交換も大変成果があったと思われる。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	後藤 洋子	記入年月日	2016 年 6 月 30 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 19 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼稚園、小、中学校、高校教諭 (保体) 人数 19 名	講習会場 (教室等)	屋内トレーニング場
講習名	体づくり運動		
講習の目標	学習指導要領における「体づくり運動」の取り扱い、ねらい、内容、評価の観点について理解するとともに、教材として取り上げられる各種運動の実習を通して「体づくり運動」の特性や工夫の観点を理解することを目標とした。		
授業概要 (大まかな流れ)	オリエンテーション：本講習の流れ、内容と時間配当、講習本部からの諸連絡などを伝えた。 講習 1：学習指導要領における「体づくり運動」のねらい、内容、取り扱い等について、殆どの特性に基づいていることを解説した。 講習 2：各種ねらいに応じた運動を実習するとともに、運動を具体的に工夫例、身近な用具の活用例、運動を誘発する用具の活用例などを紹介したり、実践したりした。 講習 3：数人のグループに分かれて、実習した運動、テーマの設定を参考に、ねらいに応じた運動を組み合わせて構成し、発表した (実技試験)。参加者の相互評価により、評価の観点等を確認した。		
活用した資料・データ等	小学校、中学校、高等学校学習指導要領解説 (体育編、保健体育編)、学校体育実技指導資料第 7 集 体づくり運動 (文部科学省)、健康づくりのための運動指針 2006 (運動所要量・運動指針の策定委員会)、「多様な動きをつくる運動 (遊び)」パンフレット (文部科学省)、中学校・高等学校「体づくり運動」リーフレット (文部科学省)、その他		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) この領域は学校体育で扱われる内容であるが、幼稚園教諭、保育士が参加者の大半を占めていたことに不安があったが、「仲間との協力」を協調したためか、講習全体を通して、参加者同士がお互いに教え合い、学び合う姿勢が見られ、違和感なく良い雰囲気での講習を進めることが出来た。参加者の感想によると、運動の楽しさを理解したというものが多く、本講習のねらいは概ね達成されたと思われる。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 本講習は会場が本部と離れていたが、講習補助員が本部との連絡調整を担当したことで、スムーズに講習を進めることができた。講習補助員は大変に有益な存在と思われ。 会場は、大雨の影響もあり、湿度が大変高く、受講者が滑って転倒してしまったり、怪我は無かった。モップをかけたが効果は無かった。今後、対応を考える必要がある。 3) その他 実技講習なので、参加者は着替え、シューズ等持参する荷物が多い。また交通の不便な遠方からの参加者もいるので、自家用車の乗り入れについて考慮する必要があると思う。		

担当講師	機部 由香	記入年月日	2016年 6月 21日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 O選択講習	講習開設日	2016年 6月 19日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中学校教諭 人数：24人	講習会場 (教室等)	教育学部1号館PBL4教室
講習名	学校における食育の実践		
講習の目標	子どもたちの食生活の現状を捉えることから課題を見出し、健全で豊かな食生活を実現するために必要な学校における食育の在り方と効果的な進め方について理解する。		
授業概要 (大まかな流れ)	9：00～10：20 食をめぐる様々な課題についての演習と講義。 10：30～11：50 学校において食育を進める上で目標となる食生活のあり方についての講義。 13：00～14：20 学校における食育の推進を行う上でのポイントを押さえる。具体的な実践事例を用いた演習を行った。 14：30～15：50 これまでの実践事例を紹介した。また、味覚実験を行った。 ・国民栄養調査など、食に関する調査データ ・食生活指針、食事バランスガイド ・食に関する指導の手引		
活用した資料・データ等			
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 受講生の関心の高い実践事例の紹介を十分でできなかったという昨年の反省を生かし、総論やグループワークの時間を短くして、時間を取る工夫をした。しかし、グループワークは有効な情報交換の場となることから、この時間も十分にとるべきであると感じた。次年度は、さらに内容を精査していきたい。感想の評価はおおむね高く、ぜひ食育を進めていきたい、実践していきます、という感想も多くあったので、目的はおおむね果たせたと思う。 試験も全員が合格レベルに達していたが、こちらの意図した内容をすべて含む記述は少なかった。次年度、同じ講習を実施する場合、試験のときには、重要なキーワードを含む問いに変更したいと思う。 2) 運営 (活用機材、会場、補助者等) 特に問題なし。 3) その他 保育士、幼稚園教諭、高等学校教諭が受講していたので、ポイントが絞りがちやりにくかった。主たる受講対象者として明記している中で、その受講者の評価は低くなかったが、満足してもらえたかどうか疑問である。できるだけ、対象者を絞りたい。		

担当講師	郷右近 歩	記入年月日	2016年 6月 22日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016年 6月 19日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：25名	講習会場 (教室等)	特別支援教育実習室
講習名	特別な支援を要する子どもの発達と保護者支援		
講習の目標	特別な支援を要する子どもについて、教師は様々な思いを抱きつつも、保護者と共有することにより困難を感じている。保護者の側も、教師の言葉や対応に様々な思いを抱きつつ、適切とは言えない伝え方をしてしまう例が少なくない。両者の間に立ち、子どもの発達を第一に考え、各々の立場を尊重することで、今後のより良い関係性の構築に向けた議論を行う。		
授業概要 (大まかな流れ)	イントロダクション 保護者の側の視点 就学に至るまでの保護者の思い グループワーク 事例紹介		
活用した資料・データ等	めずらしいひと (ナカニシヤ出版) 映像資料 (18トリソミー) 映像資料 (在宅重症心身障害児とその家族)		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 選択講習ということで、受講者の問題意識が明確であった。(必修講習や選択必修講習よりも主體的な姿勢がみとめられた。) ただし、テーマが「保護者支援」であるにもかかわらず、保護者への対応に困っている「教師支援」を求める意識が透けて見える受講者も見受けられた。そのため、あくまでも「保護者支援」についての講習を行った。多くの受講者は、講義の最後には、保護者支援の重要性について気付いたようだが、最後まで「私を助けてほしい」という意識の一部の受講者には、本講習の目的が伝わりきらなかったように思う。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ふだんから使用している教室の機材を利用できたので、ストレスなく講義を行うことができた。 3) その他 アンケートの感想の一部を抜粋した。「先生からの投げかけが多く、答えは何かと考えていたが、その投げかけにより、課題を戻す、自分自身が深く考える機会となった。」「自身に欠けていた保護者の視点について改めて気付かされたことも多く、今後、自身の態度や言動は気を付けたいといけないなど反省した。」「私も、今、子育て中の母親として、心に響くものがありました。」「内容が深く、保護者としてのお話で、心を打たれた講義でした。」「保護者の置かれている立場や大変さなど、わかっているつもりでも、それぞれ事情や現状は違い、もっと自分から知らうとしたり理解しようとする姿勢、話を聞くことの大切さを感じ、今日学んだことを生かしていきたいと思えました。」「全員ではないかもしれないが、多くの受講者に本講習の意義を感じて頂けたように思われた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	須賀野 仁志	記入年月日	2016 年 6 月 30 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 19 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全校種（幼・小・中・高校・特別支援等）教員 24 人（教室等）	講習会場	総合情報処理センター第 4 端末室
講習名	携帯タブレット端末を利用した音声付きスライドショーの作成		
講習の目標	・児童生徒が携帯タブレット端末を用いて、どのように学習ができるかを知る。 ・携帯タブレット端末 iPad にインストールしたアプリ「ロイロノート」の扱い方やそれを用いたスライドショー制作の方法がわかるようになる。 ・学習者が学んだことや経験したことをまとめ・発信する手法として、「ロイロノート」を用いた音声スライドショーが作れるようになる。		
授業概要（大まかな流れ）	受講参加者同士、サポート学生との自己紹介の後、携帯用タブレット端末 iPad にまず触り、学習面でのんかなことができるかを知る。 ・iPad アプリ「ロイロノート」の基本的な操作を学ぶ ・音声録音、画像撮影、切り替え効果、BGM の付け方等 ・「ロイロノート」を用いて、音声付きスライドショーを試作する。 ・携帯タブレット端末や「ロイロノート」を用いた先進的実践例について話を聞く。 ・「ロイロノート」を用いて、本格的に音声付きスライドショーを作る。 ・「ロイロノート」を用いたスライドショー制作マニュアル 須賀野研究室編		
活用した資料・データ等	1) 内容（試験等を含む）		
講習に関する感想	・教育学部授業「教育の方法と技術 1」でデジタルストーリーテリングの作り方を学んだ学部生が授業の発展学習として、更新講習でのスライドショー制作をサポートした。学生が 7 名（午前）参加したので、3～4 名の講習参加者を 1 人の学生がサポートできた。 ・携帯タブレット端末 iPad や iPad 用「ロイロノート」は、これまでタブレット端末に全く触ったことがない人が使えやすく、感覚的に操作できるので、講習時間 6 時間の間に、多くの受講者は、スライドショー作品を制作することができた。サポート学部学生は、授業で携帯タブレット端末 iPad や iPad 用「ロイロノート」を扱ったことがなかったが、更新講習受講者とともに一緒に操作・支援できたのでよかった。 ・講習参加者のアンケートに「今まであまり積極的に使おうとしていなかったタブレット、思っていたよりも身近に感じられた。しかし、自分 1 人ではなかなかわからないことも多く、このような機会があった大変よかった。」「今日 1 日でスライドショーが作れるとは思いませんでした。とても楽しかったです。」「とても自分にとって身になる内容であった。タブレットが自分のものや生徒が使えるものが実際に手元にあるという現状が残念。」「今日は 1 日本当にありがたうございました。8 時間があっという間でした。今日教えていただいたことをぜひとも子どもたちの指導に活かしていきたいと思います。明日からの指導が楽しみです。」「というコメントがありました。この講習内容や携帯タブレットを普及させる活動は今後も続けていきたい。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） ・大学の総合情報処理センターのコンピュータやインターネットが使え、何も問題なく、講習できよかった。 ・受講参加者との交流を行う Moodle は、昨年度まで学外からもアクセスするため、三重大学 Moodle が使えませんでした。今年から受講者が使うアカウントを 6 週間有効としていただいたので、三重大学 Moodle で講習後も活用でき本場によかった。Moodle の事前準備の時間も少なくなり助かりました。 3) その他 ・iPad を準備するのは、今回 24 台と多く大変でした。次年度以降、募集人数をもう少しを増やせるといいですが、...		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	菅原 洋一	記入年月日	2016 年 6 月 21 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 19 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：人数：40	講習会場	工学部 1 番教室（教室等）
講習名	三重の風土と住まい		
講習の目標	三重の民家の特徴について、基本的な理解ができる。民家の変容とその要因について、基本的な理解ができる。		
授業概要（大まかな流れ）	10:20～11:50 菅原分担当の講義「三重の民家」パワーポイントと板書を併用した。		
活用した資料・データ等	パワーポイントの講義内容を配付資料とした。また、関連する公開建物の一覧表を配付資料とした。 参考資料 - 三重県史建築編（菅原洋一他） - 上野市史文化財編（菅原洋一他） - 安濃町史（菅原洋一他） - 紀勢町史（菅原洋一他） - 関宿の町並（菅原洋一他） - 市場庄の町並（菅原洋一他） - まつり祭津まつり（菅原洋一他） - 藤堂藩の研究（菅原洋一他） - 建築史の構想力（菅原洋一他）		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 参加者の意欲や関心の高さをを感じる事ができ、気持ちよく講習ができた。屋休みを利用して、希望者に登録文化財レーモンドホールを案内し、昼食や休みにも利用いただいたが、参加者との交流もでき、有益であった。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 円滑に進んだが、受講者数からすれば、教室はやや狭いと感じた。屋食時、参加者の半数は教室に残り、半数はレーモンドホールに赴いたが、全員が教室で休憩すると、相当窮屈であったと思われる。 3) その他		

担当講師	浦山益郎	記入年月日	2016 年 6 月 22 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 19 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：40人 人数：40人	講習会場 (教室等)	工学部一番教室
講習名	三重の風土と建築		
講習の目標 (浦山担当の 講義の達成 目標)	浦山担当講義：「風土と建築－エゴが住まいづくりのヒント－」 風土（気候や地形、それらの制約下で使用される建築材料など）と建築や住まいの様式との関係および、環境へのインパクトを軽減するための自然エネルギー活用の方え方を理解し、こどもたちに説明できる。		
授業概要 (大まかな 流れ)	1. 風土とは何か 2. 住まいのかたち 3. 家相は迷信か 4. 建築環境のアクティヴ/パッシブコントロール 5. パッシブ・クーリングの考え方や技術 6. 風土に配慮した現代建築 7. 身近な例－エコスクール		
活用した資料・データ等	講義用に作成したパワーポイント 参考・引用文献 ・ 利土哲郎：風土 人間学的考察、岩波書店、1981 ・ オギエスタン・ベルク：風土としての地球、筑摩書房、1994 ・ 清家清：家相の科学、光文社、1976 ・ 目崎茂和：図説 風水学、東京書籍、1998 ・ ボール・オリバー：世界の住文化図鑑、東洋書林、2004 ・ 小松義夫：地球生活記－世界ぐるりと家めぐり、福音館書店、1999 ・ 福島駿介：琉球の住まい、丸善、1993 ・ 益千義弘：湖上の家、土中の家、農文協、2006 ・ 加藤啓介ほか：図説アキスト 建築環境工学、彰国社、2008 ・ 石田信男ほか：自然エネルギー利用のためのパッシブ建築設計手法事典、彰国社、2000 ・ 建設省住宅局住宅生産課：パッシブシステム住宅の設計、丸善、1985 ・ Eoin O. Colafagh et al. : The Climetic Dwelling, James & James Ltd., 1996 ・ Philip Jodidio : PLANO - Renzo Piano Building Workshop 1966-2005, TASCHEN, 2005		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 講習の目的あるいは講習内容について、教員免許更新制度の趣旨にある「教員としての資質保持」のために、継続学習（CPD）の一環として実施する講習なのか、教育指導に役立つ最新の知識技能を身につけさせるための講習なのか、もっと明確な指示があっても良いと考える。 私は、当方の専門知識をベースに風土と建築の関係に応用された技術、さらにその背景にある考え方について講義することによって、本筋に戻って子供たちに環境学習をする上での情報を提供しようとして企画した。当方の知識能力等の限界もあるが、もっと明確な指示があれば、専門教育の知識や方法論をどのようにに提供すれば上の趣旨に応えうる講習になるのか、講義内容や講義方法を考える参考になったと思われる。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 講習の会場を工学部に設定したため、やや連絡不足があった。特に、朝の解錠についてやや難があった。しかし、特設の支障はなかった。 3) その他 とくになし。		

担当講師	富岡義人	記入年月日	2016 年 6 月 22 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 19 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：40人 人数：40人	講習会場 (教室等)	工学部1番教室
講習名	「三重の風土と住まい」風土に配慮した住宅設計		
講習の目標	達成目標： 近代建築史における地域性の阻却と復興の経緯について概略的に理解する。 地域的風土を形成する町並みの形態的特質およびその阻害要因を理解する。		
授業概要 (大まかな 流れ)	第一部) 近代建築思潮の高まりに呼応するように、建築の地域性はいったん傍流へと押しやられ、住宅問題が主たる関心事になりました。一方その動きの裏で、多くの建築家が伝統や地域性の復興を密かに企てていました。その経過を論じます。 第二部) 住宅の形は、町々の基本的な通奏低音です。そこには、しっかりとした形式に基づく自由な自己表現が認められます。このような町並みの基本的形式、ヴァナキュラー（土着的）建築に見られる造形の「秩序と逸脱」についてお話しします。 第三部) 建築によって地域的性格を高めていくためには、その破壊を食い止めることとです。繊細な伝統を一拳にぶちこわしにするような不感症を排除する必要があります。このような文脈で、かつての日本の「景観」の思想に触れます。 第四部) 死んだ伝統に埋没するのではなく、地域の伝統を絶えず新しく作り直していく創作的な立場は、どのようなところにありうるのか、講義のまとめとして、この問題を見つめる建築家の様々な視線を、対照する形で説明します。		
活用した資料・データ等	配布資料、パワーポイント		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 「問題3：『総合的な学習の時間』等の教育セッションにおいて、地域の町並みの美しさを理解し、それを維持・向上させることの大切さを教育するには、どのような教育方法や課題などが考えられるか、あなたの考えを記しなさい。その際、既存の学習指導要領や科目編成の枠組に、過剰にとらわれる必要はありません。」を出題した。おおむね良い解答が得られたが、美術系の作業を組み合わせた者が少なかつた印象であつた。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 直接の講義については特に問題なかった。 なお、更新講習担当の事務型からくるメールの内容が複雑で、添付を開かないと分からない事象が多く、多忙の際に見落としが生ずる危険が大いにある。連絡や依頼は、もっとはっきりと、端的な文章で行う必要がある。 3) その他		

担当講師	玉城政和、森山貴之	記入年月日	2016年 7月 4日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 (選択講習)	講習開設日	2016年 6月 25日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中高の数学科担当教員 人数：9	講習会場 (教室等)	教育学部PBL42教室
講習名	魅惑の数「黄金比と円周率」		
講習の目標	影刻や絵画だけでなく身の回りにおける図形や自然現象などにも現れる黄金比について、単なる比率ではないそれを持つ様々な数的事象を説明し、その魅力に触れ理解する。 整数演算に現れる規則性を発見しそれを応用した数ゲームの仕組みを理解する。 円周率 π を数学的な立場からだけでなく、そこに現れる文字の乱雑さ・出現率の観測、誕生日の発見といった体験を通して楽しむ。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00 - 11:30 「黄金比」の魅力 11:40 - 12:00 午前試験 (休憩) 13:00 - 13:50 整数演算の規則性 14:00 - 16:10 「円周率」の魅力 16:20 - 16:40 午後試験		
活用した資料・データ等	・「黄金比」に関する講習ノート ・「円周率」に関する講習ノート ・プレゼンテーション資料 ・誕生日検索プログラム		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 十分な準備を行い、楽しみながら新しい発見のできる講習にしたつもりです。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 講習スタッフ・補助員の皆さんには、機材のセッティング、机・椅子の移動、資料の配布、アンケートの回収確認などの的確に対応して頂き大変助かりました。 3) その他 受講者の皆さんには、結構な長い時間でしたが、最後まで集中力を絶やさず話を聞いて頂き、大変有意義な講習になりました。 ・今回得た知識を現場として子供達に深い学びとなるように思います。 ・普段は学問的にとらえないので、良い学習の機会になりました。 ・黄金比や円周率など、あらためて勉強できてよかった。 等の意見・感想を頂き、時間をかけ試行錯誤を繰り返しながら資料の収集とノートの作成、プログラム開発にあたった甲斐がありました。		

担当講師	平賀伸夫	記入年月日	2016年 6月 29日
講習の区分	必修講習・O選択講習	講習開設日	2016年 6月 25日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中、高校教諭 人数：13名	講習会場 (教室等)	三重大学教育学部1号館4階 402教室
講習名	子どもの学びにそくした理科の授業づくり		
講習の目標	1. 「新しい科学論」にもとづき、「科学とは何か」についての考えを深める。 2. 4つの異なる展開の探究アプローチを体験するとともに、「ラーニングサイクル」モデルの理解を通して、「科学をどう伝えるか」の考えを深める。 3. 「科学を伝える」という観点から、理科授業を再考する。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：9:00～11:50 「科学とは何か」についての考えを深める。 (科学とはどのような営みか、科学的と非科学的の違い、科学的な態度とはどのようなものか等について、講義、受講者同士のディスカッションを行う。 午後：13:00～15:00 「科学をどう伝えるか」についての考えを深める 4つの異なる展開の探究アプローチ(A. 自由に調べてみよう B. 手順にそって調べてみよう、C. 知識を活用して調べてみよう、D. 資料を読んで調べてみよう)の体験、「ラーニングサイクル」モデルの理解を通して、「科学をどう伝えるか」の考えを深める。 15:00～15:50 「科学を伝える」という観点から、理科授業を再考する 科学のとらえ方、伝え方の知見をふまえた上で、受講者同士のディスカッションを通して、理科授業を再考する。 16:00～16:40 試験(資料持ち込み可)		
活用した資料・データ等	・自作の配布資料 ・説明のための自作のパワーポイント資料(これについても、印刷物を配布した)		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・受講者からのよい評価を得ることができた。 ・受講者同士のディスカッションの時間を十分に確保できた。余裕をもって展開できた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助者等) ・4つの異なる展開の探究アプローチ(午後実施)をおこなうため、毎年、受講者6～8名に対して1名の実験補助者(学生、運営スタッフ1名を含む)が必要であった。今回、実験補助者が2名いたので、スムーズに運営できた。 3) その他 特になし		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	弓場 徹	記入年月日	2016 年 12 月 19 日
講習の区分	必修講習・選択必修・O選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 25 日
主な受講対象者と人数	保・幼・小・中・高・特支、教育委員会の音楽科担当教師および歌唱法・発声法を学ぶたい他教科の教師	講習会場 (教室等)	講堂小ホール
講習名	歌唱・発声教育		
講習の目標	1. 受講者各自がもつ教育現場での声の悩みに対し、それぞれが解決に向けての具体的な手探かりを掴む 2. 必要な発声能力を理解し、実践力を身につける 3. 教育現場での基礎発声の応用の仕方を実例を通して学ぶ		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00～11:50 発声の問題とその解決法 参加者自身の発声の悩みや教育現場での問題を明確化し解決案を提示した 午後 13:00～14:00 音声障害にならないための発声メカニズム研究に基づいた合理的な発声法について理論的説明をデモンストラーションを交えて行った 14:00～14:50 YUBAメソッドによる発声実践 声の合理的な使い方のデモンストラーションを交えた解説 参加者に発声してもらい、それぞれの状態に応じた改善方法を指導 15:00～15:50歌唱実践 歌曲における発声の実践応用及び音楽作り 合唱を用いた発声の実践応用及び音楽作り 16:00～16:40 テスト (ノート・資料等持ち込み可)		
活用した資料・データ等	・自著の発声に関する書籍の抜粋した資料 ・ソロ楽譜と合唱譜 ・音声顕微鏡(声帯活動、声帯ポリプ)の画像 ・音高を作る発声メカニズムに関する資料 ・YUBA メソッドのトレーニング手順表 ・同メソッドを用いた音域拡張に関する研究データ ・ボイストレーニング用 CD 等		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含) ・昨年度の記録及び受講者のレポートを参考に、昨年度準備した講習内容を再考し、講習を改善することができた。昨年度の講習を担当した経験を活かすことができた。 ・保育園から高等学校で勤務している教諭まで対象の幅が広いため、それぞれの教育年齢に合わせた教材選択や指導方法などについて取り上げた。受講後のアンケートを通してこのことが好評であったことがわかる。 ・講習では、模範歌唱などのデモンストラーションを行い分かりやすく解説をしたり、受講生を学生にみたてて授業での実践シュミレーションを行った。 2) 運営 (活用機材、会場、補助者等) 補助員として、ピアノ伴奏に携れた学生を使うことができたことは、非常に有効であった。スタッフのサポートがよく、概ね順調な運営状態であった。 3) その他 耳鼻咽喉科の音声外来における診察対象で、学校教員が最も多いことは知っていたが、事実講習参加者に「声帯ポリプ」「声帯結節」「声枯れ」等の問題を抱えた現職教諭が多かった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	上山 浩	記入年月日	2015 年 7 月 1 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2015 年 6 月 25 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中・高教員 人数：6	講習会場 (教室等)	三重大学教育学部 美術教育講座 図書室
講習名	映像メディア表現 (図工・美術科)		
講習の目標	映像メディア表現の特徴的な教材としての3DCGの基本概念を理解し、実際に基本的な表現技術を獲得する。		
授業概要 (大まかな流れ)	09:00 ガイダンス 10 分 09:10 基礎理論の講義 (資料映像) 20 分 ・3DCGの基本理解 (資料映像) ・学生作品・生徒作品の鑑賞 09:30 基本実習 1 (立体配置と動画の概念) 50 分 ・モデリングウインドウの理解 ・基本形オブジェクトの配置・移動・回転 10:20 基本実習 2 (立体配置と動画概念) 60 分 練習課題【色ガラス回転】 ・オブジェクト配置 ・アニメーション設定の基本、レンダリング設定 11:20 休憩 10 分 11:30 基本実習 3 (立体形成) 30 分 ・平面と押出・旋回 ・球体等からの変形 (拡大・縮小、自由変形) ・幾何学形体の組み合わせ (積み木、演算) 12:00 昼食 60 分 13:00 基本実習 4 60 分 練習課題【歩く金属体】 ・間接動作の設定 (回転原点移動、オブジェクトリンク) ・アニメーションパレット操作 14:00 休憩 10 分 14:10 自由制作 120 分 16:10 休憩 10 分 16:20 鑑賞会 20 分 16:40 受講者事後評価		
活用した資料・データ等	3DCG アプリケーションソフトウエア (フリー)、オリジナル資料、3DCG マニュアル ル メタセコイア 4 標準テクニク ロープリキータ制作で学ぶ3DCG		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含) 特になし 2) 運営 (活用機材、会場、補助者等) 特になし 3) その他 特になし		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	鶴原 清志	記入年月日	2016 年 7 月 5 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 25 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中・高 人数：25	講習会場 (教室等)	教室・体育館・グラウンド
講習名	学校教育におけるゴルフの取り上げ方と活動の工夫		
講習の目標	「どこでも・だれとでも」、また「やさしく」をねらいに工夫されたスナッグゴルフを手掛かりに、学校教育におけるゴルフの学習の意義を考えるとともに指導法を理解する。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. マナー、エチケット、スナッグゴルフの解説、飛球法則 2. スナッグゴルフの基礎と基本 3. コースセッティング、ゲームの仕方、ルール・マナー・エチケットの実践 4. 弾道測定器による計測		
活用した資料・データ等	「スナッグゴルフの解説ビデオ」スナッグゴルフ日本事務局 「SNAG GOLF スナッグゴルフ講習テキスト」スナッグゴルフ日本事務局 「ゴルフスイング論」NGF JAPAN		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・ゴルフ未経験者は数名程度であったが、基本的な事項についての理解はスムーズであった。 ・スナッグバレー等の練習用具が興味を高めたと思われる。 ・ゲームの仕方を通して、ゴルフのマナーやエチケットの涵養を図れた。 ・グラウンドでのゲームは、十分楽しめるものであったが、雨のため十分な時間が取れなかった。 ・弾道測定器による計測は希望者のみとなった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・用具の取り扱い易は、簡単であった。 ・学生補助の存在は、運営をスムーズにさせ、効率を高めたことになった。また、後片付けについても非常に手助けとなった。 3) その他 ・「楽しい」、「授業やクラブ活動で導入したい」、「小学校の低学年でも教材として価値あるものである」、「ゴルフの導入の段階で取り入れたい」、といった意見が多く出された。しかし、道具が高価なのが難点であるといった意見も多いものであった。また、コース設定は、時間がかかり、1 時間で実施することは難しいとの意見もあった。昨年度と同様に、時期を早めたが、急に暑くなり、体が慣れない状況での開催であったため、熱中症が心配であった。また、雨天の心配があり、対応が必要である。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	南 学	記入年月日	2016 年 6 月 28 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 <u>選択講習</u>	講習開設日	2016 年 6 月 25 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小中高教諭 人数：7 人	講習会場 (教室等)	304 号教室、PBL31 教室
講習名	はじめてのゲーミング		
講習の目標	本講では、児童 (生徒) 主進型の授業形式であるゲーミングについて、はじめて触れる教員を対象に紹介していきます。ゲーミングはあらかじめ設計した世界のなかで児童 (生徒) が主体的に行動することで、その世界に横たわるルールやしぐみを感じ取りながら学んでいく方法です。受け身の授業よりも意欲が高まり、深く理解させやすい利点があります。なるべく実際にゲーミングをしながら、その可能性をすることを目標とします。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. ゲーミングとは 2. ゲーミングの利点 3. ゲーミング実践 4. ゲーミングの適用可能性		
活用した資料・データ等	・パワーポイント資料 ・トランプなどゲーム教材 ・ゲームのルールや目的に関する資料 ・ゲームの振り返り用紙		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・分科会において昨年と多少ゲームの入れ替えをおこなった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・資料が多く、事前の準備はたいへんであったが、当日は適切にサポートしてもらい、助かった。 ・机が重く、移動がたいへんであった。 3) その他 ・今回の内容をぜひ現場で活用してもらえるところもうれしいです。 ・昨年度とちがいが、著しく受講希望者が減りました。参加されている受講者の反応はさほど変わらないため、評判などの問題ではないようにも思います。なにか考えられる原因がありましたら教えていただきたいと思います。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	松浦均・中西良文	記入年月日	2016年6月30日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016年6月25日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼小中高教諭 人数：30名×2	講習会場 (教室等)	教育学部1号館 201・301
講習名	子どものコミュニケーション能力を育てる		
講習の目標	対人コミュニケーションの心理学という観点から、コミュニケーション能力に関する知見を提供し、それらの知見を理解する(コミュニケーション能力に関する知識を獲得する)とともに、それらの知見を実際に現場で使えるようになる(コミュニケーション能力育成に関する指導ができる)こと		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 講習の概要の説明とグループ・自己紹介 2. 社会的ジレンマに関するワーク 3. 依頼・断りに関するワーク 4. 上手な聞き方に関するワーク 5. メタ言語に関するワーク 6. コミュニケーション能力育成に関する授業案の作成活動 7. 作成した授業案の発表 まとめ 社会的ジレンマに関する資料・頼み方／断り方に関する資料・ソーシャルスキルトレーニング(SST)に関する資料		
活用した資料・データ等			
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 講習においても、グループを組んでコミュニケーションを取りながら学習を進めたが、どのグループも盛り上がり活動が進んでいた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 補助者を2名つけていただいたが、講習の中でかならず2名の補助者が活動を進めるにあたってデモンストラレーションを行うパートが存在するため、そのように補助者をつかせていただいたことは助かった。 3) その他 特になし		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	松本 昭彦	記入年月日	2016年 7月 29日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2016年 7月 17日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中学・高校国語教諭 人数：21	講習会場 (教室等)	教養教育1号館
講習名	平家物語の人物造型 ー清盛・重衡・宗盛・知盛ー		
講習の目標	平家物語 (テキストは新潮社日本古典集成) の中で、清盛・重衡・宗盛・知盛について、有名な場面を説明することを通して人物造型を考察するとともに、平家物語全体の構想を解明する。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：清盛・知盛の人物造型 午後：維盛・宗盛の人物造型 試験		
活用した資料・データ等	新潮社・日本古典集成『平家物語』 新潮社・『平家物語』朗読CD 各種史資料		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 試験時間はもう少し長くてもよい。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 黒板がよかったが、ホワイトボードであったため、板書がしにくかった。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	余 健	記入年月日	2016 年 7 月 29 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 17 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼稚園・小学校 特別支援 人数：30	講習会場 (教室等)	教養教育校舎 1号館 205 教室
講習名	学習者(国語教育・日本語教育)の初期教育段階における文字表記の問題点と指導法		
講習の目標	国語教育、日本語教育の初期教育段階における学習者に共通する文字表記の諸問題の中から、①「撥音(っ)・促音(っ)・長音(ー)」と②「直音と拗音」に焦点をあてる。①、②の表記時において、初學者が、つますくポイントについて具体的に取上げ、音声学・音韻論の基本的な知見を援用しつつ、わかりやすく、それらの指導法を検討する。上記の問題のありかやそれらに対する指導法は、特別支援を要する幼児・児童・生徒にもあてはまるどころがあるので、できる限り日々の先生方の取り組みについてもご紹介をいただきながら、議論を深めること。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：1 コマ 9:00-10:20 本講習の目的等・基礎事項の確認(学習者の課題)① 2 コマ 10:30-11:50 基礎事項の確認(音声・音韻)② 午後：3 コマ 13:00-14:20 指導法の確認 4 コマ 14:30-15:50 指導法についてのグループワーク・発表 試験：16:00-16:40 (ノート・配布資料等持ち込み可)		
活用した資料・データ等	①本文レジュメ(音声学・音韻論の基礎事項、特殊拍習得の指導法について) ②特殊音節・拗音の読み書きに課題がある児童の指導・支援案(3篇) ③音節とモーラについての基本的な定義の説明がまとめられたプリント ④フィリピン語を母語とする日本語学習者と日本語母語話者幼児との作文例における特殊拍上の課題の確認(雪画カメラ) ⑤手鏡・サーチライト(各受講者が発音時の口腔内確認用) ⑥発声器官のビデオ ⑦特殊音節の指導に関するビデオ		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) 初期段階にあったり、特別支援を要したりする学習者の文字表記の問題の中でも、特に問題となる特殊モーラ・拗音の表記において、音声学、音韻論の理論と指導案とを今まで以上にリンクさせて考えて頂く目的は、受講者の方の試験問題の回答から、ほぼ達成できたものと思われる。しかし、届いているものと思いついて私の声が、席によっては、エアコンの音でよく聞こえていなかった点は、迂闊であつた。来年度の講習ではマイクを使用したい。また、時間が押して、グループワークを実施できなかった点も、来年度は、より内容を絞ることで、実施したい。今後、教育現場で、日本語学習者の特徴の確認や彼らの母語の特徴をしっかりと確認させて頂き、来年度は、より教育現場に即した講習となるよう、と努めたい。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) 運営スタッフの方々や補助員には、適切に対応していただき、大変助かりました。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	藤田達生	記入年月日	2016 年 7 月 21 日
講習の区分	必修講習・選択講習	講習開設日	2015 年 7 月 17 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼・小・中・高校教員 人数：26	講習会場 (教室等)	教養教育 206 教室
講習名	日本における戦国時代から江戸時代への移行をどのように教えるのか		
講習の目標	日本の中世から近世への激動期を、最新の研究成果にもとづいてどのように生徒・児童に教えるのか		
授業概要 (大まかな流れ)	① 信長の天下統一事業 900～1030 ② 秀吉の台頭 1040～1200 ③ 秀吉の天下統一事業 1300～1430 ④ 預言思想と幕藩体制国家 1440～1600 ⑤ 試験 1600～1640		
活用した資料・データ等	自分で作成したレジュメ 藤参考文獻・藤田達生『天下統一』(中公新書)		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) 受講生全員が熱心に受講していた。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) レジュメをもとに講義中心 3) その他		

担当講師	萩原 彰	記入年月日	2016 年 8 月 3 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 17 日
主な受講対象者と人数	中学校・高等学校・小学校教諭 17 人	講習会場 (教室等)	共通教育 1 号館
講習名	自然災害と日本の風土		
講習の目標	・災害に結びつく自然事象（地震、気象、火山）について、事象がおこる仕組みを理解する ・これらの自然事象が日本の風土や文化に与える影響について理解する ・伝統的な治水文化を理解する ・津波と気象災害について被害を避ける方法を知る ・人間の営みが自然災害を助長している事例を森林の過剰利用と温暖化について知る		
授業概要 （大まかな流れ）	I 地震（断層）災害と日本の風土・文化 II 火山災害と日本の風土・文化 III 気象災害（温暖化も含む）と日本の風土・文化 試験（持ち込み不可）		
活用した資料・データ等	航空写真、CG 等地形をわかりやすく示す画像 地図 月別降水量 方丈記等の文学作品 伝説		
感想	1) 内容（試験等を含） 参加者は熱心であった 地形立体模型と家のモデルはたいへん喜んでくれた 講習内容が多すぎた 2) 運営（活用機材、会場、補助者等） 特にありません。更新講習の担当の先生方、事務の皆さんありがとうございました。 3) その他		

担当講師	エスクデロ ロベルト	カル	記入年月日	2016 年 7 月 22 日
講習の区分	選択講習		講習開設日	2016 年 7 月 17 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小学校英語担当教諭 人数：12 人	講習会場 (教室等)	三重大学上浜キャンパス教育学部校舎 1 号館 3 階 301 教室	
講習名	小学校における英語教育の方法と実践			
講習の目標	To give a theoretical and practical overview on how elementary school children learn, and how Japanese teachers can level up their skills to teach a foreign language.			
授業概要 (大まかな流れ)	● Greetings, meet the teacher, and contents overview ● Why studying English in elementary schools? ● Current situation of the English education in Japan ● Age groups, types of students and special needs ● Language development stages ● The Comfort Zone ● The children oriented classroom ● Making mistakes ● The Home-Room Teacher and the ALT. Communication, leadership, co-teaching, lesson planning and meetings Block 2, from 10:30 to 11:50 ● Learning styles: VAK ● Teaching methods ● Teaching techniques and TPR ● Teaching materials ● Classroom management ● Presentation skills Block 3, from 13:00 to 14:20 ● What are Phonics and why teaching them? ● Classroom activities and games ● How to demonstrate games and activities ● Singing time ● Classroom English Block 4, from 14:30 to 15:50 ● Hi, Friends, book 1 and 2 overview ● Lesson planning			

担当講師	エスクデロ ロセル	カル	記入年月日	2016年7月22日
講習の区分	選択講習		講習開設日	2016年7月17日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小学校英語担当教諭 人数：12人	講習会場 (教室等)	三重大学上浜キャンパス教育学部校舎1号館3階 301教室	
講習名	小学校における英語教育の方法と実践			
講習の目標	小学生はいかにして学ぶか及び日本人教師が外国語を教えるスキルをいかにしたらレベルアップできるかについて理論的・実践的概要を提供する。			
授業概要 (大まかな流れ)	● 挨拶：講師の自己紹介・講習内容の概要 ● なぜ小学校で英語を学ぶか？ ● 日本における英語教育の現状 ● 年齢グループ・生徒のタイプ・特別なニーズ ● 言語の発達段階 ● 快適帯 (カンファート・ゾーン) ● 子供中心の教室 ● 間違いを犯すことについて ● ホームルーム教師とALT：コミュニケーション・リーダースhip・共同授業・教案と打ち合わせ Block 2, from 10:30 to 11:50 ● 学習スタイル：VAK (視覚・聴覚・体感覚による学習) ● 教授法 ● 教授技術とTPR (全身反応教授法) ● 教材 ● クラス運営 ● 発表技術 Block 3, from 13:00 to 14:20 ● フォニックスとは何か・なぜフォニックスを教えるか ● 教室活動とゲーム ● ゲームと活動の提示方法 ● 歌の時間 ● 教室英語 Block 4, from 14:30 to 15:50 ● 『ハイ、フレンズ』1-2巻概観 ● 教案			

担当講師	郷右近 歩	記入年月日	2016年7月20日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016年7月17日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：25名	講習会場 (教室等)	特別支援教育実習室
講習名	特別な支援を要する子どもの発達と保護者支援		
講習の目標	特別な支援を要する子どもについて、教師は様々な思いを抱きつつも、保護者と共有することに困難を感じている。保護者の側も、教師の言葉や対応に様々な思いを抱きつつ、適切とは言えない伝え方をしてしまう例が少なくない。両者の間に立ち、子どもの発達を第一に考え、各々の立場を尊重することで、今後のより良い関係性の構築に向けた議論を行う。		
授業概要 (大まかな流れ)	イントロダクション 保護者の側の視点 就学に至るまでの保護者の思い グループワーク 事例紹介		
活用した資料・データ等	めずらしいひと (ナカニシヤ出版) 映像資料 (18トリソミー) 映像資料 (在宅重症心身障害児とその家族)		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 選択講習ということで、受講者の問題意識が明確であった。(必修講習や選択必修講習よりも主體的な姿勢がみとめられた。) ただし、テーマが「保護者支援」であるにもかかわらず、保護者への対応に困っている「教師支援」を求める意識が透けて見える受講者も見受けられた。それでも敢えて「保護者支援」についての講習を行った。多くの受講者は、講義の最後には、保護者を支援する教師の役割の重要性について気付いたようだが、最後まで「私を助けてほしい」という意識の受講者には、本講習の目的が伝わらず、「思っていた内容と違う」「私を助けてほしいのに」という批判的な主旨のコメントも頂戴した。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ふだんから使用している教室の機材を利用できたので、ストレスなく講義を行うことができた。 3) その他 アンケートの感想の一部を抜粋した。「今までになかった講義内容だったので、とても考えさせられた。」「講義を聴いて、自分の中で障害をもつ子どもさんや保護者さんへの思いが、変わったように思います。」「特別支援に関する講習は数多くあるが、保護者にサポートをあてたものは少なく、良い機会となった。」「障害者に対する認識が自分の中で変化しました。」「今までの自分を振り返ることができ、いい機会になりました。」「今までうまく表現できなかった考えが具体的に表された講習だと思いました。」「何かを知るといふより、いろいろと考えることがあった講習でした。」「全員ではないかもしれないが、多くの受講者に本講習の意義を感じて頂けたように思われた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	和 崇	記入年月日	2016 年 7 月 26 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 (選択講習)	講習開設日	2016 年 7 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中・高の国語教諭 人数：27 人	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館 301
講習名	定番教材を読みなおす		
講習の目標	1. 世代間で解釈の差異が生じやすい定番教材を取り上げ、文学研究の方法論を援用した解釈やアプローチを紹介することで、定番教材の意義を再考する。 2. 講師の一方的な解釈の提示にとどまらず、受講者と講師の双方が自身の教材観や授業法を相対化し、各々の教材に対する認識を深める。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：09:00～10:20 講習の概要／魯迅「故郷」 10:30～11:50 太宰治「走れメロス」 午後：13:00～14:20 芥川龍之介「羅生門」 14:30～15:50 森鴎外「舞姫」 16:00～16:40 履修認定試験		
活用した資料・データ等	・中学校および高等学校国語教科書の文学教材一覧（自作） ・魯迅「故郷」の竹内好訳（光村図書教科書）と藤井省三訳（光文社古典新訳文庫）の抜粋 ・魯迅「故郷」翻訳一覧（自作） ・太宰治「走れメロス」（教育出版教科書） ・芥川龍之介「羅生門」（第一学習社教科書）の抜粋 ・「宮本輝が挑む、入試問題」（『新潮』1999 年 4 月臨時増刊号）		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 午前は概論から実践的な作業、午後はグループディスカッションから概論というかたちをとりましたが、一方的な講義ではなく、作業やグループディスカッションを取り入れたことは受講者にも好評でした。特に、日常的に多忙な業務をこなさねばならない現場の先生方にとっては、教員間で十分に教材の解釈を検討する余裕がなく、受講者同士のディスカッションの機会を設けたことは、受講者と講師の双方にとって有意義なものになったと思います。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） パワーポイントを用いて講習を進めたのですが、黒板部分以外の照明が点灯した状態でもスクリーンがくっきりと見えれば、スライドを見ながらメモをとるという作業がスムーズにできたと思います。50代の受講者もおられる中で、さすがに、スクリーンを優先して暗い中でメモをとっていただくことは避けました。やはり、アンケートでスクリーンが見づらかったとの声があり、なんとかしたかったです。 3) その他 評価の結果は概ね好評でしたが、批評理論に関する説明で同性愛小説を一例として挙げたことに対し、性差別であると感じられた受講者が1名おり、今回の講習に限らず、不特定多数の聴衆の前では慎重に発言するべきだと反省しました。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	宮岡邦任	記入年月日	2016 年 7 月 24 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 (選択講習)	講習開設日	2016 年 7 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小学校、中学校社会科・高校社会科教員で地理が苦手な方 人数：10	講習会場 (教室等)	教育学部棟 302 教室、野外
講習名	自然地理学の基礎		
講習の目標	小学校社会科、中学校地理の学習において地形図からの情報を読み取る力を養うことは極めて重要である。本講習では、教科書や資料においてよく見られる典型的な地形を扱い、地形図作業を通して地域の自然環境と人間生活との相互関係についての理解の仕方を考える。また、図作業を行った地域へ赴き、現地見学を通じ理解を深める。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：教室での授業（自然地理学の基礎的事項の説明を大学周辺にみられる自然環境を例に解説）、地形図作業（土地利用図の作成） 午後：作業図面と資料を持って、バスで現地見学 筆記試験（現地で地理景観を見ながら、講義で行ったことと作業図面との比較から考えられることの確認を目的とした質問）		
活用した資料・データ等	国土地理院発行の地形図、ハザードマップ 自作の資料集		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 当該分野における基礎的事項の説明を現代的課題を的確に捉えた形で、身近な地域を題材とした内容を扱っていると考えている。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） バスの手配など、ありがとうございました。 今年もバスの運転手が見学地点の直ぐ近くまでバスを近づけてくれたので、移動の時間短縮ができた。大変良かったです。 この数年、同じ運転手さんに出動頂いておりまして、コースなども覚えて頂いており、大変助かります。 3) その他 科目名を変更したところ、定員を充足できた。また、例年よりも意識の高い人たちが受講してくれた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	内田希昭	記入年月日	2016年7月27日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016年7月23日
主な受講対象者と人数	免状対象者：中学教諭、高校教諭 人数：7	講習会場 (教室等)	教育学部1号館3F 303教室
講習名	現代社会と経済学		
講習の目標	この講義の目的は日々の生活で必要不可欠な経済の基礎知識について学習し、新聞やニュースで昨今よく耳にする経済問題について議論することでそれらの問題への考察を深めることである。正確な知識の習得に加えて、授業の中で生徒同士のやり取り、興味をもちあわせるための手法についても併せて講義する。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前： 9:00-11:50 パソコンを使った経済学の演習 午後： 13:20-16:00 自由課題についての作成作業と発表 16:10-16:40 テスト(ノート・資料持ち込み可)		
活用した資料・データ等	経済データのExcelファイル		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・経済データをパソコンで確認しながら講義し、受講生のよるデータの加工や分析などを入れることで受講生の関心を維持することができたと感じています。 ・少人数であったため、参加者の皆さんとコミュニケーションを図りながら楽しく講義をすることができました。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・受講生の人数分のパソコンなど機器を使ったので、準備して下った係の方々に感謝しています。 3) その他 ・受講者を中学・高校の社会科教員としていたが、専門的な内容よりも入門的な内容を希望する方が多かったため、受講者の要求を優先するほうがよいと感じました。		

担当講師	露峰 茂明	記入年月日	2016年7月27日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016年7月23日
主な受講対象者と人数	免状対象者：中高教諭 人数：7	講習会場 (教室等)	教育学部302教室
講習名	整数と無限小数		
講習の目標	整数の性質と無限小数の目に見えないつながりを明らかにする。 無限小数を利用して、ある性質を満たす整数を構成する。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:30~10:20 整数の性質 10:30~11:50 整数についての諸定理 13:00~14:30 無限小数 14:40~15:50 ある条件を満たす整数の構成 16:00~16:40 筆記試験		
活用した資料・データ等	事前に作成したプリント		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 暑い中、数学の話を一気に聞くのは大変だと思いましたが、熱心に聞いてもらえました。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	岡田博明	記入年月日	2016 年 7 月 26 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習○	講習開設日	2016 年 7 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小、中、高教諭 人数：9	講習会場 (教室等)	美術棟デザイン教室
講習名	シンボルマークデザイン/コンピュータを使用したデザイン表現		
講習の目標			
授業概要 (大まかな流れ)	コンピュータを活用したマークデザインの演習。ピクトグラムの効果、利点の解説から実際にマークデザインの授業を午前中は低学年向け、午後はより発展した高学年向けの内容の2段階に分けた構成で行う		
活用した資料・データ等	マークシンボルの分類と効果、オリンピックロゴ騒動の記事などをインターネットにて検索、資料として纏めたものをプリント。 ピクトグラムとマークの歴史をプロジェクトにて解説。 ロゴデザインに必要なグラフィックソフトのレクチャーと実際の機器類の使用。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 試験は行わないが、課題にて作成したデザイン作品にて採点。 この課題も何年目かであるので時間配分もうまくいき、受講者の作品レベルは上がってきている。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 使用していた機材の一つが故障しているの、やや手間取った。 早急に修理、あるいは買い替えが必要。 補助員はとても優秀で受講生に対する対応も大変良かった。 3) その他 現在定員 12 名で実施しているが、実技を伴い細やかな指導が必要なため、やはりこの人数が限度である。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	奥村 晴彦	記入年月日	2016 年 7 月 26 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：19	講習会場 (教室等)	総合情報処理センター第 4 端末室
講習名	Web プログラミング		
講習の目標	Windows の「メモ帳」を使って Web ページを作成し、正しい HTML5+CSS の使い方を学ぶ。後半は、PHP というプログラミング言語を併用して、アクセスカウンタや、簡単な申込受付システムを作成する。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00-11:50 HTML5 と CSS3 午後 13:00-16:40 PHP による Web プログラミング		
活用した資料・データ等	HTML5 と CSS3 http://oku.edu.mie-u.ac.jp/~okumura/html5/ PHP による Web プログラミング http://oku.edu.mie-u.ac.jp/~okumura.php/		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) もう慣れている内容であり、うまく進化した。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 補助員も優秀であり、まったく問題は生じなかった。 3) その他 特になし。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	吉本敏子	記入年月日	2016年 8月 4日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2016年 7月 23日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小中高の家庭科担当教諭 人数：12人	講習会場 (教室等)	教育学部 PBL教室4
講習名	家庭科における消費生活と環境に関する授業研究		
講習の目標	現代の消費生活の特徴を理解し、消費者教育の必要性を考える。また、消費者教育の概念、内容、方法、学習指導要領における消費者教育のねらいを理解し、授業実践例や教材を参考にしながら、家庭科における消費生活と環境に関する学習の授業構想や教材の工夫が出来るようになることを目指す。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 現代の消費生活と課題 ①現代の消費生活 ②消費者問題 ③消費者の権利と責任 2. 消費者教育とは ①消費者・消費者教育をめぐる動き ②消費者教育の定義・内容・方法 ③消費者教育を通して育てたい力 ④学校教育における消費者教育 3. アクティブ・ラーニングと消費者教育 ～消費者市民について考える～ ①買い物 ②消費者の権利と責任 ③ファストファッション		
活用した資料・データ等	・パワーポイントを使用(資料として印刷物を配布) ・「ピザを買う」「キヤッチセールス」「替え歌」のプリント ・絵本、DVD教材(2種類)、アメリカの消費者教育の教科書、1億円(見本)		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) 今年度の講習では、特にアクティブ・ラーニングを取り入れた授業づくりを意識して授業を進めた。講習の後半では、「アクティブ・ラーニングと消費者教育 ～消費者市民について考える～」をテーマに①買い物(小学校) ②消費者の権利と責任(中・高等学校) ③ファストファッション(高等学校)の授業づくりについて考えた。 評価はおおむね高く、「授業づくりのヒントをたくさん得ました。」「アクティブ・ラーニングも身をもってどうということなのかわかりました。」「話を聞くだけの授業ではなく、考え、意見を述べ、さらに深く考える事の授業で大変良かった。」などのご意見をいただいた。教員同士の交流の時間をもう少し取れると良かったと思う。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) ・他府県から来ていますが、日程上いろいろと選ぶことができ、とても良い内容であった。 ・後半10月1日だけでなく、講習日を増やしてほしいです。1年では取れません。 ・当日朝の受付場所が分からず、少し不安になりました。 3) その他 特になし		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	中西良文	記入年月日	2016年 7月 27日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016年 7月 23日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼小中高教諭 人数：32名	講習会場 (教室等)	教育学部1号館 201教室
講習名	学力支援の学習心理学		
講習の目標	「学習(記憶)」についての心理学的知見を理解するとともに、これらの知見を実際に使えるようにする。		
授業概要 (大まかな流れ)	グループ：担当学年別・アイスブレーキング 実験などを利用して、記憶の仕組みについて学習する ワーキングメモリが弱い子どもの特徴と支援 ビデオをみて、熟達化と記憶システムの関連について理解 記憶の仕組みを利用した学習指導法についてグループ検討		
活用した資料・データ等	数唱課題・単語記憶課題 ワーキングメモリが弱い子どもの特徴についての資料 将棋の熟達者のビデオ		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) 記憶の内容について、基本的なところを一通り羅列できるようにと考えて講習を行ったが、基本的な内容だけでも相当な学習量があるため、受講者の方の負担をできるだけ低く抑えつつ、詳細に内容を扱えるような工夫を考えていきたいと思う。また、学校現場でどのようにこれらの知見を取り入れるかについては共有の時間を十分取れなかったため、時間の管理も含め、これらの点について考えていきたい。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) 補助員の人にサポートをいただいて、スムーズに講習を進められましたので、大変助かりました。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	西村秀夫	記入年月日	2016年 7月 28日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016年 7月 23日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中学校・高等学校・特別支援学校の英語科担当教諭 12人	講習会場 (教室等)	教育学部専門校舎1号館3F PC語学演習室
講習名	リーディングとライティングのインターフェース		
講習の目標	昨今の英語教育がコミュニケーション指向をいっそう強める中で、英語の教員がまとまったテキストを読んだり、書いたりする機会は激減しているのではないかと。本講習では近年の英語学の知見を取り入れながら文学テキストを精読・分析して作家の創作プロセスを追体験することを通じて、英語を読むこと、書くことに対する意識を深めることをめざす。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. Warm-up (9:00-10:40) 2. 課題 1-1：テキストの分析 (個人作業) (10:50-12:00) 3. 課題 1-2：テキストの分析 (グループ作業) (12:55-14:15) 4. 課題 1：全体ディスカッション・まとめ (14:25-15:05) 5. 課題 2：流れを意識したパラグラフライティング (15:20-16:30) 計 360分		
活用した資料・データ等	・海外のジャーナルに出た論文 ・補足資料 (三重県教員採用試験 過去問 etc.) ・パワーポイント資料		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・「リーディングとライティングのインターフェース」をテーマに、課題 1 では Hemingway のごく短い作品の語学的な分析を通じて、作家の創作のプロセスを追体験することを試みた。課題 2 では課題 1 で考えたことを踏まえて、文と文との円滑なつながりに留意してパラグラフを構成することを試みた。 ・一定の時間を設定して行う「履修認定試験」の代わりに、各課題に取り組み中で考えたこと、気づいたことをレポートにまとめて報告してもらい、それを評価の対象とした。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 日頃使い慣れている教室で実施したので、特に問題はなかった。 3) その他 特になし。		

(次ページに続く)

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	守田 庸一	記入年月日	2016年 8月 10日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016年 7月 31日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小学校教諭 人数：30人	講習会場 (教室等)	教育学部1号館 302
講習名	これからの読解力を育てる小学校国語科の授業		
講習の目標	小学校の国語科におけるこれまでの授業実践及び先行研究の成果をふまえて、思考力・判断力・表現力、活用力の育成を視野に入れながら、これからの読解力を育てられる授業のあり方について具体的に考察することができる。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00-11:50 説明文の授業について 午後 13:00-15:50 物語文の授業について 16:00-16:40 テスト (ノート・資料持ち込み可)		
活用した資料・データ等	教科書教材 PISA (OECD生徒の学習到達度調査) 関連資料		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 高い問題意識を持った受講者も多く、積極的な姿勢での受講が得られたという印象です。指導経験の多少に関わらず、国語科 (とりわけ読むことの学習指導) の本質の理解を促したことで、今後の授業改善に結実するのではないかと期待されます。 講習時のグループ活動のあり方については、今後、より充実した交流が実現するように検討したいと思います。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 過不足なく準備をしていただき、ありがとうございました。 3) その他 特にありません。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	川向 洋之 肥田野 久二男	記入年月日	2016 年 8 月 3 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 31 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中・高（数学担当）教員 人数：4	講習会場 （教室等）	教育学部 1 号館 PDL 42 教室
講習名	解析学をたのしむ ― 級数、積分のひろがり ―		
講習の目標	級数、積分といったテーマを通じて解析学の基礎に触れ、自らの解析学の知識を振り返り・再構成するとともに数学の新しい発見を目指す。		
授業概要 （大まかな流れ）	900 ～1200 無限級数のほなし。（有限和では起こり得ない現象を紹介した） テスト 1300 ～1640 リーマン積分の定義の説明，リーマン積分不可能な関数の例 大きさが分からない集合，望ましい「測量器」とルベーグ式の 積分の定義 テスト		
活用した資料・データ等	講習用プリント，プロジェクター，コンピュータ		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 専門生にのみ陥らないように配慮しながら，2名の講師によって，解析学の問題・現象を様々な角度から考察し，なおかつ，丁寧に説明するよう留意した。更に，中学・高等学校の通常の数学の授業ではなされないであろうアプローチの方法も紹介するなど新しい発見がなされるよう工夫した。また，豊富に例を取り上げる・コンピュータを適宜活用するなど工夫したため，退屈にならない講習にできた。試験問題も講習内容に即した適当な問題を作成することができた。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 出欠の管理などで補助者が手際よく動いてくれたため，すべて円滑に運営できた。 3) その他 2名の講師が，各々3時間ずつ，異なる話題を提供するというスタイルは，受講者からいろいろな課題に触れ興味も広がる等の点で評価が高かった。また，受講者が学生時代に学んだ内容であるが，新しく異なる視点から数学に触れ楽しむことができて有意義であったとか，数学の面白さを再発見した，もっと数学を知りたいとなった，等の良い評価も得られた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	中西 康雅	記入年月日	2016 年 11 月 1 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 31 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：技術科・工業教員 人数：2	講習会場 （教室等）	教育学部技術棟 T201 教室
講習名	ものづくり教育における設計学習の現状とこれから		
講習の目標	ブリッジコンテストを題材としてコンピュータを活用した強度設計、そして製作、強度評価という実習を手がかりとして、現代のものづくりにおいて情報技術が果たしている意義と課題について理解し、説明できるようにする。		
授業概要 （大まかな流れ）	午前： ● 現代のものづくりにおいて情報技術が果たしている役割について、近年のシミュレーション技術の発達から現状までを概説した。 ● ブリッジコンテストのシミュレーションソフトウェアを使用し、中学校での授業を対象とした演習を実施した。 午後： ● シミュレーション結果をもとに実際に製作したブリッジの強度評価を行い、精度検証と実習時の課題について検討した。 ● 中学校の技術科の授業を対象に、情報技術に關係する授業の現状について意見交換し、ものづくりとの関わりについての学習展開についてグループワークなどを通じて検討した。 ● また技術科の教育内容において、設計学習の目標と方法について考究した。		
活用した資料・データ等	・書籍「技術科の授業をつくる」 ・授業者の自作資料 ・学習指導要領および解説 ・日本産業技術学会誌		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ものづくりにおいて情報技術が果たしている役割について現状を確認するとともに、中学校の技術分野の学習内容と関連づけながら考える講習に近づけたように思う。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	河邊 真次	記入年月日	2016 年 8 月 10 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 31 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭及び養護教諭 人数：7人	講習会場 (教室等)	教育学部1号館 303教室
講習名	【選択】スペイン語初級		
講習の目標	三重県を含む東海地方にはラテンアメリカ出身者が多く居住しており、学校教育の現場においても、児童生徒や保護者とのコミュニケーションのためのスペイン語運用能力が教職員に求められてきている。本講習では、スペイン語初級者を対象として、スペイン語の基本文法を理解し、語彙を習得するとともに、日常的な表現を中心に初歩的なコミュニケーション力を身につけることを目指す。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：9:00-11:50 ・アルファベットとスペイン語の発音、アクセント ・あいざつと自己紹介の練習 ・名詞の性数、冠詞、形容詞 ・主格人称代名詞、動詞 ser 午後：13:00-15:50 ・動詞 estar, hay ・直説法現在規則活用 ・直説法現在不規則活用 (querer, poder, tener, ir) 履修認定試験：16:00-16:40 (配布資料持ち込み可)		
活用した資料・データ等	・スペイン語入門～初級者向けスペイン語文法に関する配布資料 (特に教育現場で必要になりそうな語彙や日常表現を多く掲載。) ・補足資料 (講習中には触れられなかった文法項目や、講習後のスペイン語の自主学習のための語彙・表現を掲載。)		

講習に関する感想

1) 内容 (試験等を含む)

・2012年度に同名の講習を担当した経験から、資料の準備や講習内容については多量なりとも改善できたと考えます。しかしながら、前回同様、本講習受講者のスペイン語学習経験に差が見られ、スペイン語初学向けの内容から授業を進めたため、スペイン語経験者には物足りない講習内容になったことが反省点として挙げられます。なお、講習中は、スペイン語文法を英語との対比で解説するなどの工夫を通じて受講者の理解を深めることができたと考えます。

・受講者の皆さんが高い関心と熱意をもって臨んで下さったので、講習内容に飽きないように、できるだけ発音や会話練習に時間を割くよう心がけました。特に午前中の講習で会話練習を多めに取り入れたことは、スペイン語の知識が少ない参加者にも好評でした。他方、午後の講習では、進度を速めたことで一部の受講者から十分に理解できなかったとの指摘も受けています。この点については資料の準備も含め、今後の講習に反映していきたいと考えます。

・時間的な制約もあり、想定していた履修内容を完全に消化できなかったことが悔やまれます。特に、動詞 gustar を使った表現や時刻表現など、日常生活に欠かせない内容を講習中に扱えなかったことは大いに反省すべき点であると考えます。また、語学の学習は何よりも実践と反復が重要なので、ロールプレイや会話表現の練習をより多く準備する必要があると感じています。

・履修認定試験については、講習で扱った文法内容について問うものですが、十分な解説と復習ができなかった項目もあり、スペイン語学習経験の少ない受講者には若干難しいものとなったことは否めません。そのため、講習時の会話練習での理解度や、講習参加者のスペイン語学習意欲を積極的に評価することも念頭に置きました。

2) 運営 (活用機材、会場、補助員等)

・今回の講習では特に機材を使用しませんでした。スペイン語を学ぶ上で、ネイティブの会話を聞いたり、スペイン語圏のさまざまな文化・習慣などを目にしたりすることも重要な要素だと考えます。講習時間には限りがありますが、今後はVT-Rなども準備して、受講者の学習意欲を高める工夫をしていきたいと考えます。

・今回の講習参加者は7名とかなり少人数であったため、会話練習はしやすかったのですが、受講者数に対して教室が広すぎた感もありました。

3) その他

・受講者の多くが、自身の教育現場でのスペイン語の必要性を強く感じていたため、大変意欲的かつ熱心に受講して下さったことが印象的でした。ただ、受講者のスペイン語レベルがまちまちだったことで、講習の進め方が難しかったことも事実です。アンケートにも指摘があったように、今後は講習の内容とレベルを具体的に提示することによって、受講者がより適切に本講習を選択できるように工夫する必要があります。

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	林 朝子	記入年月日	2016 年 8 月 1 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2015 年 7 月 3 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼稚園・小中教諭 人数：30	講習会場 (教室等)	教育学部1号館 401・PBL 7
講習名	書写指導の内容と実技		
講習の目標	書写指導の内容理解と毛筆実技の基礎力の向上		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 書写の歴史と位置付け、書写指導の内容 2. 文字の筆写と書写 3. 毛筆実技 4. 毛筆実技＋作品制作		
活用した資料・データ等	小中学校の書写教科書 その他、書写書道関連図書 作品制作用として“うちわ”		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 個人的に書写や毛筆に強い関心を持っている人以外は、書写に関する意識は低い傾向にあると感じた。講習をきっかけに書写の授業に対する意識が高まり、学校現場の書写教育の充実に少しでもつながることを期待したい。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 教室の机と椅子について受講者の方からのコメントがあったので、今年度は午前は普通教室で行い、午後は書道教室 (PBL 7) で行った。ただ、PBL 7は椅子が古く、高さの調節ができないため、書きにくいとのコメントがあった。椅子の購入については、学期にその旨を伝えたい。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	玉城政和、森山貴之	記入年月日	2016 年 7 月 13 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 3 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中高の数学科担当教員 人数：12	講習会場 (教室等)	教育学部PBL 4 2 教室
講習名	魅惑の数「黄金比と円周率」		
講習の目標	彫刻や絵画だけでなく身の回りにおける図形や自然現象などにも現れる黄金比について、単なる比率ではないそれを持つ様々な数的事象を説明し、その魅力に触れ理解する。 整数演算に現れる規則性を発見しそれを応用した数ゲームの仕組みを理解する。 円周率 π を数学的な立場からだけでなく、そこに現れる文字の乱雑さ・出現率の観測、誕生日の発見といった体験を通して楽しむ。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00 - 11:30 「黄金比」の魅力 11:40 - 12:00 午前試験 (休憩) 13:00 - 13:50 整数演算の規則性 14:00 - 16:10 「円周率」の魅力 16:20 - 16:40 午後試験		
活用した資料・データ等	・「黄金比」に関する講習ノート ・「円周率」に関する講習ノート ・プレゼンテーション資料 ・誕生日検索プログラム		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 十分な準備を行い、楽しみながら新しい発見のできる講習にしたつもりです。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 講習スタッフ・補助員の皆さんには、機材のセッティング、机・椅子の移動、資料の配布、アンケートの回収確認などの的確な対応に頂き大変助かりました。 3) その他 受講者の皆さんには、結構な長い時間でしたが、最後まで集中力を絶やさず話を聞いて頂き、大変有意義な講習になりました。 ・興味の持てる内容で、とても楽しく受講することができました。 ・楽しい講義で、話も分かりやすく、勉強になりました。 ・数学の楽しさを感じることができた。 ・黄金比では、自然界の例を用いられおり、生徒の興味を引き出す知識として活用させて頂くつもりです。 等の意見・感想を頂き、時間をかけ試行錯誤を繰り返しながら資料の収集とノートの作成、プログラム開発にあたった甲斐がありました。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	奥田 真澄	記入年月日	2016 年 7 月 7 日
講習の区分	必修講習・選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 3 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：人数 7人	講習会場(教室等)	彫刻教室
講習名	美術教育の為に素材演習/石膏レリーフ制作		
講習の目標	1. 美術教育における、レリーフ制作の可能性を実制作を通して考察する 2. 物と空間の関係を認識することや、表現における意外性の大切さを学ぶ 3. 水粘土と石膏の基本的な扱い方を知る 4. レリーフ作品の特質について理解する 2. 石膏を素材に用いたレリーフ制作を学年に合わせて、どのように変化させて、活用出来るのかを考える		
授業概要(大まかな流れ)	1. スライドレクチャー (9:00～10:00) 2. テッサンによるエスキース制作 (10:00～10:30) 3. 水粘土を練り、作る形が入る大きさの塊を作る (10:30～11:00) 4. 水粘土に作りたたい形の穴を掘り込みながら作る (11:00～14:30 [11:50～13:00 休憩]) 5. 出来た空間に水で溶いた石膏を流し込む。(14:30～15:00) 6. 周りの粘土を外す。(15:00～16:00) 7. 作品講評会 (16:00～16:40) 8. 受講者評価 (16:40～17:00)		
活用した資料・データ等	・レリーフ作品に関するパワーポイント資料 ・レリーフ制作に関するテキスト資料		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・一方通行の授業にならない様に受講生の意見を聞きながら、講習を進めることが出来た。 ・受講生は、暑い中大変熱心に取り組んでおり、興味を持てる課題設定を行えたと感じている。 ・快適な制作環境を心がけたので、集中して制作に取り組んでいた。 ・実技の講習は事前準備などが大変ですが、受講後のアンケートにおいて非常に満足したとの回答を多数頂き、実制作を通して伝えることを、今後も積極的に行いたいと思いました。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・私の講習は実技 (彫刻制作) のため実習設備の事前準備が多くありますが、教務チームや補助員の方々のサポートが良く、講習を円滑に進めることが出来ました。 ・前年度までは使用教材の費用が予算内で収まらず、私自身で負担をしておりましたが今年度は全額負担をさせていただき助かりました。 3) その他 ・受講生のすべてが現職教諭の方で、熱心に今回の実習で得たものを授業に取り組むと考えており、美術教育に対する熱心さに感銘した。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	重松良祐	記入年月日	2016 年 7 月 15 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 3 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭および養護教諭人数 : 28 人	講習会場(教室等)	教育学部 301 教室
講習名	運動意欲を高める行動科学の手法		
講習の目標	行動変容に関するさまざまな手法を理解する。そして、子どもや保護者、他教員に対して行動変容を働きかけられるようになることを目指す。		
授業概要(大まかな流れ)	午前：1 コマ 9:00～10:20 不活動性のもたらす影響について 2 コマ 10:30～11:50 行動変容の理論の理解 午後：1 コマ 13:00～14:20 行動変容の理解を深めるためのグループワーク 2 コマ 14:30～15:50 グループワークの発表、まとめ 試験：16:00-16:40 (持ち込み不可)		
活用した資料・データ等	・身体活動と健康に関する最新情報の提供 ・行動科学を活かした身体活動・運動支援 (2006.09 大修館書店)		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・さまざまな校種からの参加があったため、問題を共有しやすいよう、なるべく同じ校種でペアやグループを形成するように努めた。 ・グループワークを用いることは、授業内容を知識として定着させるために有意義なことのように思われる。 ・試験は各自の持つ問題意識に沿って回答できる内容であり、かつ、グループワークでの内容を反映できるものであった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助者等) ・機材は用いなかった。 ・事務方がいらったことで細やかな対応をしていただいた。 3) その他 特にありません。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	魚住明生	記入年月日	2016 年 7 月 5 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 3 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小学校教諭、中学校技術科教諭 人数：5 名	講習会場 (教室等)	技術棟 T201
講習名	ものづくりコンテストを取り入れた協同学習の構築		
講習の目標	- 授業における協同学習とものづくりコンテストの意義を説明できる。 - ものづくり教育で行われているコンテストを数例挙げられる。 - ものづくりコンテストを取り入れた協同学習で、育成することが期待される能力と態度を挙げられる。 - ものづくりコンテストを取り入れた協同学習での留意点を説明できる。		
授業概要 (大まかな流れ)	8:55～9:10 オリエンテーション 9:10～9:10 授業における協同学習の意義 10:10～11:00 ものづくり教育におけるコンテストの意義 11:10～12:00 ものづくりコンテストの実態－タワールコンテストへ向けての構想－ 13:00～15:00 ものづくりコンテストの実態－タワールコンテストへ向けての設計・製作と実施－ 15:10～15:50 ものづくりコンテストを取り入れた協同学習の検討 16:00～16:40 試験		
活用した資料・データ等	全日本中学校技術・家庭科研究会 Web ページ 発明協会 Web ページ 日本産業技術教育学会 Web ページ 等		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 国の政策であるので仕方ないが、更新講習自体について検討する時期が来ていると思う。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) お願していた物品が届いたのが当日の朝で、準備に支障をきたした。できれば 2・3 日前に届けていただきたい。 3) その他 受講者の少ない講習については、整理・統合を含めて検討していく必要があるのではないだろうか。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	水谷 隆治	記入年月日	2016 年 7 月 9 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 3 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中学・高校理科教員 人数：6 名	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館 302
講習名	抗体や核酸上の情報について (修復も含む)		
講習の目標	免疫反応のうち体液性免疫の主要な役割を担う抗体の構造を理解する。 抗体構造上の Fab 部分が抗原と反応する部分であり、Fab は抗体間で違いがあり、特異超可変域部位が抗体多様性を生じるものである。この部位に相当する DNA 遺伝情報が組み換えを起すことにより多様性が生じる。これらを原著論文を読み理解する。 Watson-Crick 論文を精読し DNA の基本的構造を理解する。 抗体の定量を ELISA で実施する。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00-10:20 免疫学と抗体化学の基礎、モノクローナル抗体の定義 10:30-12:00 核酸研究の歴史と Watson-Crick 論文の精読 13:00-14:50 ELISA 法の実習 (データ整理を含む) 15:00-15:50 利根川論文の理解と遺伝情報発現のうち翻訳段階の説明 16:00-16:40 記述試験		
活用した資料・データ等	1. Watson-Crick, Nature 171 巻, 737 (1953) 2. Hozumi, Tonegawa, PNAS 73 巻, 3628 (1976) 3. Raff ら, The Molecular Biology of the Cell		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 講師による講義 (ppt および板書) 受講生による精読 (講師による解説と補足) ELISA 法実習 (受講生各自によるオートピペット操作、96穴プレートへの試料添加、機器による測定)、データ解析、未知抗体の濃度測定 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) パワーポイント、PC、プロジェクター、マイク、iPad 優秀な工学研究科の大学院生の補助員により実習を行うことが出来た。 iPad を教務より受講生の貸し出しがあり受講生が積極的に使用してくれ、データ解析や英和辞書として便利に使っていた。よかった。 3) その他 真面目で熱心な受講生により本講習を無事おこなえることが出来た。特に質問では、tRNA 上のアンチコドンの 1 字目の 34 番目の塩基がイノシン酸で、これが暗号表の暗号の 3 字目に対応し、複数の塩基に対応できる旨の話をしたが、どのようなアミノ酸の tRNA がそれに相当するか具体的な説明が資料の準備不足で出来なかった。またミトコンドリアの特異な遺伝情報についての説明も十分出来なかった。しかし全体としては充実した講習であった。		

担当講師	服部 明子	記入年月日	2016 年 7 月 20 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 <u>選択講習</u>	講習開設日	2016 年 7 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：19 名	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館 401 教室
講習名	日本語教育学入門一年少女への指導を中心に		
講習の目標	日本語指導が必要な児童生徒の背景、日本語指導における現状と課題を理解する。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 日本語教育の基礎知識 (講義) 9:10-10:30 2. 日本語教育の視点から小学校国語教材を分析する 10:40-11:50 3. 学校教育における日本語支援および多文化共生の在り方についての議論 13:00-14:00 4. 日本語授業の実践体験 14:10-15:50		
活用した資料・データ等	・講習の PowerPoint およびそれを印刷した資料の配布 ・学校教育における JSL カリキュラムに関する行政のデータ (文化庁、文部科学省、内閣府) ・ホームページ「多文化教員の広場」「こどもの日本語ライブラリ」動画、教案 (iPad 使用) ・DVD『ようこそ！さくら小学校へ』の上映 (販売元 AJALT 許諾済)		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 昨年度までの講習内容を改善したことで、受講対象者のニーズに合致した内容が提供できたと思います。受講者アンケートや講習中の受講者の反応もよく、理解度も高かったです。 ただ、受講者の理解度には差があり、わずかながらも最初の講義の段階で躓き気味であった受講者がいたことが評価書で分かりました。質問時間を十分設けることにはかなり配慮しましたが、講習内での挙手や休憩時間での質問もありませんでした。率直なところ、個人的には、教諭職の方が質問できないということをどう捉えればよいかが理解が難しいところですが、今後は午前最後の最後にリアクションペーパーを書いてもらうなどの工夫をしてみても、より多くの受講者の方の理解を促したいと思います。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・iPad が使用できてとてもよかったです。 ・補助員には事前に資料を与え、具体的に指示していましたが、当日指示をすべて忘れており、事前準備、事前打ち合わせ、屋休憩の時間的余裕がなくなりました。事前確認が必要だと痛感しました。 3) その他 ・講習では幼稚園のこともにも触れましたが、受講者数の割合から内容的には学校教育に比重がかかり、幼稚園教諭の方のニーズはあまり満たせなかったかと思われます。		

担当講師	伊藤信成	記入年月日	2016 年 9 月 1 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小中学校教諭 人数：11 名	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館 地学実験室 1
講習名	デジタル・アナログを使った天文教育		
講習の目標	天体の分野は、夜間観測が難しいため、授業でも既存の画像や映像を用いる場面が多くなりがちで苦手とする教員も多い。一方で、デジタル機器の進歩により以前に比べ比較的容易に教材化できるようになった。本講習では教育現場での ICT 導入を念頭に、天文分野でのデジタルコンテンツの可能性について講義と実習の両面から検討を行う。		
授業概要 (大まかな流れ)	・最近の天文学研究の紹介：冥王星探査、太陽系外惑星探査 ・デジタル機器を用いた天文教育 ・天文シミュレーションソフトの紹介と操作体験 ・画像処理ソフトの紹介と操作体験 ・アナログ機器用いた天文教育 ・望遠鏡の操作		
活用した資料・データ等	・天体シミュレーションソフト：Mitaka ・画像処理ソフト：Imaged ・デジタルカメラで撮影した星座写真 (伊藤撮影) ・簡易式望遠鏡スベカ		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・簡易式望遠鏡スベカを作成し、それを用いた実習を行った。研究費から持ち出しの部分はありますが、受講者には好評であった。 ・今回は認定試験で筆記と機器操作の 2 種を行った。機器操作を試験に取り入れたことは、より実践的な実習とする面で良い面もあったが、試験に利用できる機器数を確保することが少々大変であり、今後改善が必要である。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・座学の会場と実習の会場を分けたことで、実習で用いる機器を実習開始前に準備できたことから、実習を円滑に行うことができた。 ・実習当日は猛暑日であり、長時間の屋外実習を行うことが難しかった。実習開催期間が長くなってしまいう面はあるが、秋～冬にかけての開催日をもう少し増やしても良いかとはできないか (月齢などの関係があり、現状では選択肢がほとんど無い状況である)。 ・受付時間よりも早く来場する方の対応はどうしたら良いのか？補助員学生の勤務時間前なので、教員が早めに会場に行って対応した。夏場にエアコン無しでの状況で受講者に長時間待ってもらうことは避けたい方がよいのではないか。 3) その他 ・デジタル、アナログいずれの操作でも同じだが、得意な受講者に任せ、他の講習者が見ているだけの状況になってしまうことがあった。声かけ等で参加者全員が体験できるようにはしたが、今後より積極的に講習に参加してもらえよう、対策を考える必要がある。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	国中 寛人	記入年月日	2016 年 7 月 12 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭（小・中） 人数：6人	講習会場 (教室等)	教育学部専門校舎1号館物理理学 第一実験室
講習名	理科の授業に役立つコンピュータシミュレーション		
講習の目標	無料の教育用シミュレーション教材 PhET の操作に慣れ、授業やグループ学習での利用について考え、教材を作成する。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. PhET の概要について 2. シミュレーション実習1～5 3. 屋休み 4. シミュレーション実習6～9 5. 予備実習 6. 課題作成		
活用した資料・データ等	● パワーポイント資料 ● ワークシート集 ● シミュレータのファイル		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) シミュレータの操作方法を解説したのちに、こちらで用意したワークシート例に沿ってシミュレーション実験を試してもらうという講義形式だったが、受講生との意見交換の時間をもう少し多くともよかったと思う。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 受講生が用いるパソコンをネットワーク接続できるように、講習用のアカウントが用意できればいいと思った。 3) その他 当日の朝は雨だったため、受講生の方の中には雨に濡れた状態で会場に到着した方もいた。できれば受講生の駐車場の利用も検討してもらいたい。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	杉田正明	記入年月日	2016 年 7 月 11 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中学校・高等学校の保健体育科担当教諭 (教室等) 人数：19 名	講習会場 (教室等)	教育学部1号館 3F 302 教室
講習名	スポーツ指導に活かせるスポーツ科学		
講習の目標	1. スポーツ指導を進める上で、役立つ事柄を理解する。 体調管理、暑熱対策、トレーニング、リカバリー、発育発達に応じた指導など 2. 受講生同士の中で上記事柄について、情報交換、情報共有をする。 特に日々のコンディショニングの仕方、貧血、筋肉の鍛える部位、方法、夏場の給水、アイシング、走るトレーニング、リカバリーなど		
授業概要 (大まかな流れ)	夏場のスポーツ環境、暑熱対策、コンディショニング、リカバリーなどをロンドンオリンピックや2010 ワールドカップを題材に交えて、以下の事柄を行った。 午前：9:00～11:50 夏場の水分補給、アイシング、コンディショニング、午後：13:10～16:00 血液の検査、短距離走、発育発達に応じた指導法、2010 ワールドカップ、16:00～16:40 テスト（ノート・資料持ち込み不可） パワーポイント、映像（静止画、動画）などを用いた。		
活用した資料・データ等			
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) オリンピックやワールドカップなどでの世界的イベントにおける実際の話しは、興味をもって聞いていただけている。その中で学校現場でも出来ることを話している中で、具体的方策がよくわかった等とアンケートにも記載されていた。 試験は概ねできてはいるが、多少の勘違いやポイントがずれていたりする部分も見受けられ、講義時の説明に関してはより理解しやすく丁寧に行うことの必要性を感じた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 全く問題なかった。 3) その他 講習会中、携帯電話をさわっている受講生がみられましたが、とても気になる。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	須管野 仁志	記入年月日	2016 年 7 月 22 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全校種（幼・小・中・高校・特別支援等）教員 22 人	講習会場（教室等）	総合情報処理センター第 4 端末室
講習名	学習者のためのデジタルストーリーテリング ——学んだことをまとめ、発信するデジタル紙芝居の制作——		
講習の目標	・デジタルストーリーテリングとは何か、デジタルストーリーテリングの基本的な制作方法を理解する。 ・学習者が学んだことや経験したことをまとめ、発信する手法として、デジタルストーリーテリングができるようになる。 ・自分自身の教員・社会生活を振り返り、デジタルストーリーテリング制作のためのシナリオを作成する。		
授業概要（大まかな流れ）	・デジタルストーリーテリングとは何かを理解するため、Web サイト「デジタルストーリーテリングの世界」にアクセスし、作品例や制作方法紹介ビデオを見る。 ・デジタルストーリーテリングの作り方の説明を聞き、サンプル画像を使い、Windowsムービーメーカーで画像を流し込み、デジタル画面切り替え効果をつける。 ・コンピュータにマイククロフォンを接続し、Windows サウンドレコーダーで声を録音し、ムービーメーカーでもそのファイルを活用する。 ・デジタルストーリーテリング制作のためのシナリオを作成する。そのために、画像を収集したり、音声録音をする。テーマは「自分自身の教員生活（または仕事）を振り返る」を設定する。 ・午前午後とも、制作状況を交流するため、Moodle を用いる。 ・作品制作は、1 日での講習時間では難しいので、7 月 21 日までに完成した人は、Moodle の Web フォーラムにアップすることを推奨した。		
活用した資料・データ等	・Web サイト「デジタルストーリーテリングの世界」 http://traveledu.mie-u.ac.jp/~dst/ ・デジタルストーリーテリング制作用マニュアル 須管野研究室編		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・3 年前の講習から、教育学部授業「教育の方法と技術 1」でデジタルストーリーテリングの作り方を学んだ学部生が授業の学習として、更新講習でのデジタルストーリーテリング制作をサポートした。学生が 5 名（午前）参加したもので、午前中には 4～5 名の講習参加者を 1 人の学生がサポートでき、講習参加者には好評だった。また、参加学部生も制作支援することからや学がことが多く、参加現職教員から学校現場や授業のことでや教師になる心構えを聞き、「参加して良かった」という声が多かった。 ・講習参加者のアンケートに「使いたいと思っていてもなかなかできなかったムービーメーカーを使えてよかったです」「楽しく新しいスキルを手に入れることができました」という感想があった。今回の講習では、デジタル機器操作に不安、という参加者がやや多かったが、夢中になってとり組む人が多かった。 ・学生サポートに関するコメントも、「パソコンを使い慣れていたが、学生サポートさんが丁寧に教えて下さったので講習についていくことができました。学生さんの存在は大変です。」「操作が大変であったが、学生さん達のサポートがあり、スムーズに行えた。」というものが多く、学生サポートの活動は今後も続けていきたい。 ・午後の講習では黙々と作品作りにとり組む受講者が多かったのが印象的であった。 ・講習終了後も、コンピュータ室を使う時間の範囲内で最後まで熱心にとり組んでいる参加者が多く、やりがいを感じた。 2) 運営（活用機材、会場、補助者等） ・受講者のアンケートに「事前に丁寧なメールをいただき、準備がしやすかったです。講習中も常に丁寧にお話をいただき、先生の講習が人気があるのがよくわかりました。」というコメントがあり、大変うれしいものでした。 ・補助者が 2 人であったが、マイクの準備や全体のサポートをよく頑張ってくれました。 3) その他 ・定員の半分ぐらいの人数しか集まらなかったのが残念であった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	古閑春隆	記入年月日	2016 年 9 月 1 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中学校の教諭 人数：4 人	講習会場（教室等）	教育学部 1 号館 PBL42 教室
講習名	何乗すると 1 になるか？何回繰り返すと元に戻るか？		
講習の目標	具体例を通じて群論的な考え方（位数）に親しむこと。		
授業概要（大まかな流れ）	9：00～12：00 授業 13：00～15：50 授業 16：00～16：40 試験（ノート持ち込み可）		
活用した資料・データ等	特になし		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 予定していた内容をすべて解説できたので、授業は順調に進行したと思う。試験は良い成績であった。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 特になし。 3) その他 特になし。		

担当講師	益川 優子	記入年月日	2016 年 7 月 19 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：20 人 人数：20 人	講習会場 (教室等)	教育学部 304 教室
講習名	教育の諸相と児童・生徒理解		
講習の目標	教育心理学の理論に基づいて、教育の意義と重要性について考察し、教育の諸相を心理学的に理解する。また、現代の教育実践上の諸問題に適切に対処していくための教員の基本姿勢や方略について考究する。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00～10:30 教育の諸相・事例検討 10:30～11:50 教育の意義と教育心理学の理論 午後 13:00～14:30 児童・生徒理解の意義 14:30～15:50 児童・生徒理解の基礎演習 16:02～16:42 テスト (持ち込み可)		
活用した資料・データ等	提供事例 青年の人間的居場所データ (日本青年心理学会第 19 回大会発表資料、益川) 中学生・高校生の求める理想の教師像データ (日本カウンセリング学会第 49 回大会発表資料、益川)		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・現代の中高校生や大学生における最新の研究データなども活用し、児童・生徒理解という意味においては机上の空論にならず、現実的な論理を展開することができたと感じます。 ・パワーポイントを用いた講義を行いました。図や資料提示時にアニメーションの工夫を施した資料を作成しました。また、大切な事項や自分の意見を書き込むことができるように工夫を施した配布資料を作成・配布し、実際の受講者の先生方には、講義を聞きながら理論や方途等を現場で活用することを想定しながらポイントや要点を資料に書き込んでいただけたようにしました。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・講習中、グループでの話し合いやロールプレイなどを行ったのですが、会場が十分な大きさであったこと、机が自由に動かせるため、場面に応じて随機変態に対応できたことから、受講者は他のグループの話によって気が散ることなく集中できたようでした。とても恵まれた環境で講習を行うことができました。 3) その他 ・今年も私のような者が教育の意義や教育心理学の基礎理論などを、現職の先生方にお話することは大変失礼かと思いますが、先生方から教員として話を聞いていただくことは現場で活用できると思いました。「受講して良かったと思いた」等のお言葉を頂戴いたしました。また、大学教員としての立場から、現代の青年がどのような心理でいるのかをお話させていただいたのですが、現職の先生方にとって有意義な知見であったとお言葉をたくさん頂戴し、大学という教育機関に身を置いている自分が、今後も教育原理や教育心理といった学問をより深く探究すると同時に、研究調査を重ね、現場の先生方とは違った角度から児童・生徒、青年という人間を理解していき、研究者という立場からの知見を教育現場に寄与していきたいという思いを改めて抱きました。		

担当講師	森俊一	記入年月日	2016 年 8 月 30 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 O選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 19 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：高校・中学教諭 他 人数：9 名	講習会場 (教室等)	教養教育校舎 1 号館 205 講義室
講習名	財政の役割について		
講習の目標	政府の財政活動をテーマに取り上げ、そこに含まれている諸問題を検討することにより、論理的にまたある程度の学問的裏付けをもって現代社会の問題を考えることの大切さを認識する。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00～11:50： 我が国財政の現状を説明したあと、財政の第一の役割として公共財の提供について論じた。 13:00～15:50： 財政の役割である所得の再分配と経済の安定化について論じ、あわせて課税の問題を取り上げて論じた。 16:05～16:45： 履修認定試験		
活用した資料・データ等	我が国財政の現状については財務省のホーム・ページにより、理論的な問題については財政学の講義ノートを参考にして、講習用に詳細な資料を作成し、プリントして配布した。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 財政理論上の基本的な問題を財政学、経済学を学んだ経験のない人にも理解できるように丁寧な解説に努めた。ただ、課税のあり方については、基本的な問題については論じることができたものの、予定していた論点のすべてを取り上げる時間的余裕がなかった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 暑い日の講習であったが、補助員の適切な支援もあり講習環境は快適であった。 3) その他 特になし。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	田中伸明	記入年月日	2016 年 9 月 14 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2015 年 8 月 19 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中学校教諭 定員（受講）：20（16）人	講習会場 （教室等）	上原キャンパス教育学部校舎 1 号館 2F 201 教室
講習名	中学校数学科教材研究		
講習の目標	中学校数学科における4領域（「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」）から具体的な単元を取り上げ、教材の歴史的背景や教材理論を学びます。さらに生徒の教		
授業概要 （大まかな流れ）	午前：9:00-10:20	「数あてゲーム」のしくみと「資料の活用」に関する教材研究	
	10:30-11:50	「ベキタイル」を活用した数学的活動と「数と式」の教材研究	
活用した資料・データ等	午後：13:00-14:20	「三平方の定理」の証明と「図形」の教材研究	
	14:10-15:50	「ブラックボックス」の作成と「関数」の教材研究	
講習に関する感想	16:00-16:40	テスト（ノート・資料持ち込み可）	
	16:40-16:50	評価書記入、諸連絡等	
講習に関する感想	1	内容（試験等を含む）	
	2	運営（活用機材、会場、補助員等）	
講習に関する感想	3	その他	

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	松本金矢	記入年月日	2016 年 8 月 24 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 19 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小学校・中学校・高等学校 人数：6	講習会場 （教室等）	T-201 教室
講習名	最適設計を取り入れたものづくり教材		
講習の目標	最適設計を取り入れたものづくりについて理解するとともに、関連する教材を利用し、授業に役立てることができる。		
授業概要 （大まかな流れ）	技術・ものづくり教育の必要性について考える情報を提供した。最適設計の基本的な考え方や方法について講義し、具体的な演習教材を提示した。最適設計の概念だけではものづくりができないという実設計例を示し、ものづくりでは臨床的な判断力が必要であることを説明した。最後にものづくりに関わる、エネルギー問題・環境問題を実践的・体験的に学ぶための教材を提案し、実際に体験した。最後に、受講者で講習内容について振り返り、意見交換を行った。		
活用した資料・データ等	技術・ものづくり教育の必要性（PP、資料）、最適設計を取り入れたものづくり教材（PP、資料）、遺伝的アルゴリズムを用いた最適設計に関する教材の開発（論文）、GA による最適設計（プログラム、実験装置）、複合材料の製造現場と最適化（PP、資料）、環境問題を考える実験（PP、資料）、熱工学実験（PP、資料、実験装置）、中学校技術・家庭科におけるエネルギー変換に関する教材の提案（論文）		
講習に関する感想	1）内容（試験等を含む） 準備したものが、全て予定通りに進めることができ、受講者にも十分理解されたようである。 2）運営（活用機材、会場、補助員等） 技術棟でできたため、教材等の準備や実演がうまくできた。 3）その他 受講者が少なかった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	山守 一徳	記入年月日	2016 年 8 月 19 日
講習の区分	必修講習・選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 19 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員および養護教諭 人数：18 人	講習会場 (教室等)	教育学部校舎 2 号館 1F コンピュータ実習室
講習名	コンピュータハードウェアの基礎		
講習の目標	コンピュータハードウェアの知識習得によって学校のパソコンの故障対応、機種選定検討、メンテナンスなどが行えるようになる。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00-11:00 PC ケースの蓋を開けての解説 11:00-11:10 休憩 11:10-12:00 インターネットを使って演習 午後 13:00-14:30 組み立て方法や故障時対策の解説 14:30-14:40 休憩 14:40-15:10 ネットワークトラブル対策の解説 15:10-16:00 プログラミング教育の話題の提供 16:00-16:40 テスト 16:40-17:00 受講者評価書記入後解散		
活用した資料・データ等	・パワーポイント ・インターネットショップにアクセスしてデータ収集		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) Windows デスクトップパソコンのハードウェアについて解説を行った。ハードウェアの実物をパソコンケースの蓋を開けて見ていただき、部品の回覧も行った。部品の選定を行う時の着目ポイントを教え、インターネットショップの実際の販売データを使って、デスクトップパソコンに必要な部品を選定する作業を実施した。また、組み立て方法やパソコンが動作不良になった時に調べる方法、対処方法も講義した。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・受講者の名前の書いてある USB メモリを一人一人に配布するのが大変であったが USB メモリを束ねてある順番が受講者の登録順になっていたため助かった。 ・当日前までにコンピュータ実習室の中を掃除するのが大変であった。 3) その他 高校の先生の受講者が増えた。 最後にいただいたコメントを読むと、多くの受講者の役に立ったようである。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	富樫健二	記入年月日	2016 年 9 月 1 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 19 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小学校教諭、養護教諭 人数 19 人	講習会場 (教室等)	教養教育 1 号館 2 階 206 教室
講習名	運動と健康		
講習の目標	・子供たちを取り巻く環境の変化について理解する。 ・健康 (裏返すと病気) を理解し、その原因としての運動不足、もしくは健康のための運動実践を理解する (肥満とやせ、骨密度を主な事例として)。 ・なぜ子どもにとって運動刺激が必要か理解する。 ・実際に運動・遊びづくりを考えたり、自分たちで出来る対応策、指導法について考える。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：1 コマ 9:00-10:20 子どもを取り巻く環境の変化 子どもの体力低下 2 コマ 10:30-11:50 子どもの肥満・生活習慣病と運動 子どものやせと骨密度・運動 午後：1 コマ 13:00-14:20 体力向上を目指した豊かな実践 2 コマ 14:30-15:50 各校種で子どもの健康や体力状況について話し合い、本日学んだことを活かしながらどのような対応が取れるかディスカッション 試験：16:00-16:40 (ノート・資料持ち込み不可)		
活用した資料・データ等	文部科学省 学校保健統計 文部科学省 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 厚生労働省 国民健康・栄養調査 幼児運動指針		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 運動と健康に関する幅広い話が好評でした。また、グループワークなどで異校種の状況が聞けるというのも良かったようです。試験は論述で A4 一枚に 3 題(800～1000 字)としたがちょうどよい量であったと思います。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) No.2 へ書きました。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	須置野 仁志	記入年月日	2016 年 8 月 30 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 19 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全校種（幼・小・中・高） 高校・特別支援等）教員 48 人（教室等）	講習会場	総合情報処理センター第 4 端末室
講習名	アクティブラーニングにつながるプレゼンテーションの技		
講習の目標	・よりよいプレゼンテーションとはどのようなものかを知り、児童生徒らがプレゼンテーションツールを用いて発表する上での留意点や指導について理解する。 ・児童生徒の立場となり「私のオススメの場所」についてプレゼンテーションを行い、グループ内でプレゼンテーションの技やノウハウを学び合う。		
授業概要（大まかな流れ）	・これまでのプレゼンテーション経験は？ ・プレゼンテーションの歴史、プレゼンテーションが重要となった背景 ・プレゼンテーションの現場で ・「私が考えるよりよいプレゼンテーションとは」 3 s カードを使って ・プレゼンテーションでの知性・能力 多重知性論など ・プレゼンテーション実習「私のオススメの場所」 ・アクティブラーニングとプレゼンテーション		
活用した資料・データ等	・アクティブラーニングにつながるプレゼンテーションの技 PPT スライドショー及び配付資料 須置野研究室編		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・受講参加者の多くは、学校現場でプレゼンテーションしたり、児童生徒の発表活動を支援する立場であるが、これまでプレゼンテーションの方法や技術について学んでこなかったため、本講習は有意義なものとなったようである。 ・10 人程度のグループとなり、5 つの場所に分散してプレゼンテーション実習を行ったことが参加者には好意的に受け入れられてよかった ・講習参加者のアンケートに「改めて日常のプレゼンのやり方を見直すことができました。普段、なかなか他の先生の提案を聞く機会がないので大変参考になった。」「皆さんと作品を共有できたことがよかったです。とても刺激になりました。」「(Module を使って) 全ての人のパワーポイントを見ることができてよかったです。」「とてもわかりやすく、楽しい講義でした。PC と約 3 年間触れていなかったのもともと苦手ではあったのですが、思い切って受講してよかったです。」「皆さん、素晴らしいスライドを見せてもらったのでイメージが私なりに豊富になったのが本当によかったです。」「というコメントがありました。この講習内容やプレゼンテーション技法を普及させる活動は今後も続けていきたい。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） ・大学の総合情報処理センターのコンピュータやインターネットが使え、何も問題なく、講習できよかった。 ・受講参加者との交流を行う Moodle は、昨年度まで学外からもアクセスするため、三重大学 Moodle が使えませんでした。今年から受講者が使うアカウントを 6 週間有効としていただいたので、三重大学 Moodle で講習後も活用でき本当によかったです。Moodle の事前準備の時間も少なくなり助かりました。 3) その他 ・募集定員 50 人ちようどの講習でした。プレゼンテーションのことを学びたいと考えている教員は多い、ということがよくわかりました。		

担当講師	中西良文	記入年月日	2016 年 9 月 14 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 19 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼小中高教諭 人数：32 名	講習会場（教室等）	教養教育校舎 1 号館 2F PBL 演習室 1
講習名	学習モチベーションの心理学		
講習の目標	「(学びに対する) やる気・モチベーション」についての心理学的知見を理解するとともに、これらの知見を実際に応用できるようにする。		
授業概要（大まかな流れ）	グループワーク：担当学年別・アイスブレイキング 内発的動機づけ・自律的動機づけについて 有能感・無力感について 課題面直について		
活用した資料・データ等	内発的動機づけに関する逸話 セリグマンによる学習性無力感実験の詳細 「好み選択」課題		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 昨年度から以前に 1 講習で行っていた内容を 2 つに分割して行っているが、昨年度の内容でも、分量的に多いという声があった。そのため、さらに余裕を持ったスケジュールで講習を行った。それにより、ゆとりと内容を扱うことができ、受講者の方の理解が広がったように感じられた。また、学校現場でどのようにそれらの知見を取り入れるかについてもある程度扱うことができたのではないかと考えている。ただし、最後の共有のパートでは時間的に慌ただしかったため、その部分については改良が必要であると考えた。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 補助員の方に適宜サポートをいただいたため、スムーズに講習を進められました。大変感謝しております。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	丸山一男	記入年月日	2016年 9 月 14 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2016年 8 月 19 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全職種 人数：90	講習会場 (教室等)	医学部臨床第2講義室
講習名	心肺蘇生・窒息・熱中症・溺水・インフルエンザ		
講習の目標	2015年に改訂された、心肺蘇生法について解説する。保育園、幼稚園、学校で発生しうる、熱中症・溺水・窒息・インフルエンザなどの発生状況を知り、予防につとめる。万が一発生してしまった場合の対処法を身に着ける		
授業概要 (大まかな流れ)	酸素を脳へ送る5つの条件を想起し、実例を挙げ、予防が極めて大切であることを強調した。熱中症の分類、原因について解説し、予防及び発症後の対策を示した。窒息の原因と予防法、対処法について教示した。インフルエンザウイルスについて、開設し、予防法を示し、新型インフルエンザに対する対策（鳥、ブタの処置を含む）の医学的背景を解説した。		
活用した資料・データ等	自治省、消防庁の水難事故統計 2015 AHA BLS マニュアル		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 試験の成績は、大変良好であった 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 適切に運営された 3) その他 受講生が全員、常に覚醒状態で、寝ている人がいなかった。受講生に前に出てきてもらい、講師とともに実演する機会を作った。また、マイクを回し、対話形式の授業形態をとった。 救急とは、「当たり前のことが当たり前でなくなる状況だ」との声が寄せられ、「現在の救急の本質は、予防である」ということを感想として述べる受講生が多かった。学校、地域、家庭で予防の啓発活動につとめ、小さいお子さんにも、「分かり易く説明したい」との声が多かった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	長屋祐一	記入年月日	2016年8月23日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016年8月19日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：6名	講習会場 (教室等)	教養教育 101教室
講習名	命をつなぐ食物を学校教育に生かす―食・農・医・福祉・環境の連携―		
講習の目標	私たちの生きる源は、他の生物の命をいただくことです。食の材料は、自分だけでなく、他の人たちの力を借りて栽培・飼育します。食事や農畜産物の残渣は、堆肥として農地に還元し、命の循環がなされます。一連の食資源の循環から、命の大切さと他者との協力、自分の健康や自然環境・社会環境に関する事項が、実は幅広く繋がっていることを学びます。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：9時00分から11時50分 ・食事、食料の重要性 ・わが国の食料自給率 ・学校給食の意義、自校方式、学校給食実施記録簿、 ・食品表示など加工食品について ・食物連鎖、食品リサイクル法について 13時00分から15時50分 ・水田の多様性 ・食育 ・食に関する教科教育と全人教育 ・学校園を作ると・・・どうなるか？についてワークショップを3名×2グループで作成。成果物は模造紙1枚とする。 なお、午前・午後の各項目に関する資料集からの資料を利用して解説するとともに、DVDやYOUTUBEによる映像の解説もおこなった。 16時00分から16時40分 テスト（ノート、資料の持込可）		
活用した資料・データ等	【事前課題】 1. 学校で行った栽培経験、食（調理）の経験について教えてください。また、児童・生徒の様子もお願いいたします。 2. ご自分がご自宅で行った栽培経験を教えてください。 3. 講習開始前の1日間の朝昼夜間食の食事内容と原材料調べ、以上の項目について、メールにて回収した。 【当日】 DVD「水田の秘密―環境と生命の物語―」23分、全農映 世界的な環境問題と、水田の多様な生態系、農業について知る DVD「食育シリーズ4、私たちの食生活と農業の未来、第2巻 地域を軸で元気に、地産地消で人づくり町づくり」25分、農文協 小浜市の例を活用し、地域の農作物を利用した学校給食、農家とのふれあい、生涯教育としての食育、食の街づくり等について知る。 YOUTUBEとして、「自然農」「バーマカルチャー」「洗剤のないホテルなど」		

	について知る。 自作ビデオ：食品循環資源から堆肥を作る工場の様子 10 分 自作のリンク集ならびに閲覧のための iPad 自作の資料集（事前課題についてまとめたものと、自作のリンク集より抜粋印刷） なお、資料の一部には、各種官庁資料のほか、研究論文などとして 古市・高田(2011)「食べるものの意味と食べ方を問う」鹿児島純心女子短期大学研究紀要 41, pp39-60. 末広ら(2007)「教員養成カリキュラムにおける栽培教育について」長崎大学教育学部紀要、教科教育学, 47, pp109-117. 大阪府教育センター 情報・技術研究室 資料 (2010)『平成 21 年度 学校でできる栽培【技術分野】—新学習指導要領の実施に向けて—』全 28 頁を含む。 また、当日利用した自作のリンク集については、後日に受講生が利用する可能性を鑑み、メールにて html ファイルを送付した。 ワークショップのための模造紙や油性ペン、付箋などを利用し、成果物を作った。 ワークショップの成果物については、写真を撮り A4 印刷して、授業終了後に受講生に配布した。
講 習 に 関 す る 感 想	1) 内 容 (試験等を含む) - 事前アンケートも真面目に対応され、当日の講習においても大変真面目に参加されていた。 - iPad の操作方法が若干手間取ったようだが、すこし練習すると十二分に運用することができた。 - ワークショップにおいても、3 名のグループであったが、積極的に行っていた。 - ワークショップでは、当日の講習内容が十分生かされていた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) - 会場の広さ、iPad、プロジェクター、PC からの DVD 再生時における PC のイヤホンジャックからの音響装置は、すべて十分であった。 - 補助員についても、大変役立つ。 3) その他 - 熱心に受講され、また、課題に取り組んでいただけた。

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	藤本 久司	記入年月日	2016 年 9 月 4 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教職員 人数：30 人	講習会場 (教室等)	教養教育 1 号館 1F 101 教室
講 習 名	異文化間の誤解と理解		
講習の目標	様々な文化間の誤解やギャップを通して、異文化の理解と考え方を身につける		
授業概要 (大まかな流れ)	1. はじめに、誤解とギャップ例 3 つ 2. 世界のジョーク集に載れる「文化の違い」 3. 文化の意味の多様性 4. 異文化間のコミュニケーション・異文化理解の背景 5. 異文化間の誤解とギャップのつづき 6. 世界の文化の類型 7. 時間の使い方 8. 見方、考え方の違いについて 9. 偏見、ステレオタイプなど 10. グローバル化社会と異文化間の理解		
活用した資料・データ等	新聞社記事 法務省統計局資料 ジョークに関する本 専門書-10 冊程度 以上を用い、オリジナルのレジュメを使用		
講習に関する感想	1) 内 容 (試験等を含む) 現場で直接体験している人が多く、熱心に受講していた 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 機材、会場等問題なし 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	山根 栄次	記入年月日	2016年 9月 9日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2016年 8月 23日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭 人数：9	講習会場 (教室等)	教養教育1号館 PBL 演習室2
講習名	社会科・公民科の授業における新聞活用(NIE)		
講習の目標	1. 小学校・中学校の社会科と高等学校の公民科の教育において新聞をどのように活用したらいかにについて知る。 2. 新聞を活用した学習を実践に体験する。具体的には、「株式学習ゲーム」と「新聞作品」作成を体験する。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：9:00～10:30 社会科・公民科における新聞活用の具体例 10:40から12:00 「株式学習ゲーム」体験 午後：13:00～15:50 新聞切り抜き作品作成 16:00～16:40 新聞切り抜き作品の発表・講評		
活用した資料・データ等	・自作のパワーポイント「社会科・公民科の授業とNIE」 ・自作のパワーポイント「株式学習ゲームと新聞の利用」 ・日本証券業協会「大学生のための証券市場と株式会社の基礎知識」 ・中日新聞社「第22回 新聞切り抜き作品コンクール優秀作品集」		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 講義形式というよりも、レポート制作や新聞切り抜き作品の制作を中心としたので、居眠りをする受講生は居なくて、良かったと思う。社会科・公民科におけるNIEの色々な手法を理解することが出来たのではないかな。優れた新聞切り抜き作品が作成されていた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 準備をお願いしていた用具が全て揃っていてよかった。 補助員がいろいろと手伝ってくれて助かった。 受講者が9名で、作品を制作するためにテーブルを1人2テーブルにできて制作しやすかった。 3) その他 特になし。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	秋元 ひろと	記入年月日	2016年 9月 1日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016年 8月 23日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭 (小・中・高) 人数：4人	講習会場 (教室等)	教養105
講習名	論理トレーニング		
講習の目標	論理を、狭義の数学的な記号論理学が扱う論証の妥当性よりは広く、換言、例示、補足、理由・帰結などの、文と文の接続関係と捉え、日本語の文章を読んでそれらの関係を適切に把握するトレーニング、それらの関係を適切に表現して日本語の文章を書くトレーニングをする。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00-10:20 接続関係と接続表現 (解説) 10:30-11:50 接続関係と接続表現 (練習問題) 午後 13:00-14:20 論証と論証図 (解説と練習問題) 14:30-15:50 論証の評価 (解説と練習問題) 試験 16:00-16:40 試験 (資料持ち込み可)		
活用した資料・データ等	講義内容の資料 練習問題資料 熊本大学教育学部附属小学校「論理科」の資料		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 受講生は少なかったが、積極的に質問するなど熱心であり、ディスカッションもすることができた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 特に問題はなかった。 3) その他		

担当講師	平山大輔	記入年月日	2016 年 9 月 1 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中学校教諭 人数：20 名	講習会場 (教室等)	教養教育校舎 1 号館 205 教室 およびキャンパス全域
講習名	身近な植物観察と学校におけるその実践方法		
講習の目標	理科における自然観察体験の重要性が指摘されていることを背景として、この講習では、野外の植物を対象とした観察を行い、身近な自然についての理解を深めると同時に、学校でのその効果的な実施方法について、具体的な実践事例にもとづき理解を深めることを目的とした。		
授業概要 (大まかな流れ)	09:00-09:50 講習の概略、観察の際のポイントの説明 10:00-12:00 三重大学キャンパス内の植物の観察 13:00-13:30 学校での効果的な実践方法の紹介 13:40-14:30 標本用の植物の採集 14:40-15:50 ラミネート標本の作製、シリカゲル標本の作製 16:00-16:40 試験、16:40-17:00 事後評価		
活用した資料・データ等	・三重大学における自分自身の実践事例および授業教材 ・平山大輔 (2014) 色や形を残す植物標本づくり、世界通信 教材学習ニュース No. 2128 (1) 世界通信社、2014 年 7 月 5 日発行。 ・斎木ほか (2007) 野草カード：たれでも野草の名前がわかる教材―校庭の野草を対象とした実践と検討、日本理科教育学会全国大会発表論文集 5、p144。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) これまでと同様に、事前アンケートの回答には、自然観察が苦手といった声や、身近な植物をどのように観察させればよいかわからないといった声が多く、学校での効果的な自然観察の方法を知りたいという思いをもってこの講習を選択した受講者が多かったと感じた。小中学校の校庭で共通してみられるような樹木や生物現象を題材とした実習形式で行い、小中学校の理科での学習のねらいに合致した実践方法の紹介に努めたことで、受講者のニーズにある程度応えることができたのではないかとと思う。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 運営に携わられた教職員のの方々には細やかなご配慮をいただき、円滑に講習を実施することができた。また、講習補助員にも、非常に熱心に補助して頂いた。 3) その他 昨年感じたことと同様だが、受講者の方々から各学校現場での自然観察授業の現状や実践事例などについて興味深いお話を伺うこともでき、この教員免許状更新講習を担当することは、私自身にとっても非常に得るところが大きいと改めて認識した。		

担当講師	岡野 昇	記入年月日	2016 年 9 月 1 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼稚園・小学校教諭 人数：30 名	講習会場 (教室等)	第一体育館
講習名	「学びの共同体」の理念に基づいた小学校体育の授業デザイン		
講習の目標	運動実践を通して身体で感じる気づきを手がかりとしながら、いつの間にかそういうもののだと思いついて組み立てる自らの体育授業についての問題 (性) を浮き彫りにしていきます。あわせて、「学びの共同体」の理念に基づいた (例えば、「真正な学び」「学びの三位一体論」「協同的学び」「ジャンプの課題」など) 小学校体育の授業デザインについて学ぶ。		
授業概要 (大まかな流れ)	講習①：9:00-10:20 体づくり運動の授業づくりの考え方と実習 講習②：10:30-11:50 表現運動領域の授業づくりの考え方と実習 講習③：13:00-14:20 器械運動領域の授業づくりの考え方と実習 講習④：14:30-15:50 陸上運動・ボール運動領域の授業づくりの考え方と実習 試験：16:00-16:40		
活用した資料・データ等 講習に関する感想	・『総合教育技術』(小学館、2015 年 10 月) ・『総合教育技術』(小学館、2016 年 7 月) 1) 内容 (試験等を含む) 受講者評価書 (4 点満点) の集計結果は、以下の通りである。 I-1…3.87、I-2…3.9、I-3…3.93、I-4…3.93 II-1…3.93、II-2…3.87、II-3…3.8、II-4…3.8 III-1…3.93、III-2…3.47、III-3…3.87、III-4…3.8 I・II・IIIの平均…3.84、I・IIの平均…3.88 30 名中 23 名 (76.6%) が 4 点満点 (III含まず) ・昨年と比較して、I・II・IIIの平均が-0.12、I・IIの平均が-0.08、4 点満点の割合が-10.9 とすべてにわたって下回った。これは対象者を保育園・幼稚園教諭に広げたことなどが影響しているものと考えられるが、保幼小の接続という観点からの講習内容に改善の余地がある。次年度の課題としたい。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・運営本部には、体育館関係のサークル活動の制限をしていただいた点に感謝申し上げたい。また、昨年度の課題であった隣接する第一体育館で行っていたサークル活動の制限もしていただき、講習を支障なく進めることができた。 ・IIIについて、今回から 4 項目を設けた影響からか、III-2のポイント (3.47) の低さが目立った。自由記述とあわせて考えると、会場の設備 (夏場の体育実技にはエアコンが必要) の不備があげられる。当日は大型扇風機 3 台、製氷機、クーラーボックスの提供を行ったが、効果は薄かったようである。熱中症対策が加速する学校教育現場において、夏季体育実技研修のほとんどが、エアコン完備の体育館で実施されている状況を鑑みれば、大学側もその対策が迫られているように思われる。 3) その他 ・特になし。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	下村 勉	記入年月日	2016 年 9 月 1 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 23 日
主な受講対象者・人数	受講対象者：全教員 人数：20	講習会場 (教室等)	教職支援センター1F 第4教育端末室
講習名	楽しく思考力・表現力を養うスクラッチプログラミング		
講習の目標	1. 自分のアイデアをプログラムで表現してみ 2. 学校現場でどのような活用が考えられるか、思考力・表現力育成につながるかを考える。 3. グループで作品を共有・交流する楽しさや有効性を実感する。		
授業概要 (大まかな流れ)	児童生徒の「思考力・判断力・表現力」を育成する手段として、最近、プログラミングが注目されている。新たなプログラミング環境「スクラッチ」は、マウス操作で命令の「ブロック」を組み合わせて、キャラクターなどを自分の意図したように動かす。操作が簡単かつ奥が深いので、子どもから大人まで楽しみながら使うことが可能である。しかもWeb環境で無償で利用できるのも、広がりが増える。写真・イラスト・音声を用いたデジタル教材開発にも利用できるが、児童生徒に使わせると思考力・創造力の育成や主体的学習・協働学習につながる。演習は個人が基本であるが、1グループ4人で互いに作品作りを支援する(協働学習) (1) 9:00-10:20 ガイダンス、講義、課題の説明など (2) 10:30-11:50 グループ活動(自己紹介、課題作業) (3) 13:00-14:20 課題作業つづき (4) 14:30-15:50 講習成果の発表と共有(グループと全体) (5) 16:00-16:40 試験 (6) 16:40- 受講者評価		
活用した資料・データ等	<講義資料(配布資料)> ・「楽しく思考力・表現力を養うScratch(スクラッチ)プログラミング」 ・Scratch作成の流れ ・Moodleの活用 ・スクラッチ・マニュアル <Moodle上に準備したデータ> ・ガイダンス(講習の内容、Moodleの活用、スケジュール) ・課題の説明(プログラミング課題、Scratchの作品例、Scratch作成アドバイス) ・グループワーク(グループ構成、座席表、グループの広場) ・「成果の発表と交流」フォーラム		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) ・ほとんどがプログラミング初心者であったが、楽しく取り組んでもらった。 ・試行錯誤を繰り返し、問題解決の達成感を感じてもらえた。 ・グループで互いに助け合う「グループ支援学習」を取り入れたが、その有用性を感じてもらえた。 試験結果や受講生の感想から、1日で行う講習としては、質の高いものが実施できたのではないかと思っている。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) ・情報端末室でPCとネット環境、Moodle、プレゼン機器などICTをフルに使った講習であり、全般的にうまく運営できた。 ・補助員は、この日教員採用試験や大学院入試などの日程と重なり、講習内容に詳しい学生の補助員を得ることができなかった。 ・私が指導する情報教育内地留学生が準備段階から手伝ってくれたので、学生の補助員がいけない点をカバーすることができた。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	望木郁代 後藤道子	記入年月日	2016 年 9 月 14 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 23 日
主な受講対象者・人数	受講対象者： 人数：50 名	講習会場 (教室等)	教養教育校舎3号館1331教室
講習名	学校でのストレス・マネジメント		
講習の目標	認知行動療法やas ifの手法などを理解し、その技法を習得することで、先生ご自身、そして児童・生徒のこころの支援としての実践的ストレス・マネジメントの取り組みができるようになる。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00-10:20 ストレスについての概略と理解 10:30-11:50 「as if exercise」関係者の立場で考えることの実習 13:00-14:50 認知行動療法の紹介と実践 15:00-15:50 学校でのストレス・マネジメントの実践 16:00-16:40 認定試験(資料持ち込み可)		
活用した資料・データ等	認知行動療法に用いるアセスメントのための記入表 ソーシヤル・サポート、ストレス・コーピング、認知の誤り、教師の関わりなどの文献 T E G II 原因帰属、アサーション・トレーニングのワーク教材		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) 事前アンケートでいただいた質問にお答えできるよう、先生方のご要望になるだけ沿った内容で、即実践として使えるものを提供するように努めました。as if講習では、参加者の先生から症例を募集し、実際に解決へ導く方法を体験していただき、また、認知行動療法を活かした学校での実践方法をいくつか紹介し、アセスメントや認知の歪みに取り組みました。心理学や心理学法の専門用語や新しい概念を次から次へご紹介する内容で、質問していただく時間をなかなかゆとり取れなかったのが反省点です。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) 教室はゆとりと余裕がある広さで、ワークで移動や作業をするには適度でした。機材などを本部で完璧に準備していただき、とても快適でした。 補助の学生さんがおらず、クーラーが切れたとき教室の一番後ろがスイッチだったので、申し訳ないことに受講の先生にお願いすることになってしまいました。クーラーが寒すぎた、と何人かの先生からご指摘をいただきました。 3) その他 先生方は非常に熱心に授業やワークに取り組んでくださいました。as if講習で積極的に発表なさった先生がいちゃって、それに対して他の先生方が熱心に取り組み、問題解決につながるような発言をたくさんしてくださいました。認知行動療法でもロールプレイをしましたが、ワークを含んだ講習が無事最後まで成立しましたのも、先生方のご協力あったことだと感謝しています。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	岡島 賢治	記入年月日	2016年 9月 5日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016年 8月 23日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭 人数：11名	講習会場 (教室等)	上浜キャンパス教養教育校舎1号館2F 206講義室
講習名	水とともに生きる 一飲み水・用水・水害を通じてー		
講習の目標	地球規模の水循環から洪水や、生活用水、工業用水、農業用水など私たちが利用している水についての知見を深め、教育現場で利用できるアクティビティを身に付ける		
授業概要 (大まかな流れ)	水は、水道用水、農業用水、工業用水などとして日常的に利用されている。そしてその背景に、雨、河川、海洋を巡る大きな水循環があり、私たちはこのような水を巡る環境の中で生きている。そこで、本講義では、水を通じて、環境に対する考え方を養い、水から得る恵みと水を得る工夫、水による災害の恐ろしさとその対策について講義する。		
活用した資料・データ等	パワーポイント		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 様々な水に関するアクティビティを行ったが、参加している教諭の方々も積極的に取り組まれて、良い講習ができた 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 広さ、機材等十分でした。 3) その他 特にございません。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	山口 泰弘	記入年月日	2016年 8月 30日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2016年 8月 26日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中高教諭 人数：7人	講習会場 (教室等)	三重大学教育学部専門校舎2号館 美術史演習室
講習名	鑑賞教育 (美術)		
講習の目標	学習指導要領の改訂によって、中学校・高等学校の 美術教育における鑑賞教育の重要性が以前にも増して高まってきた。そこで、この講習では、日本美術を対象として取り上げ、美術作品の鑑賞および教育の方法について検討するとともに、日本の 美術や伝統と文化に対する理解を深め、美術を通じた国際理解を深める方法についても考察する。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：1コマ 9:00-10:20 学習指導要領と鑑賞教育の重要性 2コマ 10:30-11:50 学内の登録有形文化財見学 午後：1コマ 13:00-14:30学内の登録有形文化財見学についての意見交換 2コマ 14:40-15:50鑑賞教育への美術史的方法の導入 試験 16:00-16:40		
活用した資料・データ等	学習指導要領 (中学2年) 海外の美術館博物館で収集した鑑賞教育関連資料 絵画・彫刻等の美術資料の画像データ		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 受講者人数が適正であり、対話型の授業に道した人数で授業が実施できた。 鑑賞教育には、実物の観察が不可欠であり、学内の登録有形文化財 (レーモンド・ホール、三翠会館) を有効に使うことができた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) パワーポイントを活用 教室を受講者数に合わせて小規模な演習室に変更したことで、インタラクティブな授業展開が可能となった。 3) その他 例年同様、受講生に美術に関心のある他科目の教諭が多く、様々な視点からの発言があり、有意義であった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	八木 規夫	記入年月日	2016 年 9 月 9 日
講習の区分	必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 26 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼・小教諭 人数：23	講習会場 (教室等)	教育学部1号館多目的ホール 及び第1体育館
講習名	幼児・児童の体力・運動能力の向上と発達発達		
講習の目標	子ども（特に幼児期）の体力・運動能力の向上と発達発達との関連について考える		
授業概要 （大まかな流れ）	午前：子ども（特に幼児期）の体力・運動能力の向上と発達発達との関連について、運動生理学やバイオメカニクスの観点から学習する。幼稚園の園庭環境と幼児の運動遊びについての紹介。基本的な運動動作の発達に関するデータの紹介。 午後（前半）：簡単な実技研修で、昔遊びにおける身体動作の面白さを体験する。 午後（後半）：身体運動の簡単なメカニズムを運動生理学とバイオメカニクスの観点から学習する。 試験：3問		
活用した資料・データ等	子どもの体力・運動能力低下に関するデータ。 子どもの発達発達に関するデータ。 基本的な運動動作の発達（特に幼児期）に関するデータ。 身体運動科学に関する簡単な資料。		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 幼稚園及び小学校の先生が主な対象者であった。実技研修を取り入れた事によって先生方の交流が深まり、お互いに教え合いなどして良い雰囲気になったように思われた。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 会場、機材とも良好であった。 補助員のおかげで講習をスムーズに行えることができた。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	佐藤 年明	記入年月日	2016 年 9 月 2 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2013 年 8 月 26 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：保幼小中高特支 人数：8人	講習会場 (教室等)	教養教育105教室
講習名	「生きる力」論批判		
講習の目標	1996 年中央教育審議会答申以来現在に至るまで、学校現場で教育目標や教育実践の方法を語る際に当たり前に語られてきた「生きる力」を教師は鵜呑みにしてよいのか？特に、人間の生きる営みを「力」として把握することは本当に正しいのか？教育方法研究史・教育実践研究史の中で人間が生きていることと諸能力・諸資質・人格の諸側面の関係がどう把握されてきたかを問い直すことを通じて、「生きる力」論を徹底検証したい。		
授業概要 （大まかな流れ）	1. 人が生きることを、死と切り離しては語れない 2. 中教審答申(1996)の「生きる力」論とは？ 3. 学校教育は人間が生きて「力」に関わるべきなのか？関われるのか？（佐藤論議） 4. （参考情報①）「生きる力」論はいつどこで生まれたのか？ 5. （参考情報②）「生きる力」論を継承？（2008年中教審答申） 6. 教育科学学会の「生きる」とは何か（1970年代） 7. 20年後の教科研における議論 7. 「生きる力」大討論！		
活用した資料・データ等	中央教育審議会答申(1996)19(2) 世紀を展望した我が国の教育の取組方について（第一次審議）／中央教育審議会答申(2008.11)7 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）／国立教育政策研究所「生きる」とは何か（2013）／教育科学学会編「教育」No.325（1976.1）／座談会「力あることと生きる力」／教育科学学会編「教育」No.325（1976.1）／西川伸一「生きる力」から人間力へ1章・2章 教育出版 2003.9／佐藤年明「学習指導要領改訂の社会性を問う―「生きる力」とは何か―」教育科学学会編「教育」No.746（2008.3）		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 今年で3回目の講習（昨年は身内の不幸により直前に開催中止）である。 2012.8.17にNHKで放映された「最期の笑顔～納棺師が描いた東日本大震災～」の映像をNHKオンデマンドで入手し冒頭に視聴したことは意義深かったと考える。 試験については受講者の価値観に深く関わる内容であるので、採点に苦労した。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 3) その他 入試の時はエアコンのタイマーは切られているのだから、更新講習時も同じ措置を取れないだろうか？ 講師が一時的に一時外出する昼休みの時間帯については、受講者に切れたら点けるよう指示してカードを置いて出かけたが、戻ったら切れていた。講習中も、話を教回中断して点け直さなければならぬ。1日6時間の集中講義をしているのだから、アメリニティの方をそれに合わせてほしい。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	西出りつ子 見玉豊彦	記入年月日	2016年 8月 31日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 (選択講習)	講習開設日	2016年 8月 26日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：29名	講習会場 (教室等)	教養教育校舎1号館
講習名	メンタルヘルズ問題をもつ子どもの理解と対応		
講習の目標	1)メンタルヘルズ問題をもつ子どもに気づく視点と望ましい関わり方を理解する 2)子どもがメンタルヘルズ問題をもつ原因は多様であり、表面上の現象に惑わされず問題の本質を見極めることが重要であると理解する。 3)問題の本質を見極めるには様々な情報の収集と統合したアセスメントが必要であり、これにより子どもの心の理解につながることを再認識する 4)対応方法を多角的に考える重要性和、自らに対応すべきことと組織的に考えて対応すべきことを区別する必要性を理解し、今後の教育活動の中で活用する意識をもつ。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00～12:00 講義「メンタルヘルズと子どもの成長発達、グループワーク(1)(2) 13:00～15:45 講義「子どものメンタルヘルズの問題と関わり方」、講義「学校におけるメンタルヘルズを集団と組織の視点で考える」、グループワーク(3) 16:00～16:40 履修認定試験(講義配付資料持ち込み可) ・講義で使ったパワーポイントの配付資料 ・人口動態調査結果、自殺対策に関する世論調査結果 ・政府統計(不登校児童生徒数の推移・指導結果) ・三重県児童福祉統計(児童虐待相談の概況) ・講習参加者のグループワークの結果(模造紙・付箋・マジックペン)		
活用した資料・データ等			
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 今回の度は、子どもの精神疾患の説明と、こころの問題に対する具体的な対応についての内容を充実させた。感想も、「役に立った」との意見が見られた。 ・グループワークの事例設定では、子どもの病的な側面だけに着目するのではなく、発達段階や社会的背景も視野に入れた考察ができるように配慮した。 ・グループワークでは、漫然と情報収集や対応を考えるのではなく、根拠をもって誰が何にどのように取り組むのかを考えられるよう、課題を提示した。 ・事例の「気になるところ」に気づく力を育てるために、個人で考えてからグループで考え、さらに全体で考える形をとった。また、様々な意見を引き出すよう心がけた。 ・今年度は、試験に講義配付資料を持ち込み可とした。試験中に資料を見直す姿が多かった。講義内容がよく反映された解答が多く、専門用語の間違いは少なかった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・講義での学びを深らせるため、模造紙を用いて事例について考えるグループワークを行った。グループ間で活発な意見交換が行われた。講師が指名したグループにはホワイトボードを活用しながら発表してもらい、意見の共有を行った。 ・グループワークに関しては、「他教諭の意見が参考になった」等、おおむね好評であったが、一部で「グループワークの指示が分かりにくかった」といった意見もあった。グループワークの方法について、もっと丁寧に説明する必要がある。 ・試験時間(40分)内に十分に解答できない参加者が少数見られた。試験問題の設問数と内容の再検討が必要である。 ・エアコン調整は講師や補助員が適宜行い、部屋の温度は適切に保たれていた。 3) その他 ・グループワークと試験前の机といすの移動を受講者が率先して行ってくれ、助かった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	通尾直美・鈴木聡	記入年月日	2016年 9月 9日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016年 8月 26日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼・小・中・高・養護教諭 人数：25名	講習会場 (教室等)	三重大学教養教育1号館101
講習名	学校をめぐる地域連携と教師役割を考える		
講習の目標	○学校・学校内外における生徒指導・生活指導に関わる教師役割を問い直す ①社会学の目で教師役割を捉え一般社会に通じる不易の役割とは何か、また社会の急激な変化に対応する新たな教師役割についても理解を深める。 ②通告対応数の急増する児童虐待について、児童相談所の立場から相談状況や関係法律、関係機関との連携等を解説し、学校や教師による通告発見、対応に役立てる。 ③「被害待児対応」を巡る連携の実際場面で生じる課題点を学校や教師の立場から取り上げ、対応経験の有無で差異のある発見通告、チーム対応の手法を共有する。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 午前の部では、学校内外の生徒指導に係る教師役割に関する社会学的知見や組織的資源活用等の意義について講述した。 2. 午後の部は、児童相談所長鈴木講師による一時間余の講義後、質疑応答等により児童相談所の考え方、実際の事例に基づく対応例などを解説した。 3. 児童虐待に関する受講生の経験事例や課題点を班で討論し全体発表で共有しつつ関係機関との連携法やチーム対応法について相互学習する場を設けた。		
活用した資料・データ等	配布資料：○パワーポイント紙媒体 (運賃担当分) <出典>「学級社会学」(蓮尾他編著 ナカニシヤ出版、平成25年、第6章：鈴木講師との共執) ○児童相談所業務の中で日々経験した事例やそれへの対応、業務統計などから、写真やグラフなども含むプレゼンテーションを講義に使用。(鈴木講師担当分)		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ①「社会学の目」は、学校内外の一般社会に通じる相座であり、学校や教師役割を捉え直す枠組みや方法となる。ニックネームや「ユーモア」はその手がかりとなり教師・生徒関係の性質を知り上で有効、かつ教師役割にとつて資源基盤となることを理解する教師がかなり存在した。②地域関係機関や家族との連携では「被害待児」をめぐる学校の組織的対応が学校内外の生徒指導上の課題である。「いじめ」や非行等の対応と深く結びつくため児童生徒の問題行動をミクロ・マクロの視点、すなわち社会背景等を手がかりに質的・客観的に理解する必要性を認識できるものも少なくなかった。これは主に試験結果を通して得られた。 ③グループワークの討論や全体発表での質疑応答の中では、今まで児童相談所との連携がうまくいかなかったケースなど、受講生からの様々な経験や課題点は、児童相談所の立場としても大変よい総論になった。児童虐待への対応は決して一機関で完結できるものではなく連携関係の更なる構築のため、今回の講習は重要な機会であると感じた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 今回の会場は、受講生数に十分に通り広い教室が用いられパワーポイント使用にも良好な環境条件だった。補助員および事務局担当の方には、前日打ち合わせにも対応にいただいたので当日短時間になすべく作業も冒尾よく終える手助けをいただいた。座席表については、次年度、より入念に準備する事が課題となった。 3) その他 多様な校種の受講者層ながら、児童相談所最前線の講話による被害待児とその家族対応を巡る深刻な現状に触れ被害待児への速やかな組織対応は、今後いっそう教師の果たすべき基本的かつ重要な役割となることが受講生のほぼ全員に共有されたいものと考えられる。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	小林 貴徳	記入年月日	2016 年 8 月 14 日
講習の区分	必修講習・選択講習	講習開設日	2015 年 8 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭 養護教諭 人数：16 名(うち2名欠席)	講習会場 (教室等)	三重大学上原キャンパス 教養教育校舎1号館205教室
講習名	スペイン語入門		
講習の目標	三重県内の外国人登録者総数の約半数はラテンアメリカ出身者で占められており、学校教育の現場においても、児童生徒との意思疎通や保護者への連絡を目的としたスペイン語能力の獲得が教職員に求められるようになっていく。スペイン語初級者を対象とする本講習では、基本文法・語彙・会話表現などスペイン語の初歩的な知識を習得し、実践的なコミュニケーション力をつけることを目指す。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：1コマ 9:00-9:55 導入：あいさつ表現、文字、発音とアクセント 2コマ 10:00-10:55 名詞の性と数、冠詞 3コマ 11:00-12:05 会話練習、形容詞 午後：1コマ 13:00-13:55 主格人称代名詞、動詞 ser の活用 2コマ 14:00-14:55 動詞 ser の用法、会話練習 3コマ 15:00-15:55 動詞 estar の活用と用法 試験：16:05-16:45 既習事項の総合問題 (資料・自筆ノート持ち込み可)		
活用した資料・データ等	事前配布したプリント資料 (受講生はWEBページよりダウンロード可)。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・外国語に関する受講者の予備知識にばらつきが見られたが、基本的にスペイン語初習者を対象とした内容で講習を構成した。 ・試験を合わせると6時間以上におよぶ講習となるため、受講者の疲労や理解度に配慮し、各45～50分の講習に5～10分の休憩を挟んだ60分をひとつのユニットとする6ユニット構成とした。講習内容も文法事項を詰め込みすぎず、発音や日常的な会話表現のペアワークを多く取り入れることで、教育現場で活用することが可能な実用的なスペイン語習得を目指した。 ・用意した試験問題はスペイン語の基本的文法の確認という平易な内容を用意したが、初めての外国語を学び始めたばかりの受講生が、試験に対応できるはずなく、前年度と同様に、配布資料および自筆ノートの持ち込みを可とした。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・試験終了に際して補助員に解答用紙を回収してもらったが、その後、講習本部にてIDのみで無記名の答案が見つかった。IDをもとに該当者には大学へ引き返してもらったことになったが、補助していただく方には回収時の注意事項を徹底していたきたい。(なお、試験開始時には氏名記入のアナウンスを繰り返し行っている) 3) その他 ・スペイン語の基礎的な文法事項を説明する際、常に発音練習を繰り返したが、全日程を通じて受講生の積極的な授業参加が見られ、強い意欲が伝わってきた。 ・この講習をきっかけとして、発展的にスペイン語学習を続けていきたいといったコメントも多く、意義深い講習になったと思われる。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	牧原 義一	記入年月日	2016 年 8 月 17 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習・選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小中教諭 人数：11 名	講習会場 (教室等)	物理学第1実験室
講習名	教員のための物理の基礎実験		
講習の目標	小・中学校で取り扱う物理分野の内容に関連した実験を行って、基礎的な実験操作、新たな実験教材、実験の進め方、実験結果の取り扱い方について学ぶ。本講習では、磁気分野の実験に関する最新の実験方法を習得する。		
授業概要 (大まかな流れ)	具体的内容としては「磁石の性質」および「電流が作る磁界」に関する実験を行う。基礎的な実験に加えて、方位磁針を用いて磁力線を描画する実験や、S-ケーブルと呼ばれる器具を用いて電流による磁気効果を明確に観測する実験を行う。その後グループ単位で使用教材を用いて新たな実験テーマ (内容) を開発して、その内容の発表し、全体での検討を行う。		
活用した資料・データ等	講習内容説明用パワーポイント資料 (自作)、講習実験用指導書 (自作)、小中学校の教科書、ウェブ上の理科教材等		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・受講者数が適切な人数であり、講習の実施において丁寧な指導を行うことができて良かった。受講者も満足されていたようである。 ・小中高の教員には、学校現場ですぐに実施できそうな簡単な実験が多く紹介されていると好評であった。 ・今年から、グループでの検討作業を入れたところ、講習へのより積極的な取り組みが見られた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・今年からガイダンス、実験場所、試験会場を同じ部屋で実施したところ、移動等の必要が無く便利であった。 ・講座が管理する実験室を使用したこともあり、当初受付用の机が廊下に設置されていた。 3) その他 ・実習内容について Web 上の説明を見ていない受講者がいた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	加納 岳拓	記入年月日	2016 年 8 月 17 日
講習の区分	必修講習・ <u>選択講習</u>	講習開設日	2016 年 8 月 9 日
主な受講対象者	受講対象者：小学校教諭 人数：40 人	講習会場 (教室等)	第一体育館
講習名	子どもが夢中になる小学校体育授業		
講習の目標	子どもの体力低下や運動の二極化などの課題が顕在している現在、体育授業の役割は大きい。課題に対して、対処療法的な方法（指導方法の改善・トレーニング）によって解決に向かおうとするのではなく、体育の内容を「学び」の視点から問い直し、子どもが夢中になって参加できる体育授業について考える。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：9:00-11:50 体ほぐしの運動 多様な動きをつくる運動（遊び）・体力を高める運動 午後：13:00-15:50 器械運動系・ボール運動系・陸上運動系 16:00-16:40 認定試験		
活用した資料・データ等	実技を中心としながら、実技の意味の講話を補助員が板書し、体育館壁面に掲示した。掲示は認定試験の資料とした。		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 受講者の身体的な負担を考え、静的な運動領域・内容と動的な運動領域・内容を午前と午後にはバランスよく割り振ったことによって、全ての内容について、実技を伴った身体による学びと講話による意味づけをできた。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 実技に伴って、用具の準備や片付け、また講話の板書等を行うために、補助員1名がいたことでスムーズに運営をすることができた。実技は体育館しか難しいが、試験だけでも、空調のある場所へ移動して行うことも今後考えたい。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	乗本 秀樹	記入年月日	2016 年 8 月 19 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 9 日
主な受講対象者	受講対象者：中・高・高校の家庭科担当 人数：7 人	講習会場 (教室等)	(教養) 1 号館 2 F 206 講義室
講習名	消費者信用を中心とする消費者教育に自信を持つために		
講習の目標	実際に自分の手で計算してみることににより、ローンやクレジットの基本概念とわくぐみを知る。このことを目標としました。 この体験によって金融制度と消費生活への理解を深め、家庭科における消費者教育の指導や、貸与奨学金という金融世界に入ろうとする高校生への対応にゆとりが生まれることが期待されます。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 高等学校家庭教科書を見ると… クレジット、消費者金融金利計算についての困惑。 自前（教師）で学習が必要な箇所がある。 2. 利子についての基本的な計算法を知ろう 日歩計算、アトオン方式、元利均等残償返済方式、元金均等返済方式 3. 上の計算法が応用される リボルビング方式、分割払い、など 4. 表面金利と実質金利に注意しよう 両者の関係（利率算出） 5. 再び高等学校教科書を見ると… 以下の資料を合わせて冊子を作成し、受講者に配布しました。 ①『家庭総合』（開隆堂、平成 24 年）230～233 頁。 ②『家庭総合』（東京書籍、平成 26 年）101、106～111 頁。 ③（株）三井住友カードホームページ「分割払い」に関する説明箇所 1 頁、 http://www.smbc-card.com/main/revo/bunkatsu.jsp、平成 28 年 8 月 3 日閲覧。 ④『家庭経済教育における計算的内容の充実に関する研究』（平成 20・21・22 年度 科学研究費補助金報告書：研究代表者・乗本秀樹）、18～31 頁。		
活用した資料・データ等			
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・必ずしも楽しくない内容であるにもかかわらず、受講者全員が積極的に取り組みました。 ・試験では、計算そのものではなく、「計算体験をふまえて計算的主題をどのようにに現場で位置づけるか」ということについて考えていただきました。それぞれの立場でよく考えられました。 ・終了時刻間際に受講者から出された質問に、時間切れ（回答に長時間を要する）でお答えできませんでした。申し訳なく思うとともに、更新講習制度上可能なならば、なんらかの方法で全員に答えをお伝えできればと願っています。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） とくに問題は感じませんでした。 3) その他 ありません。		

担当講師	増田智恵	記入年月日	2016 年 8 月 18 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：主に中学校・高等学校の家庭科 人数：5 人	講習会場 (教室等)	PBL4
講習名	3 次元着装シミュレーションによる衣服設計と選択		
講習の目標	1. 1昨年から総括して、新しい衣生活教育の実践としてITを利用した教育としての衣服設計・選択情報の提供とそのための知識を提供。 2. 衣生活の中で家族と共に個人対応型の衣服管理を実現する方法の一例の提案。 3. 直接人体形状計測から個別対応のパターン自動作成の実践と、パソコン内での仮想着装シミュレーションによるデザイン設計を実施することで、衣服購入・管理など衣服情報を全体的に捉える教育方法を実践。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00～12:00 (途中休息 10 分) これからの新しい衣生活の方向とそれに伴う IT を利用した被服教育について、教員が習得すべき情報の提案。 13:00 ～15:00 (個々に機器の空き時間に休息 10 分間隔) 5 人の個々に対応するパソコンなどの機器はないため、3 次元人体計測、パターン設計、着想シミュレーションによるデザインをローテーションでグループごと交代して体験学習を行った。 ・個別対応衣服・パターンの自動作成実践 ・パソコンを預けた仮想着想シミュレーションによる衣服デザインの試み 15:00 ～16:00 ・基本の衣服設計について (途中休息 10 分) ・衣服設計用人体計測方法の実践 16:03～16:43 テスト (デザイン作成した資料持ち込み可) ・主に中高の先生で少人数のため、非常に講義と実習が熟めやすかった。 ・衣服に関する知識や情報はお持ちで、講義の内容など熱心であった。しかし、現場での要求についてはひとりの先生から具体的にあったため多少の対応はできたかもしれない。 ・実技の個人対応の衣服設計をパソコンにより自動設計することに非常に熱心であった。さらにデザインは専用ソフトで自由に展開していただいたので、普段の中学校ではまだできない新しい情報を得られ且つ体験できたと考えられる。そのためか、デザイン展開のソフトを熱心に使用され、着装シミュレーションによる個別デザイン服も完成させられた。 少人数の受講生ではあるが、ひとりに一台のパソコンとソフトはないため、実習に時間がとられた傾向もあった。補助の学生も丁寧に説明をしていたのでその点は助かった。 1) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・プロジェクタの使い方に関するパワーポイント資料 ・実物大衣服パターン作成のための人体計測機器、オリジナルパターン作成ソフトと大型パターン自動作成プリンタ ・衣服デザイン用の仮想着想シミュレーションソフト ・衣服パターン作成と着装シミュレーションソフト使用に学生を補助員とした。 2) その他 少人数で個々に感想をいただいたとき、現場の実状も得ることが出来た。ただし、被服実習の部屋がなくパソコンが少なかったためパターン作成と着装シミュレーションによるデザイン設計に時間がかかった。やや不足した説明内容がでた。 3) 内容 (試験等を含む) 試験については、問題に対応した記述が少ない回答もあり、やや評価が難しかった。しかし、講義内容や現実も踏まえた充実した回答もあり、やはり個人的な意欲や経験、また環境が反映していた。 テキストについては事前に図書館から借りてこられた方もありましたが、手持ちをお貸したかたちにした。 4) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 3 次元人体計測をして、実際に個別対応のパターン設計までを経験していただくため、パターン作成システム操作は学生補助で対応しているが、3 次元人体計測用の 2 時間だけの専門の補助員が依頼できたら希望する。 5) その他		
講習に関する感想			

担当講師	宮地信弘	記入年月日	2016 年 8 月 16 日
講習の区分	必修講習 ・ 選択講習	講習開設日	2015 年 8 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中学校・高校 英語教諭 人数：15 人	講習会場 (教室等)	三重大学教育学部 英語科第 1 演習室
講習名	英詩入門		
講習の目標	・英米の有名な詩に親しみ、詩を読む喜びに触れる。 ・いくつかの時代の詩を読み、英詩の特徴を知る。 ・英詩を分析的に読む態度の重要性を知る。 ・具体的な詩を読み、言語の創造機能について認識を深める。		
授業概要 (大まかな流れ)	9：00－10：20 (80 分) 英語の詩を読んでみよう 英詩を経験する：中高の英語の授業でも扱える短い英詩 2 編を取り上げ、いくつかの設問に即して分析的理解という姿勢で詩を読解した。 10：30－11：50 (80 分) 韻律と脚韻 英詩韻律法を知る：戦争を主題に扱ったソネット (14 行詩) を例に取り、英詩の韻律と脚韻について説明し、具体的に詩の韻律を自分で調べてもらった。 13：00－14：20 (80 分) Anthology Pieces (1) 有名な英詩を味わう：シェイクスピアの代表的ソネットとイギリス・ロマン派の詩を取り上げ、できるだけ受講者に読解してもらった。 14：30－15：50 (80 分) Anthology Pieces (2) 有名な英詩を味わう：20 世紀初頭の詩を取り上げ、受講者による読解を中心に進め、その後、それぞれの詩の背景や特質などを説明して理解を深めた。 16：00－16：40 (40 分) 認定試験 (辞書使用可) 問題は 2 問 1. 詩の読解と分析を通して内容理解に至るための問題 2. 英語俳句の作成		
活用した資料・データ等	英詩のコピー (ハンドアウト) 講習内容に即して、「英詩を読んでみよう」、「英詩韻律法」、「アンソロジー・ピース」といった項目に分けて、具体的な英詩をコピーしたハンドアウトを配布。		

講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 例年通り、今年も受講者参加型の講義形式を採った。できる範囲で受講者に読解内容を発表してもらった機会と時間を多くとるよう努めた。英語の読みこなしには時間がかかる。特に英語に馴染みのない場合には語順の見極めの点で手間取ることがある。昨年度より扱う詩の量を減らしたが、それでもいくつもの詩が手付かずに残った (提供する詩の量について再考の余地ありと思った)。受講生一人ひとりが主体的に詩を読むという行為を通して、学校で扱う英語とは違った英語に触れる経験を提供できたのではないかとと思う。楽しそうに読解に取り組んでいる受講生が多かった反面、受動的と見受けられる受講生もあったのは残念であった。 この講習は中高の英語教諭を対象にし、英語文化の背景的知識の拡充を通して教師の自己研鑽・資質向上などを主たる目的としている。英詩は英米の精神文化の中心をなすテクニクであるにもかかわらず、馴染みが薄いせいから、英語はことさら難しいと思いついてしまう場合が多いように思う。自らの視野を広げようという前向きな姿勢で参加してもらった受講生には、何よりも英詩の世界に触れてもらうこと、読解を通じて英語の詩を楽しむ、身近なものと感じてもらいたいことがあった。中高の英語の授業で英詩が直接役に立つことはあまりないだろうが、英語という言語の持つ多様な側面や歴史の深さを幾分なりとも伝えることができたのではないかとと思う。受講者の評価の中に「楽しかった」や「勉強になった」というコメントがあり、励みになった。 毎年このことであるが、認定試験の解答を見ると、英語理解の基礎となる英語読解力という点で受講生間にばらつきがあり、英語教師の間にも英語力に差があることを感じる。一般的に中学校教師と高校教師の間にはその差があるように思う。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 特に問題はなく、適切であった。講習補助員の提供はとても助かった。 3) その他 なし
----------	--

担当講師	佐藤 年明	記入年月日	2016 年 9 月 2 日
講習の区分	選択科目	講習開設日	2016 年 8 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：保育士、幼小中高特 支教諭・養護教諭 人数：20人	講習会場 (教室等)	教養教育1121
講習名	性(sexuality)を学ぶとは何をすることか？—小学校を中心に—		
講習の目標	①性は自然なもの、人間にとって良きものであるという認識を共有する。 ②性教育に関する情報をできるだけ多く提供する。 ③伝達中心の講義的授業ではなく、交流中心の演習的授業にする。 ④各受講者やその職場の現実やそこで考えていることを交流する。 ⑤右派勢力の性教育バッシングもある中、講習で得た情報の扱いには慎重を期す。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 各受講者の勤務校での性教育の現状と課題 2. 小学校学習指導要領の性に関する記述の変遷と問題点 3. 小学校での性交を含む生命誕生の学習の試みの紹介 4. 小学校理科・保健教科書における性に関する学習内容 5. 性教育の教材・教具 (※4・5は具体みを延長して自由参観) 6. 小学校性教育の課題(1)生命誕生をどこから、いつから？ 7. 小学校性教育の課題(2)男女共習と男女別学習 8. 小学校性教育の課題(3)教師と子どもの privacy の取り扱い 9. 総括討論と全体のまとめ		
活用した資料・データ等	⑥パワーポイントスライドのハンドアウト ①佐藤・「生命誕生の授業」第3次・第4次実践 ②佐藤・2009 年1月28日附小5年C組授業記録 ③佐藤・「生命誕生の授業」第5次・第6次・第7次実践 ④佐藤・小学校学習指導要領理科5学年「ヒトの発生・誕生」に関する記述の変遷 ⑤野村正博『性交を語る』抜粋 (→web 上の提示のみ) ⑥佐藤・思春期の性教育における男女別学習と男女合同学習の意味—日本とスウェーデンの実践事例にもとづいて— ⑦性教育における教育内容と privacy の関係		
講習に対する感想	1) 内容 (試験等を含む) 前年度の傾向と同様だが、冒頭の職場での性教育に関する交流では多様な課題が出されるのに、その後の講義の後の質疑では活発な意見が出てこない。 2) 運営 (活用機材、会場、補助者等) 5年目。ホームページに資料を置き、一斉メールで事前の閲覧を呼びかけた。また情報処理センター、講習事務局のご協力を得て、初めて専用 moodle コースを設置した。 会場は、コの字型の座席配置を作り、中央に資料展示スペースを設けるのに十分であった。 3) その他 テストは疑問。私は講習の最初にテスト問題を提示し、その通りの問題で実施する。「正解」ではなく受講者各自の考え方の提示を要求し、かつ価値観を点数評価しないことを明言するが、自分にそういう条件を課すので、採点はとてもやりにくい。試験の廃止を望む。感想レポートで十分だと思う。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	脇田裕久	記入年月日	2016年 8月 17日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2016年 8月 9日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：19	講習会場 (教室等)	多目的ホール 地域連携B
講習名	古武術的身体操法の開発		
講習の目標	筋力トレーニングによる筋力増加によって、素早く動く能力を高めようとするのが一般的な考え方である。この動きに対して、本講義では、地球上にある重力を利用し、リラックスすることによって筋に負担をかけずに素早い移動が可能になるかを実験によって証明し体験する。また、身体各部を自由に操るにはいかに力を抜くことが重要であるかを運動学的な理論を用いて理解する。		
授業概要 (大まかな流れ)	1眼目(9:00~10:20):古武術的身体操法の基本 2眼目(10:30~11:50):古武術的身体操法の研究結果 3眼目(13:00~14:20):古武術的身体操法の実践(地域連携B教室) 4眼目(14:30~15:50):古武術的身体操法の実践(地域連携B教室) 5眼目(16:00~16:40):テスト 「筋力発現による動作と抜き動作による身体操作の比較」について記述		
活用した資料・データ等	1) スポーツ選手なら知っておきたい「からだ」のこと(小田伸午 京都大学) 2) 究極の身体(高岡英夫 運動科学研究所) 3) 動く骨(相野忠夫 運動脳力開発研究所) 4) 古武術 for SPORT (高橋佳三 びわこ成蹊スポーツ大学) 5) 古武術 for SPORT 2 (高橋佳三 びわこ成蹊スポーツ大学) 6) 自己の研究データ		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) ・幼稚園から高校までの各校種教諭および特別支援教諭含む大変幅広い受講者を対象とした。このため、基礎的な理論の習熟度が異なるので本講習に必要な運動生理学・解剖学・バイオメカニクス等の理論を理解しやすくなるように学習内容を検討した。 ・午前中の講義では、パワーポイントを用いて説明し、理論だけに終始するのではなく、簡単な実験や体験を含めて理解が深まるように工夫したため、飽きることなく授業が展開できた。 ・午後の実技では、DVDを用いて様々な動作について古武術的な動作と一般的な筋力による動作を対比し、その差異をメモに取りながら展開した。実際に両者を比較することによって受講者に驚きを感じさせることができ、実技内容を深めることができたようである。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) ・補助者がいることで細やかな対応が可能となった。 ・本年度も古武術的身体操法の実践を地域連携Bにおいて実施した。地域連携B教室はエアコンの使用も可能であり夏休み中の開講では適切であった。また、受講者数が19名であり、ペースが早いということもなく、スムーズな実践が可能であった。 3) その他 ・現職教諭の方の大変熱心な受講態度が印象に残った。 ・筋力に依存する身体操法と重力を利用した身体操法の違いによってパフォーマンスが異なることを体験し現場に持ち帰って子どもたちに伝えていきたいと言う感想が多く見受けられた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	栗原行人	記入年月日	2016年 10月 4日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2016年 10月 1日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小中高の教員 人数：5	講習会場 (教室等)	P8L41, 津市美里町
講習名	三重県の岩石と地層		
講習の目標	三重県内で観察できる主な岩石が鑑定でき、地質の概略を理解すること		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00-10:50 岩石分類の基礎と三重県の地質の説明 11:00-11:50 標本観察 午後 12:45-15:40 野外巡検(津市美里町) 16:00-16:40 認定試験(実技)・受講者評価		
活用した資料・データ等	パワーポイント資料(プリント配布) 岩石・化石標本(閲覧) 紹介した参考図書類(閲覧)		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) 地学分野では野外観察が重要なのでバスでの野外巡検を実施した。今年度も観察地は津市西部とした。今年度は受講者が少なかつたためにすべての受講者が化石をとることができ満足したようだった。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) 問題ありません。 3) その他 特になし。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	平島 円	記入年月日	平成28年 10月 5日
講習の区分	必修講習・ 選択講習	講習開設日	平成28年 10月 1日
主な受講対象者と人数	受講対象者：養護、幼、小、中、高 人数：19人	講習会場 (教室等)	三重大学教育学部1号館 (304教室・家政消費実教室)
講習名	おいしく食べるとは？		
講習の目標	1. 普段何気なく食べている食べ物「おいしさ」とは何かを考える。 2. おいしさに関わる要因について分析する。 3. 調理することの意義やおいしさを作り出す方法について考える。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00-9:45 おいしさとはなにがグループディスカッション 9:45-10:35 味と味覚について 10:45-12:00 おいしさに影響する物理的要因や食べる環境について 午後 13:10-14:20 食品の色に関する実験 14:30-15:10 実験のまとめと理論 15:10-15:50 おいしさに影響する情報 16:00-16:40 試験(ノート・資料持ち込み可)		
活用した資料・データ等	おいしさに影響する要因についてのパワーポイント資料 おいしさに影響する要因、味の関値、味覚検査に関する資料 厚生労働省の食文化理解に関する資料 フードファイナリズムに関する資料 その他関連図書		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) 食べるということとはすべての人が行う行為であり、内容的にも非常に身近な題材であつたため、反応は良かった。また、給食の指導方法や子どもの好き嫌いをなくす方法について知りたいたいというところから、さまざまな校種の受講者がいた。これからの学校での指導に役立つ教材や授業案を直接的には提供していないが、それぞれの受講者が今後の授業に生かすことができるとような題材を扱い、それぞれの授業について考えられるような講習にした。試験の解答からも講義や実験内容がきちんと理解されたことがうかがえた。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) 今回は定員の32名よりも少ない19名の受講者だったため、非常に授業がやりやすかった。受講者皆さんの顔を見ながら進行でき、配布物や試食などの試料の配付もスムーズにできた。 本講習では2名の補助員を付けたため、講習の準備、本番、後片付けすべてでスムーズに進んだ。 3) その他 特に問題はないが、受講者は今年も大多数が女性ばかりだった。食べることにあまり興味のない男性の教諭に参加していただきたいと思う。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	伊藤敏子	記入年月日	2016年 10月 1日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2016年 10月 1日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭 人数：3人	講習会場 (教室等)	教育学部1号館3階302教室
講習名	児童中心主義の思想に学ぶ		
講習の目標	・児童中心主義の背景・実態を把握する ・児童中心主義を今日の日本の学校でどう生かせるか考える		
授業概要 (大まかな流れ)	・1コマ目：児童中心主義とは何かを明らかにする ・2コマ目：児童中心主義の誕生の背景を明らかにする ・3コマ目：児童中心主義の実践を明らかにする ・4コマ目：児童中心主義の発想を今日どう生かせるか考える		
活用した資料・データ等	・OECD、IEA、UNICEFのデータ ・児童中心主義の実践を記録したビデオ ・児童中心主義を扱う新聞記事および雑誌記事		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) ・「思想」という自分の専門分野と更新講習がめざす「実践にすぐ生かせる」という目標との溝の深さを考えさせられました。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) ・PC、OHP、書画カメラとあらゆる機材を準備していただき、ベストな環境で講習を行うことができました。 3) その他 ・講習テーマに日頃から関心をもって参加する人がある一方で、受講理由が「他の講習に空きがなかったから」、講習で触れてほしい内容や質問は「講習テーマが何か分からないので質問もない」として参加する人もいて、とても緊張を強いられる講習でした。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	長濱 文与	記入年月日	2016 年 10 月 21 日
講習の区分	必修講習・選択講習	講習開設日	2016 年 10 月 1 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中・高 人数：6 名	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館多目的ホール大
講習名	協同に基づく授業づくり・学級づくり		
講習の目標	・協同学習の考え方や進め方について体験的に学び、自分なりの言葉で他者に説明できる ・学んだ内容を実践に活用するためのアイデアを出し、他者に説明できる ・協力して学ぶ効用（喜びや楽しみ）を実感する		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 本日の概要の共有 2. グループづくり、課題・問題意識の共有 3. 協同・競争・個別の考え方 4. ゲームの実践 5. 協同学習実現のための定義 6. 協同学習における技法の紹介 7. 今日の学び・活動のふり返し 8. 試験		
活用した資料・データ等	各時間にパワーポイントの資料を作成し、提示した。 各時間にそれぞれの内容に関する資料を作成し、配付した（講習概要、パワーポイント資料、協同学習に関するその他の資料）		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・講習テーマに「協同」とあるように、講習自体も協同的活動を基盤として計画したので、参加者がお互いに活発な相互作用を経験しながら学ぶ講習が実現できた。 ・学習内容面も、既存の知識を伝えるだけでなく、参加者それぞれの実践の場における現状や問題意識を共有し、学習内容からそれらをふり返ったり、活用したりする形態をとった。その結果、現場の状況や問題意識にアプローチする一つの視点として学習内容を位置づけることができた。 ・試験内容も知識を問う設問だけでなく、具体的な事例について考える記述式のものとした。その結果、試験への回答を機会として、学習内容を実践に活かしてもらう具体的方法を考えてもらえ、参加者にとって意味ある時間となったのではと評価している。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） ・普段の授業等で使用している会場を使用させてもらえたため、機材等も使い慣れしており、滞りなく進めることができた。 3) その他 特になし		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	下 村 智 子	記入年月日	2016 年 10 月 13 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習	講習開設日	2016 年 10 月 1 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭（小・中・高） 人数：19 名	講習会場 (教室等)	教育学部 303 番教室
講習名	世界の教育事情		
講習の目標	以下の 3 点を獲得・深化させ、わが国の教育に対する理解を深めること： ・ 学校教育を捉える多様な視点 ・ 世界の教育の動向に関する理解 ・ 教育に関する国際的な動向に対する理解		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00～10:20 世界の学校の日常風景 10:30～11:50 教育の歴史的・社会的・文化的背景 13:00～14:20 諸外国の義務教育制度 14:30～15:50 資質・能力を高めるための教育に関する国際的な動向 16:00～16:40 履修認定試験（ノート・資料持ち込み可）		
活用した資料・データ等	・ 沖原豊著『心の教育』学陽書房、1986 年。 ・ 二宮皓編著『こんなに面白い！世界の校則』メディアファクトリー、2011 年。 ・ 二宮皓編著『新版 世界の学校』学事出版、2014 年。 ・ OECD「図表で見る教育」(2014 年版) ・ 外務省ホームページ（世界の学校を見てみよう！） ・ カナダアルバータ州教育省作成のインクルージョン教育に関する紹介ビデオ（Diversity in Alberta Schools- A Journey to Inclusion） ・ 下村がカナダやベトナムでの学校訪問時に撮影した写真		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・ 講義形式を中心とした講習ではありませんでしたが、ビデオや写真などの資料を活用したり、テーマ毎に小グループでの意見交換の時間帯を設け、グループ内での意見共有やそれら教室全体でも共有する活動を設定したりすることにより、単なる一方通行の授業にはならないよう、工夫を行いました。 ・ グループの活動においては、学校段階の別にグループ編成を行いました。共通性の高い教育経験を共有することにより、実際に活発な意見交換が行われたように見受けられました。 ・ 近年話題になっている内容をできるだけ取り上げるよう、意識しました。もう少し具体的な実践事例や多様な数値的なデータを示すことができたなら、より充実した内容にすることができたと思います。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） ・ プロジェクタを使用させていただきました。会場の準備等、ありがとうございました。 3) その他 ・ 学期中にもかかわらず、とても熱心に講習に参加していただき、また、豊富な教育経験から積極的な意見を出していただき、とても有難く思いました。		

7. 障害のある受講者への対応について

栗田季佳

教員免許状更新講習は、免許を必要とする全ての教員を対象とした制度である。ただし、講習や研修の機会も含め、社会にある多くのシステムや体制は、基本的に多数派に合わせて構成されている。中には、既存のあり方では他の者と同様に提供されたものを得られない人がいる。特に、障害のある人は、用いる言語や手段が異なるために、個別の必要性に応じた変更・調整がなければ、その機会から排除されてしまう。

障害のある者が他の者と比べて障害を理由に不利益を被ることのないよう、2016年4月から障害者差別解消法が施行された。障害者差別解消法の土台となっている、障害者権利条約には、以下のような文言（一部抜粋）がある。

第二十四条 教育

1 締約国は、障害者が、差別なしに、かつ、他の者との平等を基礎として、一般的な高等教育、職業訓練、成人教育及び生涯学習を享受することができることを確保する。

第二十一条 表現及び意見の自由並びに情報の利用の機会

締約国は、障害者が、第二条に定めるあらゆる形態の意思疎通であって自ら選択するものにより、表現及び意見の自由（他の者との平等を基礎として情報及び考えを求め、受け、及び伝える自由を含む。）についての権利を行使することができることを確保するための全ての適当な措置をとる。

(a) 障害者に対し、様々な種類の障害に相応した利用しやすい様式及び機器により、適時に、かつ、追加の費用を伴わず、一般公衆向けの情報を提供すること。

(b) 公的な活動において、手話、点字、補助的及び代替的な意思疎通並びに障害者が自ら選択する他の全ての利用しやすい意思疎通の手段、形態及び様式を用いることを受け入れ、及び容易にすること。

本講習においても、これらの理念と規定にのっとり、障害のある教員が他の教員と同様に受講機会が得られるよう、受講生への対応を行った。具体的には、受講生から必要な支援の聞き取り、担当講師との打ち合わせ、当日の支援の手配等であった。

今年度実施する上で考慮したことは以下の点である。①障害に応じた支援が必ずしも個人のニーズと一致しないことから受講生の希望を第一とすること。②事前の準備は完全ではないため、講習日に受講生の意見を聞きながら適宜調整を行うこと。③受講生と担当講師の双方に負担のないような調整を工夫すること。

①②のような相互作用の過程が、受講生と担当講師、双方の快適な講習機会となるも

のと考える。③については課題も残ったが、それも含め、受講生の要望の聞き取りと柔軟な対応が今後必要であるとする。

副次的な意義として、担当した講師から、「受け入れのポイント（何を・どこまで・どのように配慮していいか）がよく分からず、難しかったです。自分で文献を読んで調べたり、特別支援の先生に個人的にお尋ねしたりして、当日を迎えました。」「合理的配慮を必要とされる方に入っていたことで講習がより豊かなものになった。」との声を得られた。

担当講師が多様な受講生を対象とすることで、受講生の対象が広がったことも伺える。このことは、講習に参加していた他の受講生も同様のことと推察する。

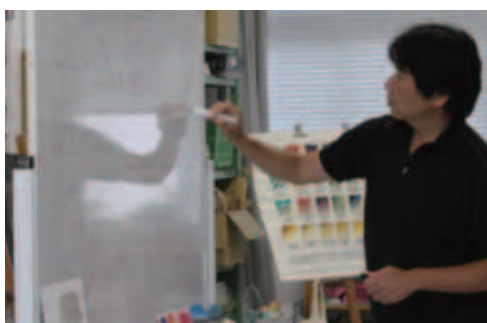
現段階では、障害のある人が特別な存在であるということとは否定できないが、社会には障害のある者も含め、様々な人がいる。そのことを踏まえ、自然と誰もが必要な支援を受けられる環境が当たり前となることを願う。

この点においても、本講習が社会的な意義をも果たすものとする。

ご協力いただいた、本講習委員会の教職員のみならず、受講生の方、受講生の勤務先の先生方、特別支援教育講座の先生方に厚く御礼申し上げます。

8 講習風景

平成 28 年度講習の様子





9. 三重県教員免許状更新講習連絡協議会について

9-1 設立趣意

三重県における教員免許状更新講習の円滑な運営を図るためのみならず、教育に関わる諸機関の交流、さらには本連絡協議会を通じ三重県独自の教育問題を考える契機とすることを設立の趣意とする。

9-2 当協議会の組織大学

平成20年度に立ち上がった三重県教員免許状更新講習連絡協議会は、今年度も以下のように開催された。連絡協議会参加校は以下のとおりである。

- ・三重大学（平成20年度・平成23年度・平成26年度幹事校）
- ・皇學館大学（平成22年・平成25年度幹事校）
- ・三重短期大学
- ・鈴鹿大学短期大学部（平成21年度・平成24年度・平成28年度幹事校）
- ・高田短期大学（平成27年度幹事校）
- ・放送大学（三重学習センター）

9-3 平成28年度連絡協議会開催の記録

- ・第1回 平成28年6月1日（水）
議題 ・各大学の実施状況報告について
（三重大学・皇學館大学・鈴鹿大学短期大学部・高田短期大学・放送大学）
 - ・連絡協議会主催講習について
 - ・今後の教員免許状更新講習について（三重県教育委員会）
 - ・教員免許状更新講習のあり方等について（県内各学校種等関係団体）
 - ・受講対象でない者が受講した場合の扱いについて
- ・第2回 平成28年10月19日（水）
議題 ・各大学の実施状況報告について
（三重大学・皇學館大学・鈴鹿大学短期大学部・高田短期大学・放送大学）
 - ・連絡協議会主催講習について
 - ・今後の教員免許状更新講習について（三重県教育委員会）
 - ・教員免許状更新講習のあり方等について（県内各学校種等関係団体）
- ・第3回 平成29年2月22日（水）
議題 ・平成29年度三重県内大学教員免許状更新講習実施計画について
（三重大学・皇學館大学・鈴鹿大学短期大学部・高田短期大学・放送大学）
 - ・平成29年度連絡協議会主催講習について
 - ・今後の教員免許状更新講習のあり方について
 - ・教員免許状更新講習のあり方等について（県内各学校種等関係団体）

9-4 今年度の選択必修講習について

平成27年度まで当協議会で協催した「連絡協議会必修講習 教育の最新事情－三重県の教育課題から－」は、今年度から「連絡協議会选择必修講習」として、「【選択必修】学校を巡る近年の状況の変化・最近の教育政策の動向（教育基本法を中心に）」と「【選択必修】アクティブラーニングにおけるＩＣＴ（情報通信技術）の活用」の2講習を開催した。

なお、2講習の実施状況、講習のシラバス、講師及びゲストスピーカーのふりかえりについて、次ページ以降に掲載する。

学校を巡る近年の状況の変化・最近の教育政策の動向(教育基本法を中心に)

開設期間 : 7月31日(日)

講習担当講師 : 鈴鹿大学短期大学部准教授 長澤 貴
皇學館大学現代日本社会学部教授 新田 均

ゲストスピーカー :

三重県教育委員会事務局人権教育課県立学校班班長 井上 珠美

三重県教育委員会事務局特別支援教育課特別支援教育班課長補佐兼班長 早津 俊一

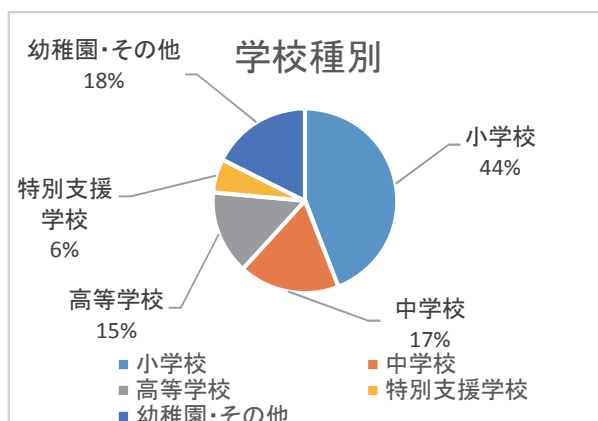
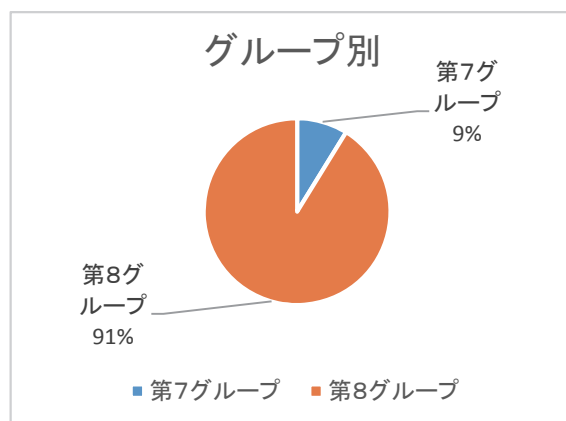
三重県教育委員会事務局学力向上推進プロジェクトチーム学力向上推進班課長補佐兼班長
水野 和久

講習内容 : 本事業報告書 ページ参照

受講申込者 : 35名(定員40名)

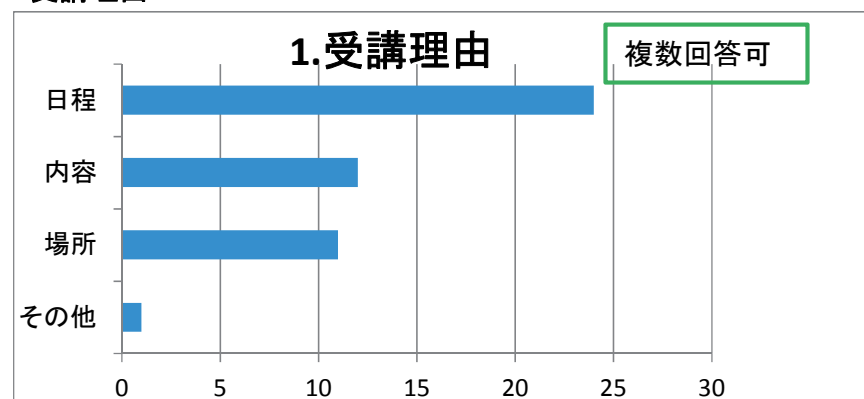
受講者 : 34名

<受講状況> 受講者数 34人



<講習事前アンケート>

1. 受講理由



2. 講習について望む内容

近年の学校教育の課題(子供の変化・保護者対応)と対策(小学校・教諭)

子どもの変化についての理解について、携帯電話を多くの子どもたちが持っている環境の中で、LINEに夢中になるなど、少年犯罪を含めて子どもたちが出すサインを早く汲み取る方法など(高校・教諭)

今の教育基本法に変わったことで、現場に何が求められているか。(小学校・教諭)

次期学習指導要領改訂のポイントと、それに伴って現場に求められる対応とはどんなものかということについて教えていただきたいです。(小学校・講師)

学力とは何か。自分が考える「学力」と、地域・保護者が求める「学力」とのずれを感じます。(中学校・教諭)

教育観の地域性について。違いはあるのか。(保育園・保育士)

アクティブラーニングについて詳しく知りたい。(特別支援学校・教諭)

<講習事後評価状況>

○ 評価方法は、文部科学省へ報告している以下の3項目について

I. 講習の内容・方法についての総合的な評価

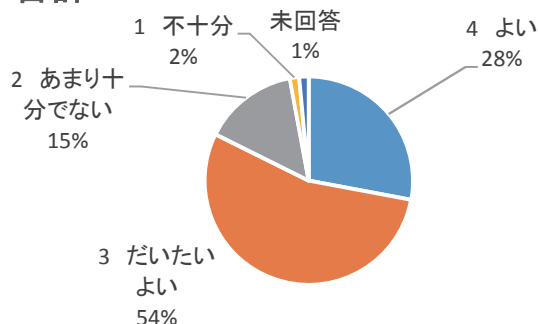
II. 講習を受講した受講者の最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価

III. 講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価

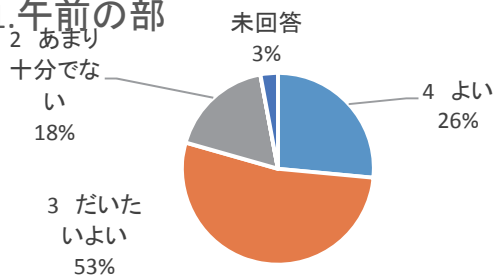
※講習事後評価は、午前の部と午後の部の2回行った。

<(項目 I): 講習の内容・方法についての総合的な評価の内訳>

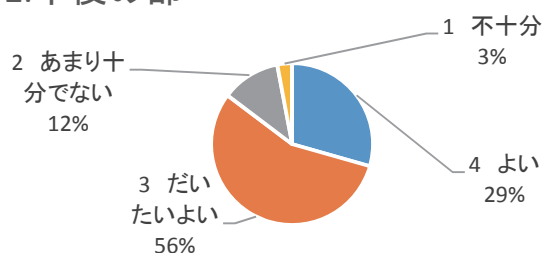
I. 合計



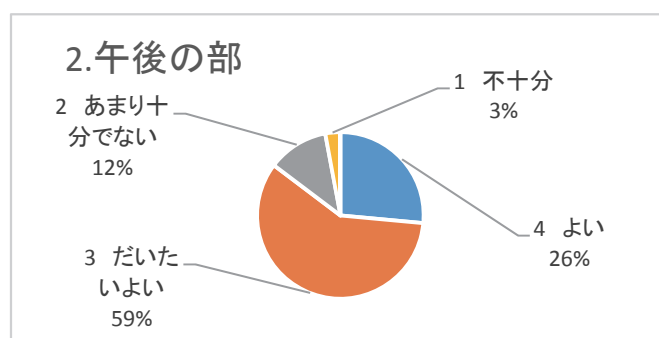
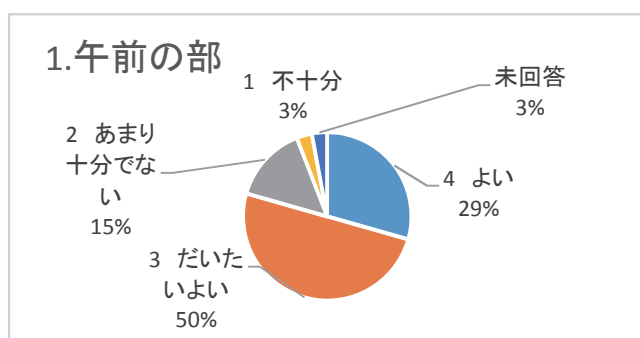
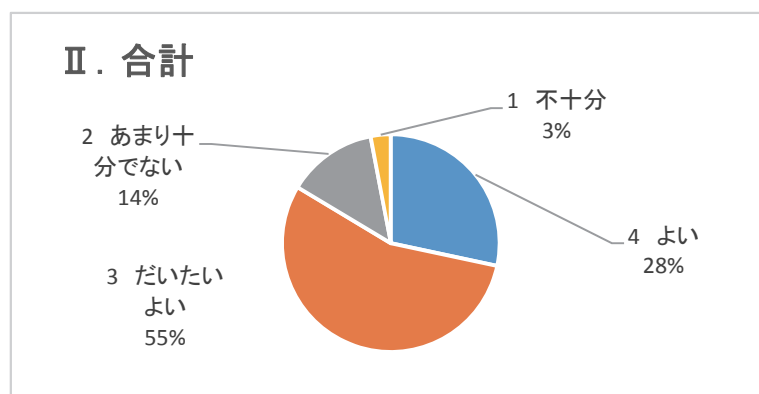
1. 午前の部



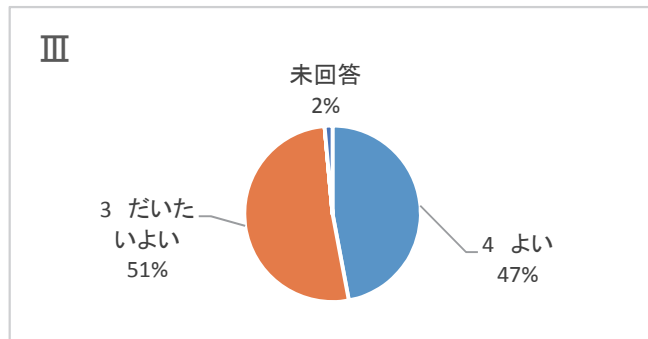
2. 午後の部



<項目Ⅱ：講習を受講した受講者の最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価>



<項目Ⅲ：講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価>



三重県教員免許状更新講習連絡協議会选择必修講習 学校を巡る近年の状況の変化・最近の教育政策の動向（教育基本法を中心に）

【開催日時】	平成28年7月31日（日） 9：00～17：00
【募集期間】	平成28年4月15日（金）～4月25日（月）
【募集定員】	40名（現在、三重県内の国公私立学校および幼稚園に勤務している者に限る）
【受講料】	6,000円
【会場】	三重大学
【備考】	

【開催日時】	平成28年7月31日（日） 9：00～12：20	【開催日時】	平成28年7月31日（日） 13：20～17：00
【担当講師】	鈴鹿大学短期大学部准教授 長澤 貴	【担当講師】	皇學館大学現代日本社会学部教授 新田 均
【ゲストスピーカー】	三重県教育委員会事務局人権教育課県立学校班 班長（充指導主事） 井上 珠美	【ゲストスピーカー】	三重県教育委員会事務局学力向上推進プロジェクト 水野 和久
【講習内容】	三重県教育委員会事務局特別支援教育課特別支 援教育班課長補佐兼班長 早津 俊一 PISA型学力、21世紀学力等、学力観、学習観 の変化を背景に現行の指導要領から次期指導要 領に導入される予定のアクティブラーニングに ついて学ぶ。	【講習内容】	教育基本法の改正を軸として、教育改革実行会議 の諸答申までの最近の教育政策の動向と意図を解 説する。
【試験】	筆記試験	【試験】	筆記試験
【持参物】		【持参物】	
【備考】		【備考】	

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	長澤 貴	記入年月日	2016 年 8 月 8 日
講習の区分	必修講習 ・ 選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 31 日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 人数 : 34 名	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館 2F 201 教室
講習名	学校を巡る近年の状況の変化		
講習の目標	・ 学習指導要領の理解		
授業概要 (大まかな流れ)	・ 三重県の特別支援教育論 ・ 三重県の人権教育 ・ 学習指導要領改訂とアクティブラーニング		
活用した資料・データ等			
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	新田 均	記入年月日	2016 年 7 月 31 日
講習の区分	選択必修講習	講習開設日	2016 年 7 月 31 日
主 な 受 講 対 象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：34 人	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館 2F 201 教室
講 習 名	学校を巡る近年の状況の変化・最近の教育政策の動向（教育基本法を中心に）		
講習の目標	1. 旧教育基本法の制定理由を理解する。 2. 旧教育基本法をめぐる議論の本質を理解する。 3. 旧教育基本法の改正理由を理解する。 4. 新教育基本法の要点を理解する。 5. 教育基本法改正後の教育改革の論点を理解する。 6. 学習指導要領改訂に向けた国の動向を理解する。 7. みえの子どもたちの学力等の現状と課題を理解する。		
授業概要 (大まかな 流れ)	13：20-15：00 旧教育基本法の制定から教育基本法の改正までの説明 新教育基本法の要点の説明 教育基本法改正後の教育改革の論点 15：10-16：10 学習指導要領改訂に向けた国の動向の説明 みえの子どもたちの学力等の現状と課題の説明 16：20-16：40 テスト（ノート・資料持ち込み可）		
活用した資 料・データ等	＊教育基本法関係の資料を独自にまとめたレジュメ ＊文科省のホームページ ＊三重県教育委員会作成の資料		
講習に関す る感想	1) 内容（試験等を含む） ＊最新の資料をもとに教育基本法改正後の教育改革の論点を充実させることができた。その分、講義時間に比して、内容が盛りだくさんになってしまった。 ＊講義時間に比して、テスト時間が短いことは否めない。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） ＊ほぼ的確に動いていただけたと思う。 3) その他 なし		

三重県教員免許状更新講習連絡協議会選択必修講習について

開設者	国立大学法人三重大学	開催日	平成28年7月31日
講座名	学校を巡る近年の状況の変化・最近の教育政策の動向		
ゲストスピーカー一名	三重県教育委員会事務局 人権教育課 県立学校班班長 井上 珠美		

I 担当講習の概要についてお書きください。

「学校を巡る近年の状況の変化」について、人権教育の視点から以下の内容で話をしました。

- (1) はじめに
 - ・三重県教育ビジョン
 - ・2015（平成27）年度 学校における人権侵害
- (2) 子どもの実践行動力育成のために
 - ・人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕（文部科学省）
 - ・人権学習指導資料等の活用
- (3) 教職員の指導力向上のために
 - ・2013（平成25）年度 「人権問題に関する教職員意識調査」
- (4) 新たな人権課題等への適切な対応のために
 - ・人権に係わって施行された2つの法律
 - ・性的マイノリティ（LGBT）の権利保障に係わる近年の動向
- (5) おわりに

II 本講習は、主に三重県の教育課題をテーマとし、三重県教員免許状連絡協議会において企画し県内の複数の大学講師および三重県教育委員会からゲストスピーカーの方を加えた選択必修講習でした。

担当講習についての感想、ご意見・ご要望について自由にお書きください。

今年度初めてゲストスピーカーとして参加させていただきました。

自身の反省としては、担当講師の長澤先生に早めに相談し、講習内容について（本講座の方向性も含めて）確認させていただくべきだったと思います。また、講義形式で一方的な説明で進めましたが、それだけでなく受講者とやりとりしながら進めることや、参加体験型の学習方法を取り入れた方が効果的であつただろうと感じました。

本講座では、担当講師1名、ゲストスピーカー2名という3名体制で行いました。内容や時間配分などから考えて妥当であるかどうか、今年度の受講者の評価も踏まえて、考える必要があると思います。

三重県教員免許状更新講習連絡協議会必修講習について

開設者	国立大学法人三重大学	開催日	平成28年7月31日
講座名	「学校を巡る近年の状況の変化・最近の教育政策の動向（教育基本法を中心に）」		
ゲストスピーカー一名	三重県教育委員会事務局特別支援教育課特別支援教育班課長補佐兼班長 早津 俊一		

I 担当講習の概要についてお書きください。

特別支援教育の理念やインクルーシブ教育システムの構築に向けた取組等、国の動向も踏まえながら基本的な事項について説明するとともに、本県が昨年度末に策定したビジョン等における特別支援教育の施策について紹介した。

題目 「学校を巡る近年の状況の変化・最近の教育施策の動向」 ～特別支援教育の視点から～

I 特別支援教育の理念

- I-1 特別支援教育の理念
- I-2 インクルーシブ教育システムの構築に向けて
- I-3 障害者差別解消法を踏まえた合理的配慮の提供
- I-4 教育再生実行会議（第九次提言）

II 三重県における特別支援教育の現状

- II-1 県内の特別支援教育の状況（児童生徒数及び推移）
- II-2 特別支援教育の体制整備状況

III 特別支援教育に係る施策

- III-1 三重県教育施策大綱
- III-2 みえ県民カビジョン
- III-3 三重県教育ビジョン

【参考】 パーソナルカルテの活用について

II 本講習は、主に三重県教育課題をテーマとし、三重県教員免許状連絡協議会において企画し県内の複数の大学講師および三重県教育委員会からゲストスピーカーの方を加えた選択必修講習でした。

担当講習についての感想、ご意見・ご要望について自由にお書きください。

- ・受講者の感想として、特別な支援を必要とする児童生徒への指導・支援に係る具体的事例や、障害者差別解消法の施行にともなう合理的配慮の提供・基礎的環境整備について具体的な取組方法を知りたかったという意見があった。
- ・事前に、課題認識調査書を送付していただいた。受講生のニーズは多様であり、全体のテーマはあるものの、ゲストスピーカーとして具体的にどのような内容を取り扱うべきか判断に迷った。とくに、講習内容として次期学習指導要領に導入される予定のアクティブラーニングについて学ぶということが示されていたことから、特別支援教育といかに関連づけるかが難しかった。

三重県教員免許状更新講習連絡協議会選択必修講習について

開設者	国立大学法人三重大学	開催日	平成28年7月31日
講座名	学校をめぐる近年の状況の変化・最近の教育政策の動向		
ゲストスピーカー名	学力向上推進プロジェクトチーム 水野 和久		

I 担当講習の概要についてお書きください。

1 学習指導要領改訂に向けた国の動向

学習指導要領改訂に向けて、今、何が言われていて、何のために、何を変えようとしているのかについて

2 みえの子どもたちの学力等の現状と課題

平成27年度全国学力・学習状況調査結果の分析からわかる、みえの子どもたちの学力等の現状と課題について

3 みえの学力向上県民運動セカンドステージへ

学校・家庭・地域が一丸となって、子どもたちの希望と未来を支える学力を育んでいくため、みえの学力向上県民運動を展開。その概要について

II 本講習は、主に三重県の教育課題をテーマとし、三重県教員免許状連絡協議会において企画し県内の複数の大学講師および三重県教育委員会からゲストスピーカーの方を加えた選択必修講習でした。

担当講習についての感想、ご意見・ご要望について自由にお書きください。

- ・事前の打ち合わせが十分でなく、大学の先生の講義との関連がないような気がしました。
- ・今回、学力向上推進PTで担当しましたが、講義内容については、どちらかというと小中学校教育課の所管するところではないかと感じました。

アクティブラーニングにおけるICT(情報通信技術)の活用

開設期間 : 7月31日(日)

講習担当講師 : 高田短期大学教授 鷲尾 敦
三重大学教育学部教授 下村 勉

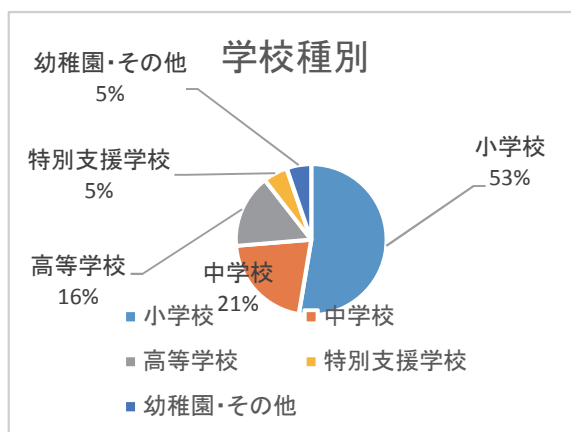
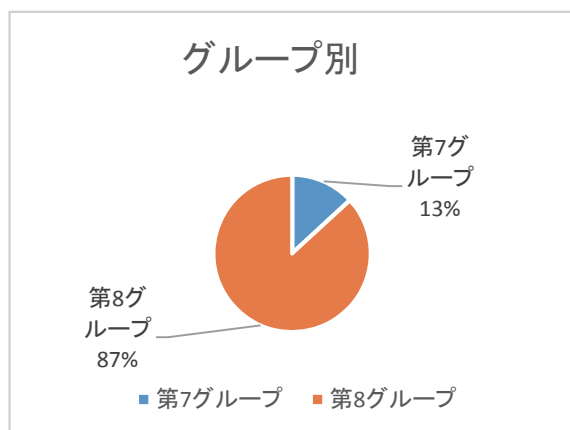
ゲストスピーカー : 三重県教育委員会事務局研修推進課テーマ研修班班長 荻田 弘樹

講習内容 : 本事業報告書 ページ参照

受講申込者 : 38名(定員40名)

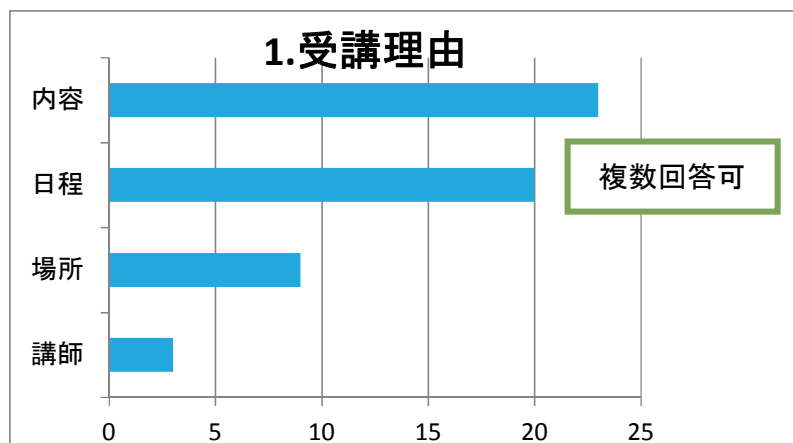
受講者 : 37名

＜受講状況＞ 受講者数 37人



＜講習事前アンケート＞

1. 受講理由



2. 講習について望む内容

現任校での重点研究が「アクティブラーニング」なので、実践的な内容を教えていただきたいです。(小学校・教諭)

講義だけでなく実践から学べたらと思います。(高等学校・教員採用内定者)

ICT環境がととのっていない中、どのように授業を進めていったらいいのか教えて欲しい。(中学校・教諭)

学校現場(授業)ですぐに役立つものを教えてほしいです。(小学校・教諭)

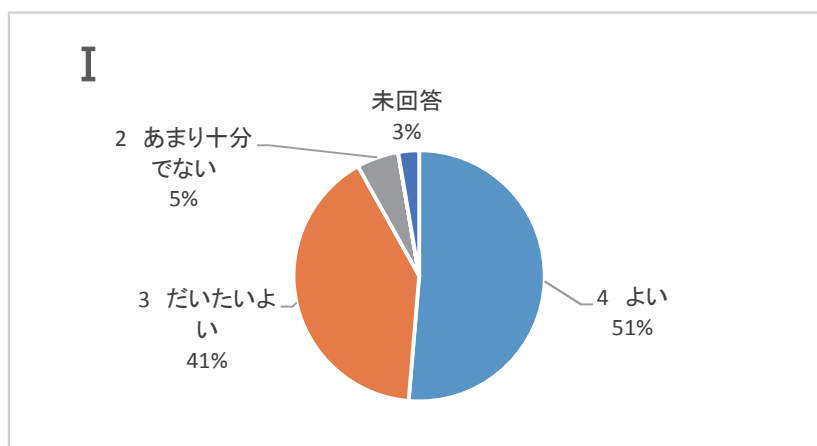
児童に発表やプレゼンを行わせる場合の指導方法について学びたい。(小学校・教諭)

初心者でも出来るようなホームページの作成の仕方を教えていただきたいです。(幼稚園・教諭)

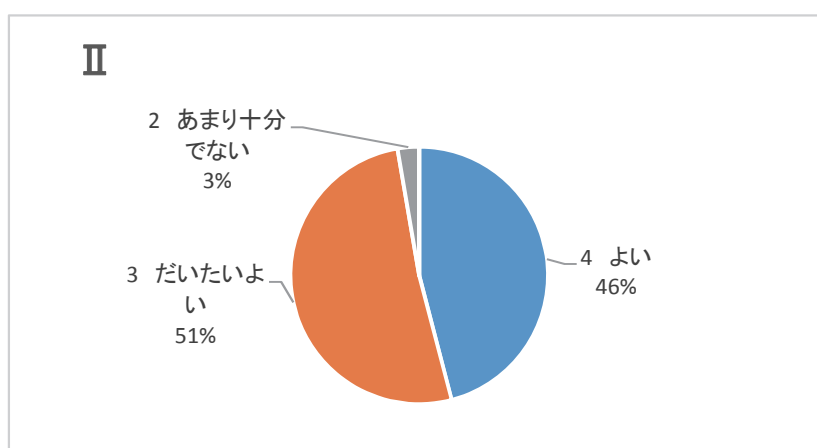
<講習事後評価状況>

- 評価方法は、文部科学省へ報告している以下の3項目について
- Ⅰ. 講習の内容・方法についての総合的な評価
 - Ⅱ. 講習を受講した受講者の最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価
 - Ⅲ. 講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価

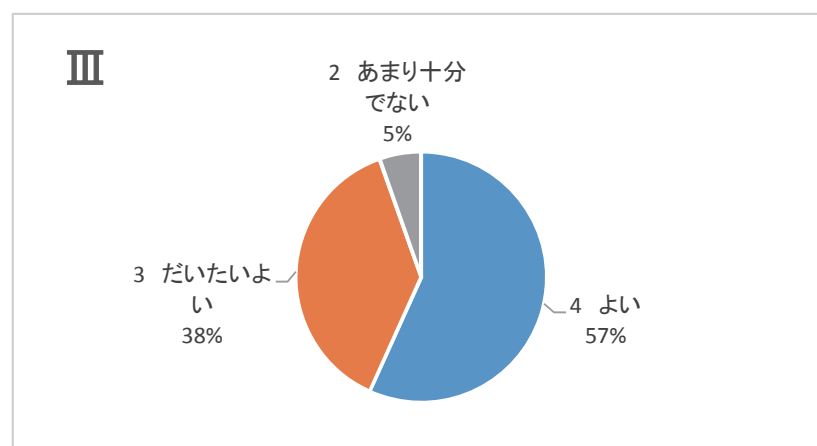
<項目Ⅰ:講習の内容・方法についての総合的な評価の内訳>



<項目Ⅱ:講習を受講した受講者の最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価>



<項目Ⅲ:講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価>



三重県教員免許状更新講習連絡協議会選択必修講習 アクティブラーニングにおけるICT（情報通信技術）の活用

【開催日時】	平成28年7月31日（日） 9：00～17：00
【募集期間】	平成28年4月15日（金）～4月25日（月）
【募集定員】	40名（現在、三重県内の国公私立学校および幼稚園に勤務している者に限る）
【受講料】	6,000円
【会場】	三重大学
【備考】	

【開催日時】	平成28年7月31日（日） 9：00～17：00
【担当講師】	三重大学教育学部教授 下村 勉
【ケ・ス・ト・ヒ・ン・グ・の・内・容】	高田短期大学教授 鷲尾 敦
【講習内容】	三重県教育委員会事務局研修推進課テーマ研修班主任 荻田 弘樹

「教育の情報化」の動向、ICT活用や情報教育の課題を実践的に学ぶ。簡単なデジタル作品（ポスターやパワーポイント教材、フォトムービー）制作や、既存の学習コンテンツ、タブレット端末、ネットアプリなどの活用体験をし、学習支援システム（Moodle）を活用して、成果の発表・交流・共有をはかる。アクティブラーニングにおけるICTの効果的な活用法や課題（情報モラル等）を認識し、ICT活用指導力を高める。

今後、必要とされる教育（アクティブラーニング等）において、コンピュータやネットワークなどのICT（情報通信技術）をどのように活用すべきかを、実習を交えながら考えます。具体的には、簡単なデジタル作品（ポスターやパワーポイント教材、フォトムービー）制作や、既存の学習コンテンツやタブレット端末、あるいはネットアプリを有効に活用する体験をし、学習支援システム（Moodle）を活用して、改善・共有をはかります。その経験を通して、ICTの活用方法や課題（情報モラル等）などを実感して、児童生徒がICTを活用して学習できる「ICT活用指導力」を高めることをねらいとします。なお、実習は提示したテーマから1つを選択して、個人単位で行いますが、同じテーマのグループ（4人）が互いに支援しあう協働学習形式で行います。

【試験】	筆記試験
【持参物】	・ 作品制作のための材料（紹介したい写真・資料、改善したいパワーポイント教材、など） ・ ネットアプリの活用を体験したい方は、Gmailアカウントを取得しておいてください。
【備考】	

担当講師	下村 勉	記入年月日	2016 年 9 月 1 日
講習の区分	必修講習 ・○選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 31 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：37	講習会場 (教室等)	上浜キャンパス教育学部教職支援センター1F 第4教育端末室
講習名	アクティブラーニングにおける I C T (情報通信技術) の活用		
講習の目標	1) アクティブラーニングについて ・アクティブラーニングの必要性を伝えることができる。 2) ICT 活用の意義を知る ・ICT の活用方法やそのメリットを説明できる。 ・情報モラル等、留意点について説明できる。 3) 活動のふり返し 講習をふり返し、良かった点、改善点、今後の課題を分析できる。		
授業概要 (大まかな流れ)	今後、必要とされる教育(アクティブラーニング等)において、コンピュータやネットワークなどの ICT (情報通信技術) をどのように活用すべきかを、実習を交えながら考える。具体的には、簡単なデジタル作品(ポスターやパワーポイント教材、フォトムービー)制作や、タブレット端末、あるいはネットアプリを有効に活用する体験をし、学習支援システム(Moodle)を活用して、改善・共有をはかる。その経験を通して、ICT の活用方法や課題(情報モラル等)などを実感して、児童生徒が ICT を活用して学習できる「ICT 活用指導力」を高めることをねらう。実習は提示したテーマから 1 つを選択して、個人単位で行うが、同じテーマのグループ(4 人)が互いに支援しあう協働学習形式で行う。 (1) 9:00-10:20 ガイダンス、講義、課題の説明など (2) 10:30-11:50 グループ活動(自己紹介、課題作業) (3) 13:00-14:20 課題作業つづき (4) 14:30-15:50 講習成果の発表と共有(グループと全体) (5) 16:00-16:40 試験 (6) 16:40- 受講者評価		
活用した資料・データ等	講義資料 ・アクティブラーニングと ICT の活用 ・ICT 機器に関する児童生徒の実態とアクティブラーニングによる授業づくり ・Moodle の活用 ・5 つの課題の説明 ・各課題ごとの作品事例 ・各課題作品制作のための参考資料		

講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・本講習の進め方そのものがアクティブラーニング型である講習を進めることができた。 ・そのために、事前の準備をしっかりと進めてきた。環境の整備、グループの設定や課題の設定、課題解決のための学習用資料やサンプルなど、何度も協議を重ね、資料の改編を重ね、Moodle にそれらの資料やサンプル、スケジュール等を整備した。 ・この準備がアクティブラーニング型の講習を進めるうえでとても重要であり、受講者の方が当日主体的に学ぶための環境を整備できたと考えている。そして、私たち講師及び補助員は、受講者の主体的な学びを支える役割を果たすことができたと考えている。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） <機材> ・ロイロノートというアプリが入っている iPad を借りることができ、課題の一つを実施することができた。しかし、AppleTV での画面提示が電波不安定のためうまくいかず、代替手段で実施することができた。 <会場> ・会場は午前中 B 教室だけとしたため、エアコンの効きが悪く、受講者およびスタッフともに大変な状況であった。午後 A 教室との境界をとることで A 教室のエアコンが使える、とても快適となった。 <補助員> ・5つの課題に分かれ、内容的に盛りだくさんであった。その成功のカギとなったのが、支援スタッフと考えている。今回しっかりと準備ができたことがよかったと考える。 ・聴覚障害の方への対応が初めてだったので、不安もあったが、当日は通訳の方の支援もあり、心配だったグループワークも大変うまく実施できた。 3) その他 ・事前の案内で、事前に各先生方が講習で行う課題とそのテーマを事前に考えてきていただいた。先生方に案内が事前にできたこと、Moodle によって事前に課題説明や教材を見ていただけたことが、短い講習でも高い目標達成が果たせた理由と考えている。 ・これまでの私の更新講習をベースに、今回の講習を設計実施したが、「アクティブラーニング」を大幅に取り入れたこと、ゲストティーチャーを含め3人の講師の連携が必要だったこと、視覚障害者への対応が求められたことなど、これまでに比べて多くの準備時間を必要とした。大変であったが、内容的には満足のいく講習になったと思っている。
-----------------	--

担当講師	鷲尾 敦	記入年月日	2016 年 8 月 5 日
講習の区分	必修講習・ <u>選択必修講習</u> 選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 31 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：37	講習会場 (教室等)	上浜キャンパス教育学部教職支援センター1F 第4教育端末室
講習名	アクティブラーニングにおけるICT（情報通信技術）の活用		
講習の目標	1) アクティブラーニングについて ・アクティブラーニングの必要性を伝えることができる。 2) ICT 活用の意義を知る ・ICT の活用方法やそのメリットを説明できる。 ・情報モラル等、留意点について説明できる。 3) 活動のふり返し 講習をふり返し、良かった点、改善点、今後の課題を分析できる。		
授業概要 (大まかな流れ)	今後、必要とされる教育（アクティブラーニング等）において、コンピュータやネットワークなどの ICT（情報通信技術）をどのように活用すべきかを、実習を交えながら考える。具体的には、簡単なデジタル作品（ポスターやパワーポイント教材、フォトムービー）制作や、タブレット端末、あるいはネットアプリを有効に活用する体験をし、学習支援システム（Moodle）を活用して、改善・共有をはかる。その経験を通して、ICT の活用方法や課題（情報モラル等）などを実感して、児童生徒が ICT を活用して学習できる「ICT 活用指導力」を高めることをねらう。実習は提示したテーマから 1 つを選択して、個人単位で行うが、同じテーマのグループ（4 人）が互いに支援しあう協働学習形式で行う。 (1) 9:00-10:20 ガイダンス、講義、課題の説明など (2) 10:30-11:50 グループ活動（自己紹介、課題作業） (3) 13:00-14:20 課題作業つづき (4) 14:30-15:50 講習成果の発表と共有（グループと全体） (5) 16:00-16:40 試験 (6) 16:40- 受講者評価		
活用した資料・データ等	講義資料 ・アクティブラーニングと ICT の活用 ・ICT 機器に関する児童生徒の実態とアクティブラーニングによる授業づくり ・Moodle の活用 ・5 つの課題の説明 ・各課題ごとの作品事例 ・各課題作品制作のための参考資料		

講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・ 下村先生の指導の下、本講習の進め方そのものがアクティブラーニング型である講習を進めることができた。 ・ そのために、事前の準備をしっかりと進めてきた。環境の整備、グループの設定や課題の設定、課題解決のための学習用資料やサンプルなど、何度も協議を重ね、資料の改編を重ね、Moodle にそれらの資料やサンプル、スケジュール等を整備した。 ・ この準備がアクティブラーニング型の講習を進めるうえでとても重要であり、受講者の方が当日主体的に学ぶための環境を整備できたと考えている。そして、私たち講師及び補助員は、受講者の主体的な学びを支える役割を果たすことができたと考えている。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 補助員） ・ 5つの課題に分かれ、内容的に盛りだくさんであった。その成功のカギとなったのが、支援スタッフと考えている。今回しっかりと準備ができたことがよかったと考える。 ・ 聴覚障害の方への対応が初めてだったので、不安もあったが、当日は通訳の方の支援もあり、心配だったグループワークも大変うまく実施できた 会場） ・ 会場は午前中 B 教室だけとしたため、エアコンの機器が悪く、受講者およびスタッフともに大変な状況であった。午後 A 教室との境界をとることで A 教室のエアコンが使える、とても快適となった。 機材） ・ ロイロノートというアプリが入っている iPad を借りることができ、課題の一つを実施することができた。しかし、AppleTV での画面提示が電波不安定のためうまくいかず、代替手段で実施することができた。 3) その他 ・ 事前の案内で、事前に各先生方が講習で行う課題とそのテーマを事前に考えてきていただいた。先生方に案内が事前にできたこと、Moodle によって事前に課題説明や教材を見ていただけたことが、短い講習でも高い目標達成が果たせた理由と考えている。 ・ 私にとっては、初めての経験であったが、私も一緒に学ばせていただいたと考えている。とても良い講習であったと考えている。
-----------------	--

三重県教員免許状更新講習連絡協議会選択必修講習について

開設者	国立大学法人三重大学	開催日	平成28年7月31日
講座名	アクティブ・ラーニングにおけるICT(情報通信技術)の活用		
ゲストスピーカー名	三重県教育委員会事務局 研修推進課 テーマ研修班長 荻田 弘樹		

I 担当講習の概要についてお書きください。

講習会の前半にゲストスピーカーとして、「三重県の子どもたちの情報モラルに関する実態」「アクティブ・ラーニング」について、データなどをもとに以下の事項について説明をしました。

- (1) 情報化社会において、子どもたちが置かれている状況について
- (2) スマートフォンなどの使用に関する調査からわかること
 - ・ 自分専用のケータイを持ち始めた時期について
 - ・ ケータイでの利用状況について
 - ・ 困ったときの相談相手について
- (3) 都道府県別の小中学生のスマートフォン所持率について
- (4) 子どもたちがインターネット上で使用している「ネット用語」について
- (5) 携帯ゲーム機の所持率に関する調査からわかること
 - ・ 携帯ゲーム機の所持率について
 - ・ 携帯ゲーム機の利用方法について
 - ・ インターネットを利用し始めた時期について
- (6) 「アクティブ・ラーニング」の授業づくり
 - ・ 国の教育改革などの動き
 - ・ 「アクティブ・ラーニング」の視点を取り入れた授業改善について
 - ・ 言語活動の充実について
 - ・ まとめ

II 本講習は、主に三重県教育課題をテーマとし、三重県教員免許状連絡協議会において企画し県内の複数の大学講師および三重県教育委員会からゲストスピーカーの方を加えた選択必修講習でした。

担当講習についての感想、ご意見・ご要望について自由にお書きください。

下村先生、鷲尾先生からのご指導を受けながら、事前打ち合わせなどを実施したことで、より充実した講習会になったと感じています。

アンケートからは、「三重の子どもたちの現状や実態などの話を聞くことができ、大変良かった。」という感想がありました。また、事前にアクティブ・ラーニングについて触れたので、「目的をもって講習会に参加できました。」という感想もあり、ゲストスピーカーとして参加する必要性を感じました。

Ⅲ 成果と課題

1 企画部会委員の立場から

企画部会委員の立場から

教育学部 須曾野 仁志

今年度で、教員免許状更新講習企画委員を通算5年務めさせていただきました。私自身、更新講習の必修及び選択講習講師も8年間数多くの講習を担当させていただきましたが、講習を企画する立場でも、講習講師としても、受講参加の方々にとっての学びや参加者の要望を第一優先に考えてきました。なぜ、私がこのように考えるかという、私自身が公立中学校教諭を15年勤めたことや、自分自身が放送大学学部学生を13年間続けてきたことが理由として挙げられます。

公立学校に勤めた経験からお話ししますと、教育委員会が行う研修と似たものであったり、地域のサークルや教研集会と同じような学びであれば、教員免許状更新講習に魅力を感じる参加者は多くないでしょう。大学で行う更新講習であるなら、今の教育事情、学び方・教え方に関して、大学でなければ学べない、最先端のものを取り上げていくべきであると考えて、講習をデザイン・実施してきました。必修講習の最初には、「今日、皆さんは、一日大学生です。＊＊年前の大学生に戻ってください。教員免許を取ったときは、教職関連の授業は大きく変わっています。」「だから、皆さんのことは〇〇先生とは呼ばずに、「さん」づけで呼ばさせていただきます。」と話します。

私自身、インストラクショナルデザイン（授業・教育設計）やICTの学習利用が専門です。eラーニングやアクティブラーニングもその専門の中のキーワードですが、eラーニングや放送授業を使って、自宅で教員免許状更新講習を受講すれば、超多忙な学校教員の皆さんには時間を有効に使えるかもしれません。しかし、我が大学での更新講習では、皆さんと担当講師がフェイストウフェイスで行うスタイルで、この5日間の講習に参加していただき、やりがいや満足感をたくさん得られるように努力してきました。

我が大学ですべての講習がこのようになっているとは言い難いですが、講習担当教員がARCS動機づけモデル、つまり、「注意(Attention)」「関連性(Relevance)」「自信(Confidence)」「満足感(Satisfaction)」に基づき、講習をチェックし、改善する必要があると感じます。また、大学の教員が、更新講習を担当することで、学校現場との「扉」を持ち広げていくことにつながります。我が大学では、この「扉」をもっと大事にしていくべきではないでしょうか。

2つめの放送大学学生経験から言うと、「(大人としての)学ぶことは本当に楽しい。」と実感します。幼稚園から小・中・高校・特別支援学校、大学等で「先生」と呼ばれる仕事に就く人が「学生」「学習者」の立場を経験すると、教え方が変わり、教える内容についても幅広さや奥深さが出てきます。アクティブラーニングがどの教育現場でも課題となっていますが、教員自らができる範囲でアクティブに学び続けることが、子どもたちの未来がよりよく変わっていくことにつながるように感じます。

平成 28 年度の教員免許状更新講習から選択必修の区分が新しく設けられた。本稿では選択必修を担当した立場から述べていきたい。基本的には、今まで必修であった内容に多様な選択の要素が入ったものと捉えている。しかし、選択必修なので教育に携わる先生方に共通して共有されるべき内容となる必要がある。

平成 28 年度に選択必修は 25 講習が開設され、定員は 905 名、受講申し込み者が 597 名で、申し込み率は 66% である。必修講習の定員が 860 名、受講申し込み者が 706 名で、申し込み率が 82% と比べると、もっと現場の教員の要望に添える魅力的なテーマの講習を増やす必要があるといえる。しかし、募集定員は必修講習よりも多く、今年度の必修選択講習開設に向けた努力の跡をみることができる。今後、必修講習や選択講習と異なる選択必修講習のアイデンティティを確立していく必要がある。

筆者はこれまで選択講習において異文化理解に関わる講習を行ってきた。選択必修講習のテーマとして異文化理解が明確に示されている。このため、平成 28 年度は選択必修の中で異文化理解の内容で 8 月と 10 月に 2 回行った（実際は少し内容を変えた）。この二つの講習の充足率が非常に悪かった。10 月はこれまで更新講習がとれていない先生方のためにあえて開設するので充足率が低くなるのはわかる。8 月の講習では選択講習で行ったときよりも人数も充足率もはるかに低くなった。この原因を考えていくことは、今後の選択必修講習としての異文化理解学習のアイデンティティを確立していく上で大切である。

選択講習では、講習名「異文化理解を深める社会科授業」とし、「社会科教育において、様々な国・地域における異文化体験を活用した異文化理解の授業や異文化理解を深める授業構成を紹介する。これをもとに、受講者にはそれぞれの校種における異文化理解を深める授業を構想してもらいたい。」と明示していた。今回の選択必修講習では講習名

「社会科や総合学習における異文化理解学習」とし、「本講習では社会科教育や総合学習における異文化理解学習を想定し、国内外での異文化体験を活用した異文化理解学習の事例を紹介し、受講者にそれぞれの校種における異文化体験をいかした授業を構想してもらいたい。」と明示した。テーマの中に社会科に加えて総合学習の文言を入れることで選択する側の幅を広げ、異文化体験を活用した事例を紹介するという文言で、いろいろな国の異文化に興味がある教員の受講の拡大を想定していた。しかし、選択必修講習としては教員の対象や内容が限定されていること、異文化体験の活用の意味がイメージしにくかったと考えられる。実際に、社会科が専門でない教員は受講するまで不安であったようである。受講者アンケートから異文化理解学習の意味と大切さを実感されたことがわかった。

このような反省を生かし、平成 29 年度は講習名「多文化共生を視野に入れた異文化理解学習」とし、教科を限定せず、様々な国・地域の異文化体験の活用事例を紹介し、幼・小・中・高等学校の各校種を想定した異文化理解を深める授業を取り上げる計画である。

必修から選択必修講習になった担当者は、多様な視点の導入を前面に出し、選択から選択必修講習になった担当者は、教員に共通して必要な内容に改善する工夫が必要である。

企画部会委員の立場から

教育学部 加納 岳拓

本年度より、教員免許状更新講習委員会のメンバーとなった。これまでは、1人の選択講習の担当者として毎年1回講習を開いていたが、委員会に入ることによって、講習が開設されるまでに関係者の方の多くの業務によって講習が成り立っていることを実感した。今年は、受講者の校種や経験に応じて、適時に現代的な教育課題を学べる「選択必修講座」の開設が大きな変更点であった。講習開設にあたり、昨年度から必修講座とあわせて、担当者や内容の調整を委員会の中でも関係の先生方にしていただいた。これまでの必修講座と選択講座に加えて、選択必修27講座が各講座担当の先生のご協力もあり、大きな混乱なく講習が実施された。

その他の点については、私が委員になる以前の委員会でこれまでに蓄積・整備されてきたノウハウに基づきながら運営されていったように思う。その中でも、新たな細かな課題について今年も検討・改善が行われた。例えば、講習前には、教材費の使用方法や受講生の受講キャンセルについて、講習当日では、広いキャンパスの中で会場がわからない受講生に対しての対応、講習中の写真撮影、子ども連れで来校した受講生への対応等である。今年の事例が、来年度以降のノウハウとなり、より円滑に講習が実施されていくことになるだろう。

本年度は、企画部会委員として業務の理解に終始していた中で、来年度考えてみたいことが二つある。一つは、講習名や内容についてである。教育学部でもわかりやすい講習名にすることがアナウンスされ、他学部で来年度に講習を担当される先生に対して講習の概要を説明にあがったときにも、講習名をわかりやすいものにしてくださいとお願いをした。そのときに、ご担当される先生方からは「難しいものにするつもりはないが、なぜわかりやすい講習名にする必要があるのか」という質問が出た。この質問をきっかけに、もう一度免許状更新講習の目的を見直してみた。免許状更新制は、対象者が免許状授与時に修得対象とされていなかった最新の知識技能の修得を通じて、その時々で教員として求められる資質能力の確保・確認を行うことが目的とされ、また夏季休業中を中心に開かれている教員研修では、現場知や現場経験を十分に生かした内容が中心である一方で、大学での講習では専門的知見を活かした内容や最新理論・研究成果を反映しやすい内容を基軸として構成することが求められている。どちらも教員の学びを支えるという研修ではあるが、現職研修と免許状更新講習の内容の重複を防ぐためであろう。このように考えると、先ほどの質問もうなずける。反対に、学校現場の状況に目を向けてみると、日々の業務に追われる中で、授業づくりや学校経営等の校務にすぐに活用できる内容が求められていることもわかる。教員研修とは違う色を出しながらも、学校現場とのつながりが感じられるような講習の必要性を私自身も自覚するとともに、ご担当される先生にもお伝えしていきたい。

もう一つは、平成30年度に向けた準備についてである。例年よりも、約1.7倍の受講対象者が予想される中、講習の数や日程、場所についての検討・調整が必要になってくるであろう。次年度も企画部会委員として、委員会委員の先生方や事務の方とともに準備を進めていきたいと思う。

最後に、開設計画から講習の申し込み、講習にかかわる資料や器具の準備、教室の準備や確認等、更新講習の運営を支えていただいている事務の方々のご努力に感謝したい。

2 運営部会委員の立場から

学部担当の教員免許状更新講習事業を振り返って

人文学部 服部 範子

2016 年度人文学部担当の教員免許状更新講習は、森俊一氏（名誉教授）による「財政の役割」、荒井茂夫氏（名誉教授）による「中国語会話入門」、藤本久司氏（元人文学部准教授）による「異文化間の誤解と理解」、小林貴徳氏（非常勤講師）による「スペイン語入門」であった。

各講習の「教員免許状更新講習受講生評価書」によれば、「Ⅰ. 本講習の内容・方法について」の項目、「Ⅱ. 本講習の成果について」の項目、および「Ⅲ. 本講習の運営面（受講者数、会場、連絡等）についての評価」において、4つの講習のほぼ全ての受講生が「よい（十分満足した・十分成果を得られた）」または「だいたいよい（満足した・成果を得られた）」と評価している。概ね好評であったことが上記のアンケート結果から明らかである。以下では、各講習の自由記述欄に基づいて、各講習を簡単に振り返ることとしたい。

森俊一氏「財政の役割」における自由記述欄への回答の傾向は、次の通りである。最近の財政事情について多くの問題点や課題を認識することができ、また様々な研究者の学説や財政理論も学ぶことができて非常に勉強になった、という感想が多く見られた。もう少し時間があればグループ討議も面白かったかもしれないという指摘もあるが、受講生は密度の濃い講義を聞くことができたようである。授業で使えるような内容が多くあった、また授業とは別に自分にとっても有意義な受講であったという回答が多く見られた。

荒井茂夫氏「中国語会話入門」における自由記述欄への回答の傾向は、次の通りである。中国語の文の構造や発音について重要な点を1日でおさえることができたこと、また中国の歴史や社会についての講師の話に満足したことを多くの受講者が挙げている。試験が予想以上に難しかったという感想が若干あったが、講師が用意したテキストが非常に参考になったので、今後も自習用に使用したいという回答が多かった。

藤本久司氏による「異文化間の誤解と理解」における自由記述欄への回答の傾向は、次の通りである。講習は、異文化に対するこれまでの自分の考えを見直す良い機会に勉強になったと多くの受講者が回答している。一方で、参加者同士が体験したことや日常の悩みなどをグループで話し合ったり、具体例と方策を考える等、議論できる機会があればさらによかったという回答がいくつか見られた。

小林貴徳氏「スペイン語入門」における自由記述欄への回答の傾向は、次の通りである。スペイン語を学ぶのは、ほとんど初めてという受講者が多かったにもかかわらず、講習内容はテンポよく進められて大変わかりやすかったという回答を多く得ている。スペインについての話を少しはさんでもらえれば、より興味がわいたと思うという感想も複数あった。

以上のように、各講習の自由記述欄を見ても、4つの講習が概ね好評であったことが明らかである。次年度以降も人文学部として、責任をもって講習の事業に関わっていきたい。

運営委員の立場から

医学部 西出 りつ子

医学部からの平成 28 年度の講習は、今年度も学部の特徴を生かして、健康に関する 4 種類の内容を提供した。麻酔・呼吸循環管理を専門とする医師がわかりやすく説明する「熱中症・溺水・救急蘇生・窒息・インフルエンザ」、日常的に子どもたちの診療を行う小児科医 4 名が発達障害・アレルギー疾患対応・感染症・突然死についてすぐに役立つ内容を語る「学校保健」、受講者が自身のメンタルを見つめ直す機会ともなる臨床心理士による「学校でのストレス・マネジメント」、そして校種の異なる受講者グループと看護系講師を含めた全員で考える「メンタルヘルス問題を抱える子どもの理解と対応」であった。全て、全教員を対象とする講習である。毎年お世話になっている講師の方々には、今年度もこの場を借りてお礼申し上げたい。講習の準備から成績採点入力まで、講師にとって過酷な講習であるにもかかわらず、お引き受けいただき、ありがとうございました。

参加者にとってもこの講習は、初めての場所で、初めてのメンバーと、丸 1 日その講習のテーマだけを考え、体験し、試験を受ける構成であるため、よく言えば「教育現場を離れて気分転換」、実際のところは季節も含めて「疲れる 1 日」であったと推察する。しかし、皆さん、朝は明るい表情で、夕方は晴れ晴れとして、1 日を前向きに過ごしてみえたことが印象的であった。

では、実際に受講者はどのように感じていらしたのか、医学部 4 講習の受講者評価書の記述から、受講者ニーズや各講習に対する具体的な評価がわかる。「日頃から気になっている身近な内容で、教育現場で活用できる」「医学的な知識を得ることで、自信をもって対応できる」「広い視野で健康問題をとらえることができる」の記述からは、医学部だからこそこの講習の意義が読み取れる。「『問題が発生したらどうするか』だけでなく、『予防が大事！』と意識できる」との感想も重要である。医学部 4 講習のテーマと内容は、これらの方向を目指している。そして、受講者にとって「医学用語を一般用語に置き換えた説明」と「実例を用いた説明」が理解しやすいと認識され、「今までの自分の考えを覆させられる体験」や「思いもしなかったことを知る体験」、そして「『おもしろい』と感じるひととき」があったことは幸いであり、このような講習は受講者の記憶に残るはずである。つまり、「子どもたちと教職員の健康の維持増進」に向けた医学部講習からのメッセージは、受講した先生方を通して教育現場で活かされることになる。

医学部講習は、その内容から毎年養護教諭の方が多い傾向にある。しかし、様々な校種の先生が、様々な地域から参加されており、「新たな出会いの場」となる可能性が高い。今、教育現場では「学級崩壊」や「monster parents」が注目されだした頃の子どもたちが親になる時代に突入した。自分自身がそのような状況でなかった子どもも、責任よりも権利、全体よりも自分、という言動の同年代を身近に感じながら育っており、何を「当たり前」とするかという物事の判断基準がずれている危険性がある。さらに、SNS が発達して目の前の人とのやり取りが少なくなり、新たなコミュニケーションの世界を使わざるを得ない時代となった。このような今だからこそ、受講された先生方には講習で改めて実感されたはずの「face to face の良さ」を教育現場に浸透させていただきたい。

今年も、教員免許状更新講習に関わる全ての人たち（受講者、事務局、講師）に向けてひとこと。

「顔の見える関係づくり」が今後に活きる！

運営部会委員の立場から

工学研究科 久保 雅敬

今年度は、教員免許状更新講習実施委員会運営部会の一員となって二年目であった。基本的には、実務を取り扱う委員会であるので、昨年度の記録を参考にすることで、行事の流れについてはだいたい把握できたし、来年度の教員免許状更新講習の選出についてもスムーズに依頼することができた。昨年度の場合、私は運営部会の一員とはいっても、実際に教員免許状講習を担当しているわけではなかったので、年に数回の運営部会に出席し、そのときの議事内容を研究科教授会で報告することだけが仕事であった。今年度は、スタッフの一員として休日に2回ほど講習の会場案内及び回収答案の点検作業を担当させていただいた。すなわち、二年目にして初めて、受講者と接触する機会を得たのである。とはいっても、仕事は、看板の前に立って、会場がわからなくて困っている人々に声をかけ、教室の場所を教えてあげるだけである。最初は、迷う人などいないから暇だろうと思っていたのだが、建物が分散している工学部が講習会場ということもあり、実際は、掲示板の前で首をかしげている人が意外と多かった。およそ1時間弱の時間であったが、かなりの時間を教室までの誘導に費やし、ぼーと立っている時間帯は短かった。おかげで、それなりに仕事をしたという充実感を味わうことができた。少しは教員免許状更新講習に貢献できたかなという気持ちになった。今までは、どんな人がこの講習に参加しているのか全くわからなかったが、比較的若い方の参加が多いことに驚いた。また、普段は私と同様に教育職に就いているだけあって、礼儀正しく、問題のありそうな人はいなかった。

工学部で今年度の講習を担当したのは、建築学科、分子素材工学科、機械工学科、電気電子工学科であった。工学部の場合、例年、ローテーション表に従って担当学科を決定し、講師については、各学科の対応にまかせている形式をとっている。毎年同じ教員が更新講習を担当している学科もあれば、毎年違う教員が担当している学科もある。個人的には、できるだけ多くの教員がこの更新講習に参加することで、更新講習に対する理解を深めていただきたいと思っているのだが、実際は丸一日の講習をこなすのは準備が大変で、一度経験した方をお願いする方が楽ということは理解できる。受講人数を見ると、10名以下の講習が目につくので、タイトルや内容を工夫していただきたいという希望はあるのだが、講師の先生には準備その他で多大なご負担をかけているため、なかなか強く要望できないというジレンマがある。講習の受講者は、おそらく、自費で講習費を支払って参加していると思うので、満足していただける講習を企画する重要性を感じた。

運営部会委員の立場から

生物資源学部 成岡 市

(1) 開講された4講習

- ① 農業農村の今日的課題が強く求める「技術・科学そして発想の原点」は何か？

講師：教授 成岡 市 定員 25、受講者 6（充足率 24%）

開講：6月11日（土曜） 受講者による評価（代表値）： 4 成績評価方法：筆記

- ② 「生物多様性」総ざらい ー概念・保全から外来生物問題までー

講師：准教授 淀 大我 定員 20、受講者 19（充足率 95%）

開講：6月19日（日曜） 受講者による評価（代表値）： 4 成績評価方法：筆記

- ③ 命をつなぐ食物を学校教育に生かす ー食・農・医・福祉・環境の連携ー

講師：准教授 長屋祐一 定員 24、受講者 7（充足率 29%）

開講：8月19日（金曜） 受講者による評価（代表値）： 4 成績評価方法：筆記

- ④ 水とともに生きる ー飲み水・用水・水害を通じてー

講師：准教授 岡島賢治 定員 20、受講者 12（充足率 60%）

開講：8月23日（火曜） 受講者による評価（代表値）： 4 成績評価方法：筆記

(2) 成果概要

1 講習の講師数は1名に絞った。定員に対する受講者の充足率は24%～95%であり、准教授が担当した講習に人気が出る傾向にあった。成績評価方法は4講習とも筆記式、受講者による評価（基準代表値）は4と概ね好評であった。

担当講師は、生物資源学部の3学科から各1教員、および運営部会委員の計4名が選出された。いずれも農学（自然科学系）分野の専門をもつ教員であった。このことに関して、受講者から口頭で受けた受講理由は、「本学（生物資源学部、農学部、水産学部）の卒業生である。農学分野に感心がある」などであり、とくに講習課題に注目された印象が強かった。

(3) 今後改善すべき課題

- 1) 1講習あたりの講師数について

教授層および准教授層という職階、60歳～40歳の年齢層、講習内容が自然科学分野、講習が座学（講義）あるいはPBL式などを総合してみると、受講者の評価（自由記述内容を含む）は概ね好評のようである。この受講者評価が高く、自由記述内容が概ね良好に書かれていることから、「講師数1名、年齢層に幅を持たせる、講習内容は生物資源学部で取り扱う内容で良好」の条件で高評価だったと理解することができる。

2) 定員に対する受講者の充足率について

講習課題あるいはその説明内容によって受講者の充足率に影響があることは否めないが、最新の話題、社会的に関心が持たれている話題が講習課題に明示されていると充足率が向上することもあるようである。

3) 成績評価の方法について

筆記式の成績評価は是非論があるかもしれないが、少人数で講習を進めていることで、受講者の理解度を大方把握することは可能と思われる。

4) 受講者による評価について

上記 1)～3)に集約される。高評価を受けた講習は、「講師 1 名、若い年齢層・准教授層、知識・経験が豊富な教授層を取り混ぜて、講習を多彩でメリハリのある展開とすること」が重要と理解できる。加えて、受講者の教員経験や知識内容を理解することのできる情報が事前に担当講師に与えられると、より一層充実した講習となるように思われる。

5) 総合的改善について

生物資源学部の担当講師の人選は、学部長の委任を受けて「教職課程・学芸員養成課程運営委員会」が担当している。当該委員会による情報共有あるいは改善検討ができる仕組みがあることは、教員免許状更新講習の今後の対応に効果があると考ええる。

運営部会委員の立場から

教養教育機構 古関 春隆

2016 年度、教養教育機構では、6 名の教員が以下の 7 個の教員免許状更新講習を担当した。

- ・ 6 月 19 日、太城康良、アクティブ・ラーニング TBL（選択）
- ・ 6 月 25 日、瀬戸美奈子、不登校の理解と対応（選択必修）
- ・ 7 月 9 日、瀬戸美奈子、不登校の理解と対応（選択必修）
- ・ 7 月 9 日、古関春隆、何乗すると 1 になるか？何回繰り返すと元に戻るか？（選択）
- ・ 8 月 19 日、富樫健二、運動と健康（選択）
- ・ 10 月 1 日、長濱文与、協同に基づく授業づくり・学級づくり（選択）
- ・ 10 月 1 日、下村智子、世界の教育事情（選択）

各々の講習について、受講者評価書の評価のうちから印象的なものを紹介する。

アクティブ・ラーニング TBL 受講者数 25 名

「TBL は正直何も知らない状態でしたが、自分自身が経験させてもらったことで、よく理解できました。また授業を計画することで「自分もやってみようか」という積極的な気持ちになりました。」

「児童の身になって受けられてとても良かった。先生の進行がスムーズですごく良かった。子どもがよく調べ、よく発言し、よく学ぶための TBL であると感じたので、実践に生かしたい」

不登校の理解と対応（6 月 25 日） 受講者数 28 名

「受講者が主体的、そして共同的に学ぶことのできるアクティブラーニング型の講習であったのが何より良かったです」

不登校の理解と対応（7 月 9 日） 受講者数 29 名

「聞きやすくゆったり話された内容の中に、たくさん大事なポイントやアドバイスを見つける事ができ、為になりました」

何乗すると 1 になるか？何回繰り返すと元に戻るか？ 受講者数 4 名

「高校の整数問題の参考になりそうな内容だったので良かったです」

「正直とても難しかったです。昔、聞いたような気がする記号・言葉といった程度でしたが、久しぶりに難しいけど楽しい数学の時間を受けることができました」

運動と健康 受講者数 19 名

「今の子供の健康問題について、考えるいい機会になった」

「具体的な実践があり、学校ですぐに活用できることを得られたことが良かった」

協同に基づく授業づくり・学級づくり 受講者数 6 名

「自分が今まで取り組んできたグループ学習と「協同学習」の違いがよくわかりました。今日学んだことを 1 つでも生かして「協同学習」になるように取り組みたいと思いました。ありがとうございました。」

「協同による授業を行うことで生徒の社会的なスキルも、向上してくれたらと切に感じました。また自身の技術を向上させなければならないと感じました」

世界の教育事情 受講者数 19 名

「自分では、知りたいが、調べるまではやらなかった内容です。国や地域によってのちがい等、整理して学ぶ事ができてよかったです。」

「大変、興味のある内容でした。世界の学校事情についてなかなか触れる機会がなかったのでよい勉強になりました。ありがとうございました。」

3 講習担当講師の立場から

免許状更新講習を振り返る：教員の資質向上と選択講習

三重大学教育学部英語教育講座 宮地 信弘

2009 (H21) 年度以来、中高の英語教諭を対象に英米の詩を紹介する選択講習を担当してきた（講習題目はここ数年「英詩入門」に落ち着いている）。この講習は中高で英語を教える教師の資質向上を目的としたものである。受講生は例年 10 名前後だが、今年度は 15 名あり、いささか戸惑ったが、その分受講生はくつろいだ様子でもあった。講習の内容は以下のように構成している。

- (1) 英語の詩を読んでみよう —— 英詩を経験する
- (2) 韻律と脚韻 —— 英詩の韻律法を学ぶ
- (3) 有名な英詩を味わう —— 英詩の伝統の一端に触れる

(1) では、中高の英語の授業でも扱える詩を含んで幾つかの詩を取り上げ（ときにマザー・グースや英語俳句まで含むこともある）、分析的理解という姿勢で詩を読解する。(2) では、英詩の韻律法と脚韻について説明し、ソネット（14 行詩）1 編を例に取り、具体的に詩の韻律を自分で調べてもらう。(3) では、シェイクスピアから 19 世紀ロマン派の詩、さらに 20 世紀の自由詩という具合に印象の異なる詩を取り上げ、できるだけ受講者を巻き込んで読解していく。

本講習では、毎年、受講者参加型の講義形式を採っている。今年度も隣り合った者同士二人でペアを作り、できる限りペアで話し合って詩を読解し、読解内容を発表してもらう機会と時間を多くとるよう努めた。英詩の読みこなしには時間がかかる。英詩に馴染みのない場合、語順の見極めでさえ手間取ることがあるが、互いに相談しながら、たとえば、強音節と弱音節を数えて韻律を見極める作業に取り組んでいる受講生が多く見受けられるのは嬉しいことである。

しかし、課題もある。英語の詩には優れたものが多いため、できるだけ多く紹介したいという誘惑に駆られ、つい扱う詩の分量が増えてしまうことである。毎年扱う量を少しずつ減らしてはいるものの、今年度もいくつかの詩は手付かずに残った。また、「英米の」と謳いながらアメリカの詩に触れる余裕がほとんどない（準備はしているが）ことも今後の反省材料である。

英詩は英米の精神文化の中核をなす言語テキストであるにもかかわらず、馴染みが薄いせいか、ことさら難しいと思い、敬遠している英語教師も多い。そのような中、自らの視野を広げようという前向きな姿勢で参加される受講者に対して私が心がけているのは、何よりも英詩の魅力に触れてもらうこと、読解を通じて英詩を読む楽しみを体験してもらうこと、そして英語という言語の持つ多様な側面（中学生の初歩的な会話英語もシェイクスピアのテキストも同じ英語であるという事実）を認識してもらうことである。受講者評価の中には毎年「楽しかった」や「勉強になった」というコメントが寄せてあり、大きな励みとなっている。

冒頭に書いたように、この講習は中高の英語教諭を対象にし、英語文化の背景的知識の拡充を通して教師の自己研鑽・資質向上を主たる目的としている。日々いかにして生徒の英語力を伸ばすか、効果的な指導法はどうあるべきか等々に苦慮されている中高英語教師にとって、この講習がすぐに現場で役立つということは期待できない。しかし、かつて英語という言語の不思議や魅力に惹かれた学生時代に立ち戻り、英語文化の持つ広さと深さを再認識し、新たな視点をもって明日の教壇に立ってもらえたらと願っている。

教員免許状更新講習（選択講習）を振り返って

三重大大学教育学部国語教育講座 林 朝子

今年度、選択講習「書写指導の内容と実技」を担当し、30 名の方に受講していただいた。この講習では、以下の3点を大きな柱として内容を組み立てている。

- 1) 小学校中学校国語科における書写の目的と指導内容に改めて意識を向ける（午前）
- 2) 毛筆実技基礎力を強化する（午後）
- 3) 書字の楽しさを感じる指導について考える（午後）

これらの内容を踏まえた本講習を通し、学校現場での書写指導の更なる充実を期待し、講習を行っている。

【講習の内容】

1) では書写に「改めて意識を向け」ていただくために、「書写」の歴史的経緯や小学校中学校の書写教科書のひらがなの比較など、普段何気なく使用している言葉や教科書の中に新しい気付きを得ていただくよう工夫した。小学校中学校の先生方に、異校種の書写の教科書や指導内容を理解することで、「小学校から中学校と続く書写指導」として捉えていただくことを目指した。

2) の「毛筆実技」については、現場の先生方から「自分は毛筆が好きだから積極的に筆を持つ」「毛筆は苦手だから教室で筆を持たない」というお話を伺ったことをきっかけに、講習で取り上げることとした。漢字で使用される基本的な線や点（基本点画）やひらがなのやわらかい線の書き方を導入した後、各自で持参いただいた書写教科書の課題を基に練習の時間を設けた。現在では様々な視覚教材も開発されており、実際に教員が筆を持たずに指導することも不可能でない。しかし、実際に教員が子ども達の目の前で筆で書くことにより、子ども達が教員の筆の動きと共に文字が構築されている様子に注視する機会が増え、子ども達の文字への関心の深まりにつながるため、できるかぎり筆を持つての指導が望ましいであろう。

3) の「書字の楽しさを感じる指導」では、実際に先生方に書字の楽しさを感じる活動を体験していただいた。今年度は実施時期が7月上旬であったことから、うちわに好きな文字を書くことを行った。うちわ作品の完成後には机に並べ、全員の作品を鑑賞する時間を設けた。お互いの作品鑑賞を通して、「なぜこの字を書いたのか」「このかすれは何か意味があるのか」等の対話が生まれ、文字を書くことが自己表現にも成り得ることを体験していただくことができた。受講者の方々から「鑑賞の大切さを知った」「ぜひ授業でも鑑賞の時間を取り入れたい」というコメントも伺え、書写の指導内容の広がり・深まりを感じ取っていただけたと感じた。

【今後の課題】

6時間という時間的な制限の中で書写の内容を伝えようとするために、現場の先生方に発言していただく時間を十分に取れなかった。毛筆実技の個別活動の際に、学校での書写指導上の悩みを伺うことがあった。個別に伺った声は現場の先生方に共通する悩みであるはずであり、今後は講習の中で先生方の声も反映しながら内容を進めていく工夫を取り入れていきたい。

4 受講生の立場から

教員免許状更新講習を受講して

鳥羽市立答志小学校 中村 寛治

私がこの三重大学での教員免許状更新講習を受講しようと思ったのは、多くの講座が開設されており、自分の専攻や興味などに合わせて幅広く選ぶことができたからです。また、現在の教育現場に求められているスキルや最新の教育研究に精通した先生方が講座を開かれていたことも魅力の一つでした。

その中でも、選択講座「子どもが夢中になる小学校体育授業」(加納岳拓先生)では、体育における運動と子どもとの関係の捉え方や運動のおもしろさといった体育に関わる学びはもちろんですが、全ての教科領域に関わる指導観についても学ぶことができました。特に印象に残っていることを2点挙げます。1点目は、子どもを運動(教材)に夢中にさせて教師のねらう動き(身に付けさせたい力)に近づける、「状況」で囲み「課題」で追い込んでいくという考え方。私自身も授業において、学習の環境や課題について意識的に設定をしていたつもりでしたが、改めて場作りや言葉かけを含めた課題設定を整理して考える機会になりました。2点目は、子どもに学習課題を与える際の「正解」(評価規準)の提示です。これも普段から、具体的に「何を見てよしとするのか」を意識してはいましたが、それが果たして子どもに伝わっていたのか、もしかすると十分に伝わらず、課題へ取り組む意欲や学びの質を落としていたのではないかと振り返ることができました。

また選択必修講座「学習指導要領はどう変わっていくのか」(佐藤年明先生)では、私たちが教育の拠り所とする学習指導要領を読み解くことで、今後社会で求められる人材、これから教育現場で大事にしていかななくてはならないことを確認することができました。特に次回の改訂に向けて「アクティブラーニング」や「道徳」、「英語」について様々な話題を普段から耳にすることが多く、注目していたところだったので、興味深く受講することができました。さらに講座の中では、そうした社会の変化に対応した「流行」の部分だけでなく、これまでの学習指導要領の変遷をたどることで「不易」として大切にしていかななくてはならない教育の根幹や学校・教員一人ひとりの創造的な教育などにも触れることができ、大変実りの多い講座であったと思います。

加えて、必修講座や選択必修講座では、異校種の先生方との意見・情報交換の場を多くもつことができました。教科に関わる研修ではあまり一緒に学ぶ機会のない高等学校や栄養教諭の先生方ともお話をすることができ、とても貴重な機会となりました。特に、進路についてのディスカッションでは、高校の進路担当の先生と意見交流をさせてもらう中で、子どもを見る私の視野が義務教育の9年間にとどまっており、その先を十分に見渡せていなかったことがよくわかりました。

自分自身のこれまでの研修を振り返ると、自分の専門領域を深めることをねらって学ぶことが多かったのですが、この度の教員免許状更新講習では、教員としての幅を広げるような様々な学びがありました。この学びを少しでも今後の実践の中で活用していきたいと思います。

教員免許状更新講習事業報告書

三重大学教育学部附属中学校 近藤 真純

教員免許状の更新年度となり、三重大学にて更新講習を受講させていただいた。6月から受講が始まり、自分の選択した講座のいくつか、1学期中の土日を使つての時期に開催されたものであったので、教育実習や1学期の成績処理の時期と重なるなど、体力的にかなり厳しい状況の中での受講であった。しかし、受講講座は、どれも有意義なものばかりで、学ぶことの楽しさや喜びを再認識させていただいた。貴重な機会を提供いただいた三重大学及び大学教員の皆様に感謝したい。

以下に各講座内容や受講の感想を簡単に報告したい。

●必修講習「教育の最新事情6」

学校教育制度の歴史や特別支援教育の実際、そしてインクルーシブ教育について学び、誰もが大切にされる教育・排除しない教育についてグループで話しあいながら考えることができた。この講座を受講して、教師としてどのような意識をもって、日々の実践にあたるべきかを考えさせられた。

●選択必修講習「不登校の理解と対応」

カウンセリングの技法や子どもの問題への対応、同僚や保護者とどのように連携していけばいいのかなどをグループワークで確認しながら、学ぶことができた。カウンセリングの技法については、以前から知っていたものも含まれていたが、私たち教員が生徒・保護者対応に活用できることをたくさん学ぶことができた。実際、受講後に、不登校の生徒の対応について学年担当者の会議で話しあった時に、この講習で学んだことを同僚に紹介して、対応の方向性を決めていった。

●選択講習①「図工・美術教育理論の新展開 ― 社会に開かれた美術及び対話としての美術の視点から」

この50年ほどで社会の中で、美術表現をする際のアーティストの意識が大きく変わってきている中で、私たち美術教師も時代に合った美術教育を求めて題材開発や指導方法の研究をすることが必要になってきている。この講習では、社会と美術の関わりや表現者の意識の変遷を詳しく教えていただき、意義ある機会となった。

●選択講習②「図工・美術のための素材演習／アクリル表現のバリエーション」

この講習は、中学美術で実際に使用する機会のあるアクリル絵の具をメディウムを使っていかに表現の幅を広げていくかといった内容のもので、日々の実践の中で、すぐに活用できる学習内容であった。基本的な表現方法を学んだあと、各自が思い思いにジオラマづくりに取り組んだ。実際に試行錯誤をしながら制作することにより、生徒が表現意図を表現として具現化する際にどのような支援をすべきか考える機会となった。

●選択講習③「シンボルマークデザイン／コンピュータを使用したデザイン表現」

この講習は、自分のマークをデザインし、コンピュータに取り込んで、アドビ社のイラストレーターで加工して、ステッカーをつくるといったものであった。この講習で勉強になったのは、発想の手法であった。実際に生徒に発想段階で指導する際には、自分が行ってきた手法が拠り所となっている。他の方がどのような手法を使って、発想しているのかを体験できたのは、指導の幅を増やすという点で、とても意義あるものであった。ステッカーづくりは、生徒が喜んで取り組みそうな題材であるが、機器を生徒数分用意するのに無理があるため、部活動での使用を検討したい。

教員免許状更新講習を受講して

三重県立松阪高等学校 伊藤 由美

平成28年6月から10月にかけて、三重大学にて開催された教員免許状更新講習を受講した。内容も数も豊富に開設されている一覧の中から、関心があり改めて学びたいと感じたものや現在担当している授業やクラス運営に活かすことができるものと考え、以下の講習を選び、受講した。また、通信制勤務で日曜日はスクーリングがあるため、土曜日開催の講習を意識して選択した。

- ・必修講習「教育の最新事情」
- ・選択必修講習「不登校の理解と対応」
- ・選択講習「家庭科における消費生活と環境に関する授業研究」
- ・選択講習「学習モチベーションの心理学」
- ・選択講習「おいしく食べるとは？」

どの講習も専門的なお話で勉強になり、教育実践に活かせる内容であった。特に印象に残っている2つの講習についての内容・感想を以下にまとめる。

○選択必修講習「不登校の理解と対応」

講習内容は、1. カウンセリングの技法 2. 子どもの問題への対応—不登校の事例をもとに— 3. 連携をすすめるために—チーム援助とは／保護者との連携— であった。カウンセリングの技法を練習したり、DVDを視聴したり、事例について考えたり、様々なワークを行ったので、6時間が短く感じられた。特に不登校の事例資料を読み、グループで話し合い、アセスメントや援助方針についてまとめるというグループワークはとても勉強になった。生徒の事例を客観的に丁寧に検討することの大切さを改めて認識した。

○選択講習「家庭科における消費生活と環境に関する授業研究」

高等学校で家庭科を担当しているが、「消費生活」は苦手な分野で、今回も選択する際に躊躇した。

しかし、不得意だからこそこの機会に勉強しようと思い選んだ結果、大変有意義な6時間となった。

講習内容は、第1限 現代の消費生活と課題 第2限 消費者教育とは 第3、4限 アクティブラーニングと消費者教育～消費者市民について考える～ であった。中でも「アクティブラーニングと消費者教育」の講義では、授業や通信制のレポートにぜひ活用したいと思う教材や手法を教えてください、大変勉強になった。また、受講者数が15人位だったので、先生の発問に対して全員が順に答えるという場面がたびたびあり、いろいろな意見や考えを聞くことができたこともよかった。グループワークとはまた違う新鮮な体験ができたように思う。

受講する前は様々な不安もあったが、どの講習もわかりやすく為になる講義内容で、意欲的に受講できた。今回の更新講習を機にさらに研修を深め、今後の教育実践に活かしていきたい。

教員免許状更新講習事業報告書

三重大学教育学部附属特別支援学校 蔦井 正彦

6月から8月にかけて専門教科(英語)と特別支援に関わる講座を受講した。これまで二十余年間、英語教育に携わってきたが、今年度初めて特別支援に携わることになり、現場では毎日研鑽することばかりで、戸惑いながらも、職場の先生方に助けられている。だからこそ、特別支援教育に関わる2講座を初任者の気持ちで受講し、少しでも現場や今後の職場で活かせるものはないかという気持ちで臨んだ。以下に受講講座(一部)の内容や感想を簡潔に記述する。

これまで自閉症など特別支援が必要な子どもには視覚支援が有用だと聞いていたが、「特別な支援を要する子どもの発達と保護者支援」の講座では、それが苦手な人もいることを知った。ステレオタイプの生半可な知識だけでカテゴリーとして捉えずに、それぞれの児童生徒が何を必要として、どんな支援が有用か、またどのような力を身につけてもらう必要があるのかなどを、他の先生方とともに見つけていきたい。また、保護者は私(たち)よりも障がいの特性に関する知識を圧倒的に持っていることを念頭に置く必要があることを学んだ。送迎等で保護者と話をする時には、学校で起こった気になる事を言う場合であっても、そうでない場合でも、教員としての視点に基づきながら、なるべく良い事実を伝えるようにしたい。

「三重県の特別支援教育の課題」の講座で話された課題の一つとして、本県は地理的に南北に長く、特別支援学校が全自治体にないため、通学に時間がかかるということが挙げられた。もう一つの課題は、特別支援学校の教員の中には現場に来てから学んでいる教員が多いということであった。私もその一人である。現場に来ている以上、長期間離れて研修を積むわけにもいかないが、他の教員のアドバイスをもらいながら、今後も少しずつ学んでいきたい。

「英語学習者への情意的要因を考える」の講座では、「学習者が興味を持ちそうな教材選びが大切なこと」が取り上げられた。ややもすると英語の教科書の記載事項だけを教授しがちになる。その題材に関しての習慣や歴史的背景などの補足説明を学習者の年齢に応じて教授することも効果的になる。学習者が意欲的になるかは、教員の技量にかかってくることを忘れずに、今後も英語の教材準備をしていきたい。また、英語学習の有用性を学習者にはっきりと示す必要があることも学んだ。知識や技術を仕事に活かせることがあることや、趣味や余暇など必要になった時に困らないなど、教科に関する道具的価値観を高めさせる大切さなどを再確認できた講座だった。

「学習モチベーションの心理学」の講座を専門教科と特別支援の両分野で実践しようという気持ちで受講した。そこでは、学習者に「やればできる」という感覚、つまり有能感を抱かせることが大切だと学んだ。そのためには、学習者の「行動(学習活動)」と「結果(理解できたなど)」が伴う環境が不可欠となってくる。と同時に、結果に対しての適切なフィードバックが重要だということも再確認した。それは言語的な報酬が必要なことはもちろんのこと、「能力によるものではなく、学習者の努力によって成功が得られたことを基本にフィードバックをすること」も有効であるということであった。「英語に高い興味を示しているものの成績が伸びず、投げやりになる生徒」の事例を心理学的にどのように捉え、なぜそのようなことが起きているのか、また解決策は何かなどを、その日に紹介された動機づけ要因の観点から考える活動もした。

これらの講習で学んだことを今後の教育活動に活かしていきたい。

5 講習補助員の立場から

免許状更新講習事業報告書

教育学研究科 学校教育領域

趙 艶

教員免許状更新講習「必修講習」（須曾野先生担当）に補助員として参加して

夏休みの間に、須曾野先生の「教育の最新事情」の必修講習で、補助員として、参加しました。

講習の内容は、いろいろな国の学校制度や学校の授業での様子が取り上げられていて、受講者たちは世界旅行のようで、多くの国の学校の最新事情を聞いていました。私は、中国からの留学生として、中国の学校制度や中国の学校の人数などを紹介しました。「中国の小学校に1つのクラス人数が大体60人ぐらい」、「中国の小学校は給食がないです」と説明すると、受講者たちは非常に驚いて、「すごいね」、「びっくりした」と声を出していました。講習が終わっても、受講者は興味を持ちながら私に中国のことを聞いてくれました。私が担当した日には、同じ研究室で学ぶアフリカ・ギニアの教員留学生シッセさんも受講者にアフリカの学校や教育のことを英語で紹介しました。先生は英語を日本語に通訳して、受講者たちは興味深く学んでいました。

この必修講習では、講習参加者が3Sカードを利用して、グループでミニプレゼンや話し合いをしていました。私たち補助員は、受講者の許可をもらって、私は一つ一つのグループの写真を撮ります。話し合う時間は、教室の雰囲気が非常に盛り上がり、ニコニコしながら意見交換しています。とても満足して楽しそうに活動する様子を見ると補助員としてもうれしかったです。

免許状更新講習の補助員として学んだこと

補助員を務めるのは、自分にとって、非常に素晴らしくてよい経験だと思っています。なぜかというと、自分の夢は将来面白くてよい先生になりたいからです。どのように生徒が学習意欲を持ちながら学ぶかは、須曾野先生の必修講習から学びました。

私が中国の学校のことなどを少し話したので、休憩の時間にいろいろな人とコミュニケーションをとることが出来て良かったです。意見を交換したり、中国の文化を尋ねられたりして、とても嬉しく、楽しく過ごせました。

また、もし先生になったら、講習をする前にいろいろな準備が大事だと感じました。初めて先生の補助員になって、自分の準備が完全でなかったので、最初は慌ててしまいました。必修講習の受付で、受験票と写真票をチェックする時間が少し長くなりました。参加者の方々は長く並ぶと、イライラして、早くチェックしたいと思いましたが、逆に慌てて、遅くなりました。次回は冷静に、できるだけ間違えないように、早くチェックできればと思います。

必修講習中に先生の指示で、資料を配ったり、エアコンの温度を調整したりしました。以前は、先生という仕事は生徒に知識を教えるしかなくて、生徒の立場から全然考えることはなかったです。例えば「教室の温度は大丈夫ですか？暑いですか？寒いですか？」などと先生が参加者に尋ねていましたが、生徒の立場で教室の環境をよくすると、生徒が先生の温かさを感じ、学びやすくなるのだと思いました。

教員免許状更新講習についての感想-選択必修の補助の立場から-

教育学研究科 人文・社会系教育領域

伊藤 佑成

● 教員免許更新講習の補助員を行っての感想

私が担当した教員免許状講師講習は三重大学社会科教育コースの永田先生による「社会科や総合学習における異文化理解学習」であり、取り扱った事項としては、「国際理解及び異文化理解教育」であった。主な講習補助の業務としては、受付、講習内で用いる日本茶・中国茶の用意、講習風景のカメラ撮影、テスト監督であった。今回が初の補助員としての参加であったが、職員の方が作業等のマニュアルを作成し準備していただいていたため、かなりスムーズに補助員としての役割をこなすことが出来たと考える。また、本講習は選択必修ということもあってか、受講者人数が予想以上に少なかったため、受付などは特に迅速に行うことが可能であった。

反省点としては、講習内での自身の業務についての準備が不足していたことが挙げられる。具体的には、講義の中で、中国のお茶に関する授業実践を紹介する際に、日本・中国のお茶を試飲したことが挙げられる。受講者の先生方は中国のお茶ということで、楽しみにしていただいていたが、上手くお茶を用意することが出来なかった。その要因としては、お茶の入れ方を練習しなかったことが挙げられる。中国のお茶の入れ方は、日本茶のものとは差異があるため、事前に、同期の中国人に中国茶の入れ方を教わったが、自身でお茶を入れる練習を怠ったため、その点ではあまり上手くいかなかった。

参加してよかったと思うことは、現職の先生と交流が出来たことである。本講義の中では、異文化理解学習として、永田先生の大学院の授業内で行った授業実践について、紹介・考察がされていた。その後の休憩時間に、受講者の先生方からアドバイスをもらうとともに意見交換をすることが出来た。また、人数の都合上、グループワークに入り意見交流が可能であったため、貴重な経験になった。

● 受講者の反応を見て感じたこと

受講者の先生方は年齢、校種も様々に分かれていたが、普段子どもの視点に立ちながら物事を見ていることもあり、本講義を熱心に聞き、グループワークや質問などを行っている様子が見受けられた。今回の講義は、異文化理解学習であり、海外の事を取り扱っていたため、新しい知見が広がり、より意欲的に取り組んでいるように見受けられた。補助員という立場ではあるが、教育現場で活躍している先生方が更に教材研究などを積極的に行おうとしている姿勢に刺激を受け、個人的にもいい機会になったと考える。自身も教員として教育現場に出た際、受講者の先生方の姿勢を見習い、教材やその基となる社会の物事に対して向き合っていこうと考える。

教員免許更新講習事業報告書

教育学部 英語教育コース

馬場 彩華

8月に教員免許更新講習に補助員として参加させていただきました。自分も将来教師として働くことになるので、実際の教員免許更新講習の様子を見させていただけて、自分の更新の時もこうするのかということがわかりました。

運営上の感想

運営していくうえで私がやることは受付と、授業で使用する資料の配布だったので、それほど失敗することはありませんでした。1人受付にいらっしゃる時に受験票を忘れた方がいらっしゃったので、受験票の再発行をするにはどうしたらいいのかという説明をしたことがいちばん印象に残ったことです。反省点は特にありません。

免許更新講習に対して気付いたこと

免許更新講習をしていて気づいたことは、英詩の授業だったので、英語科の先生が中心でしたが、三重県以外の先生が三重大学の更新講習の授業を受けられていたのを見て驚きました。三重県内だと思っていたので、その先生たちに聞いてみたところ、三重県に観光をしに来る予定だったのでそのついでに更新講習を三重県で受けたとおっしゃっていました。自分が三重県で先生をしていても更新の際は、違う県でも受けられるということを知りました。そして、更新に来た方は、今教壇に立っていないという先生もいらっしゃいました。免許だけ更新するかたもいることも新たな発見でした。

受講者の反応を見て感じたこと

講義型の授業なので、眠そうな先生がたくさんいました。英詩なので触れたことがないという先生もたくさんいらっしゃったし、もともと英語の講義というのは、予習して内容を理解した段階で授業に取り組んでいかないと何の話をしているのかを理解するのが大変なので、教員免許更新講習では英語を取り扱うのはとても難しいと思いました。その日に渡された初見のものをもとに文学的な分析をしていくし、英詩というあまり触れたことのないものなので、先生たちにとっても少し難しかったのではないかなと感じました。日本語訳を下につけたり、その詩の主な意味を先生たち自身で考える時間をとったりしてから授業をしたほうが、講義を受けている人も、講義をする人もしやすかったのではないかなと感じました。

英語の先生方ばかりだったので、みなさん発音がきれいですごいなと感じました。発音は私たち学生も注意して自分で練習していかないと、きれいな発音にならないので、免許更新にいらっしゃった先生方みなさん努力されているのだなと思い、自分も教員になったら努力していかなければならないなと感じました。

実験を含む講習の補助を通して

教育学部 生涯教育課程 消費生活科学コース

山本 ちひろ

・補助員としての運営上の感想と反省

実習のための前日準備では、当日使用するものの準備と1日の流れの確認をしました。講義で使用するものが多く、食品においては当日しか準備を行えないので、なにか忘れていないかと不安でした。当日は、教授に指摘してもらって動くということがしばしばあったので。教授が授業に集中するためにも、どのように講義が進行し、どう補助するのかをもっと細かく把握して動くべきだったと反省しています。

また、対応する際、振る舞いに関して失礼に当たらないかと心配になりました。受付や講義で常に受講生の方と関わっているので、事前に敬語やマナーなど確認しておくとうよかったと感じます。

実際の対応で、事務局を尋ねられ、口頭のみで説明してしまうという場面がありました。教授やほかの補助員と相談するなどして案内するなどもう少し受講生に寄り添った対応ができなかったのかということも反省点の一つです。

・補助員をして免許状更新講習に対して気づいたこと

講習は、普段教える立場にある受講者の方が、講義の受け手となって学ぶという貴重な機会であることに気づきました。当日の流れとして、グループワークや実験では協力して、講義ではメモを取り、最後にはテストがありました。普段とは逆の学生のような立場を体験することで、知識を増やし教えるときの材料になったり、わかりやすく教える工夫を身に付けたりすることにつながると考えると、更新講習というのは大変重要なものであると感じました。

また、受講生の方の専門分野は幼稚園教諭、小学校教諭など様々であり、グループワークの際も異なる専門分野の方が議論しているのをお聞きしました。色々な視野からの意見を聞いて議論することができるので、貴重な交流の場でもあったと思います。

・受講者の反応をみて感じたこと

講座内容に集中力を途切れさせない工夫があったと考えます。教授は座学だけでなく、様々なワークや実験を計画して、受講者が体験して学ぶということを大切にしており、受講生同士のコミュニケーションも多く、楽しく学んでいらっしゃるという印象を受けました。

また、終始、積極的に学んでいらっしゃることが印象的でした。例えば、選択式クイズで手を挙げるときは、少数派になる人がいても全員の手が上がり、実験のときは声を掛け合い楽しそうにしながらも熱心に取り組むなどの様子です。教員という職業に就く方が、お手本になるような「何事にも積極的に動く」姿勢が自然とできるということが素敵だと感じました。

6 事務サイドから

学務部教務課長 中島 英雄

平成 28 年度三重大学教員免許状更新講習は、6 月 11 日（土）から 10 月 1 日（土）までの間で 16 日間開催し、142 講習（受講者数延べ 3,347 名）を無事終了いたしました。今年度は選択必修領域講習が初めて導入された年となりましたが、選択必修領域講習実施に至るにあたって、平成 26 年度に三重県教育委員会などのご協力のもと受講対象者に、「選択必修領域の受講したい領域」についてのアンケート調査を行い、平成 27 年度にはその結果を参考に選択必修領域講習の担当講師の選出を行いました。これまで、多数の関係者の方々にご協力を賜りましたことに厚く御礼を申し上げます。

さて、更新講習は平成 21 年度から毎年開催していますが、今年度は大きな変更のあった年度となりました。文科省の平成 26 年 9 月 26 日付けの文書「教育職員免許法施行規則等の一部を改正する省令等の公布について」により制度自体の見直しがあり、前述した「選択必修領域講習の導入」や「必修領域講習の領域変更」などの変更がありました。そのため受講にあたり多くのお問い合わせがあるものと予想していましたが、実際には大きな混乱もなく無事実施できました。これも受講者の皆様や校長先生・園長先生など所属長の皆様に更新講習の理解が深まり、新制度についても積極的に情報を収集して戴いていたからだと感謝いたしております。

平成 29 年度は、今年度とほぼ同規模の講習を開設いたしますが、選択必修領域講習の開催日程を増やすこと、小中学校における土曜日の授業実施日にできるだけ支障のないように実施日を設定するなど、受講者の皆様がより受講しやすいよう工夫いたします。また、平成 30 年度には、第 10 グループが受講対象となり、所謂「30 年度問題」と言われる受講者数増加への対応が待ち受けています。県内でも例年より 1,000 名ほど増加いたします。開催日程や定員数の増加にて対応を考えておりますが、県内の教員免許状更新講習開催大学・機関とも協力し準備を行ってまいりますので、今後とも講習実施業務にご理解、ご協力を戴きますようお願い申し上げます。

なお、教員免許状更新講習の関係業務は学務部教務チームが担当しています。業務は文科省への講習開設の申請書作成からスタートしますが、受講申込み開始日に合わせて 11 月頃からになります。三重大学で実施する講習は 10 月に終了いたしますので、一息つく間もなく次年度の開催日程の検討、申請書類の準備など始まりほぼ通年にわたり業務を行います。いたらぬことも多々あるかと思いますが、担当者一同、常に受講者の方を中心に考え、改善に向けて努力して参りますので、今後ともご協力の程、重ねてお願い申し上げます。

おわりに ―今後に向けて―

三重大大学教育学部教員免許状更新講習委員会委員長 伊藤 敏子

「その時々で求められる教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立」つことを目指す教員免許更新制がスタートして8年が経過しました。今年度は、教員免許更新制スタート時からの必修領域と選択領域に選択必修領域が加わった初めての教員免許状更新講習の実施となりました。選択必修領域を新たに立ち上げて実施することにとどまらず、必修領域についても2日で行っていた内容を1日でこなすために新たな方式を立ち上げて実施する必要性がありました。幸い、6月11日から10月1日までの全講習を開設計画どおりに実施でき、本当に良かったと安堵しています。

講師としてのみ教員免許状更新講習に関わっていると、自分の担当する講習の受講者の意見にしか接する機会がなかったのですが、教員免許状更新講習の実施委員会の委員として関わるようになってからは、様々な立場から教員免許状更新講習に関わる人々の意見に接する機会があり、多くのことを学ばせていただきました。さらに、教員免許状更新講習の置かれている状況について大局的に認識する機会もありました。喫緊の課題としては、再来年度の教員免許状更新講習については例年の1.7倍の定員を設けることが挙げられます。

教員免許状更新講習は、8年の蓄積のうえに、全体として軌道に乗ってきたことが実感されます。その一方で、日々変化する教育現場の必要事項に対応するため、教員免許状更新講習もまた日々変化することが求められています。先ごろ提出された教育課程部会・教育課程企画特別部会「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審査のまとめ（案）」は、「社会の変化に目を向け、教育が普遍的に目指す根幹を堅持しつつ、社会の変化を柔軟に受け止めていく」という「社会に開かれた教育課程」の重要性を改めて確認しています。次期学習指導要領を見据えては、「アクティブ・ラーニング」や「カリキュラム・マネジメント」が早速に来年度の選択必修領域に登場することになりました。「その時々で求められる教員として必要な資質能力」を強く意識しながら、蓄積は蓄積として大切にしつつ、新しい動きへの柔軟な対応としての変化を今後とも教員免許状更新講習に織り込んでいきたいと思います。

平成28年度 三重大学教員免許状更新講習事業報告書
ー現職教員の資質向上をめざしてー

編 集 三重大学教員免許状更新講習実施委員会企画部会
富樫 健二、伊藤 敏子、加納 岳拓、栗田 季佳、須曾野 仁志、
永田 成文、林 朝子、平島 円、宮地 信弘

表紙デザイン カゲムシャ

発 行 三重大学教員免許状更新講習実施委員会

発行日 平成29年3月

〒514-8507

三重県津市栗真町屋町1577

三重大学学務部教務チーム教員免許状更新講習担当

E-mail : kyomu-m@ab.mie-u.ac.jp

URL : <http://www.mie-u.ac.jp/certificate/>

